スクープ!
全権代理人が本誌だけに語ったミルコ敗戦の真実!!
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
880 yen
紙のプロレス
RADICAL
WANIMAGAZINE MOOK
91
2005
我々はとんでもないものを見た!
8·28PRIDE徹底検証特集
エメリヤーエンコ・ヒョードル
ミルコ・クロコップ
マウリシオ・ショーグン
ヒカルド・アローナ
ヴァンダレイ・シウバ
格闘男&文化男たちが語る
ヒョードルvsミルコ
大橋秀行/藤原敏男/
夢枕 獏/菊地成孔/村上 隆
いきなり宿命の五味vs川尻!!
9·25PRIDE武士道GP
出場全選手パーフェクトガイド
『紙プロ』初登場
フォ〜!
噂のハードゲイの
素性を独占直撃!!
レイザーラモンHG
安生洋二が語るハッスルの真実
な〜にを語るんだコラッ!
なぜか8Pロングインタビュー 長州小力
11·3
『ハッスル・マニア』で
インリン様vsHGが
実現? フォ〜!!
次号から
リニューアル、
フォ〜!
"あさってのプロレス"へ
ようこそ!
9·7『HERO'S』大爆発!
須藤元気の闘い方は是か否か!?
敗れてなお評価急上昇!
風呂なしファイターの最も熱い夢
所 英男
ロシア現地潜入独占リポート!
前田日明総帥も来場!!
リングス・エカテリンブルグ大特集!!
10·2金原弘光戦、衝撃決定!
近藤有己
紙のプロレスRADICAL
No.91
こんにちはプロレス
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話/03-5368-1795

サイ キョウ
最・今日
プロレスから格闘技まで、HGからGPまで。
どこよりも早く面白く最も格闘技界の今日がわかる携帯サイト!
9・23『K-1 GP』、9・25『PRIDE武士道GP』、
10・2『WRESTLE-1 GP』、
見逃せないグランプリの試合結果&詳報とハードゲイの言動は
『紙プロHand』でチェック! フォーッ!!
月額 315円(税込)
いろんな待画も取り放題! レッツ・ダウンロード!!
携帯サイト「紙のプロレスHand」への簡単アクセス方法
1 QRコードでクイック・アクセス!!
2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/を入力して直接アクセス
3 hand@kamipro.comへ空メールを送信
アクセス方法
DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技
vodafone メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技
ユーザーとプロレスする携帯サイト
紙のプロレス Hand
9・25『PRIDE武士道』当日、10・23『PRIDE.30』&11・3『ハッスルマニア』特典つきチケット予約を実施決定!!
[お問い合わせ](株)ダブルクロス 03-5368-1795

重大発表

紙のプロレス RADICAL

は

次号より

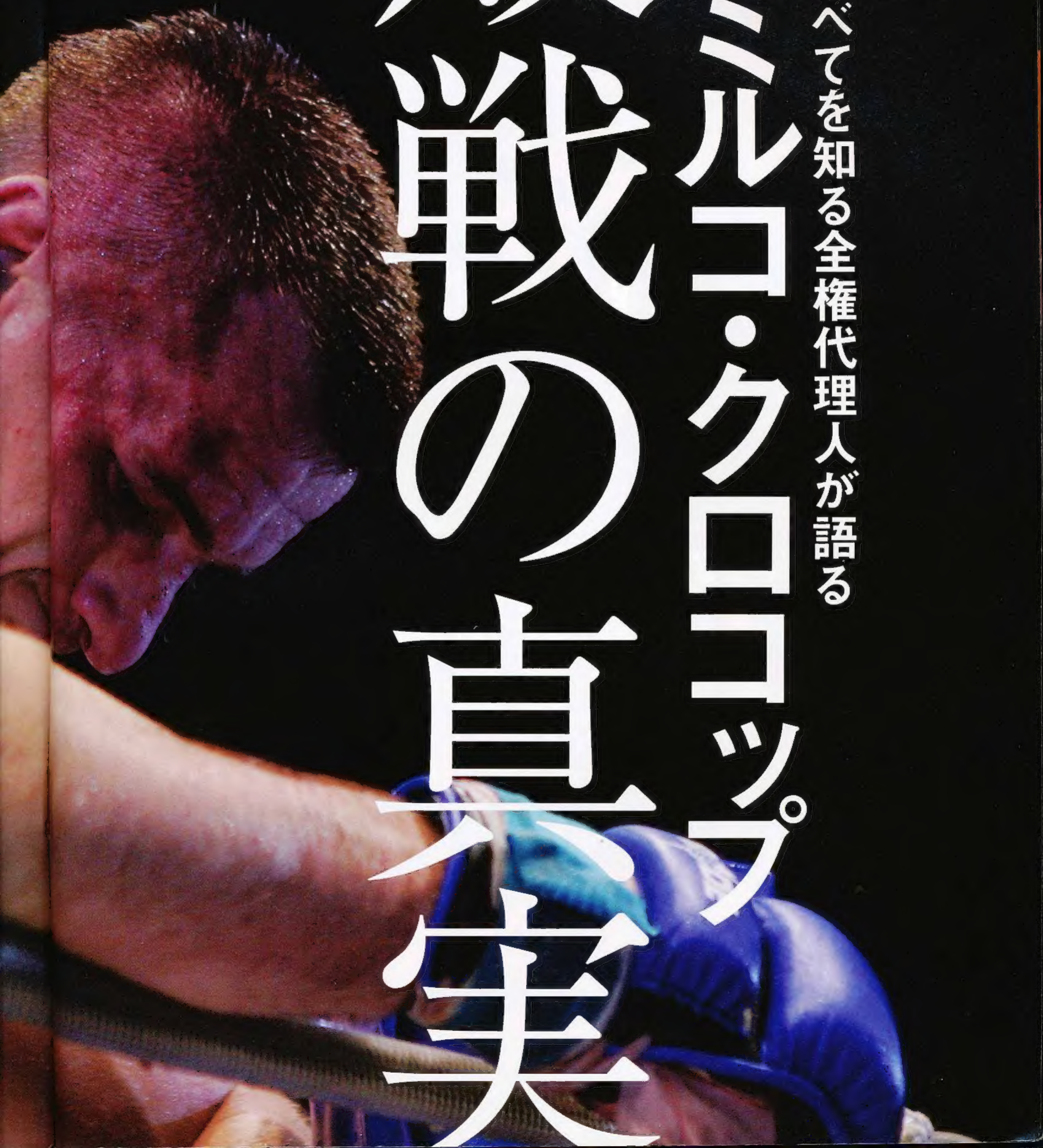
kamipro

に生まれ変わります!!

詳しくはP41～リニューアル座談会を読みたまえ!!（高田総統調）

敗戦の真実

ミルコ・クロコップ

すべてを知る全権代理人が語る

「ここで辞めていいのかどうか……」帰りのバスの中でミルコはそう言いかけたんです

MIRKO CRO COP

The truth of defeat

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

designed by hisa (Two Three)

ミルコがヒョードルに負けただけでなく僕がヨハン・ボスに負けた気がしますね

MIRKO CRO COP

The truth of defeat

ミルコ・クロコップ、世紀の一戦に敗れる——

8・28PRIDE・GP、さいたまスーパーアリーナ。ミルコは2年間待ち続けた念願のPRIDEヘビー級タイトルマッチ、エメリヤーエンコ・ヒョードル戦に挑んだが、結果はフルラウンド闘って、3—0の判定負け。

ゴングと同時に前へ前へ出てくるヒョードルに打撃の間合いを潰され、必殺の左ハイキックは空を切り、2ラウンド以降はスタミナをロスして、反撃がかなわぬまま、試合終了のゴングを聞いてしまった。

試合前、自ら"人生で最も重要な闘い"と宣言し、この一戦にこれまでの格闘家人生のすべてをぶつける思いで挑んだミルコにとって、この敗戦はとてつもなく重くのしかかったに違いない。しかし、試合後のミルコはコメントスペースには現れず、関係者を通じてコメントが伝えられただけで、無言のままクロアチアへと帰ってしまった。そのため、我々がもっとも知りたい、いまのミルコの本当の気持ちは聞くことができないままだ。

ところが、そんなミルコと試合直後、ホテルの部屋で二人だけで2時間に渡って話し合い、ミルコがどんな思いでこの闘いに挑み、敗れた後、どんな思いでいるのかを知る日本人がひとりだけいる。

その人の名は今井賢一氏。

読者のみなさんにはなじみがない名前かもしれないが、この人物こそ、ミルコ・クロコップの全権代理人であり、90年代にはK—1の"知的所有権統括""マネージング・ディレクター"という名刺を持って、特に海外戦略を一手に引き受け、K—1中核で活躍。そして2003年には、ミルコを伴いK—1を離脱。その後のミルコの活躍により、結果的に『PRIDE』躍進の原動力になるという、まさにここ数年のマット界の陰のキーパーソンと呼ぶにふさわしい人物なのである。

特にミルコとの関わりは深い。96年のK—1デビュー後、K—1初代チャンピオンのブランコ・シカティックとの確執から、一時期完全に干されていたミルコのK—1復帰に向けての交渉をまとめたことを皮切りに、2001年のK—1GPメルボルン予選でのよもやの敗戦後、クロアチアに飛び、失意のミルコを説得して総合格闘技初挑戦となる藤田和之戦を受諾させたりと、ミルコの格闘家人生の大きな分岐点において、重要な役割を果たしてきたのがこの今井氏なのだ。

©サンケイスポーツ

この写真は昨年2月13日、ミルコがクロアチア首相からの親書を手渡すため、小泉首相との会談が実現したときのもの。ミルコの隣にいるのが今井氏だ。格闘技だけでなく、日本におけるこうしたリング外の活動についても今井氏がマネジメントしている。

まさにミルコ・クロコップのすべてを知る人物。

それだけに、以前から今井氏の元には映像、雑誌媒体を問わずインタビュー取材等の要請が幾度となく届いていたようだが、これまでは、あくまで"黒子"に徹し、自らがメディアの前面に出ることは頑に断ってきた。

しかし今回、人生を賭けて命を削るようなトレーニングをしてきたミルコを間近で見てきた人間として、ヒョードル戦後にミルコの本当の気持ちをミルコ自身から聞いたただひとりの日本人として、ミルコの真の姿をファンに知らせてあげられるのは自分しかいないのではないかとの思いから、初めて本誌のインタビュー取材を承諾してくれたのだ。

時はミルコvsヒョードル戦の4日後、9月1日。場所はミルコが日本での常宿としている都内高級ホテル、バーラウンジ。ミルコ・クロコップ全権代理人、今井賢一氏の実に120分に渡る本邦初インタビューは、こうしてスタートした。

——ミルコ敗戦から4日が経ちましたけど、悔しさっていうのは少しは和らいできましたか?

今井 ようやく少し整理はついてきましたけど……悔しいですね。あの日から毎日、どこをつけ込まれたのかっていうことをずっと考えてますよ。(ミルコが負けたのは)どこに原因があったのかなって。

——やっぱり、ミルコ・クロコップの敗北は、マネージメントを含めたクロコップ・チームの敗北という気持ちがあるわけですか?

今井 もちろんそうですね。ミルコがヒョードルに負けたというのと同時に、なにか僕が(ヒョードル陣営についた)ヨハン・ボスにやられたという気持ちもありますよね。

——ああ、そういえば、ヨハン・ボスはヒョードルのセコンドについてましたよね。

今井 ねぇ。まさかセコンドにまでつくとはね。だから今回のミルコは完全にヨハンに研究されていたと思いますよ。

——ヒョードルのミルコ攻略のキーになったのがヨハン・ボスだった、と。

今井 しかも、僕はヨハン・ボスという人間を10年近く前からよく知っていて。K—1時代には、僕がプロモーター側、そしてヨハンがホーストのマネージャーとして、ファイトマネーやら、対戦相手やら、毎回いろいろ矢面に立って交渉してきた相手ですから。K—1のころは、本当はいけないんでしょうけど、アンディ・フグという男は僕にとっては選手というよりも友人のようで、なんとなく感情移入してました。そのアンディの全盛期のグランプリで、彼の前に立ちはだかるのはいつもホーストとヨハンだった様な……。僕はヨハンに対しても、偉大なチャンピオンメーカーと言うか、トレーナーとして大きな尊敬の念を持っていることもあって、まあ複雑ですよね。やはりそれだけ、影響力があるということです。

——またしても自分の前に立ちはだかるのかと。

今井 それにいくら当時、アンディに感情移入していたと言っても、ここ何年かの、

ミルコと過ごして来た時間を考えたら、その感情移入の度合いというのもわけが違いますからね。だから、この悔しさっていうのも、その頃の比じゃないですよね。

——それこそ今井さんとミルコというのは、ここ数年、二人三脚で格闘技界の道なき道を歩いてきたわけですもんね。

今井 そうですね。でも初めてミルコの試合を見たのは、96年ですよ。もうすぐ10年になるのか……。せっかくデビュー戦でジェロム・レ・バンナに判定勝ちしたのに、その後ミルコはブランコともめてしまい、K—1のリングから遠ざけられていたので、99年の3月に僕がK—1復帰への調整の為に、初めてクロアチアに飛んだ。あれから僕は、何十回クロアチアに飛んでいるんですかね。初めての総合ルール挑戦を説得する時も、ザグレブに行きましたからね。

ヒョードル陣営に完全に読まれていたミルコの動き。起死回生で出した珍しい右ハイキックもスタミナ切れからスピードがもうひとつで、ヒョードルにガードされた。そんなミルコを助けたのが、寝技の防御技術。あのヒョードルのパウンドを完封してみせたのは、今後にとって大きな収穫と言えるかもしれない。

——最初の藤田和之戦（01年8月）ですよね。あれはどういう経緯だったんですか。

今井 あの直前にミルコは、オーストラリアでやったK—1地区予選（01年6月16日）でマイケル・マクドナルド相手にボカをやって、TKO負け（1R）したんですが、僕はその大会の総責任者だったわけです。だからその翌日も、これからどうするのかっていうのをミルコと時間をかけて話しました。簡単に言うと、あそこで負けた時点でミルコには年末のK—1GPへの出場はなくなってしまいましたから。ただ、その時は具体的な話はなく、慰めたくらいですが、その数週間後くらいに、8月の大会で〝K—1 vs 猪木軍〟を3試合組もうという企画が急に現実味を帯びて、K—1から誰を出そうかって話になった。ベスト8クラスで、GPの予選から外れていたのはその時点ではミルコだけだったので、僕がクロアチアに、ミルコを説得しに行ったんです。今、思えばそれがすべての始まりですからね。

——でも、ミルコもよく受けましたね、総合ルールを。

今井 やっぱりK—1ファイターが総合格闘技っていうまったく別の競技をやるとなったら、普通に考えれば絶対に倒されて無理ですよね。この一年くらいのステファン・レコの様に。でも若くて運動能力、資質の面で優れていて、順応性が高そうで、そして都合のいいことにK—1のベスト8クラスで、GPには出られなくなっていたのは、あの時点でミルコだけだったんですよ。偶然が産んだ産物です。

——ミルコは総合をやるということをすぐにOKしたんですか？

今井 最初は、まるで何が起こるかわから

試合後、髙田さんに真剣な顔で「ミルコやめさせないでね」って言われたんです

MIRKO CRO COP
The truth of defeat

ないからという理由で、電話では簡単には説得できない。ザグレブまで行って、そこで「今年はもうGPにも出られないから行き場所がないぞ」と説得にかかったんです。ミルコは藤田君のことをまったく知らないから、「相手はジャパニーズだし、ルールでなるべくプロテクトするから」ってOKさせたんですけど、あとで相手が藤田和之っていう強豪だと知って、「騙されたー!」って言ってましたけどね（笑）。

――そうなると、そこから今井さんは、K―1の立場でありながら、外敵と戦う際には、ミルコのマネージャー的な立場にもなったわけですよね。

今井　そういうことになりますよね。特に藤田戦で、奇跡的な勝ちを拾った後は、K―1としても、ミルコをなるべく勝たせていきたいとなるでしょう。そうなると、その後、はじめて『PRIDE』に行って高田（延彦）さんや、ヴァンダレイ・シウバとスペシャルマッチをやるときも、ミルコをプロテクトするために3分5ラウンド制、ジャッジング無し等の特別ルールにしてもらう時は、個別のルールミーティングに出て、高田道場の坂口代表やシュートボクセのフジマールと、いやに重たい、なんともとげとげしい雰囲気の中で向き合いましたからね。今では、皆さんとは非常にいい関係なのですが、あの頃は僕だって敵側以外の何者でもない。

――そんな感じで、一緒に敵地に戦いに行く中で、ミルコとは信頼関係が深まってきた感じですか?

今井　まあ、でもクロアチア人というのは、本当の戦争を経験しているので、そう簡単には、人を信じないでしょう。ミルコとは少しずつ、長い時間をかけてという感じですね。その過程では、ファイトマネーに関する考え方の違いで口論になったこともあるし……。でも、お互い言いたいことをすべてぶつけ合った後は、理解が深まるということの繰り返しがあってここまで来たというか。あとは、数年後に同じクロアチア人なのに裏切る人間が出てきたということも少しはあるかな（苦笑）。

――『イノキ・ボンバイエ２００３』で突然、表舞台に出てきたあの方ですね（笑）。

今井　だって彼はもともと、僕のクロアチア語の通訳だったわけですから。それが代理人を名乗って勝手に暴走し始めて……。今となってはなつかしいですよね。

――いまとなってはですけどね（笑）。その前の２００３年春に今井さんとミルコはK―1を離れて、『PRIDE』を主戦場に変えたわけですけど、その決断をするとき、ミルコはすんなり承諾したんですか?

今井　やっぱり、僕たちがK―1を離れたのって、ミルコが人気絶頂だったころのサップを倒した直後だったから、「その選択は本当に正しいのか?」とは何度も確認されましたよね。「いまだったら俺はK―1の〝主役〟になれるんじゃないか。ケンがそう決めるんだったらわかったけど、いいのか? もったいなくはないか」って、これもやはり電話ではなく、ザグレブに行ってですね。最終的に二人で決めたのは。

――一番おいしいところを取れる時期ですもんね。

今井　でも、やっぱり僕があの時期にK―1にいたことで巻き込まれた司法的なトラブルをミルコも彼なりに理解していたみたいでした。そして、ミルコなりの、特に自分のファイターとしての価値を最大限に高めていく上でのシミュレーションの中で、僕の嗅覚を信じたんでしょう。それなら総合格闘技のトップ『PRIDE』の頂点を目指そう、ヒョードルを追いかけようという決意を最終的にはミルコ自身がしたんですよ。

――あえてイバラの道を歩む決意を。

今井　そうですよね。まったく違う畑で頂点を目指そうというわけだし、しかも、『PRIDE』本格参戦一発目で僕が選んだのが、ヒース・ヒーリングですからね。

――当時のヘビー級〝3強〟のひとりですよね。

今井　だから僕もみんなに「やめとけ」「ミルコは勝てない」って言われたし、ミルコ自身からも「（対戦相手選びを）間違ってないね」っていう確認は来ました。でも、僕は「間違ってない。お前なら勝てる」って言ったら、ミルコも僕の勘を信じてくれたんじゃないかな。あのときは、僕自身、今後を左右する大きな一戦だとわかっていたので、僕にとっても大きな賭けだったし。あのころはまだ『PRIDE』のマッチメイクを決める際の、フジテレビとの打ち合わせに谷川（貞治）さんが入ってたんですけど、谷川さんには一切知らせずに決めたマッチメークだけに僕も必死でしたよ。

――あ、そのころでもまだ谷川さんが関わってたんですか!

今井　でも、谷川さんには申し訳ないけど一切知らせずに水面下で話を進めて。フジテレビとの打ち合わせで全員集まった時点で、高田さんが「じゃあ、マッチメイクを発表します」って言ったときに、「ミルコ・クロコップvsヒース・ヒーリング」が入ってたから谷川さんも「え～!!」と……。

――絶句……って感じですか（笑）。

今井　あの瞬間が、皆さんもご存知のとおりの、その後の戦争勃発、さらには怒涛の大晦日狂想曲の引き金ですからね。こうならざるを得なくなった理由に関しては、さすがに今更、僕もここで話すつもりはありません。ただ、そのあと館長から僕に対する絶縁状ファックスがいろんなところに回ったりして、傷つきましたねえ。まぁ、これ以上昔の話をするのはやめましょう。なぜ僕が今まで、頑なに表に出ることを拒んできたかという理由が、そこにあるわけですから。当事者同士は、どこに事実があるのか、本当はマスコミに語るべきではないと思います。

――そうですよね。じゃあ、昔の話はそれぐらいにして、改めて今回のミルコ選手について聞きたいんですけど、今回は体調的にはどうだったんですか? あまりいいようには見えなかったんですけど。

今井　調整は万全だった……はずです。さらに、万全を期すために試合5日前に日本に来た。にも関わらず、昼夜逆転の生活は結局最後まで克服できなかったんですよ。

――当日まで時差ボケのまんまですか。

今井　完全に時差ボケ。試合前日も「寝ろよ!」って言ってるのに、結局眠れないからクロアチアから来てた応援団の仲間と朝までカードゲームをやって、そのまま会

場入り。だから、ヒョードルとの試合が始まる時は、前日の夜11時から20時間近く寝てないんですよ。徹夜明けですね、まさに。それもやっぱり調整に失敗したことなるのかな。でも言い訳めいたことはミルコも僕も言いたくないですからね。いつも、会場入りしてドクターチェックを受ける時は、ミルコの脈拍が、74から78前後、軽い緊張と高揚感の中にあるという感じなのに、今回は65だった。この大一番を前にして、そんなに落ち着いているはずがない。なんとなく変な感じは、その時に感じました。体のサイクルが、睡眠に向けて、脈拍がなだらかに落ちついてくる時間帯になっていたんですね。

――それから、これはどこにも出てないと思いますけど、ミルコは実は6月のイブラヒム・マゴメドフ戦で左足の甲をケガしたんですよね。あれはヒョードル戦までには治ったんですか?

今井 あれは結局治りませんでしたね。直前まで治療に行ってましたから。イブラヒムの骨が硬かったのか、当たり所なのか、ミドルを蹴った時に痛めたのですが。

――僕が7月にクロアチアに取材に行かせてもらったときもキックの練習は一切できなくて、練習前に医者を呼んだりしてましたもんね。だから『紙プロ』にもキックの練習をしている写真が一枚もなかったという。

今井 言い訳めいたことは言いたくないから、どうでもいいです。「ミルコを実際に取材した自分だけは知っていた」っていう形で書いてもらってもかまいませんけど。

――だから今回の試合って、ヒョードルは「右拳のケガが治らない」って試合前にさかんにアピールして、逆にミルコは本当に左足の甲が痛んでいたのをいっさい情報シャットアウトするという、情報戦でもあったんですよね。

今井 ミルコの蹴りが出なかった原因はケガもありましたけど、僕が打撃のスパーリングパートナーを用意してやれなかったということもあるんです。7月にアゼム・マクスタイがザグレブに2週間ほど来て、打撃のスパーをある程度付き合ってはくれたのだけれど、彼は93キロしかないのと、スパー中にミルコのハイで額をざっくりとカットしてしまい、その後のK—1ラスベガス予選もあるので、大事をとって、帰国してしまった。そこで、そもそもヒョードル戦の前まではヨハン・ボスは僕に、ヒョードルがボス・ジムに練習しに来るならヘルプはするけど、試合についてはあくまで中立の立場で、こっちにも打撃のスパーリングパートナーとして、アントニー・ハードンクをしばらく預けてくれるという話が決まっていたので、慌てなかったんですよ。ハードンクはK—1も総合もやる、打撃ベースの気持ちの強い選手で、１０６キロ、右利きだし、僕は完全に当てにしてましたから。

――ボス・ジムはヒョードル、ミルコどちらにも協力する予定であったと。

今井 それでハードンクはちょうど7月30日にクロアチアのザダというリゾート地でキックルールの試合があって、ヨハンが連れてきていたんです。僕は、サントリーのCM撮りでザグレブにいましたから、試合後に電話で、アントニーを迎えに行く段取りを話していたら、そこから2週間クロアチアに残る約束だったはずが、なんだか色々な理由をつけて結局オランダに連れて帰っちゃったんです。要はヒョードル陣営が、ハードンクをミルコに渡してくれるなとヨハンを説得したということですね。僕が、「詰めが甘かった」、その一言に尽きる。駆け引きに負けたも同然ですから。僕の責任で、心待ちにしていた、最後の仕上げの打撃のスパーリングパートナーをもぎ取られてしまった。だからヒョードルがボスジムで打撃のスパーリングをガンガンやってる時、ミルコはグラウンドのスパーリングしかできなかったんですよ。何で、敵方の言うことを信じるんだと言われるかもしれない。でも、K—1のある意味で象徴でもあるホーストを育て、K—1の全盛期の一翼を充分に担っていたヨハンだから、K—1出身で苦労してここまで来たミルコが、『ＰＲＩＤＥ』の頂点を制することに関しては、多少シンパシーを感じてくれるのかな……なんて、甘いよね。

――そして今井さんが責任を痛感したと。

今井 僕があの時点（ヒョードル戦の4週間前）にふさわしい右利きのパートナーを用意してやれていればね……。もちろんそればかりではないだろうけど。

――試合後、ミルコはコメントルームに姿を現さなかったんで、その後の様子がわからなかったんですが、あの後はどんな感じだったんですか?

今井 まあ、ロッカールームはお通夜のように静まり返って、ミルコは奥で一人シャワーを浴びて。あとは、左足のスネと甲、それから右目をアイシングして。で、「すぐにホテルに帰る」って言い出すかなって思ったんだけど、「お前の気持ちはわかるけど、今回お前のために来てくれたスポンサーの人がたくさんいるから、あいさつに行ってくるけど、待てるか?」って聞いたら「待てる」って言うんで、僕はCM撮影のためにわざわざクロアチアまで来てくれたサントリーと電通のみなさん、レスリング協会の福田会長や、その他この世紀の一戦を見に来てくれた人たちに、汗だくであいさつ回りをしにいって。そしてロッカー

試合終了のゴングがなった後のミルコは、まるでフルマラソンを走ったかのように見るからに疲労困憊。今後はスタミナ増強のため、高地トレーニングを多く取り入れる予定だという。

ルームに戻ろうとしたときに、いきなり高田（延彦）さんに呼び止められたんですよ。そこでいきなり言われたのが、「今井さん、ミルコ大丈夫？　ここで辞めるなんてミルコに絶対に言わせないでね」って。

──あれだけの大一番で敗戦を喫したあとですからね。

今井　でも、僕はその瞬間までミルコがそんなことを言い出すわけはないと心のどこかで思い込んでましたから。それなのに高田さんが真剣な顔で「とにかく今井さんの責任でそんなことだけは言わせないでほしい」って言うんですよ。そしてミルコの控え室に帰ってきたら、「用意できたから行こうか」となって、バスに乗って……。ミルコは勝利後は、いつも仲間と座って騒ぎながら帰るんですが、負けた時は必ず僕の隣に座ってくるんです。そして、今回は特に、「雨の中、軒下に捨てられて、拾ってくれる人を待つ子犬」みたいな顔で落ち込んでて。しばらく黙って、座ってたんですけど、いきなりポツリと、今まで言ったことないようなことを口にしたんですよ。

──もしかしてあのミルコが「もう辞めたい」と言い出したんですか!?

今井　いや、……（じっくり考えるように、しばし沈黙）。英語で「I　don't　know　if　I　should……」って言ったんです。その後に続く言葉はあえて、飲み込んだのでしょう……（再び沈黙し言葉を選ぶ）。日本語で言うと、その飲み込んだ言葉がとても大事になるんだけれど、もしそれが、たとえば「QUIT」という言葉であったとしたら、「ここで辞めるべきか、判断がつかない」という感じになるのかな。まず僕にその第一声をぶつけて、「馬鹿なことを言うな」と否定してほしいと思ってるのが70％ぐらいあったんでしょうけど、そこをぐっと飲み込んだのもやはりあいつらしい。でも、ここまで死ぬ思いでトレーニングしてきたのに通じなかったわけですから。僕は、やはりその後に続くべき言葉が、文脈から行っても、そういうニュアンスの言葉になったのではないかと想像をした。それは、高田さんから言われていた言葉が頭に残っていたこともあるからなんですけどね　その尻切れた一言を聞いて、「ああ、高田さんが言ってたのはこれなんだな」と。やっぱり高田さんもヒクソン・グレイシーと人生賭けて闘って、結果として負けてしまったわけだから、今のミルコがどんな気持ちでいるのか、高田さんにしか感じ取れない何かが、あるのだろうなって。もちろん、僕の想像ですよ、これはすべて。最後の単語を聞いていない以上は、僕の解釈以外にはありえないので……（再び、沈黙）

試合前はヨハンから打撃の練習相手を貸してもらえるという約束だったんですよ

MIRKO CRO COP

The truth of defeat

ミルコ撃破に沸くヒョードル陣営　一番左の人物がホーストを育てた名伯楽ヨハン・ボスだ　今回のミルコは、ある意味このヨハンを含めたヒョードルのチームに負けたと言ってもいいだろう

──そのミルコの発言に対して、今井さんは何と答えたんですか？

今井　僕はそれに対して返事はしませんでしたね。あえて、彼のモノローグと言うか独り言と受け取って。ミルコは僕にただ聞いてほしいんだろうと思って。その後はぽつんぽつんと一言二言話しただけで、窓の外を流れる東京の夜景を見ながら帰ってきて。ホテルに帰ってからですね、じっくり2時間以上ミルコと話し合ったのは。

──ミルコ・クロコップの進退にかかってるわけですからね。

今井　だから僕もいったん自分の部屋に戻ってからミルコの部屋へ行ったんですよ。ミルコは、その時マッサージを受けていたんで、ミルコのベッドの脇に椅子を持ってきて座って、終わるのを待ちました。それから、部屋にいたセコンドとか、中途半端に慰めを言いに来たクロアチア人のサポーターに部屋から出て行ってもらい、まず、「俺はファイターじゃないからお前が勝ってる間は何にも言うつもりはない。すべて任せてるし、信用もしてる。だけど、こういうときこそやっぱり俺も格闘技の試合をこれだけそばで見てきてるし、お前も一応俺の目だけは信用してくれてると思ってるから、俺の思ってる話をしてもいいか」と。そしたら「話してくれ」と。で、まず「お前はなぜ今日負けたと思ってる？」と聞いたら、「スタミナが切れた」と、みんなに慰められたとおりのことを言いました。それで「それは違うよ。今日のお前はヒョードルに打撃で打ち負けたんだ」って言ったんですよ。

──プライドの高いミルコにとっては一番言われたくないことをズバリと。

今井　で、「それについては俺も責任を感じているよ。俺が打撃のスパーリングパートナーを用意してやれなかったから」と。で、そこでたまたま何日か前に届いていた昔のビデオ、99年に武蔵とやったときのビデオを一緒に見て、「昔のお前は本当に野性的で右も左も蹴りが出て、何するかわからないようなバラエティ豊かな打撃を持っていて、相手にも脅威だった。だけど、『PRIDE』にきて、テイクダウンされたくないばっかりに最小のモーションで相手を一撃で倒そうという型を作り上げた。それができたことは凄いことだし、それで相手を確実に仕留めてきたわけだから、倒せてる間は俺は何にも言うことはない。だけど、この大一番は相手がヒョードルで、セコンドにヨハン・ボスがいて、コーチにルシアン・カルビンがいて、ヒョードル陣営は百戦錬磨の打撃コーチがついてる中で、たぶんお前のK−1時代と『PRIDE』に来てからの打撃を見比べたら、お前の打撃の攻撃パターンが少なくなってきていることを見透かされたと思うよ。そこを完全に研究されて戦略を立てられ、あれだけ間合いを殺されて前に出てこられたら、やっぱりお前のいつもの打撃の型は出せなかったし、出せたとしてもそれは一発目の蹴りをムエタイ式にカットしてきたあそこで、向

こうがどれだけお前の研究をしてきたかっていうのが見えたよね」って。

――今井さんが見て感じたことをすべてしゃべったわけですね。

今井 そうです。あいつはそれをじーっと聞いてましたね。だから僕も正直に言ったんですよ。「今日のお前は叩きのめされていてもおかしくなかった。でも、それを救ってくれたのは、お前が気の遠くなるような時間をかけて、床を這いずり回って身につけた寝技のディフェンスだった。考えてみたら確かにそうだよね。いまお前の周りには寝技のスペシャリストばっかりがいるんだから」って。そんな話をして、もうそれ以上は何も言いませんでしたね。あとは何をやらなきゃいけないかは、ミルコ自身が自ずとわかるわけだから。

――ミルコの最大の武器である打撃をもう一度磨き直すしかないと。

今井 いや、寝技のレベルをさらに、上向きに進化させながら、同時に打撃をもう一度、根本的なところから磨きなおすしかないということでしょう。そこまでしないと、あのヒョードルを永遠に攻略できないかもしれないわけだから。だから、『PRIDE』ってとんでもない、究極のリングなんですよね。だから面白いんです。これだけの世界中の、神様から肉体的な資質において、選ばれし者達が集まって、さらに必死でさらなる上を目指さないと、勝てないわけだから。だから僕もミルコに、「ファブリシオを見つけてきたときと同じくらいの真剣さで打撃のスパーリングパートナーを見つけないといけない。そんじょそこらのヤツでは、多分すぐお前がクリアしてしまうから」って言ったら、「任せるから選んでくれ」って言ってましたね。

――進退問題については改めて話が出たりしなかったんですか?

今井 それについてももちろん話しましたよ。「今日は本当に、日本中がお前のことを応援してくれたよ。ここで動きをとめたらミルコ・クロコップじゃないだろう。もう、すぐ頭を切り替えて出直しだな」って。そして、その後「体を完全に休めて大晦日まで待ちたいか」って言ったら、「ケンの頭の中では何を思ってるんだ」って。だから「10月の『PRIDE』の大会名はお前に合わせてくれたわけじゃないと思うけど、"スターティング・オーバー"って言うんだよ。もちろん、ドクターと相談はしたい。金原戦のときのように、ショートインターバルでお前がオーバーワークにならないように。それさえ心配がないんであれば、10月23日にお前が出ていくっていうのが、ミルコ・クロコップのアイデンティティを知らしめるのにベストな選択かなと俺は思う」と。

ミルコが「ベルトは二の次だ。とにかくヒョードルを倒したい」と言いだしたんです

MIRKO CRO COP

The truth of defeat

ヒョードル戦翌日、右目に痣が残る顔で主演映画「アルティメット・フォース　孤高のアサシン」試写会イベントに出席したミルコだが、敗戦後だけに笑顔はなし。コメントも最小限のものだった

――10月に早くも再出発ですか！　確かにミルコらしいと言えば、ミルコらしいですけど……。

今井 もちろん、これぱっかりはドクターともミルコとも相談して、慎重に考えないといけませんけどね。高地トレーニングをしっかりやって心肺機能を高めて、大晦日に万全を期すという選択肢もありますし。

――大晦日となると、これまた相当大勝負になるんでしょうね。

今井 これはミルコにも言いましたけど、「俺は大晦日、ノゲイラにお前とのリベンジマッチを受けてもらいたい。ノゲイラがベルトのないお前と闘ってくれるかどうか現時点では確証があるわけではないが、まずはノゲイラへのリベンジというのが、今のお前のまず最初の目標になると思う」と。「そのためにも、もし10月に試合をするなら、ある男とお前を闘わせたい」「誰だ?」「○○○○だ」って。

――うわぁ！　それまた凄まじい再出発ですねぇ。

今井 なぜ、その男と闘わせたいかを、理論的にミルコに説明したら、「わかった。じゃあ、それで交渉に入ってくれ。俺がやらなきゃいけないことも、もうわかってる」と言ってましたね。

――いやぁ、ミルコはホントに超人ですね。もうミルコの中ではすでに"スターティング・オーバー"してると。

今井 頭の中ではもう、してるはずです。基本的には、頭の中で整理がつくと、すぐにきっちりと切り替えが出来る男です。あとは、こんなことも言い出してます。「これまではベルトを奪うことが一番だったけど、今は、ベルトはもう二の次だ。それ以上にヒョードルに勝ちたい」と。だからミルコのこれからの最大の目標は来年、ヘビー級GPの決勝ラウンド第1試合（準決勝）で、ヒョードルと闘いたいということです。どっちも傷ついていない状態で、もう一度、対決すること。そしてリベンジを果たす。それはもう、GPで優勝するよりも大切なことであって、ハッキリ言って、決勝ではボロボロで負けても仕方がないから、とまで思っているということです。それまでには、やっぱりもっと修羅場をくぐらせないと、さっきも言ったけど、ヒョードルを攻略するのは、並大抵のことではないでしょうから。ミルコにとっても、僕たちにとっても、いまから来年に向けて、本当に出直しですよね。今回、僕がこれだけ悔しいんだから、ミルコはどれだけ悔しい思いをしたんだろうと想像がつくので。ただ、本当に今回の試合の、第2、第3ラウンドを、完全にスタミナ切れの中で、一方的に攻撃をされながらも、しのぎ切った経験は、ミルコの心を強くしたと信じています。そして、この挫折から気力を振り絞って立ち上がってこそ、ミルコ・クロコップだと思いますからね。

――わかりました。『紙プロ』も、そんなミルコ・クロコップの生き様をこれからも追い続けていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。今回は貴重な話、どうもありがとうございました！

【05年9月1日／都内・某ホテルにて収録】

皇帝グッズ降臨。赤い悪魔がやって来た!
PRIDEグッズ好評発売中!!

レッドデビル ストラップ
¥1050(税込)

レッドデビル メッシュキャップ
¥¥3150(税込)

レッドデビル スポーツタオル
¥¥3150(税込)

レッドデビル リストバンド
¥1050(税込)

レッドデビル チームTシャツ
[S・M・L・XL レッド/ブラック] ¥3990(税込)

レッドデビル ロゴTシャツ
[S・M・L・XL レッド/ブラック] ¥3990(税込)

teamCROCOP Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック/ホワイト] ¥4200(税込)
※デザインが若干異なる場合があります

ブラジリアン・トップチーム・ロゴTシャツ
[S・M・L・XL ブラック/ホワイト] ¥4200(税込)

ブラジリアン・トップチームTシャツ
[S M L・XL ブラック/グリーン/ブラウン] ¥4200 税込)

武士道Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック/ホワイト] ¥4200(税込)

PRIDE.COM Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック/ホワイト] ¥3990 税込)

シウバHEAD TATTO Tシャツ
[S・M L XL ブラック/ホワイト] ¥3990(税込)

桜庭 炎のコマTシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3990(税込)

桜庭 モンゴリアンチョップTシャツ
[S・M L XL ホワイト] ¥3990(税込)

武士道 花札Tシャツ
[S・M・L XL ブラック/ホワイト] ¥3990(税込)

美濃輪 無謀美Tシャツ
[S M・L・XL ブラック/ホワイト] ¥3990 税込)

team CROCOP スポーツタオル
¥3150(税込)

PRIDEグローブキーホルダー
¥1050(税込)

桜庭ジャージ
[M・L・XL オレンジ] ¥9345 税込)

シュートボクセ・ジャージ
[M・L XL ブラック] ¥9345(税込)

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
vodafone メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

抱負は「負けないこと、勝ち続けること」
皇帝の強さは誰と闘っても乱れない心だ

文／橋本宗洋　撮影／菊池茂夫
designed by hisa(Two Three

ヒョードルにインタビューすると、彼がいかにメンタル面を重視しているかがよく分かる。「ナーバスにならないことが重要」。「不安はありません」。いつ何時でも彼は心を乱さず、特別にテンションを上げることもない。誰が相手でも試合は試合、特別なことなど何もない。全力で勝ちにいくのみ。不安になることはもちろん、気合いが入りすぎることも、ヒョードルにとっては心が動いていることになるのだろう。

ミルコ・クロコップとのヘビー級王座防衛戦でも、それは同じだった。本誌ロシア取材で、ミルコを「ヘビー級で3番目」と評したのも、平常心の表れだったのだろう。この一戦を人生の集大成と捉え、心身を極限まで張り詰めさせて試合に臨んだミルコとは正反対である。

対戦決定を遅らせた右拳の負傷について、ヒョードルは大会直前の記者会見でこう語っている。

「まだ完治はしていません。練習に影響がなかったといえば嘘になる」

試合後には〝ブラフ〟説も出たヒョードルのケガだが、この言葉に嘘はない。ありのままを語っただけだろう。その確証ともいえるエピソードも、何人かの関係者から聞いた。そしてヒョードルがケガを隠さなかったことは、ミルコに対する揺さぶりにもなったのではないか。

仮にヒョードルが「拳は万全」とアピールしたとしよう。ならばミルコは普段通り闘うだけだし、試合中ケガが治っていないことが分かれば、精神的に優位に立てる。だが「治っていない」と言われたら……「本当は治ってるんじゃないか。右パンチが飛んでくるのでは？」と疑心暗鬼にかられる可能性もある。そして1ミリでも動揺があれば、その分だけ勝負はヒョードルに傾くことになるのだ。どのみち、試合になれば痛みなど忘れてしまうのがファイターというもの。いざゴングが鳴ると、ヒョードルはここぞという場面で右のパンチを強振していった。

試合中も、ミルコは大きく揺さぶりをかけられた。組み付こうとするヒョードルと、それをさばいて打撃を放つミルコ、という展開が予想されたこの試合だが、先に打撃でプレッシャーをかけていったのはヒョードルの方だったのだ。ミルコの打撃を警戒しつつも、しかし決して臆することのない王者。『PRIDE』最強のストライカーと、正面からパンチでわたりあっていく。

組もうとする相手を攻略するのには長けているミルコだが、あそこまで堂々と打撃戦を挑まれたら慌ててもおかしくはない。タックルを切るためのバックステップと、プレッシャーをかけられながらの〝後退〟ではエネルギーの消耗度が違う。ここでもやはり、普段通りのヒョードルと、揺らぎの見えるミルコ、という構図。

それでもミルコは、1Rに左ストレートをヒットさせ、主導権を握るかに見えた。が、ここでもヒョードルはひるまない。勢い込んで突進してきたミルコに、思いっきり右のフック。体勢を崩したのはミルコの方だった。以後、ラウンドを重ねるごとにミルコは疲弊し、ヒョードルはあくまで自分のペースで攻撃を重ねていく。グラウンドでミルコのガードワークに手こずったヒョードルだが、それでも動じることはなかった。試合後には「面白い試合でした」と余裕さえ感じさせるコメントを残している。

もちろんヒョードルにとって、ミルコは強敵だった。これまでで最も手強い相手だったし、最も苦しめられた試合でもあった。ただ、だから特別に闘志を燃やしたとか、あるいは弱気になったとか、そういうことだけは絶対に言わない（もし仮にそうだったとしてもだ）。試合から一夜明けての記者会見でもなお、ヒョードルは精神面での隙を見せようとはしなかった。オフィシャルサイトでのインタビュー、ミドルキックをスネでブロックするムエタイの技術は、タックルに来ないミルコには有効だったのではないかと聞かれて、彼は微笑とともにこう答えた。

「いや、そんなことはないと思います。誰でも使う技です」

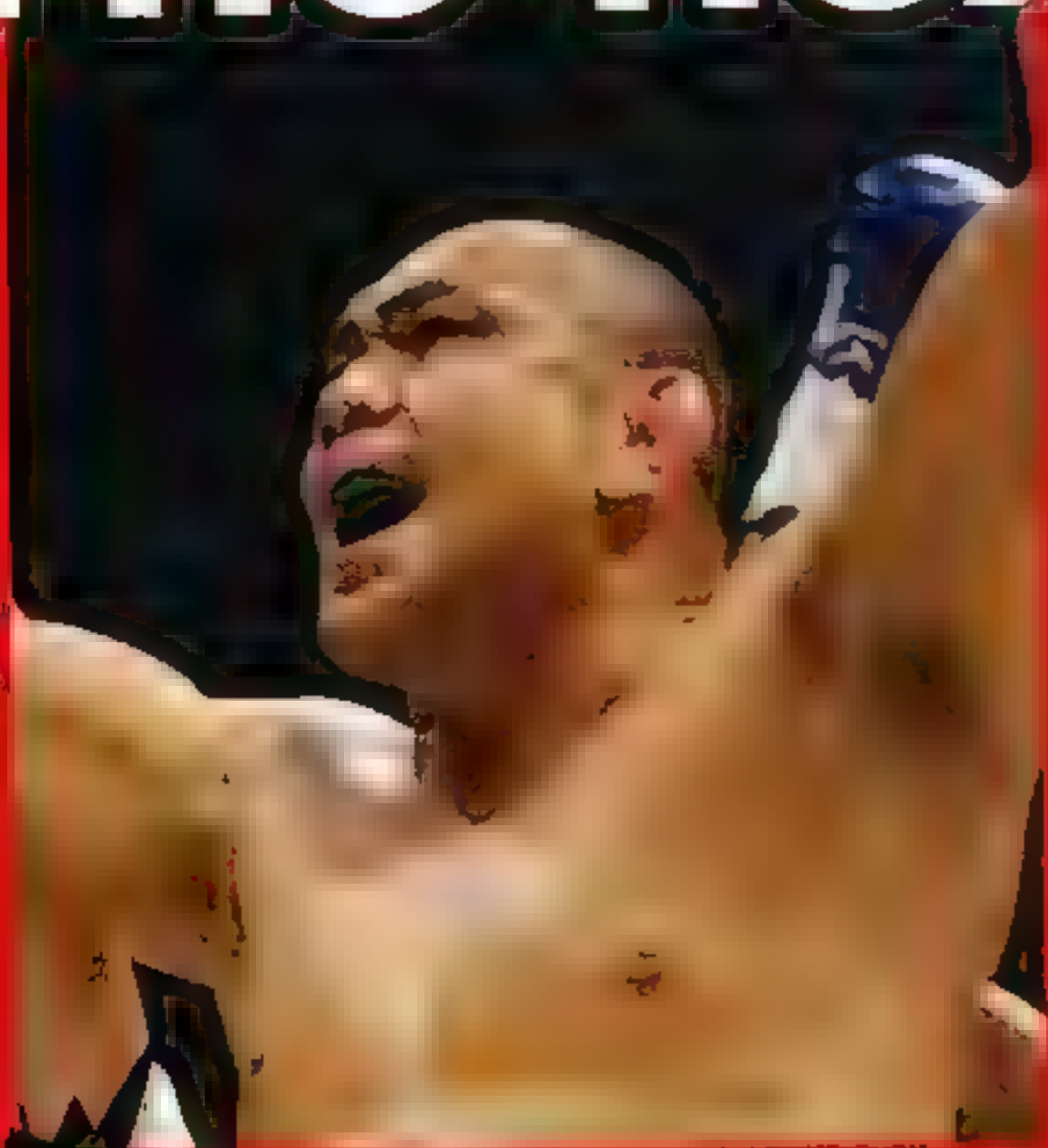
アグレッシブにプレッシャーをかけていったこと、つまり勝負を分けたポイントであるはずの攻防に関しても、まったく同様の返答をしてみせる。

「いえ、私はいつもアグレッシブに攻め、前へ出るようにしているつもりです。ミルコ戦が特別だったわけではありません」

誰もが待ち焦がれ、そして熱狂した『PRIDE』最高の大一番でさえ、ヒョードルには〝いつもと同じ〟でしかなかった。「次はルーロン・ガードナーと闘いたい」と今後の展望を語ったヒョードルだが、同時に「相手を私が選ぶつもりはありません。主催者に選んでほしい」とも。これからの抱負は「負けないこと。勝ち続けること」。ファイターとして当然あるはずの自我や野望でさえ、ヒョードルにとっては精神をかき乱す〝余計なもの〟なのかもしれない。不動のヘビー級王者ヒョードルは、何よりもまず、精神が〝不動〟なのである。

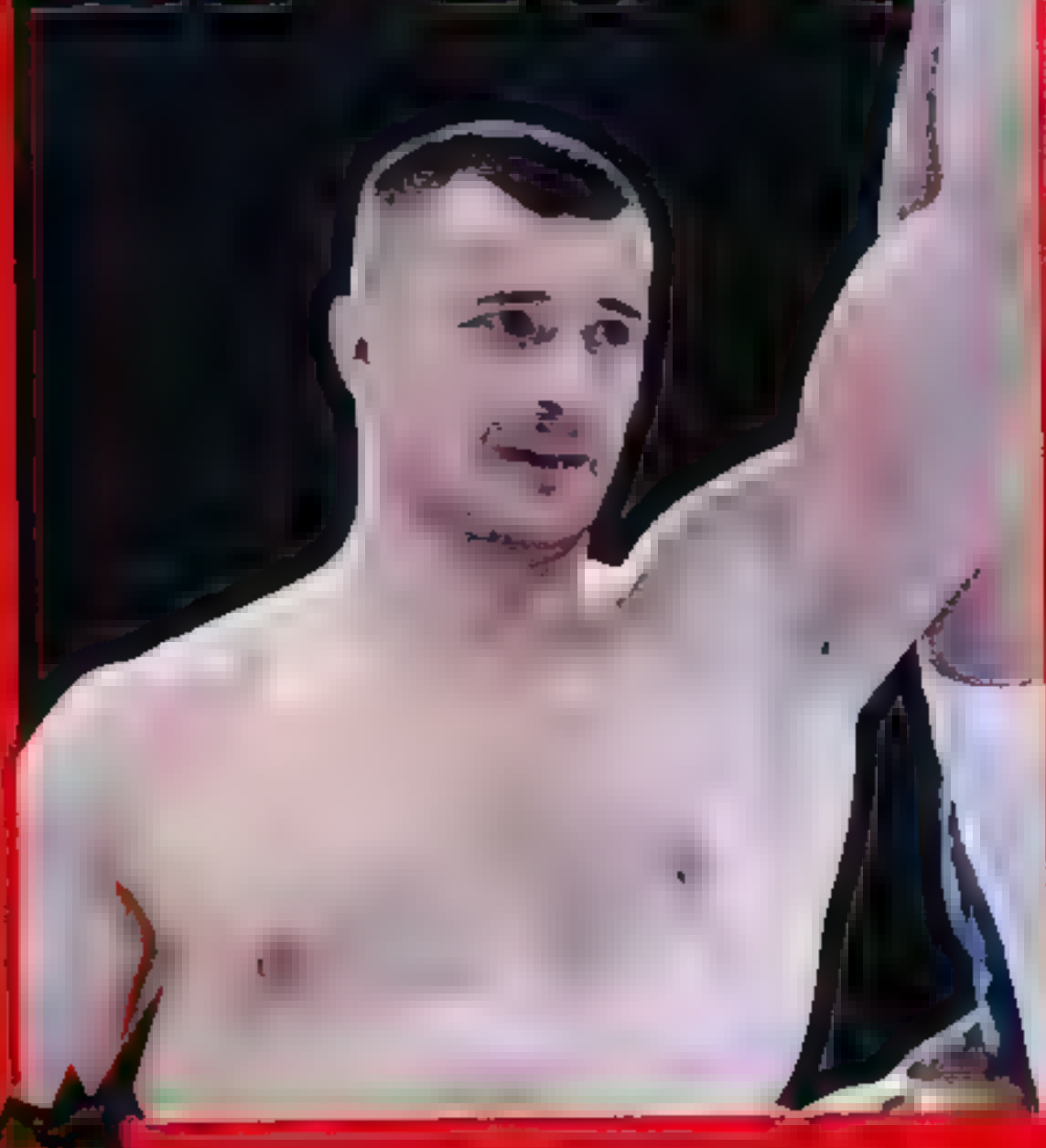
エメリヤーエンコ・ヒョードル

ミルコ・クロコップとの“世紀の一戦”に完勝
不

The next assassin to overt

6 藤田和之
Kazuyuki Fujita

皇帝打倒へ野獣覚醒せよ！

5 吉田秀彦
Hidehiko Yoshida

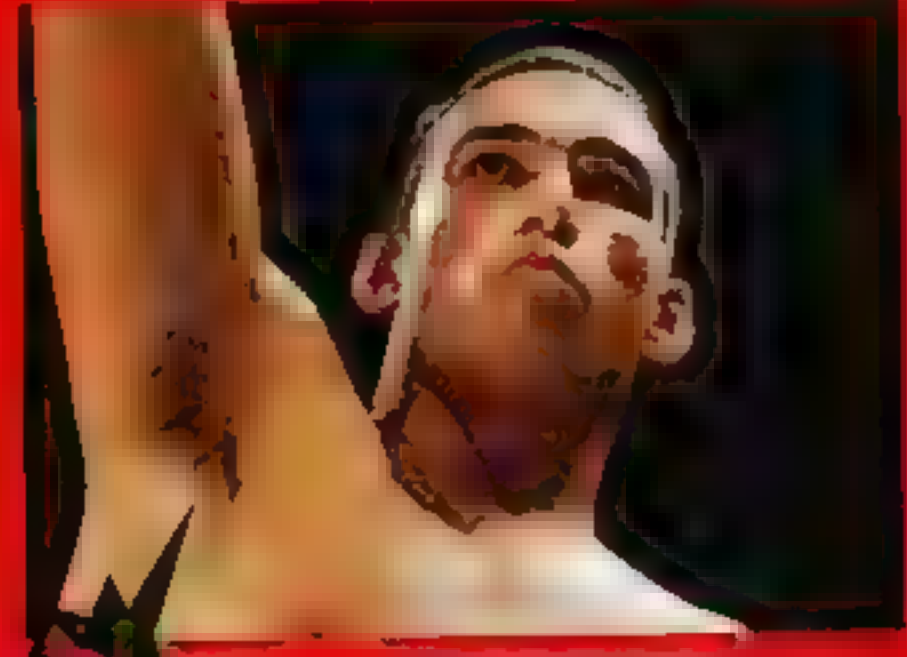
ヘビー級王座もイケるかな？

4 ミルコ・クロコップ
Mirko Cro Cop

誇り高き男、執念の復讐

10 アンドレ・オルロフスキー
Andrei Arlovski

PRIDEvsUFC頂上対決！

9 小川直也
Naoya Ogawa

ハッスル旋風よ、再び！

8 ファブリシオ・ヴェウドゥム
Fabricio Werdum

"ミルコの先生"がお礼参り

7 ルーロン・ガードナー
Rulon Gardner

ロシアの英雄を破った男

超異次元カード少数意見

ヒクソン・グレイシー

ヒョードルを倒せるのはやはりこの男、"450戦無敗"を自称するヒクソン・グレイシーしかいない！ 雑誌のインタビューでは未だに「ヒョードルも私から見たらまだ足りないものがある」と豪語し、格闘技マスコミの大御所・舟木昭太郎氏（株式会社アッパー社長）がその発言を真に受け、「試合をやればヒクソン有利」と断言しているのだから、それはそれは間違いないだろう。

三沢光晴

ネット上ではかねてから"夢の最強決定戦"として対戦が熱望されていたこのカード。PRIDEルールでは三沢の必殺エルボーが使えないのが痛いが、ここは特別ルールを採用してでも実現させたいところ。はたして、三沢のエメラルド・フロウジョンはランデルマンの垂直落下式ジャーマンを食ってもケロっとしていたヒョードルに通用するのか!? 興味はつきない!!

永田裕志

かつて試合5日前の超緊急オファーながら、ヒョードルとの対戦を堂々と受け、なおかつ"タートルポジション"と呼ばれる鉄壁の守りで、あのヒョードルと闘いながら、ほぼ無傷でリングを降りた超人・永田。「俺のヒョードル戦とあんた（前田）のニールセン戦を一緒にするな！」と、今年、前田日明にケンカを売っただけに、ぜひ大晦日に運命の再戦をやってほしいものだ。

熊

もはやヒョードルを倒せる人間はいない！ そんなファンの声を反映するかのように、2票も入ってしまった熊。かつてウィリー・ウィリアムス、藤原組長らが挑んだことがあるが、人間vs熊の完全決着はまだついているとは言いがたい。ここは人類60億人の代表として、ヒョードルに人間の本当の強さを証明してもらいたいところ。そしてやはり舞台は大日本プロレスのリングしかないだろう。

曙

昨年の大晦日、ホイス・グレイシーに簡単に敗れてしまったものの、テレビ視聴率ではヒョードル（vsノゲイラ）に完勝した曙。ここは、今年の大晦日あたりに直接対決しても面白い。PRIDE王者vs第64代横綱と肩書きではひけをとっていないし、「曙さんは肩固めだけで、世界を制する！」と谷川プロデューサーが断言するほどの逸材だけに、いまこそそれを証明するチャンスだ！

前田日明

今春、"ミスターIWGP"永田裕志と、永田vsヒョードル戦をめぐり大舌戦を繰り広げた我らが日明兄さん。こうなると、前田信者としては、やはり現役復活し、あのUSクルーザー級王者を逆片エビで撃破した格闘王の強さをヒョードル相手に見せつけ、「ジャンルが違うだろ！」と、失礼極まりない暴言を吐いた永田の鼻を明かしてほしいところ。これぞまさしく"顔が腫れるプロレス"だ！

蝶野正洋

格闘技界のこの夏の話題を独占した感があるヒョードルvsミルコ。しかし、それに待ったをかけるのが、"元祖・夏男"蝶野正洋だ。今年の『G1クライマックス』でも、かつてヒョードルを追いつめた藤田和之に完勝し、前人未到5度目の優勝をはたした蝶野。ヒョードルとの"真の夏男決定戦"が実現したとしたら、またしても"何かが背中を後押し"して、爆勝宣言するに違いない。

武蔵

あまりのハイレベルに「もはや日本人の入る隙間はないのでは？」との声も聞こえるPRIDEヘビー級戦線。しかし、K-1に目を向けてみると長年ヘビー級でトップクラスを維持している日本人がいる。もちろん我らが武蔵、その人だ。ミルコをも圧倒するパンチを持つヒョードルが、もしK-1ルールで武蔵と闘ったら……おなじみ再々延長の末、武蔵の判定勝ちの可能性も高い！

ヴォルク・ハン

ヒョードルを総合格闘技に導いた男と言えば、ヴォルク・ハン。しかし、袂を分かってからは、その関係はいいとは言えない。そこで、運命の師弟対決……と言いたいところだが、ハンはセミリタイヤ状態。ならば、今年大ブレイクした"小さなハン"所英男との無差別対決はどうだろう。しかし、一部では同じ性癖を持つのでは？と噂されるこの2人。意気投合してしまう可能性も。

藤波辰爾

ボクシングテクニックが改めて重要視されるPRIDEマット。しかし、マット界でボクテクの第一人者と言えば、韓国空手の猛者リチャード・バーン戦を前に、あのガッツ石松から"幻の右"を伝授されたドラゴンを置いて他ならない。ミルコを仕留めきれなかったヒョードルに対しても「甘い！『やるんだったら殺すまでやれ！』」と、憤慨しているとも考えられるドラゴン。やるしかない！

ボクサーの目から見たヒョードルvsミルコ

ヒョードル打倒のヒントはタイソンを破ったホリフィールドにあるんです！

元WBA・WBC世界ストロー級チャンピオン

大橋秀行

［大橋ボクシングジム会長］

試合における立ち技の比重が高くなり、ボクシング技術の重要性が改めて叫ばれている昨今のPRIDEマット。はたして、いまのPRIDEの闘いは本職のボクサーの目にはどう映っているのか？ 元WBA・WBC世界ストロー級王者にして現・大橋ボクシングジム会長、大橋秀行氏にボクサーの目から見たヒョードルvsミルコを語ってもらった。（聞き手／堀江ガンツ）

——今日は大橋さんが実は「PRIDE」が好きで、熱心に見てると聞いてお話を伺いに来ました！

大橋 ごくろうさまです。僕は「PRIDE」ももちろん好きだけど、もともとは幼稚園のころからプロレスファンだからね。ビル・ロビンソンの人間風車見てすごい好きになっちゃって。

——あ、そうだったんですか（笑）。

大橋 ボクシングよりプロレスのほうが全然好きだったから（笑）。ボクシングは兄貴がやってて、その影響で始めたんだけど、横浜高校ボクシング部のころは、リングでプロレスごっこばっかりしてたからね。猪木vs国際軍団のマネして、下級生相手に1vs3でやったりとか（笑）。

——ボクシングのリングでそんなことやってましたか（笑）。

大橋 あとはレスリング部相手に、ボクシングvsレスリングの異種格闘技戦5vs5マッチとかもやったよね。

——それは真剣勝負で？

大橋 もちろん。いまの総合格闘技ですよ。でも、だいたい僕らボクシングは1—4ぐらいで負けてましたね。結局、レスリングのタックルが切れないんで、みんなそれで倒されて寝技でギブアップ負けしちゃうんですよ。

——じゃあ、もうその当時から後の総合格闘技のひとつの答えを身を以て体験していたと（笑）。

大橋 そうそう（笑）。だからタックルを切れないから、どうしたらいいか考えて、タックルにカウンターでアッパーを合わせるっていう技を編み出したんだよね。昔、ミルコが藤田（和之）のタックルにヒザ蹴りを合わせたじゃない？ あれと同じ理屈だよね。

——ミルコよりはるか昔にそれを編み出していたと（笑）。

大橋 いまから25年ぐらい前だよ（笑）。だからさ、あのころから、プロレスラーが本気で殴り合ったり蹴り合ったり、なんでもありの真剣勝負で闘ったら面白いだろうなって。それをやったら、もの凄い人気が出るだろうし、すごく夢があるんじゃないか…と想像してたのが、いまの「PRIDE」だよ（笑）。

——ダハハ！ 「PRIDE」は大橋少年の夢を実現させましたか（笑）。

大橋 30年来の夢をね（笑）。

——で、その「PRIDE」ですけど、いまやボクシング技術抜きで語れなくなってると思うんですよ。そこで今日は専門家にお話を伺いたいと思いまして。

大橋 たしかに今の「PRIDE」はボ

おおはし・ひでゆき
1965年、神奈川県出身。現役時代はヨネクラジムに所属し、戦績は24戦19勝（12KO）5敗。「150年に一度の天才」と言われ90年にWBC、92年にWBA世界ストロー級王者となる。引退後、大橋ボクシングジムを開設。格闘技界でも金原弘光、宇野薫らが指導を受けている。
【大橋ボクシングジム】
http://www.ohashi-gym.com/

クシングがキーだろうね。

――大橋さんはミルコvsヒョードルはどうご覧になられましたか？

大橋 みんなあの試合を見て、ヒョードルのパンチは凄い、凄いって言ってるけど、ボクサーの目から見ると、やっぱりミルコのパンチっていうのは、総合格闘家の中ではピカイチだなと思いましたね。

――あ、そうなんですか。

大橋 ヒョードルは確かにパンチ力があって、スピードも早いんだけど、ボクサーのパンチじゃないんだよね。

――格闘技界では"ロシアン・フック"と呼ばれてるものですよね。

大橋 う〜ん、ロシアンフックというか、素人が打つパンチだよね。

――素人が打つパンチ！（笑）。

大橋 パンチっていうのは、ストレートが一番難しいんですよ。フックやアッパーっていうのは誰でもできますから。だからプロレスラーとか柔道家が総合のリングに上がると、みんなフック、アッパーでしょ？

――いわゆる"ロボコンパンチ"になりますよね（笑）。

大橋 素人のケンカでもそうですけど、ボクシングをやってない人間がストレートを打とうとしても、フックになっちゃうんですよ。ストレートっていうのは、体の作りに反した打ち方だから、本当に技術のいるパンチなんです。それをミルコは見事な左ストレートを打ち抜きましたよね。

――1ラウンドでヒョードルをグラつかせたパンチですね。

大橋 あれはそんなに強いパンチじゃなかったけど、ストレートっていうのは、最短距離で相手に当たるから一番効くパンチだから。しかも、ヒョードルはあのパンチが見えてなかったと思う。だから効いたんだよね。あれだけの左ストレートを持ってるPRIDEファイターっていうのは、いまのところミルコしかいないね。

――それでも結局、ミルコがスタンドで打ち負けてしまったのはなぜなんですか？

大橋 あれはパワーの差と、ヒョードルがガンガン前に出てきたことで、ミルコが打ち合わないという選択をしてしまったことが失敗だったと思うね。あそこで打ち合っていたら、結果は違っていたと思う。フック対ストレートになったら、ストレートのほうが絶対に強いから。あとヒョードルって実は打たれ弱いですよね。藤田のフックが凄く効いちゃったり、ミルコの軽く出したストレートでダウン寸前になったり。だから、穴がないように見えるヒョードルの弱点は、アゴなんですよ。

――なかなかヒョードルにパンチを当てられる人間がいないだけで、実はアゴが弱いと。

大橋 だから、あれだけ強烈なフックを振り回してくるから確かに怖いですけど、勇気を持って踏み込んでストレートを打ち抜けたら、ヒョードルをKOすることは可能ですよ。

1ラウンド、見事にカウンターでヒョードルの顔面を捉えたミルコの左ストレート。この一発でヒョードルはグラつきダウン寸前となったが、その直後ミルコの左ハイキックが空を切り、最大のチャンスを逃してしまった

ボクシングで一番難しいパンチはストレート PRIDEでそれができるのはミルコだけだね

――おお、ヒョードルを倒すには勇気を持つことですか。

大橋 そう。だから、昔ヒョードルって、昔のマイク・タイソンと同じだと思うんですよ。タイソンが連勝してたときって、みんなタイソンのこと恐れてたじゃないですか。みんなやる前から腰が引けてて、パンチが当たる前に倒れちゃうヤツがいたりとか（笑）。でも、勇気を持って踏み込んだイベンダー・ホリフィールドがタイソンを倒しましたよね。そしたら、あとはホリフィールドに続けとばかりに、みんな踏み込んでストレートでタイソンに勝ってるんですよ。

――なるほど。

大橋 でも、最初にそれをやったホリフィールドっていうのは、もの凄い勇気があったんだよね。だからヒョードルを相手に勇気を持って踏み込む選手が現れたら、無敵のヒョードルがその後、バタバタバタっと負け続ける可能性だってありますよ。

――はっは〜。ヒョードル＝タイソンという意見は面白いですね〜！

大橋 みんな最初タイソンを恐れていたけれど、考えてみればタイソンってヘビー級では小柄じゃないですか。だからいくら強いパンチを持っていても踏み込めないと実は何もできないんですよ。それなのにタイソンの圧力とパンチを恐れてみんな下がっていたからやられちゃったんです。でも、ホリフィールドは逆に自分が前に出た。そしたら、タイソンが下がる展開になって、持ち味がまったく出せなくなった。これはホリフィールドの技術というより勇気ですよ。そしてヒョードルもタイソンとまったく同じタイプだと思う。

――そうですよね。ヒョードルもヘビー級としては背が高くないですし。

大橋 だから今回のミルコは距離を取ってハイキックというのを狙いすぎたなと。1ラウンドに勇気を持って自分から前に出て、左ストレートで勝負してたら結果は逆になっていたと思いますね。後手後手の展開でしたけど、それでも僕から見たら、チャンスがたくさんありましたからね。だからミルコは今回、戦略が間違っていただけで、ヒョードルを倒す力は十分あると思う。今回負けたことで、ミルコ自身もどう闘えばいいか気付いただろうし、次やったら僕はミルコが勝つと思いますよ。

――いやぁ、大橋さんの話を聞いてたら、僕もそんな気がしてきました（笑）。またお話聞かせてください。ありがとうございました！

【05年8月7日／横浜市・大橋ボクシングジムにて収録】

ヒョードルの弱点はアゴが弱いこと。ミルコが勇気を持って一歩踏み込めばKOできますよ

"伝説の男"の目から見たヒョードルVSミルコ

ミルコはせっかく強い武器を持っているのに、なんでそれを使わないんだって！

元ラジャダムナンスタジアム・ライト級王者

藤原敏男

「藤原スポーツジム代表」

鍛え上げられた肉体と高いキックの技術で、総合格闘技の世界を斬りひらいてきたミルコ・クロコップと、計測不可能な底知れない強さを持つエメリヤーエンコ・ヒョードル。総合格闘技の世界のみならず、格闘技にかかわる者すべてが興味深く見守っていた2人の激突。ムエタイ500年の閉ざされた扉を力で強引にこじあけ、初の外国人王者となった伝説のキックボクサー・藤原敏男は、この闘いをどう見たか？ リングス時代から審判員としてヒョードルの"化け物ぶり"を見守ってきた男が、世紀の一戦を独自の視点で斬る！（聞き手／ささきい）

ふじわら・としお
1948年3月3日、岩手県生まれ。1997年に目白ジムへ入門。"鬼の黒崎健時に師事。1978年3月、ラジャダムナンスタジアム認定ライト級王座を奪取。ムエタイ500年の歴史で初の外国人王者となる。1983年2月に現役引退。通算成績は141戦126勝（97KO）13敗2引き分け。

——先生、試合はビデオでご覧になったんですよね。

藤原 見た見た。2回見たよ。「UPPER」さんと「ゴング格闘技」さんで、見ながら試合について話した。

——では、出来るだけ他で聞かないようなことをお伺いしたいと思います（笑）。試合前はどっちが有利だと先生は感じてらっしゃったんですか？

藤原 相対的にヒョードルのほうが勝つと思ってたよ。

——おお、ズバリ的中でしたけど、それはどういったところからですか？

藤原 ミルコは叩き上げの猛練習で作ってきたもんがあるけど、ヒョードルは底知れない強さを持った男だからな。

——ミルコがものすごいトレーニングを積んで、並々ならぬ決意で挑んでるのは分かるんですけど、ミルコは強いにしても洗練された強さという印象がありますよね。

藤原 そうそう。洗練された感じがするよな。もちろんミルコは打撃においちゃ素晴らしいものを持ってるし、立ち技だけで言ったらあの華麗な左ハイキックを見てもわかるとおり、右に出るものはいないと思うよ。ただ総合になった場合、一枚も二枚もヒョードルのほうが上だろうし、ミルコにはない、底知れない強さを持ってるのがヒョードル。

——まさしくその通りでしたし、その2人が初めて激突した1Rの緊張感はすごかったですよね。

藤原 ただ、ヒョードルのパンチは今回あんまり当たってないんだよな。通常に比べると正確さが欠けていたようにも見えるし。ミルコにしても練習も研究もしてるのは分かるんだけど、もう少しぶつかっていってもいいんじゃねえかなって思ったな。俺はな。

——ミルコの攻撃が足りなかったということですか？

藤原 そう。もっといろんなものを仕掛けてもいいんじゃないかと思った。

——いつもの、格下の相手にぶつかっていくミルコに比べれば、手数が少ないなという感じはしましたね。

藤原 やっぱりそれは、ヒョードルの底知れない強さってものをわかってるから、パンチキックが出せなくなってしまうんだよ。出せるタイミングはあるんだけど、出せないっていうのは、ミルコの気持ちの上でヒョードルは強いって認めてるものがあるからだよな。

——相手にしてみて、威圧感みたいなのは

すごいんでしょうね。

藤原　あるからこそ、[illegible]自分より強いな、ラベルが違う（※[illegible]）など思った相手に関しては、もっ[illegible]っと暴れて、とかく乱して闘って[illegible]

——あー、「なんだコイツ」っていう感じの闘い方に持って行くと。

藤原　そう。「コイツ強いな」って思った時点で、もう相手には精神的に負けてるんだから、逆に「よし、このくらいなら俺の相手として上等だ」って気持ちを切りかえて、変則的に攻めていったほうが面白いね。

——先生は、ヒョードルに底知れない強さがあるっておっしゃってますけど、それは試合を何戦か見ていくうちに感じたことなんでしょうか？

藤原　ていうか、最初っからそうじゃん。ヒョードルはリングスにいたときから見てるから。あのころから、ちょっとケタが違う怪物だなっていう印象は持ってるよ。ドーンと大地に根を張っているような、大きさを持った男だよね。そんな男に小技をチョコチョコ出したって通じないって。

——小技（笑）。

藤原　だから、ミルコも自分の持ってる最大限の武器をもっともっと生かして闘うべきだったんじゃないかなと俺は思うな。

——もっとめちゃくちゃに。

藤原　もっと暴れて、数パンバン出して。蹴りだって、そりゃ出したら捕まるかもしれない。だけど、最大限の武器を使わずに、なんで勝てる要素があるんだって。KOで負けたって、判定で負けたって同じ負けなんだからさ。逆に、そういう武器を出さないで、なんで勝つつもりなんだって言うんだよ。そうでしょ？

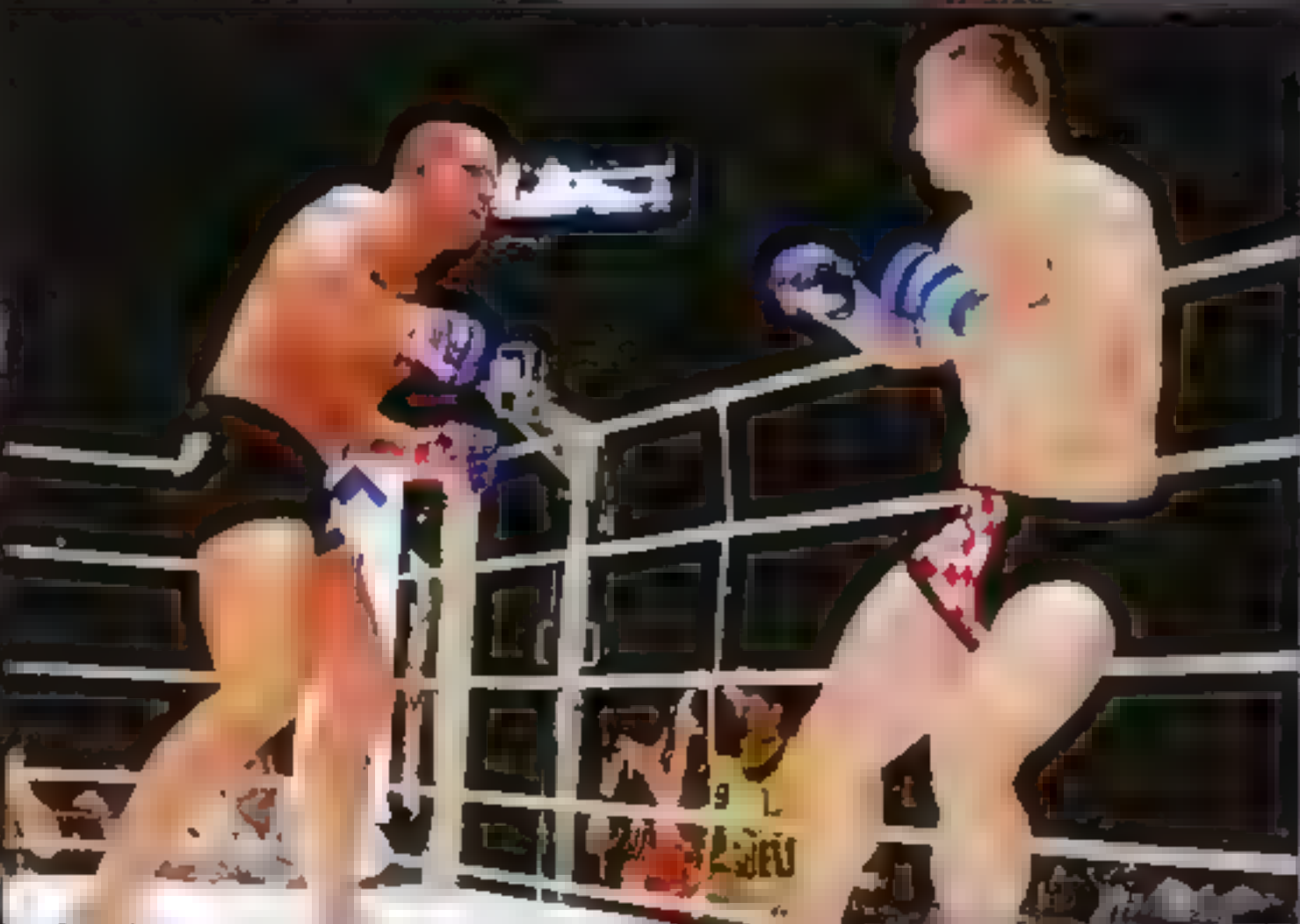
——おっしゃるとおりです。ミルコに何かを教えられる機会があるとしたら、そう言いますか？「バンバンやれ」と。

藤原　そうね。自分が強いなと認めてるヤツだったら、余計に自分のすべてを尽くして、ありとあらゆる戦法を駆使してやれと言うだろうな。

——なるほど。でも、ヒョードルってけっして強そうな体型じゃないですか。お腹もブヨっとしてるし。

藤原　だから、それがヒョードルの強さなんだって。筋肉隆々じゃなくて、ああいう体型のほうが一番しぶといんだよ。腕だって太いけど、ガチガチになってないでしょ？　ああいう筋肉こそ一流のトップの筋肉なんだよ。

——なるほど……。一見すると肉がついてるようにさえ見えちゃいましたけど、そうじゃないんですね。

藤原　自分の頭と肉体っていうのが分かってるから、バーベルなんかで鍛える必要がない。ヒョードルこそが一流、いや超一流の筋肉なんだよ。

ヒョードルの身体がブヨっとしてる？　あれが超一流の筋肉なんだよ！

1ラウンド、見事にカウンターでヒョードルの顔面を捉えたミルコの左ストレート。この一発でヒョードルはグラつきダウン寸前となったが、その直後ミルコの左ハイキックが空を切り、最大のチャンスを逃してしまった。

——超一流、ミルコのほうが一見するとむしろ、鍛えた身体つきですよね。

藤原　練習で作った身体だよな。ヒョードルは自然な身体[illegible]

——最初にリングスへ来たときから、ヒョードルはほとんど見た目が変わってないですしね。

藤原　そうだろ。ヒョードルは、なんて表現したらいいのかな、別格だよな。心臓もずぶといだろうし、頭もずぶといだろうし。試合であせるところがないよな。

——ないですね。全然あせらない。

藤原　何やっても通じない。ミルコ、最後に出せたのは右のローキックぽこんと一発だろ。作戦が空回りしだしちゃって、屁みたいなロー[illegible]しか出せてない。

——屁みたいなロー（笑）。

藤原　ミルコはハイキックだけじゃなくて、ローやミドルも面白いんだから。とにかく[illegible]るのかなって思わせておいてバーンと入れば、全然可能性あったろ。ヒョードルもぶたれ強いから、ケロっとしてるかもしれないけど。

——同じケロっとされてるにしても、いろんなことやったほうが可能性があったかもしれないしですしね。

藤原　そうそう。作戦です作戦。

——もう1回闘ったとしたら勝負はどう[illegible]りますかね。

藤原　まあ、ボクシングでもキックでも、リターンマッチやって勝ったやつは[illegible]んだよ。

——身も蓋もないですね（笑）。

藤原　全部[illegible]から[illegible]よっぽどのことがない限り、判定にしたって、KOにしたって、やっぱり全てを読まれちゃってるからね。相当のことがないかぎり、リターンマッチは勝てる要素がない[illegible]

——[illegible]回目[illegible]かもしれない[illegible]ら通用したかもしれないですけどね。

藤原　次は読まれてるよ。今回だって[illegible]ヒョードルのガードは結構高かったで[illegible]今回の試合で、ヒョードルの中にミルコの動きは全部叩き込まれちゃったわけだから[illegible]

——では、来年やってもミルコが勝つ可能性は薄い。

藤原　と思いますよ。俺は。

——もったいなかったですね。ミルコ[illegible]も、再戦も勝てる可能性がないとしたら……ヒョードルに勝てる相手は本当にいなくなっちゃいますね。

藤原　そのときは、藤原敏男の出番[illegible]

——アハハハ！　さすがだ、頼りになるなぁ（笑）。

藤原　1分でやられちゃうだろうけど[illegible]

——いや、藤原敏男vsミルコ・クロコップは見たいですよ（笑）。先生、12月[illegible]原祭りはミルコ戦でお願いします！

【[illegible]月2日　藤原スポーツジムにて取材】

KOでも判定でも同じ負けなんだから、バンバン蹴りもパンチも出したほうがいいんだよ！

各界の文化人が語る「ヒョードルvsミルコ」戦とは何だったのか？

PRIDEの歴史の総決算、あるいはPRIDEの最終回？など業界内外を巨大な渦となり猛烈なスピードで巻き込んだ、「ヒョードルvsミルコ」戦。様々な角度から盛り上がりを見せた2人の超人同士による"最高の最強決定戦"。この世紀の一戦を格闘技好きとしても知られる各界の文化人たちはそれぞれの立場からどう見たのか？独自の視点から「ヒョードルvsミルコ」戦とは一体何だったのか？を語って頂きました。

夢枕獏［作家］

勝っても負けてもミルコが主役。ヒョードルの強さには、心が切なくなるようなものがない。

試合までのストーリーをずっと作ってきたのはミルコですよ。これまで彼が描いてきたドラマは、多くの観客の琴線を刺激するものでした。勝っても負けてもミルコが主役だと僕は思ってました。ミルコには是非勝ってほしかったですね。しかし「全財産をどちらかに賭けなければならない」なら、ヒョードルにかけてしまうところでしょう。格闘技って「心の主役が負けちゃう」ことが非常に多い世界ですし。でも「ヒョードルの優勢は動かない」と思いつつも、ミルコに突破口があるなら、それは〝打撃〟だった。

ヒョードルの必勝パターンである「打撃から、上になってのパウンド」、その第一段階の打撃を先んじて封じること。そこにミルコの勝機があったと思います。でも現実はその逆で、ヒョードルがミルコを〝打撃で〟完封してしまった。ふたを開ければ、ヒョードルの勝因はミルコに「打撃を出す距離を作らせない」という、シンプルな戦略でした。でもそれを実行する人間は生身だから、戦略を遂行したヒョードルは高く評価するべきです。

その一方で、ミルコは慎重すぎた。練習した成果で寝技はうまくなってたけど、あれは勝つためでなく〝負けないため〟の対策。結果論にすぎませんが、むしろ寝技への対応を捨ててでも、打撃にしか活路がない、打撃一本に絞った昔のミルコの方が勝機があったかもしれない。結局、最後まで、ミルコが主導権を握った場面はなかったし、後退しつつ的確なパンチも入れてたけど、危険を犯すくらい踏み込んだ打撃が見たかった。しかしミルコの試合後の表情を見るとPRIDEで「自分の打撃が通用しなかった」というのは大変なショックだったと想像できます

ミルコって、当時、連勝街道を走っていた、ボブ・サップに対して「レバーをねらってガードを下げさせ、顔面をねらう」という風に「ボブ・サップ攻略法」の道を示した人なんですが、今回はヒョードルが「ミルコ・クロコップ攻略法」という道を提示してしまった。だからミルコとノゲイラも次回、闘ったらわからない。ミルコ復活の道のりは非常に険しいし、マーク・ハントやノゲイラに続けて勝ったりしないとヒョードルへのリベンジの機運は生まれないでしょう。

でも今回は、勝っても負けても話題の中心はミルコ。会場でも観客は完全にミルコを後押ししていた。一種のショック状態だったと思うけど、PRIDEの試合のあとで、勝ったヒョードルに対してあんなに拍手が少ないことは珍しい。ミルコが退場するときの拍手の方が大きかった。ミルコの敗戦は、観客にとっても「濃い」ものだったと思うし、僕も気持ちの底ではいまだに引きずってる。こんな風に外国人のミルコに日本人の観客が肩入れしてゆくという現象は、PRIDE劇場における観客の成熟度が高くなってきている証だと思います。

ヒョードルを見て感じるのは、「強いことって素晴らしい」けど、それだけでは物足りない。ヒョードルの強さには、心が切なくなるようなものがない。僕はヒョードルのことは格闘家として心から尊敬しているけど、ヒョードルとミルコの2人を並べたら、やっぱり愛しく思えるのは負けたミルコなんですよ。

夢枕獏（ゆめまくら・ばく）
1951年神奈川県、小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』シリーズや『陰陽師』シリーズなど多くの話題作を発表。また格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年に渡り、執筆するなど格闘技への造詣は広く深い。趣味人としても知られ、釣り、登山に関した著作も多数。99年、ヒマラヤ登山を扱った『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。

村上隆［アーティスト］

この敗戦でミルコは、リアルワールドの「虎の穴」を造ってしまう動機を持ち得た。

ミルコの悔しさ、いかほどの物なのか？　何をやっても1番になれない。2番手に甘んじ続ける屈辱。

主催者側にも「ヒョードルには勝てないかも」と暗黙に思われていた節は、試合前の涙無くしては見れないミルコプロモヴィデオにも現れていた。

ミルコの母がこう言う「言ってはいけない事なのかもしれないけれど、彼に言ったわ。全てが手に入らないかもしれないって」って。

そりゃないよ。

しかし彼は故国クロワチアで他に手に入れるべき物は手に入れてしまったのだ。

クロワチアヒルズに建つ豪邸。ドイツの高級車。父の敵。母の安息。社会的地位。そして金。

私は8月28日、今回のPRIDEのパンフレットに寄稿させて頂いた関係で、DSEの方に特等席を用意して頂き、花道を歩いてくる選手達の顔を見る事が出来た。ミルコは、いい顔していた。ヒョードルの顔は、歪んでいた。そうだ。ヒョードルは既に戦いを前に闘っていたのだ。リアル「バガボンド」の世界。武蔵と小次郎。緊張感というレベルを超えた訥々としたシナリオの応酬。ミルコは静謐な心を保つだけで精一杯だったのだ。

花道を歩くそれぞれの数分間が、私にはスローモーションに見えた。10分も15分も延びて行き2人の頭の中で展開しているであろう、試合のシミュレーションを勝手に夢想していた。そうだ。この幻想こそ見たかったファンタジー。夢の試合なのだ。逝ってしまう直前の快感。

結果はでた。

逝ってしまった直後は気怠い体だけが残ってしまう。いや待ってくれ。そうじゃない。勝利したヒョードルはただの人に戻れる一瞬の安息。やっと目を見開いて現実を認識し、生きて地上に降り立った。ミルコは……。顔を歪ませるしか無い。過ぎた時間を反芻し、頭の中での数千回もの試合データのリロードを行っている。そうだ、ミルコよ。そのリロードはヒョードルが試合前に行っていた作業なんだよ。

がっくりと頭を垂れるミルコ・クロコップ……。否。ミルコはそんな人生を歩んではいない。彼はやる。自分の肉体がついて来れずとも次の機会を狙っている。

彼こそがリアルワールドの「虎の穴」を造ってしまう動機を持ち得た怪物なのだ。彼の子供なのか、弟子なのか、彼の精神を別の肉体に入れ替える機会を狙っている。

ヒョードルは彼1人で終わりだ。でもミルコは何人にもなって戻ってくる。

そして花道に登場する未来のミルコには8月28日のヒョードルの遺伝子をも植え込んでいるはずなのだ。未来のファンタジーDNAは8・28に仕込まれた。

私は来るべき日を見逃さない。

……って、I編集長みたくなってしまいました。すみません……。

村上隆（むらかみ・たかし）
1962年、東京都生まれ。アーティスト。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了（PhD）。02年、パリ、カルティエ現代美術財団とロンドンのサーペンタイン・ギャラリーで個展「Kaikai Kiki」開催。キュレーション活動として「Superflatプロジェクト」3部作を企画、開催。05年は完結編である「Little Boy」展がNYジャパンソサエティーギャラリーで開催。埼玉県朝霞市およびニューヨーク市ブルックリンで作品を制作

菊地成孔［音楽家］

銀座で70万円のちらし寿司が69万円のちらし寿司に勝ったようなゴージャスな試合。

録画して頂いたDVDを47インチの液晶モニターで観る。という鑑賞スタイルでしたが、初期カラーテレビの小さなブラウン管で生中継を見ている錯覚に陥りました。つまり、観客席を含んだ画面全体が「ボクシング世界タイトルマッチ（昭和）」の絵に見えて、それが最初に驚いたことです。試合開始前のほんの数分なんですけど。

「格闘技だ。つったって会場があれじゃさ問題」とでも言いましょうか、第二次UWFの客席がお台場か何かのイベント会場にしか見えなかったり、初期PRIDEの客席がK-1+プロレスにしか見えなかったり、新日本のドーム興行の客席が車の展示会にしか見えなかったり。そういうのもこの国の格闘技の味として定着していたと思うんですが、PRIDEの「絵」がとうとうボクシングの会場に見えた（オリンピックも少々入っていたような）。というのは事の是非は別として記憶しておくべきだと思います。

技術的なことは巷間言い尽くされていることに加えることはありませんが、僕の本の中で、ボクシング・マガジンの宮崎正博さんと対談してるんですが、その段階（今年の4月です）で宮崎さんが「ヒョードルは実はロシア式ボクシングのフォームの正当な後継者で、一番似ているのはIBF世界スーパー・ライト級王者のコスタヤ・ジューだ」と明言され、身振り手振り付きで、その「出入りの早さ」「距離の取り方」を解説して頂いていたのですが、僕は（その当時は）ヒョードルのスタンド・ストライキングは「マーシャルアーツ・フットワーク+フリッカー・ジャブ。打撃の練習が何か微妙な結果になってないかサンビスト？」と思っていたので、宮崎さんの慧眼に唸らされました。

ミルコは勝つとしばらく瞳孔が開きっ放しになってしまい、負けると顔全体で泣く。といったパーソナルで、恐怖を払拭するために強くなった様な発生段階を持った幼児的な人でしょうから、何か大きな権威を背負うと退行と自己破壊衝動がリリースするんでしょう、カマされた途端に自我が泣いちゃって、身体がどんどん重く成っちゃった感じですね。父親の魂とか戦争とか言わないで、いつもみたいに不機嫌に威張り腐ってトランプやりながら臨めば良かったのに。と思いました。軍人がトランスする力はクロアチア内戦では通用するけどPRIDEのヒョードル戦では通用しなかった。っていうか、ヒョードルはソップ型力士の体格と体重を持った勇利・アルバチャコフ。という感じで、負けるところがまったく想像つきません。「横綱」感ですね。

戦術的には、奇策も破格も無い堅い試合でしたが、全然文句ないです。ゴージャスだと思います。銀座で70万円のちらし寿司が69万円のちらし寿司に勝った。といった感じで。古いゴージャスですけどね。悪い未来よりも、良い過去。と言うか。凄すぎて退屈で、そこがエレガントというか。非常にうっとりする試合でした。

菊地成孔（きくち・なるよし）
1963年　千葉県、銚子生まれ。音楽家、文筆家、音楽講師。1984年プロデビュー後、サックス、キーボード、作詞作曲編曲、スタジオワーク、PEPE TORMENT AZUCARARほか複数のバンドを同時に主宰。文学的かつ分析的なプロレス&格闘技評論集『サイコロジカルボディブルース〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜』（白夜書房）も好評発売中。

Mauricio
Shogun
NO GI

ミドル級GP“圧倒的現実”を制したのは23歳

PRIDE新時代

マウリシオ・ショーグン

「05年8月28日は人生で一番、幸せな一日だった」

吉田秀彦、桜庭和志、ボブチャンチン、ヴァンダレイ……幾人もの主役たちが“圧倒的現実”の前に姿を消していったミドル級GP。最後に生き残ったのは、23歳と参加選手中最年少、“台風の目”との戦前評を受けていたショーグンだった！　まさに新時代の幕を切って落としたショーグンの躍進。時代はたしかに動いたのだ！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合撮影／乾晋也

designed by matsu TwoThree

――『PRIDE』ミドル級GP優勝、おめでとうございます！

ショーグン　ありがとう！

――こちらは昨日の試合写真なんですけど、よかったらどうぞ！　ショーグン選手が優勝して肩車されている写真と、アローナをKOした瞬間の写真です。

ショーグン　おお～～、自分で言うのもなんだけど、すごくカッコいいな（笑）。

――それはよかった（笑）。優勝された瞬間、シュートボクセの仲間がリングに雪崩れ込んできたのが印象的で、お兄さんのニンジャ選手なんかは大泣きされてましたよね。

ショーグン　あ～、泣いてた（笑）。

――お兄さんが泣き虫だってことは試合前の煽り映像で紹介されてますけど、普段もあんなかんじなんですか？

ショーグン　そうなんだよ！　ショージ（小路晃）に勝ったあとも大泣きしたりね（笑）。でも、兄貴の気持ちは俺もよくわかるんだ。俺もリングで闘うときは、兄貴以上に緊張しているから。

――当たり前のこと聞いちゃいますが、ショーグン選手もそれだけ優勝した感激はあったわけですよね？

ショーグン　最高に嬉しい！　いままでの過酷なトレーニングがこうして報われたわけだし、GPでハイレベルな闘いを積み重ねたことで、よりファイターとしてグンと成長できたんだからね。

――ショーグン選手がGPで闘った相手は、クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ、アリスター・オーフレイムにヒカルド・アローナ！　勝つのは容易ではない猛者ばかりでレベルアップするのは当然ですよ。

Shogun

アローナの制覇は堅いかと思われたグランプリ決勝戦は、フタを開けてみればショーグンの圧勝。スタンド、レスリング、グラウンドのいずれ分野もショーグンが支配。"踏みつけ大将軍"の異名に相応しく、最後はフットスタンプで飛び込んでからのパンチでフィニッシュ。決して「何かが後押しした」わけではなく、勢いと個性が絡み合った結果だった

ショーグン　そのうえ優勝できたんだから「嬉しい！」という言葉以外は出てこないかんじなんだよ。2005年8月28日という日は、これまでの人生のなかでも一番、幸せを噛みしめた一日だったね。

――ちなみにGPで優勝するまでの、一番幸せな瞬間というのは、どういうシチュエーションだったんですか？

ショーグン　これまでたくさんの幸せな瞬間があったけれど、あえて挙げるとしたらGPでホジェリオに勝利をおさめたときになるかな

――ライバルチーム同士の一戦でブラジルでも大注目されてましたね。

ショーグン　それに俺は強さを追い求めるファイターだ。『PRIDE』のリングは、そんな俺にとって世界のすべてといっても過言ではないから。やっぱり『PRIDE』のリングの出来事が強く印象に残ってしまうんだ。

――これからの目標を含めてお聞きしたいんですけども、これ以上の幸せってどういう瞬間になると思いますか？

ショーグン　それは想像がつかないなあ。これからも昨日のような幸せを感じる瞬間が訪れるように、日々のトレーニングで自分を燃やしていかなければならないと思ってるけどね。

――そのトレーニングの賜物が柔術黒帯の取得だったりするんですよね。試合後の控え室でニーノ（・エルビス・シェンブリ）から黒帯を授かったみたいですけど。

ショーグン　俺は16歳のときから柔術を学んできたけど、黒帯というのはマスターの証だから特別な感慨があった。最大の要因になったのはGPの試合のなかでハイレベルなグラウンドの攻防を見せられたことだろうね。ホジェリオやアローナ相手に俺はグラウンドで負けなかったわけだし。

――あのアローナ相手にオモプラッタまで仕掛けて。あとアリスター戦でフィニッシュの際に、マウント・ポジションから相手

決勝ラウンド1回戦、アリスターvsショーグンは、6分42秒というタイムの中に、次世代を担う両者の才能が詰まったバトルだった。結果はショーグンのTKO勝利に終わったが、アリスターはトータルでレベルアップしている。課題はスタミナと精神面か

の腕をヒザで押さえつける状態になりましたよね。あれってハリトーノフがセーム・シュルト戦で見せた技と同じ姿勢だったんですけど、正式な名称ってあるんですか？

ショーグン　う〜ん、とくに名前はないと思うよ。あの技は実際、普段の練習や試合でもあまり使うことはないんだ。アリスター戦ではたまたまああいう体勢になって、気が付くと自然に相手の肩を足で押さえつけていた、というかんじだね。キミらマスコミはあの技を何て呼んでるんだい？

――"ロシアン・マウント"とか"ハリトーノフ・ポジション"、あと"死神固め"とか（笑）。

ショーグン　ふ〜ん。そうなんだ（興味なさそうに）。

――で、アローナ戦では試合早々に豪快な廻し蹴りを見せたりと、かなりリラックスされた様子で闘われてましたけど。

ショーグン　そうだな。非常にリラックスした状態で試合に臨めたよ。もう身体が軽くてしょうがなかったから、この試合で自分の力のすべてを出しきれたと思う。

――アローナは試合早々に「マットに頭を強打して意識が朦朧となっていた」と言ってるんですが、その発言に関してどう思います？

ショーグン　……はっきり言って、それは言い訳だ。彼がマットに頭をぶつけたとしても、それは試合開始から間もない1分か2分くらいのときだったんじゃないのかな。そして実際にノックアウトされたのは、その5分後ぐらいだったからアローナの意識は完全に戻っていたはずだ。それに俺はどんなアクシデントも含め、すべてが勝負だと思っている。俺に組み負けて頭をぶつけたんだから、それこそ彼の実力不足だよ。

――そのアローナに同門のヴァンダレイ（・シウバ）が敗れた試合はごらんになりましたか？

ショーグン　少しだけ。次が俺の試合だったから、すべては見れなかったけど、アローナは消極的で試合を硬くしていたと思う　次に闘ったら勝つのはシウバだ。シウバの実力を一番知っている俺が言うんだから間違いない。

――兄貴分的存在のシウバが負けたことで、精神的に影響はありませんでした？

ショーグン　チャンピオンであり、良き兄貴分のヴァンダレイが負けたことには、非常にショックを受けた……。でも、なんとかテンションを上げて、自分の試合に集中するように考えた。アリスターを倒して、そして決勝でシウバの仇を討つために。

未来のことで確実に見えているのは、今後も刺激的なファイトをしていくことだ

【MAURICIO SHOGUN】1981年11月25日、ブラジル・パラナ出身。182cm、92.2kg 「PRIDE GP2005」優勝。PRIDE戦績8戦全勝7KO。KOはすべて1R決着

――シュートボクセとブラジリアン・トップチームはあまり仲がよくないから、やはり感情的になったところもあるんですか？

ショーグン　仲が良くないわけではないけど、たしかにトップチームとシュートボクセは、お互いにライバル意識がものすごく強い。だから俺は、最高の形でノックアウトすることがシュートボクセの最強を証明できるただひとつの方法だと思っていたんだ。俺が勝ったことにシウバもすごく喜んでくれたし、シュートボクセのために自分の力が活かせたことは光栄だ。

――今回優勝したことで、ショーグン選手はヴァンダレイを超えたと思いますか？

ショーグン　いや、まさかそんなことがあるはずないよ。まだまだヴァンダレイのほうが俺より上。彼にはもっと教わりたいこともたくさんあるし、これからもヴァンダレイと力をあわせて『PRIDE』のリングで闘っていくつもりだから。

――ヴァンダレイは「仲間を殴りたくないから、同門対決が実現しなくて本当によかった」というふうに言われてたんですが、ショーグン選手はどんな心境だったんですか？

ショーグン　トーナメントという形式だから、いずれは闘う可能性はあったけど、もちろん俺だってヴァンダレイとは闘いたくなかったよ。

――ワンマッチならもうありえない？

ショーグン　最終的にはプロモーターとフジマール会長の決定に従うけど……。いまはミドル級王者とミドル級GP王者、2本のベルトがシュートボクセのもとにあるから、とうぶんのあいだは同門対決をやる必要もないだろうね。

――最後に。新世代のショーグン選手が優勝したことで、『PRIDE』ミドル級新時代の幕が開けた、という感慨はありますか？

ショーグン　いやいや、まだシウバたちの時代は終わっていないさ。彼はまた厳しいトレーニングを課してこのリングに帰ってくる。それは間違いない。そして俺がミドル級GPのベルトを勝ち取ったことも現実だ。未来のことで確実に見えているのは、俺もシウバも『PRIDE』のリングで、今後も刺激的なファイトを重ねていくってことだろうね。もちろん兄貴のニンジャだってレベルがさらに上がってるし、いまでも俺よりも強い。

――そして弟のショーリンも控えているし、亀田三兄弟より怖い存在というか（笑）。

ショーグン　兄貴を含めて今後も期待してくれ。俺は誰とでも闘う！

【05年8月29日／都内ホテルにて収録】

いまマット界でいちばんヤバイ三兄弟といえば、亀田ではなく、ニンジャ、ショーグン、ショーリンのフア兄弟に決まってる（本名はムリーロ・フア、マウリシオ・フア） 写真右がショーリン　日本デビューが待ち遠しい。ショーリン、フォ〜〜〜!!（HG風）

ヒカルド・アローナ

「俺がなぜシウバに勝てたか教えてやろう」

6月に桜庭和志を血の海に沈めたのに続き、8・28ついに"絶対王者"シウバの牙城を崩したアローナ。かねてから「俺はヴァンダレイを倒せる」と言い続けてきたことを改めて証明した形だが、なぜそこまでアローナはシウバ打倒に自信があったのか。決戦翌日、アローナがここまでシウバが勝ち続けてきた"カラクリ"を暴露した!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/菊池茂夫

designed by matsu (TwoThree)

ショーグンに負けたのはアクシデントだ。もう一度闘ってそれを証明してみせる

――昨日（8・28）は〝絶対王者〟ヴァンダレイ・シウバを破る快挙を成し遂げながら、惜しくもGP優勝には手が届かなかったわけですが、「おめでとうございます！」と言っていいんでしょうか？（笑）。

アローナ　まぁ、ヴァンダレイに勝った喜びと、優勝できなかった悔しさは同じくらいかな。でも、ショーグンに負けたのはアクシデントだから、完全に負けたとは思っていない。ヴァンダレイとPRIDEミドル級タイトルマッチをやって勝った後、ショーグンとはゼヒ、リアルチャンピオンを決める闘いをしたいね。

――〝アクシデント〟というのは、どういうことですか？

アローナ　ショーグン戦の試合開始から1分も経たないころ、テイクダウンをしようとしたら、マットに頭を強く打ち付けてしまって、その後はほとんど意識朦朧としたまま自分をコントロールできずに闘っていたんだよ。

――脳しんとうのような感じになってしまったと。

アローナ　おそらくそうだろう。最初の1分で目もよく見えなくなって、相手を探しまわるような状態だった。マットに頭を叩き付けた瞬間、一方の自分は「これで終わりだ、止まれ」と思っていて、もう半分は「止まっちゃダメだ！　動け動け！」という意識だった。自分の中でも必死に葛藤していたんだ。

――頭を打ち付けたというのは、ショーグンにオモプラッタを極められる前ですか？

アローナ　そう。組み付いて倒すときに、俺の頭がショーグンの体とマットに挟まれる形になってしまった。だから、どうやってオモプラッタを掛けられたのか記憶がない。気がついたら、右腕を取られていたという感じだ。だから、自分としたら頭をぶつけた時点で試合は終わっていたんだよ。だからこそ、ショーグンとはもう一度闘って、真の決着をつけたいね。

――観る側としては、アローナ選手がショーグン戦で精彩を欠いていたのは、準決勝でシウバ選手を倒して、大きな目標を達成してしまったので、決勝に100％気持ちを持っていけなかったのではないかとも見受けられたんですが、そんなことはなかったんでしょうか？

アローナ　それはない。ショーグンとの試合で懸念してたことがあるとすれば、ヴァンダレイとの試合で痛めた足のことだけだね。決勝戦に出れるかどうか心配してたんだが、まあドクターに大丈夫だと言ってもらえたから出場できた。だから、ショーグン戦に関しては本当に運が悪かったということだ。ショーグンはいい選手だと思っているよ。だからこそ、また闘いたいと思っているし、今度はオレが勝つと信じている。

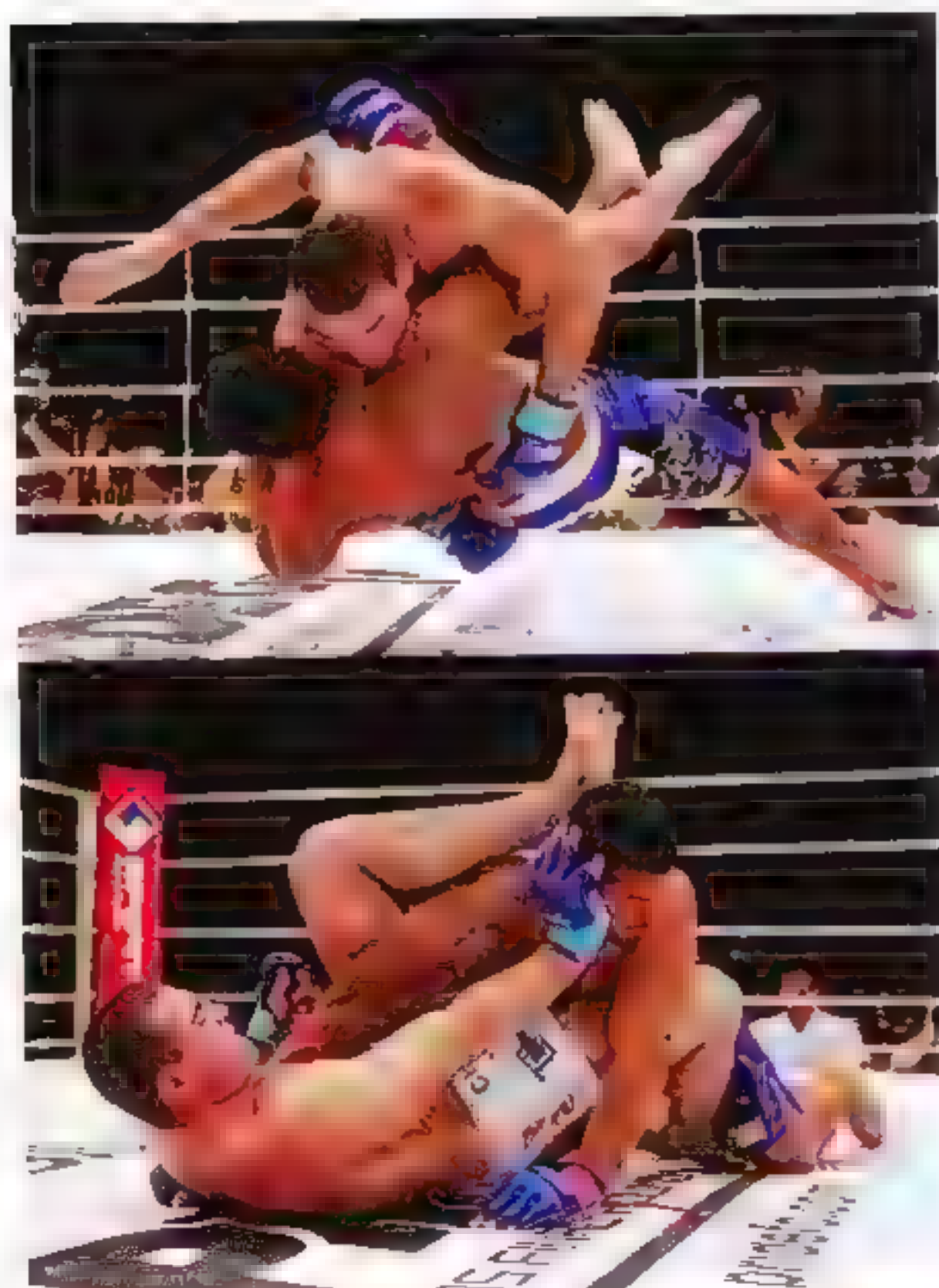
――では、シウバ選手に勝って、満足しちゃったという部分はまったくないと。

アローナ　あたりまえだ。今回の大会は、ワンマッチじゃなくてチャンピオンを決めるトーナメントだ。ベルトを目指して闘っている大会なのに、ヴァンダレイに勝ったからといって、決勝を投げ出したりするわけないじゃないか。俺があいつに勝つなんて、試合前からわかっていたことだしね。

――シウバに勝つことはわかっていた！　たしかにアローナ選手は初めて『PRIDE』に出場した時から、ずっと「オレはヴァンダレイに勝てる！」と宣言してましたよね。でも、〝絶対王者〟とまで言われたシウバに対して、なぜそこまで自信があったんですか？

アローナ　いい質問だな。まあ、なぜそんなに自信があったかというと、オレの人生は本当に闘いと練習の連続だったからだ。俺ぐらい人生をかけてトレーニングを積んでいる選手はそうそういないと思う。それに、そのトレーニングを重ねる中で、俺はヴァンダレイのポテンシャル、ヴァンダレイの限界もよく知ることができた。だからここで宣言しておく。オレは何度ヴァンダレイと闘っても勝つことができる！

――何度闘ってもですか！　それぐらい自信があると。その、〝ヴァンダレイの限界〟というのを、もう少し具体的に教えてもらえますか？

アローナ　ヴァンダレイに限界が見えているのは、グラウンド技術とテイクダウンの

アローナの言う「マットに頭を打ち付けた」というのは、[illegible]アローナがテイクダウンを奪おうと[illegible]ショーグンに体を[illegible]せ[illegible]頭を強打[illegible]の直後[illegible]ショーグンがオモプラッタを[illegible]れるが、写真下を見ても意識朦朧の状態[illegible]ているように見える

シウバも負けたままじゃ引き下がれないだろう　ベルトを賭けることを条件にもう一度闘ってやるよ

2ラウンド終了のゴングが鳴った直後、勝利を確信したアローナは「見たか!」とばかりにシウバの目の前に顔を近づけ、シウバをなおも挑発! この一戦が"スポーツ"ではなく、"タイマン"だったことがよくわかるシーンだ。

Arona

能力のことだ。ヤツにはその2点が決定的に欠けているし、これからどんなに練習しても、俺に追いつけるレベルじゃない。それに、全般的にオレの方がヴァンダレイより早く動けるし、肉体的にも強い。そういう意味で、いつでも勝てると言ったんだ。

——しかし、これまでシウバに太刀打ちできる選手は現れなかったわけですけど、シウバに負けた他の選手たちとアローナ選手との一番の違いは何だったんでしょう?

アローナ　それはな、ハートの問題だ。ハートと魂。オレの心はサムライと同じだからな。命がけで闘い、常に勝つために闘いつづけている。それが他の選手とのいちばんの違いじゃないかな。あとは、ブラジルの大自然という"友人"の協力も大きいと思う。彼は毎日毎日、オレが強くなるように懸命にトレーニングをしてくれるんだ。

——ではハートがあれば、いままでシウバ選手と闘って敗れた選手たちも倒すことができたと?

アローナ　そうだ。でも、なぜ勝てなかったかと言えば、おそらく彼らはヴァンダレイのことが恐かったんだろう。ヤツは相手を威嚇して怖がらせる術を知っているからな。でも、それはハッタリに過ぎない!

——今回はその"ハッタリ"がアローナ選手には通用しなかったから、シウバは勝てなかったと。

アローナ　その通り。俺はヴァンダレイの強さの秘密は"ハッタリ"だと気付いていた。だから、逆に今回はヤツのほうが精神的に追いつめられたんじゃないか?

——たしかに、昨日の試合では、逆にシウバ選手の方がアローナ選手のテイクダウンを恐れていたように感じたんですが、アローナ選手自身もそのような手応えはありましたか?

アローナ　それはもちろん感じていたよ。まさにそこが勝負の分かれ目だったんじゃないか? ディフェンシブなヴァンダレイなんて、もう恐るるに足らないものだからな。

——しかし、シウバ選手はPRIDEファイターの中でもトップクラスのストライカーですよね。それでもアローナ選手はシウバの打撃を恐いとは思わないんですか?

アローナ　もちろん思わない。それに、オレは子供の頃からもっと強いストライカーと闘ってきたからな。覚えておいた方がいい。そいつの名前は"レイラ・アローナ"、オレの母親だ!

ハハハハ！　なるほど、覚えておきます（笑）。ところで、アローナ選手はこれまでずっとシウバ戦にこだわっていたわけですが、アローナ選手にとってシウバ選手はどんな存在なんですか？

アローナ　ただの一人の対戦相手に過ぎない。ずっと試合をしたいという気持ちがあったわけだし、一人の対戦相手としては重要だけど、それ以上のものはない。今回、自分は勝利を挙げたけど、それも勝利の一つにしかすぎないよ。ヴァンダレイは自分を他の選手と違う特別な存在だと思っているかもしれないが、オレにとっては本当に選手の中の一人。ただそれだけだ。

では、今回アローナ選手が勝利したことで、兼ねてからの因縁は解消されましたか？

アローナ　いや、まだ消えてないね。

――まだ、消えないんですか（笑）。

アローナ　今回、オレが勝ったんだから、また新しい因縁がはじまったんじゃないか。あいつも男だったら、負けたまま引き下がれないだろう。ＰＲＩＤＥミドル級のベルトを賭けることを条件に、もう一度闘ってやるよ（ニヤリ）。

そういえば二人の因縁のはじまりというのは、確か4年前のホテルでの出来事だったと思うんですけど、あれに関してはいろんな人の証言が微妙に食い違っているんですよ。なので、改めてアローナ選手からそのときの様子を話していただけますか？

アローナ　ああ、いいよ。あれは、オレがはじめて『ＰＲＩＤＥ』に参戦したときのできごとだった。ある人から、「ヴァンダレイはとてもクールでナイスガイだから、会ったときに話しかけてみるといい」と言われていたんだ。そしたら、泊まったホテルが一緒だったこともあって、朝食の時に顔を合わせる機会があったんだよ。ヴァンダレイが向こうのテーブルに座っているのが見えたので、オレは近寄って「おはよう」とあいさつしたんだ。自分の中ではとてもフレンドリーに会話したつもりだった。でも、ヴァンダレイは「何だ⁉　このオレに話しかけてくるのか？　オレに話しかけるなんていい度胸だ！」と言ってきたんだ。だから、「そういうことなら別にいいや」という感じでオレは自分のテーブルに戻ることにした。

俺はヴァンダレイの限界を知っている
もうヤツは何度やっても
俺には勝てない！

[illegible]

オレとしてはそれで終わりだったんだ。でも、ヴァンダレイはそうじゃなかった。ヴァンダレイは自分のテーブルに戻ると、一緒のテーブルに座っていたシュートボクセの仲間に「オレに話しかけるなんて、アイツは何様のつもりなんだ。頭おかしいんじゃないか」と言っていたんだよ！　それでオレも頭にきたんで、それからずっとヴァンダレイにガンつけてやったんだ。そしたら「何、睨んでるんだ？」と言って、ヴァンダレイのテーブルにいた仲間が全員立ち上がって、「やるのか！」と挑発してきたから、オレも「そっちがその気ならやってやるよ」と、じっと睨み合っていたんだ。本当に一触即発状態だったんだけど、すぐにシュートボクセ会長のフジマールがやってきて、オレの肩に手を当てて「もう行け。こんなことするな」と言うんだ。オレにとっては話がまったく逆だよな。だから「こんなことするなって、オレは何もしてないじゃないか！」と言ってやった。でも、マリオが俺をおさえてくれたから、それで済んだんだ。とまあ、話は大体こういうことだ。あの日からずっと、俺はヴァンダレイをぶっ殺してやろうと思ってたんだ（ここまでアローナは一気に喋りまくる）。

非常に臨場感あふれるお話、ありがとうございました（笑）。では、最後にちょっと違う質問を。ミドル級ＧＰ決勝の前にヒョードルvsミルコのヘビー級タイトルマッチがありましたが、ヒョードル選手と対戦したこともあるアローナ選手から見て、あの試合はどうでしたか？

アローナ　オレはヒョードルのファイトスタイルがとても好きだから、彼が勝ってくれてよかったと思ってるよ。凄い試合だったな。

もう、あの試合を見たら「ヒョードルに勝てる選手はいないんじゃないか」という声も上がっているんですが、アローナ選手はどう思われますか？

アローナ　どんなに強いチャンピオンでも未来永劫、永久に勝ち続ける人間はいないから、いつかは倒れる日がくるさ。ヒョードルはタフな選手だし、本当に尊敬しているけどね。

アローナ選手はヒョードルと闘おうとは思いませんか？

アローナ　俺は6年前にヒョードルと闘って、そのときは勝ってるからな（実際は延長の末、判定負けだったが、アローナはあくまで『自分の勝ち』を主張）。でも、いまのヒョードルと闘うんだったら、ＤＳＥにもっといい契約を要求したいね（笑）。

【05年8月29日／都内・某ホテルにて収録】

Silva
Wanderlei

ヴァンダレイ・シウバ

「PRIDEファイターには再起せねばならない宿命があるんだ」

Wanderlei is STARTING OVER

聞き手／ジャン斉藤
撮影／菊池茂夫
試合撮影／乾晋也
designed by matsu (TwoThree)

「絶対に勝たなければならない」という思いが身体を硬くしてしまった

ブラジル・シュートボクセで修行中の桜庭和志からプレゼントされた阪神タイガースのオールドキャップを被って、懐かしのSAKUベルトを携えて、ヒカルド・アローナ戦に臨んだヴァンダレイ・シウバだった。相手は遺恨を引きずる宿敵。〝絶対王者〟という肩書きに、膨れあがったグランプリ2連覇への期待感。ただでさえ負けられない要素が詰まった決戦に〝桜庭和志〟という存在をも背負った しかし歩を進める先は〝圧倒的現実〟が支配する、希望を打ち砕くリングだ。ハッピーエンドの確証なんてない。試合が進むにつれ、ヴァンダレイの敗北が色濃くなると、観客の声援は溜息に変わっていった。ヴァンダレイ・シウバは判定で敗れた。8月28日、『PRIDE GP』決勝ラウンド。ヴァンダレイ・シウバはついに〝絶対王者〟の看板をリングに降ろしたわけだが、たとえば、自分と置き換えてみれば背筋の凍る立場、生き様がそこには見えたのだった。

――昨日のヒカルド・アローナ戦が残念な結果だったから、多くのファンはシウバさんが落ち込んでいるんじゃないかって心配してるんですよ。

シウバ　（日本語で）ゲンキデスカ～～ッ!?

――ワハハハ！　ボクは元気ですけど、シウバさんはどうなんですか？

シウバ　俺？　俺はいつだって元気だよ。たしかにアローナ戦の結果については本当に残念だよ。負けたということは言葉にできないような気持ちになるってことを思い出したな……。

――シウバさんはミドル級においてずっと負けなしでしたからね。

シウバ　でもいつまでも過去を引きずっていてもしょうがない。俺はどこかの誰かのように「マットに頭をぶつけたから……」など情けない言い訳はしないが、反省すべきところはしっかり反省する。昨日の試合は「絶対に勝たなければならない」という意識が強すぎたせいで身体に硬さがでてしまって、思ったより打撃で攻めることができなかった。ファンの期待に応えられなかったのは申し訳ないと思ってる。

桜庭とのPRIDEミドル級決定戦直後に譲られたSAKUベルトを肩に掛け、シュートボクセで修行中の桜庭からもらった阪神キャップを被って。星野仙一・阪神SDもこの入場に感激してタイガース残留を決めた　なわけないか。サクラスペクトなヴァンダレイの入場シーンだ

――敗れたアローナとは、PRIDEミドル級タイトルマッチを懸けての決着戦も考えられますよね。

シウバ　タイトルマッチの相手はプロモーターが決めること。タイトルマッチに相応しい相手ならば誰でもいいし、俺がいちばん大事にしているのは良い試合をファンのためにすることだけだ。俺はアローナの奴のことはいまでも気に入らないけどね。

――試合後には互いの健闘を称えていましたけど……。

シウバ　ファイターとしてそれは絶対に欠かしてはいけないことだからな。ただし、アローナはファイターとしてのモラルもなければ、対戦相手へのリスペクトもない。彼の振る舞いを見ればその人間性は誰にでもわかることだろう。

――そんなアローナをシウバさんの弟分のショーグンが倒したときは、どんな気持ちだったんですか？

シウバ　不思議なことに、アローナをショーグンが倒してくれたという私念はほとんどなかったよ。弟のようなショーグンが『PRIDE』という過酷なリングでチャンピオンの座をつかみ取ったという、単純だけど強い祝福があっただけだった。ショーグンとはずっと一緒にやってきたんだ。俺が新しい技を練習していると、アイツも真似して同じ技を練習していた。ショーグンは強くなりたかったんだ。俺も強くなりたかったから彼の気持ちはよくわかるんだ。

――「強くなりたい」という一途な思いが二人を結んでいたわけですね。

シウバ　俺との関係だけじゃない。我がシュートボクセ・アカデミーのチームワークが勝利を導いたってことだな。俺がアローナをノックアウトしたわけじゃないけど、俺が何かをやり遂げたような感覚が それは俺だけじゃなくて、シュートボクセのみんなも同じ感覚に陥ったと思う。いままさに自分が闘っているように。

――シウバさんの仇をショーグンが討つという流れは興行的には完璧だったんですが、欲を言えばやっぱり決勝同門対決も見たかったんですよね。

シウバ　多くのファンが、俺とショーグンの決勝同門対決の実現を期待していたのは知っているが……本音を言えば実現しなくて、本当に良かったと胸をなでおろしているんだ。

――やっぱり複雑な感情はあったんですね。

【WANDERLEI SILVA】1976年7月3日、ブラジル・クリチバ出身。初代PRIDEミドル級チャンピオン、PRIDE GP2003ミドル級トーナメント優勝。たのしさまんまる「はなまるうどん」の常連客。かけ大盛り＋エビ天3本が定番メニューだそうです。

シウバ　ありえることだから、闘う準備だけはしてきたんだけど……誰だってやりたくないさ。情けをかけられるような闘いじゃないから、逆に苦しいんだ。

――仲間を相手に全力を尽くさないといけないからこそ闘いたくない、と。

シウバ　そうだ。グランプリ開幕戦がスタートしてからというものの、取材を受けるたびに「ショーグンとの試合は？」とかならず聞かれた。そのたびにすごく複雑な心境だった。考えてもみてくれ。つまりは家族の顔を殴ったりするんだぜ。練習で殴れるのは、敵を倒す目標のためにお互いを高めあうからだ。家族や兄弟を倒すために毎日、血と汗を流してきたわけじゃない。

――ここ数ヶ月間は常にそんな複雑な感情を抱えながら、ショーグンと練習されていたんですね。

シウバ　（頷きながら）そんなシチュエーションはもう懲り懲りだな。シュートボクセには実力者がたくさんいるから、トーナメント形式が実施されれば、同門対決は避けられないわけだが……。

――話は変わりますが、いまシュートボクセには桜庭さんが留学というかたちで練習してますよね。

シウバ　Mr.サクラバは思ってた以上に謙虚な人物だったよ。そして彼の才能には大勢の格闘家、ファンたちが畏怖の念を抱いている。シュートボクセでトレーニングすることでその才能は磨かれ、Mr.サクラバの輝きは増すと思う。

――シウバさんはその桜庭さんからもらった阪神のベースボールキャップを被ってアローナ戦に臨みましたよね。

シウバ　アローナがサクラバにやった行為はあまりにも卑劣過ぎて、決して許されることじゃない。だからサクラバのために闘おうと思ったんだ。なぜなら俺はMr.サクラバと二度も拳を交えている。敵なんだけど敵じゃない超越した関係だと俺は思っているんだ。ブラジルに帰ったら試合のことを話すよ。アローナに負けたことを、桜庭のために闘ったことを、そしてまた闘い続けることをな。

――いちばん気になるのは、シウバさんの今後のことなんです。

シウバ　人生には良いことも悪いことも両方が確実にある。そして悪い波が来たらかならず乗り越えなければならない、と俺は周りの人間に言い続けてきた。この言葉、いまこそ自分自身に強く言い聞かせているところだ。それに俺は、『PRIDE』ファイターであり、ミドル級のチャンピオン。『PRIDE』ファイターは再び立ち上がらなければならない宿命があるんだ。

――次回大会の『PRIDE・30』のサブタイトルは「スターティング・オーバー」、〝再出発〟という意味なんです。シウバさんの〝再出発〟はいつぐらいになりそうですか？

シウバ　そうだな……。12月31日の大晦日、1年の終わりにあたらしく〝仕切り直し〟をするのもおもしろいんじゃないのか？　相手は『PRIDE』というステージに相応しいミドル級のファイターなら、誰とでも闘ってみたい。UFCが俺をオクタゴンに呼べる体力がないようだから、ライトヘビー級王者のチャック・リデルが乗り込んでくれば望むところだ。

――はぁ～、GPが終わったばかりなのにまた高いハードルを設定しますね（笑）。

シウバ　おいおい、俺は別に特別なことは言ってないぜ。それが『PRIDE』ファイターのあるべき姿、ということだ。

【05年8月29日／都内ホテルにて収録】

8・28 PRIDE・GPを徹底分析

ミルコとシウバはなぜ敗れたのか？

青春の大発見シリーズ

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

活字バーリトゥード講座

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by [illegible]

—先生！ 今回の「PRIDE」もまた凄かったですね！

堀辺 凄かった！ 「紙プロ」では前回も「PRIDEが進化している」という話をしましたけど、さらに進化して試合内容がより濃くなったというか、本当に激烈な闘いになったということが全体として言えましたよね。

—で、今回はその8・28「PRIDE」の中でも、なぜ"絶対王者"シウバは敗れたのか、そしてミルコはなぜヒョードルに勝てなかったのか、という2点について伺いたいと思います。

堀辺 わかりました。じゃあ、シウバからいきましょうか？

—お願いします。

堀辺 まあ、シウバが敗れた理由は、具体的に言えばいろいろありますけど、一番の根本は、「シウバの精神の自由が失われていたことである」、そう言っていいと思いますね。

—「シウバの精神の自由が失われていた」ことが原因ですか。それは、具体的にはどういうことですか？

堀辺 いろいろ背景があったと思いますけど、ひとつは彼がチャンピオンであり、それを背負っているため、やっぱりここで負けられないという重圧ですよね。しかも相手がアローナだと。アローナとはリング外でも反目しあっていて、しかもシュートボクセとブラジリアン・トップチームのライバル関係もあるから、アイツにだけは負けたくないと、それはあったと思うんですよ。

—たとえ負けるとしても、こいつにだけは負けたくないと（笑）。

堀辺 だから、もし負けたら本当に屈辱。どうしても負けられないという状況だっただけに、もの凄くテンションは上がったと思うんです。でも、闘いっていうのは非常に難しくて、逆にテンションが高くなりすぎて自分の肉体の緊張を縛ってしまう場合がある。今回、シウバの一番の敗因というのは、実はそこにあったと思うんですよ。だから試合展開を見てもシウバらしさがありませんでしたよね？

シウバと言えば、試合前に獰猛な野獣のような表情で威嚇するのが常だが、今回は明らかに違う。緊張したような表情を見せていた。やはり、「負けられない」という意識が強くなりすぎたか？

絶対王者シウバが敗れた一番の根本は"精神の自由"が失われていたことにある！

—アグレッシブさというか獰猛さが感じられなかったですね。

堀辺 そう！ いままでシウバがどうやって勝ってきたかと言うと、一言でいえば、KOされるかもしれないという危険を自ら冒してでもKOを奪いに行く。そういうリスクを負った闘い方をシウバはやってきたわけですよ。でも、今回はその危険を冒すという姿勢が見えなかったんですよね。

—もの凄く慎重でしたよね。

堀辺 ということは、やっぱりコイツだけには負けたくない、という気持ちが強すぎて、危険を冒すという行動に出られなかったということだと思うんですよ。簡単にいえば、アローナのシウバ対策にハマったというよりも、シウバの精神状態がシウバ自身を殺してしまって動けなかったと。そういうことだと思うんですね。

—今回のシウバは入場時の顔からして何かおかしかったですよね。

堀辺 違ってたね。緊張度がもう完全に違ってた。でもね、結局闘いっていうのは背負うものが大きかったり失うものが多かったりするような闘いになればなるほど、肉体とか、身体の所作や技の比重よりも、自分自身の心をどう保つかっていう部分の、その心の処理の仕方というのが大きなウエイトを占めるんですよね。そして今回まさに"心の闘い"っていう部分がものすごく高まっていた。そこでアローナとシウバの違いというのが出てしまったんですね。

—ということは、今回はアローナのほうが精神的に上回っていたと。

堀辺 いや、こういうときっていうのはね、挑戦する方が気持ちが楽なんですよ。そういった立場の違いがやはり、相対的にも働いたと思う。あとはシウバとアローナのタイプの違いですよね。アローナの場合はグラウンドに対して圧倒的自信がある。そうするとシウバはグラウンドには行きたくない。そういった面でも気持ちが守りに入ってしまったと。

—なるほど。

堀辺 その証拠にシウバは今回インロー（内股へのローキック）を多用してましたよね。ああいう蹴り方を、ちょんちょんと出すっていうのは、「入ってきたらインローでお前を倒すぞ、タックルはさせないぞ」というシグナルですよね。つまりシウバからすれば、タックルをもらいたくないと。グラウンドにいくことをシウバ自身が嫌っちゃってる。そういう彼の精神状態が見えるんです。

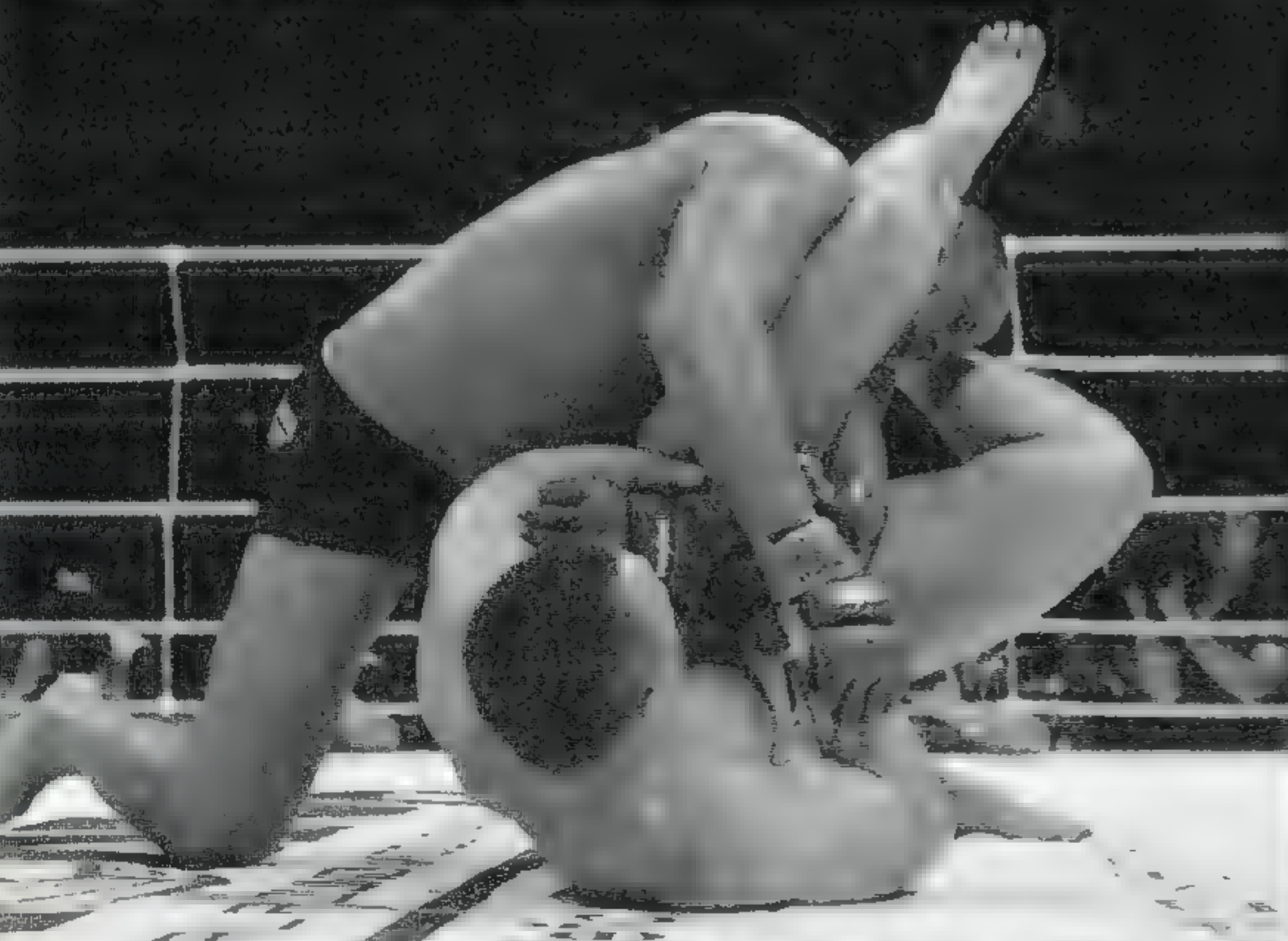
—スタンドで"倒したい"という気持ちよりも、タックルで"倒されたくない"という気持ちの方が大きくなってしまったわけですね。

堀辺 そう、上回ってる。なぜそうなったかと言うと、一番はじめに説明したように、「コイツだけには負けたくない」という、その気持ちが強くなりすぎて普段の戦法をとれない。そしてアローナのグラウンドテクニックを警戒して、それがインローという形で出た。ところがインローを出しながらいままでと違った慣れてない戦法を使ったことでバランスを崩して、逆に蹴られて尻餅ついてテイクダウンを取られるという。タックルを警戒していたらタックルじゃなく自分の得意分野である打撃戦で自らバランスを失って、寝技に持ち込まれるという結果を招いた。シウバの敗因

はそこだったと思いますね。
――なるほど。ただ、これからのシウバというのもちょっと見物ですよね。アローナに負けたことによって、どう変わるか。長期政権を築いたチャンピオンでも、一度負けるとそのままフェードアウトしちゃう人もいると思うんですけど。
堀辺 彼の場合はね、落ちないですよ。その理由は試合前にシウバが海外メディアのインタビューを受けて、「あなたは試合のときに恐くないか」と聞かれたら、「別に対戦相手が恐いということはない。でも一番恐いことは、負けて『PRIDE』に出られなくなることだ」と答えたらしいんですよ。つまり、失業することが一番恐いんだと言ってるわけね。で、この言葉っていうのはものすごく意味深長で、彼の強さの原動力っていうのがそこにあったことが理解できる言葉ですよね。「つまらない試合をしたら、勝てなくなったら、俺は『PRIDE』に立つことができない人間になる」って、この危機感がある限りシウバはまた上がってきますよ。
――あれほどの王者がそんな危機感を持ってたんですね。
堀辺 だから私もその一言で、わかりましたよ。シウバの強さっていうのは生活に根ざした、自分の拳ひとつで家族を養っていって、自分も輝かなければいけないっていう、そういう心に支えられてたんだなって。そのモチベーションがある限り、彼はここで終わるわけがないですよ。
――わかりました。じゃあ、次はいよいよヒョードルvsミルコ。ここ数年で一番の注目の一戦でしたけど、実際ものすごい試合になりましたね。
堀辺 この試合はね、「ミルコの敗北」というものを実際にリング上で起きたことで説明することもできるんだけれども、それよりもミルコとヒョードルが試合前にどんな戦略を立て、どんな準備をしてきたかを分析することが実は一番重要だと思うんですよ。

ミルコはヒョードルに負けたというよりも“ヒョードル陣営”の参謀に敗れたんです！

――リングに上がる前にこそ本当の答えがあると。
堀辺 そうです。で、まずミルコ側が試合前に一番警戒していたのは、やっぱりグラウンドで上になられて、あの“氷の拳”をもらうことだったと思うんですよ。
――ヒョードルのパウンドを中心とした寝技ですよね。
堀辺 だからね、おそらくこの試合に臨むまで、何を一番練習してきたかと言うと、自分がテイクダウンをとられて下になったときに絶対にあのパンチはもらわないということを。戦略の第一に立てたと思うんです。で、現に試合展開を見ると、ミルコの寝技が別人のように上手いんですよね。
――足の使い方とか、すごく上手かったですよね。
堀辺 あれじゃあ、初めてミルコを見る人がいたら、「この人は柔術家ですか？」って、見間違うんじゃないかというほどグラウンドテクニックが上がってましたよね。しかも、ブラジリアン柔術みたいな、打撃がないところでのグラウンドテクニックではなくて、完璧にバーリトゥード用の、ヒョードルのパウンドを想定した寝技技術を身につけて試合に臨んでいた。あれを見ると、恐らくトレーニング全体の7割くらいはヒョードルのグラウンド対策に練習を費やしてたんじゃないかと思うんですよ。で、一方で、スタンドになったらオレの方が強いと。スタンドで闘い続けたら俺の勝利間違いなし。ミルコにそういう頭があったと思うんです。
――とにかく倒されない。倒されても寝技をしのげる。そしてスタンドになれば自分が勝つという。
堀辺 そういう戦略で臨んだと思うんですよ。で、その戦略は確かに正しかった。正しかったんだけど、その正しさを上回る対策をヒョードルがしてたというのが今回

これまでのシウバと言えば、ヒザ蹴りと左右のフック連打のイメージがあったが、今回は内股へのインローを多様。突進力のあるアローナの出足を封じようという作戦だったのであろうが、これがシウバらしからぬ闘いぶりに見えた要因か。

とにかく驚かされたのはミルコのグラウンドの上達ぶり。足を巧みに使い、ヒョードルのパウンドをほとんど封じることに成功した。今回は敗れたとは言え、ミルコがコンプリートファイターに近づいていることは間違いない。

の試合の敗因なんですよ。

――ミルコがどんな作戦を練り、どんな対策をしてきたかが読まれていたと。

堀辺　そうです。ミルコは立ち技に絶対の自信を持ってるから、自分の苦手なグラウンドテクニックを徹底して練習してくるだろう。そうすると、立ち技の練習がおろそかになっているはずだから、彼が勝てると過信している立ち技で勝ってしまおうと。だから、そのミルコの攻撃パターンというのを研究して、ここではミドルが出てくる、ここではパンチが出てくる、こういう角度になったときには必殺の左ハイが出てくるというのを想定して何度も繰り返し練習してきたと思うんです。で、彼の必殺技を出させないためにはどういう間合いを取ったらいいのかということも、かなりの時間をかけて綿密に繰り返し練習してきてる。その部分でもう、リングに上がる前に勝ってたということなんですよ。

――ズバリ、今回はヒョードルの作戦勝ちだったと。

堀辺　そうですね。それを実行したヒョードルももちろん凄いんですけど、今回はミルコの作戦を見破り、ミルコの打撃パターンを研究し、ヒョードルに作戦を授けたヒョードル陣営の勝利だと思いますね。

――いやぁ、奥が深いですねぇ。

堀辺　だから、リング上の闘いというのは選手の実力だけが問われるんじゃないということですよ。ちょうど軍隊が戦場で闘ったときに、そこの現地の戦闘部隊だけが力を発揮するんじゃなくて、そもそもの作戦や戦略が目には見えないんだけど、ものすごく大きな力を発揮してることと同じです。実際の軍隊でも参謀というのが大きなウエイトを占めているわけですからね。

――今回はヒョードル陣営にヨハン・ボスがつきましたけど、やはり彼の力が大きく作用したのかもしれませんね。

堀辺　そうですね。今回の試合というのは、まさに参謀のウエイトを大きく占めたと。でも、これは逆に言えば、作戦さえしっかり練り直せば、ミルコがヒョードルを次回破る可能性は大ということなんですよ。だから、負けたミルコ選手に言いたいのは、彼はものすごい勝ち気だし、負けず嫌いだから、負けて悔しいと思うんだけども、問題はそういうとこだから、くじけずに復活してほしいですよね。

ヒョードルを育てた名伯楽ヨハン・ボス（写真上の左はじ）を擁するヒョードル軍団や、チーム力では定評のあるシュートボクセ。これからはチームの強さが勝敗を左右するという展開がきっと増えてくるだろう。

これからの『PRIDE』は選手同士の闘いと同時にチームvsチームの闘いでもある！

――まだまだミルコにチャンスはあると。

堀辺　これはミルコだけに限らず、多くのＰＲＩＤＥファイターに言えると思うんですよ。いまの『ＰＲＩＤＥ』の特色には、選手の実力が拮抗してるところがありますよね。だから、ひとつはリングに上がったときの選手の体調や精神状態が勝負に大きく影響するということ。もうひとつは対戦相手が決まったときに、その選手をサポートするチームが相手の弱点がどこにあるかということをどれだけ見抜いて、それに対してどういう作戦を立てるかということが、これからはものすごく重要になってくるというわけです。

――なるほど。考えたら去年の大晦日、ヒョードルがノゲイラに勝ったのも作戦勝ちですもんね。パウンドを捨て、スタンド勝負で判定勝ちを狙うっていう。

堀辺　だから、リングの中では１対１で闘っているんだけども、これからはファンもその闘いの裏にあるバックグラウンドも見ないといけないですよね。シュートボクセが集団としてどれだけ正確な作戦を立てられるのか。トップチームは、ヒョードル陣営はミルコ陣営はどうなのかっていう。そういう意味では『ＰＲＩＤＥ』は男と男の１vs１の決闘であると同時に、ある種チームの闘いでもあるんですよ。

――なんかＦ－１みたいになってきてますね（笑）

堀辺　そうですね。だからファンとしては、より深い楽しみができてたまらないんじゃないですか？（笑）。ただ単に選手だけを見るのではなく、選手を取り囲む環境というのが重要な要素になりつつある。そこを頭に入れて見ると、『ＰＲＩＤＥ』がより面白く見られると思います。

――なるほど。ありがとうございました。今回も大変勉強になりました！

言うちゃ悪いけど今月の格言

『PRIDEは大晦日から撤退し真夏の10万人『男祭り』を開催せよ!!』

プロレスマスコミの哲人・I編集長

喫茶店トークV

病気療養のため2ヶ月間のお休みをいただいていたI編集長が完全復活!「いきなりエンジン全開で、巨大なクライマックスとなった8・28以降の『PRIDE』に大提言」久々の井上節をたっぷりとお楽しみください!

聞き手/堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two.Three)

―さて、井上さん。まずは退院おめでとうございます！ 2ヶ月ほどお休みだったわけですけど、どんな状況だったんですか？

井上 いや、ちょっと口内炎のひどいのをやりましてね。口内炎っていうと大したことないように思うかもしれんけど、口内炎にもピンからキリまであって、俺の場合はものも言えない、水も喉を通らないというね、ちょっとひどいのにかかってしまって入院しておったんですよ。ものが食べれない、水も飲めないんだよな！

―食べれない、飲めない！ じゃあ、もちろんプロレス者とトークしたりもできないわけですか？

井上 当たり前ですよ、アンタ！ 2日か3日でやっと水が飲めるようになったんだけども、同じ状態が15日間もつづいてたからね。毎日毎日点滴で、ずーと針が刺さった生活をしとったんですよ。それで体重が36キロまで落ちましたよ。

―36キロですか！

井上 まあ、もともと俺は大きな男じゃないんだけどもね。普段も46キロぐらいなんだけども、一週間で10キロドーンって落ちたんだよな。

―そうでしたか。でも、元気になられてなによりです。じゃあ、復帰第一弾ということで、よろしくお願いします。

↑編集長は"3強時代"を飛び越えて、来年はハリトーノフの時代になると断言！ あのボクシングテクニックならK―1でも十分通用するという。

井上 はい。

―では、8・28という巨大なクライマックスが終わり、これからの『PRIDE』はどうすべきかということを伺いたいんですけど。

井上 やっぱりね、こんな8・28っていう大きな山があるとやね、もういままでと同じように勝負論、技術論つきつめるだけでなく、新しい手法を出していかないとダメだと思うんだよね。だからやっぱりね、みなさん考えてるのは年末の『PRIDE男祭り』のことだと思うんだけれども。これもはっきり言うたら、年末にね、『Dynamite!!』と『PRIDE男祭り』が重なるというのは非常によくない！

―やっぱりよくないですか（笑）。

井上 とにかく、両方いっぺんに見られんしね。で、こちらもはっきり言って年賀状を書いたりとか、餅を金網で焼いて食わないかんとかね。ヘタしたら、餅をひっくりかえしているうちに試合が終わってることもある。

―年末の大一番が餅ひっくり返しているうちに終わってたら、悔やみきれませんね（笑）。

井上 だから、大晦日というのはホントは『紅白』みたいに片手間で見るようなものでいいんだよ。そうなると、『PRIDE』も大晦日は『Dynamite!!』に任せて、『男祭り』は夏休みの8月にドーンと国立競技場で10万人興行をやったらいいんですよ。

―国立競技場で10万人興行！ なんか、そっちのほうが『Dynamite!!』という感じですけどね（笑）。

井上 そんなもん髙田のふんどしだって、夏の野外のほうが映えるしね。祭りと言えば夏祭りなんだから。ただ、そうすると祭りだからね、色物とまではいかなくてもね、何か目玉がないとダメ。

―目玉というと、例えばどんなことでしょうか？

井上 やっぱりその桜庭の入場シーンばりのパフォーマンスがいると思うんだよな。だから、例えば井上小説から

喫茶店トーク

国立競技場上空からハリトーノフがパラシュート降下！ これが真夏のPRIDE男祭りですよ！

例を挙げるとするとやね、ハリトーノフが空から降ってくるっていうのとかね！

―ハリトーノフのパラシュート降下ですか！（笑）。

井上 ありゃ、空挺部隊だからね。パラシュート降下なんて毎日やってるわけでしょ。だからあの軍服を来たままでね、帽子かぶって、小銃を肩にかけて、それでなんか黒い何かが空から落ちてくるわけだよ。何かと思ってパッと開いたら、それがハリトーノフだったとかね。そんなもん猪木でもやったんだから、ハリトーノフはやれるはずですよ。軍服を来たまま降りた場所が戦場ですよ。

―まさに戦場ですよね（笑）。

井上 そして、ハリトーノフが降り立ったときに、パッと場内を暗くするわけだ。そしてまたパァッと明るくなったときにもうハリトーノフが赤いトランクス穿いて、闘う姿勢でリングにいるというわけだよ。

―素晴らしいです（笑）。そういうエンターテインメント的な部分が必要というわけですか？

井上 だからそういったことをやると、『PRIDE男祭り』もあっという間に10万人集めることができると。要は、8月に何かそういうサプライズのある『PRIDE男祭り』を大規模にやるというわけやね。

―『PRIDE』の行く道はそっちでしたか（笑）。

井上 それともうひとつは俺がいつも言ってることなんだけども、「格闘技にウエイトの別なし！」と。ハッキリ言って、格闘技にヘビー級もミドル級もフライ級もない！ そんなもんがあってたまるかと。大相撲を例に出すわけじゃないけども、朝青龍も体は決して大きくないけれど、連続優勝してるわけだよ。だからそういう風に格闘技というのはもう、小さいものも大きいものもないんであって、俺に言わせたらウエイト制をしくという必要はないということやね。

―じゃあ、『PRIDE武士道』みたいなものはダメ（笑）。

井上 このままだと滅びるだろうな。

―滅びますか！（笑）。

井上 こんなこと言うたら榊原の旦那は怒るかもしれんけど、やっぱり難しい。だから、俺は年に一回、本当の意味での「一番強いのは誰か」というのを格闘技界全体で決めたらいいと思うんだよ。もうとにかく32人をファン投票や榊原さんが選んでもいいし。とにかく32人を選んで、その試合を分散すると。32人おるからね、一回戦だけでも16試合あるということだから。各大会で2試合ずつ消化してもいいしね。

―『PRIDE』の全興行で「公式戦」が組まれると。

井上 だからこの大会には、『PRIDE』の選手だけに出場メンバーをしぼったらアカン！ 例えばチェ・ホンマンあたりが「俺がやる」と言って出てきてほしいわけですよ。谷川とか石井さんあたりが許すかどうか、それはわからんけども、そのくらいはやっぱり腹を決めてやってほしいね。あの男はすごいからね～。

―あ、モンターニャ・シウバに続き、チェ・ホンマンも評価されてるわけですか（笑）。

井上 そんなもんアンタ、あの男はもう大化けしますよ！ この前の韓国での試合を観たけども、あんな大きな男が鶏のように追っかけているからね。上からガーッと殴ってんだもん。相手が突っ込んできたら前蹴りをかましたりしてね。あの男は今度23日にサップとやると言っとるけども、まず負けないわな。だからそういった男がね、『PR

喫茶店トーク

PRIDEは無差別級のオープントーナメントを開催してホンマン、真壁などをどんどん参戦させよ!

IDE』のナンバーワンを決める場に集まってくると。K・1だけじゃなくて、プロレス界から参戦してもいいしね。

――ほう、例えばプロレスラー代表は誰になりますか?

井上 新日本の真壁あたりは出てくるだろうな。

――ま、真壁ですか!(笑)。

井上 それか中邑真輔でもいいし。ノアあたりだって、「俺がやる」という人間が1人や2人、出てこんとも限らんからね。とにかくもう、『PRIDE』の総合ルールで勝つ自信のある人はいらっしゃいと。これこそが、真のIWGP構想ですよ!

――20年以上前のもともとのIWGP構想ですよね(笑)。

井上 そうなったら面白いぜ~。逆にK・1もそんな大会をやるときにゃ、ミルコが殴り込みにいくとかね。ハリトーノフがK・1ルールでやるっていうのもいいしね。ハリトーノフなんかはこの前の6・26『PRIDE』(ペドロ・ヒーゾ戦)見たらわかるから。サンボなんかいりませんよ、彼にはあの男はK・1で充分通用するはずだしね。だから交流戦とかを仲良くやっていくというんじゃなくてね、そういった"世界最強"を決める舞台を団体の垣根を超えてやらんと、ダメなんだよ! マッチメイクは広がらんし、K・1も『PRIDE』もいつまで経っても我が世の春というわけにはいかんからね。

――K・1はK・1、『PRIDE』は『PRIDE』でやってる場合じゃないと。

井上 それでK・1の大会でイグナショフが勝ち残ったとして、ハリトーノフも勝ち残ってくると、決勝でそういうカードは見たいしね。この2人が準決勝か決勝で顔を合わせるわけだ。来年のエースはもうこの2人ですよ。はっきり言って。俺はそう思う。だから『PRIDE』の方にもね、3強というのはもうオレに言わせるともう落日だわね。

――もう落日なんですか!

井上 落日を背に突っ立てる3人の男が見える! これがもうヒョードルとミルコとノゲイラの3人だ。だからいま『紙プロ』あたりはハリトーノフ入れて、彼らを"ヘビー級4強"と言っとるけども、俺も4強に異議を唱えるわけじゃないけどね、やっぱりハリトーノフは3強の別格よ。新3強時代だわ。新3強時代に最初に到着したのがハリトーノフ。だから旧3強というのは来年でもう終わりですよ。どう考えたってね。相撲界で朝青龍が負けたように、ミドル級でシウバが負けたように、もうね、第一人者っていうのはね、いつまでもナンバーワンと思っとったらダメですよ。

――悲しいことですけど、世代交代なんてすぐきますもんねぇ。

井上 だから来年は『PRIDE』は3強というのはもうガターっと落ちる。だからつぎはハリトーノフを中心にしたチームが出てくるでしょうな。それとレッドデビルにも宮本武蔵がおるしね。

――ローマン・ゼンツォフですね。井上さんはゼンツォフもお気に入りなんですか?

井上 あの男はただ者じゃないからね~。

――そ、そうですか(笑)。

井上 そういう選手が次から次へと出てくるんですよ。もう、そういった時代になってくるんだから。3強に頼っとったらいかん! だからもう、本当の意味でのナンバーワン決定戦っていうのを大掛かりに『PRIDE』のリングでやると。

――なるほど。じゃあ、逆に3強が退いても、そんなに心配することはないと?

井上 だって、ハリトーノフなんてまだ25歳ぐらいだろう。ショーグンにしたって若いしね。やっぱり総合に関してはどんどん出てきますよ。だからそういったことで、ミルコに関して注文をつけるとすれば、とにかくUFCのヘビー級とってくれないと。で、ベルトを巻いてな、新しいイメージをつけて、それからタイトルマッチをやる。ただリベンジだって言ってしょうがないからね。ミルコももう30歳だろう?

――そうですね。

井上 だからミルコは来年かそこらが勝負ですよ。UFCのベルトをとってやり直すと。一からね。それで、また試合をして、復活すると。それやったらヒョードルにも勝てるやろ。ちょっと手を代え品を代えしないと勝てないですよ。とにかく左ハイキック一本だけではダメ。ヒョードルもパンチをよく出してたからね、ミルコ相手に。だからミルコもね左ハイキックだけじゃなくて、まだもう少しできると思うんだよね。1年、いや、もう少しかかるかもしれんけど、リニューアルして本当の意味での強いミルコというのをちゃんと築いて引退してほしいと。次代はちゃんと出てくる。だからとにかく俺が言いたいのは『PRIDE男祭り』は大晦日は避けて、8月の10万人興行を目指すと。その方がいいような気がするな。大晦日に2つやってもらうと困るんだわ。見られんしね! あれ、ペーパービューはやるのかな。

――『男祭り』はやりますね。

井上 大晦日『男祭り』はどこでやるんだ?

――大晦日はさいたまスーパーアリーナですね。

井上 さいたまスーパーアリーナって言うの? あれは小さいよ。あれはやっぱり中くらいの『武士道』あたりの大会で充分だわ。『PRIDE』ともあろうものがね、あんなちっこい会場でね大晦日にやっちゃダメですよ! 『PRIDE』っていうのはハッキリ言ってマット界の東の横綱だからね。どーんと10万人興行やってほしいよな。そうでないと8・28がピークだったってなると大変なことになるぜ。『PRIDE』に対する俺の夢物語というのはまだまだ終わってないんだからな。しっかりしてもらわんと。

――わかりました、復活第一発目も力強いコメントをどうもありがとうございました。

【06年9月11日/電話取材にて収録】

"アマゾンの大巨人"モンターニャ・シウバに続いてI編集長が目をつけたのは"韓国の大巨人"チェ・ホンマン。こんなに大巨人好きな井上さんなのに、かつての"東洋の巨人"ジャイアント馬場ではなく、猪木に肩入れしていたのだからわからない。

紙のプロレス RADICAL

ターザンに始まりイン リン様に終わる― さらばRADICAL!!

2005 NO.91

『紙のプロレス』から『kamipro』へ

読む前にハンカチをご用意ください——。

さようなら RADICAL 座談会

“あの頃”を捨て、“いま”を進む！

構成／ジャン斉藤

さようならRADICAL座談会

ジャン　前号の最終ページで「次号重大発表」という告知があって、W・1座談会では大統領（山口日昇のアダ名）が「紙のプロレスは次号で終わり！」と無責任に言い放ったことが大きな話題になってます。

山口　大きなって、いったいどこで話題になってるの？（笑）。

ジャン　いや、もちろん関係者、読者の間ですよ！　いったい何が起きるんですか！　大統領？

山口　え～、全国1千万人の賢明なる『紙プロ』読者の皆さん！　次号から『紙のプロレスRADICAL』は、なんと『kamipro』として生まれ変わります！

ガンツ　おぉ～～！

ノブ　まぁ、『ファミコン通信』が縮まって『ファミ通』になったように、単に誌名が変わってリニューアルするだけなんですけどね（非常に淡白に）。

山口　お前はまた冷めた言い方するねぇ！　雑誌のタイトルが変わってリニューアルするんだから、十分に大事（おおごと）ってことにしとかないと、話が続かないでしょ。

ガンツ　補足すると、今回のリニューアルを機に発行部数もグンと増えて、なんと一部コンビニでも販売することも決定しました！　いやぁ、書店に出かける暇もない読者の方には実に朗報ですねぇ。

ジャン　なんですか、そのとってつけようなコマーシャルトークは（笑）。まぁ、そんな緊急事態だから、今日はちっちゃい版型の頃の『紙プロ』編集次長であり、現在は次号からの発行元となる㈱エンターブレインのスポーツ編集局在籍の松林さんにも出席してもらいました。

山口　付け加えるなら、元スパイ、現エンターの神様ってところですね（笑）。

松林　まぁ、俺はどちらかといえば、今回はとある事件の証人として出廷したんだけどね（笑）。

ジャン　ああ、業界が騒然となった例のロシアでの“説教事件”ですね（笑）。その事件と同じくらい『紙プロ』の“重大発表”は話題になってたわけですよ。

山口　みんな暇なんだなぁ（笑）。

ガンツ　チョロさんが前号で「お前はクビ！」って言われたことに関しては、とりたてて話題にもなってないんですけどね（笑）。

山口　そういえば、チョロの姿は見えないけど、俺が「クビ」って言ったからホントに出て行ったの？

ジャン　いや、まだ在籍しています。ついさっき谷川（貞治）さんのインタビューをしてきたら「もう紙はダメだぁ……」とつぶやきながら外に出て行きましたけど。

山口　（魔邪風に）はぁ？……それは『紙プロ』がダメってこと？

ジャン　いや、谷川さんに「いつまで雑誌やってるのぉ？　もう“紙”はダメだよぉ」って言われたらしいですね。いまやすっかり映像媒体の人間となった谷川さんからすれば、紙媒体には限界があるってことなんでしょうけど。

ガンツ　僕も以前、「ガンツ君、雑誌なんかつくってるとダメ人間になるよぉ」って言われましたからね。谷川さんがまだ『SRS・DX』（現在は休刊）の編集長のときですけど（笑）

山口　まぁそれは大きな意味では当たってるけど、それは『SRS・DX』がダメだっただけでしょ。末期はなぜかターザン（山本！）に任せっぱなしだったたし。でも、いま『SRS・DX』が復刊したらおもしろそうじゃない？　K－1MAXや『HERO'S』の人気は高いし、あと『WRESTLE－1』もあるから話題には事欠かない。売れるかどうかわからないけどさ（笑）。

ジャン　その話にコジつけると、出版不況の時代ではあるので、『紙プロ』もその影響で最終号なんじゃないかと言われていたわけです。そして今後のありかたとしては、いちばん有力な説が「DSEの子会社になる」と（笑）。

山口　子会社？　なりたい！　来年のことをいうと鬼が笑うというけれど、笑われたっていい。わたくし山口日昇の2006年の夢は、DSEの子会社になることです。もう決～めた！

ガンツ　いやぁ、そうすると、僕らもオシャレな街・青山のDSE事務所に移ることもありえるわけですね。もうプロレスTシャツ着てウロウロできないですねえ（笑）

ジャン　青山かぁ……青山って銭湯あるんですかね？

ノブ　（バカ話に浮かれることなく淡々と）実際、『紙プロ』は売れてるんですか？

ガンツ　おかげさまで、ここ2～3年はさらに好調です。まぁ、広告収入については、某・老舗専門誌のようにステキな出会い系広告が入ってないぶん、少ないですけど（笑）。

山口　逆にウチより返品率の少ない専門誌の名前を言っていただいたほうがいいんじゃない？

ガンツ　じゃあ、とりあえずボクたちの生活水準をもっと向上させてください！

山口　キミはね、生活水準云々を言う前に、自分の家の洗濯機の蛇口でも心配したほうがいい。

ガンツ　そうなんですよ！　先日、ロシア取材から日本に帰って来たら、行く前に洗濯機の蛇口を閉め忘れてて5日間も水が出っぱなしで　フローリング全面張り替えですよ！　保険に入ってなかったら300万円ぐらい払わなきゃいけなくて、危なく会社にご迷惑をかけるところでした（笑）。

山口　なんでそんなもん、会社が払わなきゃいけないんだよ！

ガンツ　だって出張中の事故なんだから労災じゃないですか！

山口　そういうのを言いがかりと言うんだよ。ロシアからでも通えよ。

松林　それより、ガンツは生命保険も掛けてからロシアに行った方がよかったんじゃないの？（笑）。

山口　そういえば、ガンツはロシアで前

本誌編集チョッキ
ジャン斉藤

セカチューな雑誌『格闘技通信』のチョッキ編集長、三次（みつぎ）氏の読み方をささきぃが「さんじ」としたことをネタにするも、自らは「本当は“みつぐ”です」と思いきり誤記　お詫びのためにチョッキを着込んで取材に精を出す三次リスペクト編集者。

本誌企画制作部
坂井ノブ

RADICAL2号からダブルクロス入りと最古参。企画制作部リーダー。最近、アパートの床が陥没する最悪の事態が勃発！　床下からカビ菌が部屋中に舞い込むも「ま、俺は全然気にしないんだけどね」とクールな対応。他人事ながら全然よくない

本誌現場監督
堀江ガンツ

リングス・エカテリングブルグ取材にて、天下の前田日明総帥からありがた～い“お説教”を受けた翌日、コピィロフおじさんからはヘッドロック葬！　リングス魂が身体中に染み込んでいる、自他共に認める宇宙一のリングス・キチ●イ。

ラスト・サムライ
松林貴

ロシア・リングスの森に出没するウワサの変質者！……ではなく、リングス・サウナに浸かっていい気分♪　な元『紙プロ』編集次長、現エンターブレイン編集者。現地ロシアの酒席での暴れぶりはRTT総監督パコージン氏に「サムライ！」とうならせた。

ハッスル大統領
山口日昇

本誌座談会にブッキングするには、郵政法案可決の根回し並に厄介な　山口日昇だが、PR＋DEオフィシャルHP座談会にはホイホイ登場。06年の目標・DSE子会社に向けてプライオリティーをはっきり付ける本誌鬼畜編集長（小池栄子の隣が山口）。

田日明先生にド突かれたんでしょ。いったい何をしたの？　業界中で話題になってるよ。

ガンツ　話題になってるって、誰かれかまわず電話やメールで情報を流してるのは大統領、あなたですよ！

山口　あ、バレた？（笑）。キミのロシアからの国際電話でその話を聞いて、すぐ各方面にメールで投げたら、みんな喜ぶ喜ぶ（笑）。

ガンツ　その中でもいちばん喜んでもらったのが、某Kさんと某Uさんなんですけどね（笑）。

一同　ダハハハハ！

ガンツ　ちなみに某Uさんには「あら、ガンツさんはアバラなんですか？　私は腰骨でしたよ！」って言われたんですよ（笑）。

山口　ガハハハ！　とりあえず読者の皆さんにも伝わるように事件状況を説明してよ。

ガンツ　え〜、8月20日のリングス・エカテリンブルグ旗上げイベントの取材に行ったときに、久しぶりに前田日明さんとお会いしまして。

山口　俺も会いたいなぁ（無表情で）

ガンツ　で、会場に着いたら、金原選手と高阪選手に、「前田さんが凄い怒ってるよ。何か書いたの？」と言われて。ボクは「いやぁ、思い当たる節は……たくさんあってどれを指してるのかわかりません」って言ったんですけど（笑）。

松林　ロシアには、とある用件で俺もガンツと一緒に行ってたんだけど、ガンツに「牽制し合っていると前田さんが爆発したとき怖いから、目が合った瞬間に走っていって挨拶したほうがいいぞ！」ってアドバイスしたんですよ。

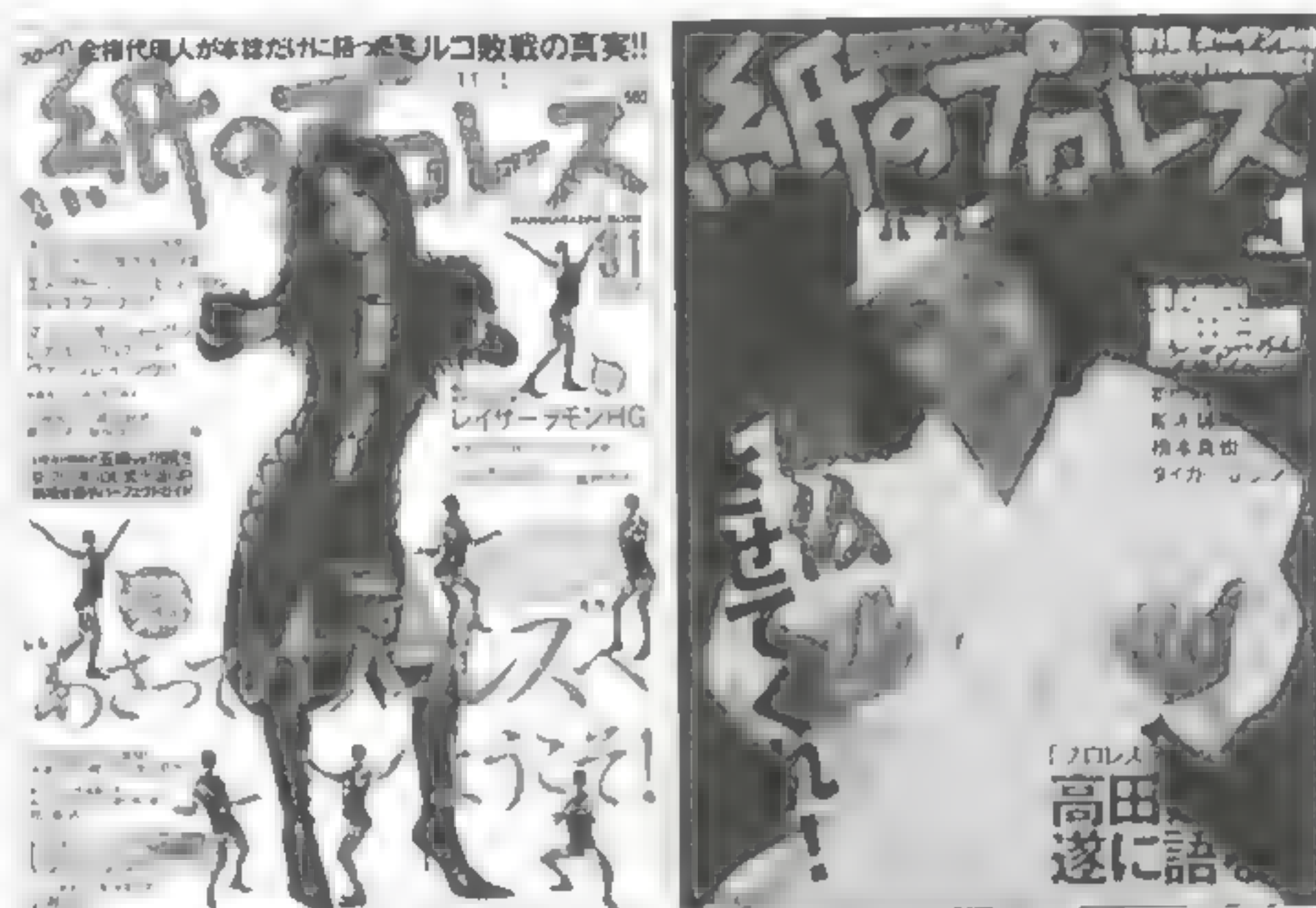
山口　あ、パパ（松林氏のアダ名）のミスリードが引き金だったんだ（笑）。

松林　そうこうしてるうちにガンツと一緒に前田さんに挨拶しに行ったんですよ。ガンツは「『紙プロ』の堀江です。今回はよろしくお願いいたします！」って

ガンツ　前田道場式に元気よく挨拶したんですよ。そしたら「（前田日明の口調で）おお、ところでガンツって誰や？」って言われたんで、「僕です！」って答えたら、「お前か！」という言葉と同時に正拳突きが左の胸に飛んできました。

一同　ガハハハハ！

ガンツ　そのあとに「お前、あんまりナメたこと書いてると、殺すぞ！」というアドバイスをいただき、そしてまた肩口にもう一発、正拳を頂戴いたしました。

『ファミコン通信』のタイトルが縮まって『ファミ通』になったようなもの（ノブ）

最終号の表紙がインリン様なら、創刊号はターザン山本！ですよぉぉぉ！　並べてみると、もはやロングヘアーや、ほ乳類ヒト科ということでしか共通項が見いだせない。よくよく考えれば二人とも"純プロレスラー"というべき存在ではないが、このような異分子的存在にプロレスを見いだす作業は、リニューアル後も変わりはしない。

前田さん、ごっつあんです！

松林　周りにいたロシア人たちは何が起こったかわからなくて、キョトンとしてましたよ（笑）。

ガンツ　まぁ、これが"エカテリンブルグ説教事件"の全貌ですね。で、ロシアから帰って来てずいぶん経つんですけど、まだアバラが痛いんですよ。それで帰国後、医者に診てもらったら「肋骨の軟骨骨折の疑い」って言われたんですけど、なぜ「疑い」かって言うと、あばらの軟骨は折れてもレントゲンには写らないんですよね。「さすがだな」と思いました（笑）

山口　前田流のハードコミュニケーションの取り方は昔と変わってないんだね。で、どうする？　①訴える　②ヤ●ザを使って脅かす　3俺とガンツでリベンジ、つまりボコボコにしに行く。いますぐ3つの中から選べ！

ガンツ　う〜ん、島田二等兵ばりに「高田総統に言いつける」というのはどうですかね？

山口　わかった。俺はインリン様……いや、アン・ジョー指令長官に相談してみる（笑）。

一同　ダハハハハ！

ガンツ　やっぱり僕は、これを機に心を入れ替えて、前田さんを賞賛する原稿をたくさん書くことを選択します！　僕は吉田豪さんじゃないので、すぐ屈して、もうホメてホメてホメまくりますよ！　前田日明こそ救世主！　選手発掘能力世界一！……なんてこと言ってると、また怒られそうだけど（笑）。

山口　しかし、あいかわらず日明兄さんは律儀だよね。いまだに昔ながらのプロレスの流儀を守ってるんだから。

ガンツ　「前田日明健在」を身を以て体感させていただきましたからね。ホント、谷川さん風に言うと「前田日明が僕だけに向けて怒ってる、すごいすご〜い！」って感じでしたから（笑）。

山口　昔、『ゆきゆきて人間バズーカ』というグレート・サスケ監督、高野拳磁主演のビデオを作ったことがあるんだけど、特典映像でサスケ社長を前衛芸術の山海塾みたいに全身白塗りにしてマスクはそのままで、人通りの多い仙台駅前で「考える人」みたいに座ってる絵を撮ったんだよ。で、そのあと駅の構内トイレで身体を洗うことになったときに、そのへんの普通のオヤジがさ、邪魔だ、みたいにしてサスケ社長（当時はみちプロ社長）をスレ違いざまに小突いたわけよ。まさかプロレスラーとは思わないで、おかしなヤツがウロウロしてるって思ったんだろうね。

ガンツ　白塗りしてなくたっておかしな人ですからね（笑）。

山口　そうしたら、ふだん温厚なサスケ社長が毅然とニラんでさ、そのオヤジをドーンと突き飛ばしたんだよ！　2メートルくらい吹っ飛ばされた俺は「さすがプロレスラーだな。怒ると怖いんだなぁ」と思ったんだけど、それと同時にその行動は、サスケ社長の"興行の一環"なんだとも思ったんだよね。要するにサスケ社長は「プロレスラーはナメられてはいけない」という力道山時代からの目に見えないマニュアルを体現しようとして怒った。前田日明はそれをもっともっと過剰に体現してきた人でしょ。それをときどき飛び越えて危険なゾーンに入ることもあるけど、今回ガンツをド突いたのは、その目に見えないマニュアル内の出来事だと思うんだよ。ガンツ自身もそれがわかってるから、殴られても嬉しそうにしてるんだろうから。

ガンツ　あの名前を覚えないことでは定評がある前田さんに、名前を覚えてもらえたのは、正直言って光栄ですよ。いままで前田日明に怒られたマスコミは何人もいると思いますけど、なんとホーリーネームで怒られたのは僕が初めてだろうし（笑）。

山口　でも、そんな前田日明と共に歩んできた雑誌でもあったんですよ、『紙のプロレス』は。だから前田日明を怒らせ

てしまった責任を取って、『紙のプロレスRADICAL』は今号で休刊いたします！……って、昔も同じようなことがやったなぁ。

ジャン ちっちゃな版型の頃、新間（寿）さんの息子・寿恒さんを恐れ多くも「●ツネ」って書いちゃった事件ですね。

山口 でも、それはサスケ社長がそう呼んでたんだよ。だから愛称で呼ばれてるんだと思ってこっちは愛着を込めて「●ツネ」って表現したの……（吉田）豪ちゃんが（笑）。

ガンツ 「ズバリ式‼ プロレス用語辞典」のコーナーですね。

山口 それは原稿チェックしたんだけど、サスケ社長と寿恒さんは昔の仲間だし、仲間同士で呼んでる愛称だからいいかって思って、俺も通しちゃったわけ。

ガンツ もっともらしいこと言ってますけど、ボクは愉快犯というか確信犯だと思いますけどねぇ（笑）。

山口 いやいや、愉快犯は豪ちゃんだろ。代表兼編集長だから仕方ないけど、豪ちゃんが書いたことで何回関係者に謝りに行って、何度間を取りなしたことか。

松林 あのときは俺が謝りに行ったんですけどね（笑）。

山口 あ、そうだ。編集次長だったパパが、親父の新間さんがやってる「カリスマジャパン」という名前の会社に豪ちゃんと一緒に呼び出されたんだよ。

ガンツ イキな会社名ですねぇ（笑）。

山口 そうしたら寿恒さんが、豪ちゃんを俺だと思って、「ヤマグチ〜ッ！」って叫びながら突進してきて、豪ちゃんにおヒザ蹴りを喰らわしたんですよ（笑）。とりあえず、新間親子に謝る意味も含めて「休刊します！」と次の号で宣言したんだけど、それが本気だと思われて取次と版元にはメチャクチャ怒られた。

松林 結局、休刊することなく普通に続けたからね。でも、次の1号だけ「紙のプロレス インターナショナル」にタイトルを変えて、それで「これからはフランクに『紙インター』と呼んでください」とかやったりして（笑）。

山口 ほんのイタズラ企画のつもりでやったんだけど、それで版元の営業の人間が神経使いすぎて入院しちゃったからね。

ガンツ インチキ休刊問題で入院！ イタズラ企画にもほどがありますよ。ホントとんでもないことやってましたねぇ。

山口 俺は責任を取って編集長を降りて、新人社員の原タコヤキ君を新しい編集長に仕立て上げて関係者に挨拶まわりまでさせて、前田日明とタコヤキの被り物を被った原タコヤキ君のツーショットを表紙にするという手のこんだことをやってたよねぇ。そんなくだらない企画に付き合ってくれたお茶目な前田日明さんが、ガンツをド突いた件は、前田日明の度量が狭くなったからじゃない、と心から願いたいね。

ノブ じゃあ、前田さんに謝罪する意味も込めて、新タイトルを『紙のプロレス・ラウド』にするのはどうですか？

山口 ガハハハハ！ お前は雑誌を潰す気か！

ジャン 編集部でいちばん古株のノブさんは、誌名が変わることについてはどういう感想があるんですか？

ノブ マジメに答えると……寂しいですけど（神妙な表情で）。

山口 お前にもそんな感情があったんだ？

ノブ ま、でも、時代の流れかなと！（どうでもよさそうに）。

山口 どっちなんだよ！

ジャン 大統領には寂しい感情ってあるんですか？ 誌名からプロレスという言葉が消えちゃうわけですけど。

山口 ズバリ言って、まったくない！（キッパリ）。

ガンツ ボクも『紙のプロレス』というタイトルには愛着はありますけど、「プロレス」という言葉自体がどうしようもないくらい求心力を失ってるじゃないですか。ボクらは「プロレス」という言葉を、『PRIDE』から勝新太郎から何から全部ひっくるめたうえで使っていたわけじゃないですか？ でも、いまは「『PRIDE』こそプロレスだ」とか、「勝新こそプロレスラー」っていう言葉を実感できる人って凄く少なくなってるでしょ。

プロレスという言葉は単なる競技名になってしまった（ガンツ）

ジャン いま「プロレス」という言葉からイメージできるものは、新日本プロレスやNOAHとか本当に純粋なプロレスですよね。

ガンツ 「プロレス」というのは、もはや単なる競技名だからね。

山口 いまのプロレスファンやマスコミが「これこそがプロレス！」と賞賛しているものと、俺らが考えてる「プロレス」という概念とはまったく違ってきてるってことだよ。

ガンツ だから僕らが考える〝プロレスという概念〟をこれからも伝え続けるためにも、「プロレス」という4文字を外したほうが逆説的にいいと思うんですよね。

松林 あと『紙のプロレス』の誌名が『kamipro』になるのを機に、社名に〝プロレス〟と付いている会社も社名変更を考えた方がいいんじゃないでしょうか（笑）。

ガンツ 猪木さんが『新日本プロレス』って社名を変えろ！ 世界に通用しねぇんです」ってよく言ってましたけど（笑）。

山口 ガハハハハ！ さすがアントン、時代を読んでるんだか適当に言ってるんだか、わかりませんね。

商業主義と『紙プロ』

ジャン 50号記念座談会を読むと、ノブさんが「『紙プロ』の歴史は、会長の裏切りの歴史」と定義しているんですよ。

ノブ ま、言いたいことはその座談会で言ったから。というか、それが言いたいがためにあの座談会をやったようなもんだから。

山口 じゃあお前の言いたいことは、40号前と同じことなのかよ（笑）。

ジャン 50号までは「裏切りの歴史」で、それ以降の大統領はどういう存在だったんですか？

ノブ どういう存在もなにも、50号以降は大統領が昔ほど会社に来てないじゃん。雑誌にも以前ほどたずさわってないし。まあ、それは俺も同じだけど。評価のしようがないと思うなぁ。

山口 評価のしようって……お前ね、いい加減にしないと正拳突き食らわすよ。

ノブ ホントのことじゃないですか！

山口 俺は会社には来てないけど、押さえるところは押さえて、やることはやってるんだよ！

ジャン （2人の争いを無視して）それで大統領が不在気味の50号以降、何があったのかを調べたら、まず53号の『Dynamite!』直前特集号が発売延期になるという大事件が起きてるんですよね。なんと『Dynamite!』大会当日発売に変更になったという（笑）。

山口 サクとミルコが国立競技場でやったときだ。

ジャン たしか当時の進行係だったチョロさんがいきなり「今回は、本が出ないことになりました……出るとしても『Dynamite!』のあとで」って言い出したのは覚えてます。

ガンツ 『Dynamite!』のあとでって……直前特集号って大々的に打ってるのに当日発売じゃ売れるはずがないよ（笑）。

山口 チョロってさ、ことが起こったときに、すぐに言わないんだよね。

ジャン さすがの大統領もこれには慌てて印刷会社と数時間近くに及ぶロングラン交渉の結果、なんとか大会当日発売にこぎつけたんですよね。あと大きな変化といえば、吉田豪さんが編集部からいなくなったことですけど。

山口 あ、豪ちゃんはいま『ゴン格』で「書評の星座」やってるんでしょ？

ガンツ ありがたいことに毎号毎号『紙プロ』のことを書いてくれてるんですよね。きっと遠隔的にスーパーバイズして

くれてるんだと思うんですけど（笑）。『PRIDEオフィシャルブック』の書評もやってくれてますし。

山口 へえ〜。何を書いてるの、豪ちゃんは？ さいちん、ちょっと簡単に教えてくれ。

ジャン 簡単に？ う〜ん、お金のことですかねえ。

山口 はぁ？ お金のこと？ まったくわかりません！

ジャン 面と向かって言いづらいんですけど、大統領には億近い莫大な借金があったとか。

山口 あったよ。でもね、こんくらいの規模の会社で経営者に借金なんてみんなあるんだよ。徐々に返してますよ。

ジャン あと大統領のことを指して「インサイダーとして団体内に入っていくのもビジネスのためならしょうがない」って書いてますね。ただ、「そんなしがらみのせいか、吉田秀彦とPRIDEの偉い人との対談を司会しているのが山口日昇っぽいのに、聞き手も文章もなぜかノンクレジット」というのは誤解なんですけど。

山口 はぁ？ 前後の脈略がないから、何がなんだかまったくわかりません。

ノブ ああ、『PRIDEオフィシャルブック』で吉田秀彦と高田本部長の対談を載せたんですよ。ボクが聞き手のガンツ先生の名前を入れ忘れちゃったんですけど、それを吉田さんが勘違いしちゃったみたいで。

山口 ふ〜ん。ま、なんでもいいや。「豪ちゃんは『紙プロ』のファンなんです！ ンムフフフ」ってアントン調に言っておくよ。でも、お金の話とかライターと呼ばれる職業の人たちはわかってるようでいて、番疎いんだから、ほっとけばいいのにね。商業主義に走ったっていう揶揄を含めた物言いをしたいんだろうし、一部のネットとかでもそう言われてるんだろうなぁというのは想像つくけど、ウチはちっちゃい版型の『紙プロ』を創刊したときから商業誌まっしぐらだよ（笑）。

松林 みんな勘違いしてるよね、そこを。

山口 ミニコミに毛が生えたような版型の旧『紙プロ』って、8号くらいまでは5千部〜7千部の世界なんだけど、2人でやってたから、それでよかったんだよ。「世の中とプロレスする雑誌」というテーマで、いわゆるプロレスファンといわゆる活字マニア・雑誌マニアの重なったところにボールを投げてたんだよね。9号からは編集部の人数も一気に増えたし、以前にも増してプロレスファンや格闘技ファンにもボールを投げたけどねほとんどビーンボールだったけど（笑）。まぁ、少しづつではあるけど、ストライクゾーンを広げていって、将来的には黒字にする見通しを最初から付けてたんだよ、俺は。

さようなら『RADICAL』座談会

一同 ノーリアクション

山口 ……ホントだよ！ きちんとリサーチもしたもん！（子どものように）。

ガンツ 誰も嘘だなんて言ってないですよ！（笑）。

山口 でもさ、ちっちゃい版型の頃の『紙プロ』を本当に熱心に読んでた人たちって、いまはもうプロレスを見ていないと思うよ。

ノブ 創刊号が出たのはすでに14年前ですもんね。もう当時の原形をとどめてないほどプロレスって変わりましたし。

ガンツ ボクが読み始めたのは旧『紙プロ』の5号からですよ。それ以前はまだ実家に住んでいたので、宇都宮には売ってませんでしたから（笑）。

山口 それは地方小出版流通センターという、コンビニや全国の書店に撒くような取次じゃなくて、ミニコミや小冊子を含めたものを重点的に扱う流通形態の取次から始めて、あとは自分たちで書店に売りに行く直販でやってたからだよ。1冊しか置いてくれない書店に、アルバイトが電車で行ったら、電車賃のほうが高くて赤字。なんて馬鹿みたいなこともやってたよね。あとはレンタカー借りて自分たちで運んだりして。

ジャン 松林さんはどういう繋がりから『紙プロ』に入ったんですか？

松林 俺が創刊号を読んで、一緒に仕事していた斉藤雄一に、面白い本があるってことを教えたら、彼が大統領に直接会いにいったことがきっかけかな。

山口 9号から一緒にやることになった柳沢忠之（ローデス社長）をターザンから紹介されたのが5号くらいだったんじゃないかな。「僕の友達がなんかデザイナーみたいなのをやっているんだよねえ」って。

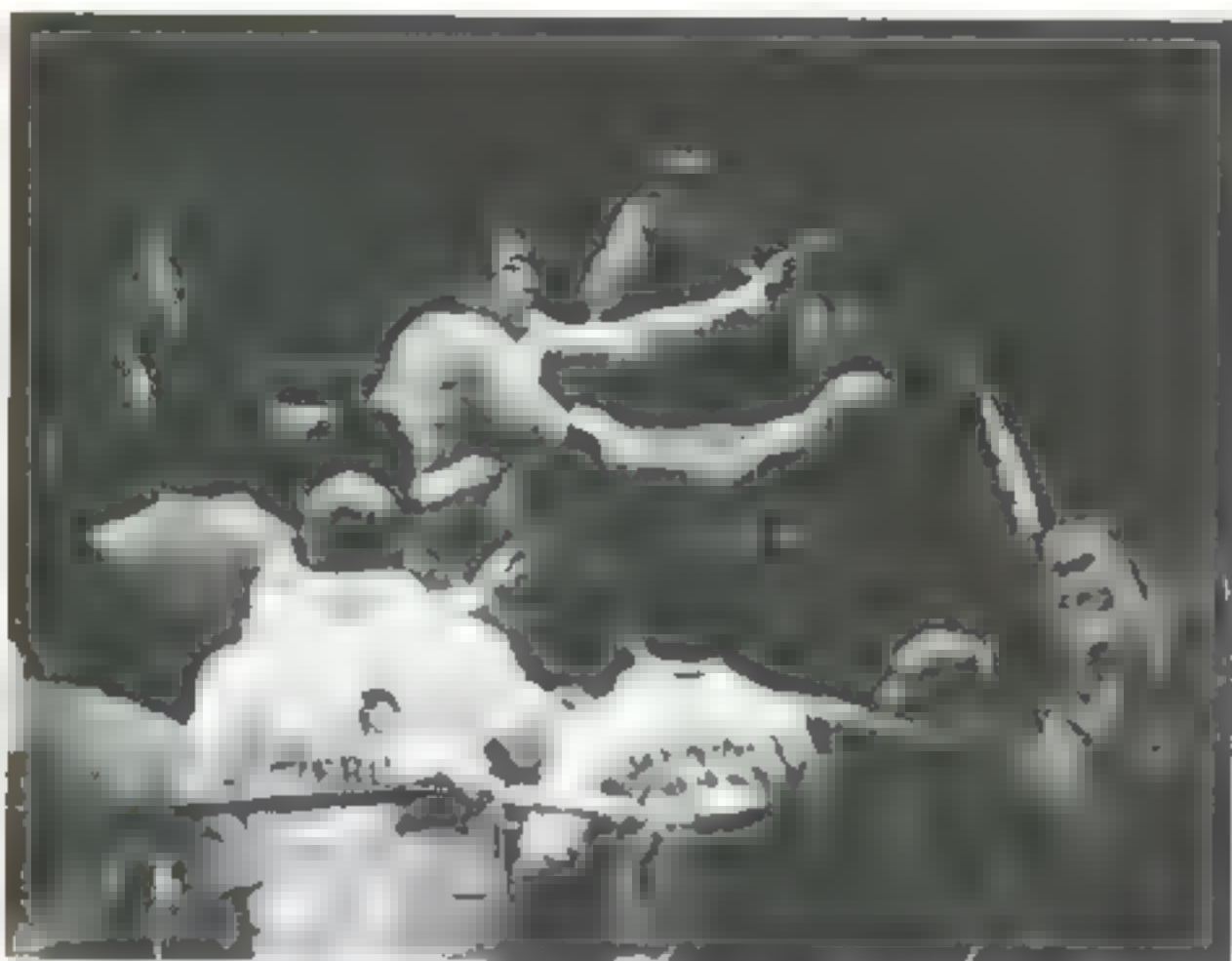
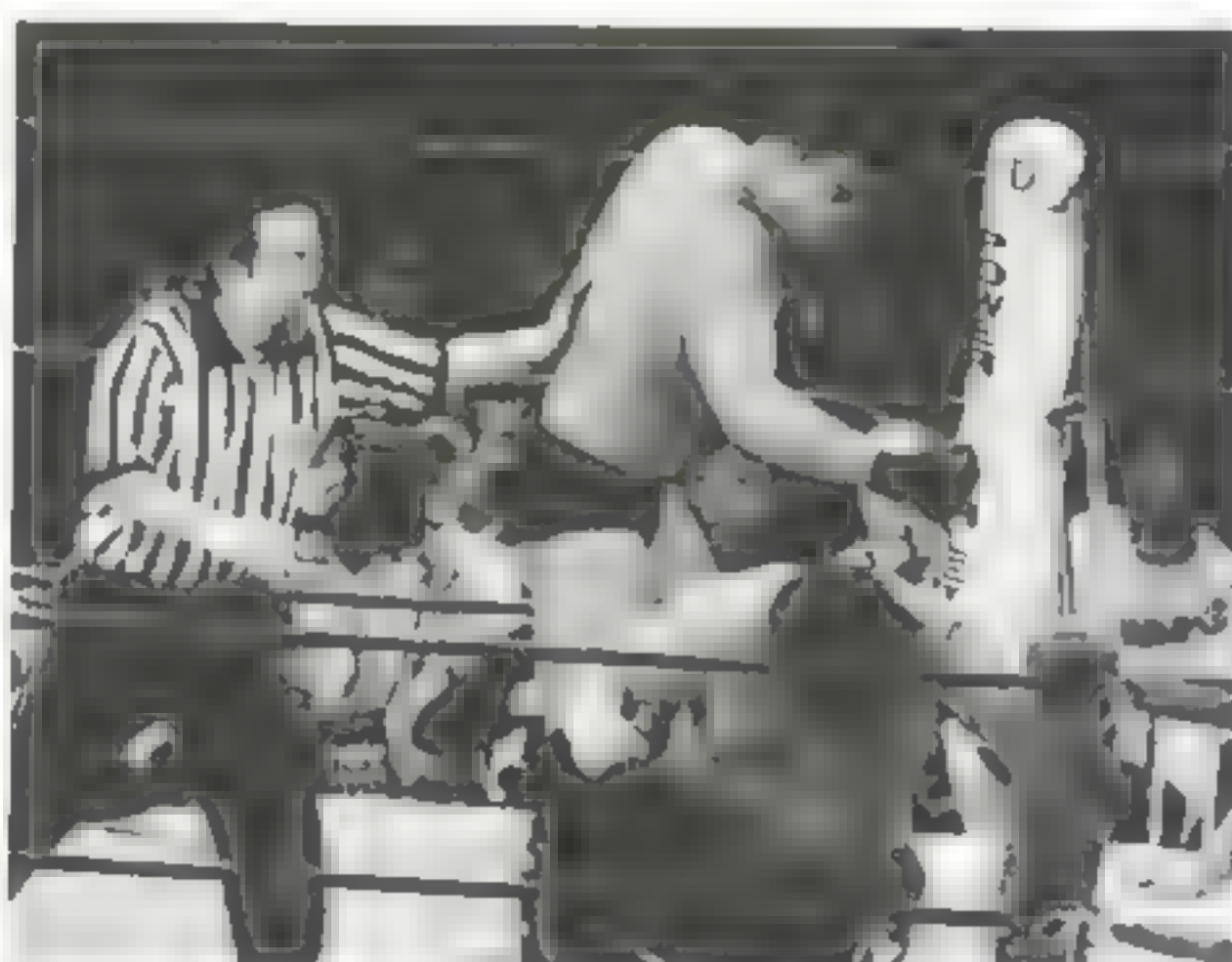
ガンツ デザイナーみたいなの（笑）。あいからわずいい加減ですねぇ。

山口 「とりあえず会ってくれない？」ってターザンから言われて、俺は面倒くさいからズッと引き延ばしてたんだけど（笑）、そのうち柳沢忠之がうちの会社に訪ねてきたのが、俺と柳沢忠之との出会い。

ジャン　そんな二人がいまや二手に分かれてマット界を牛耳ってるんだから、世の中どうなるかわからないですよね。
山口　誰が牛耳ってるんだよ、バカ！　お前らだろ、ネットにあることないこと書き込んでるのは（笑）。こんな話してもわかる人いないからやめようよ。

RADICALの現在

ジャン　いまのスタイルの『RADICAL』は96年暮れ創刊なんですけど、大統領は、その創刊号から何か変わったという感覚はないんですか？
山口　俺が全面的に関わらなくなったというだけだよね。
ガンツ　いい機会だからお伺いしますけど、『RADICAL』は、髙田vsヒクソン戦を扱うためにスタートしたんですか？
山口　そういうわけじゃないけど、『RADICAL』を創刊したときに『PRIDE』はまだ世の中になくて、髙田vsヒクソン戦実現か？　という噂だけが流れていたんだよね。その頃、俺は従来のプロレスに編集者としてまったく食指が動かない。素材としてまったく魅力を感じないという気持ちがピークに達していたところで、創刊したのはいいけど、語るべき対象も、拡大鏡を付けて見えやすくしたい対象も、顕微鏡で焦点を当てていきたい対象物も、前田日明やリングス以外はなかった。Uインターもなくなってたし。それで創刊号はターザン山本の表紙で軒先をしのいだというか、大金をドブに捨てたというか（笑）。
ガンツ　驚異的な返本率だったそうですね（笑）。
山口　そうこうしているうちに、髙田vsヒクソン戦の陰が本当に忍び寄ってきて、『PRIDE』というイベントが立ち上がったわけだよ。そこで直感的に「これはマット界の価値観が変わるな」と思ったわけ。この一戦が実現した途端に、いままでのUWFが巻き起こしたムーブメントや、新日本プロレスがストロング・スタイルと名乗っていることも含めて、ジャンルの価値観がひっくり返ることになるかもしれないと。『PRIDE』の出現によってプロレスのフォーマットそのものが変わるだろうし、『PRIDE』を重点的に追っかけていったほうがファンは食いついてくるだろうし、雑誌の芯にもなると思ったんだよね。なぜか専門週刊誌は『PRIDE』をあまり扱わなかったし。
ガンツ　でも、初めはプロレスマスコミ全体が『PRIDE』を毛嫌いしてたじゃないですか？　「お前ら、いったい何者なんだ？」って主催者側に詰め寄るマスコミもいて（笑）。
山口　その当時から、ウチは『紙のプロレス』という雑誌名ではあっても、新日本や全日本という二大メジャー団体からは取材拒否をされていて、しかもこっちもまったく扱う気がなかった特殊な状況だったわけですよ（笑）。従来のプロレスを扱うことに対して、俺自身クリエイティブな発想が沸かなかったんだよね。ただ、橋本真也とかヒトとして興味が持てる素材があれば、所属する団体にかかわらず追っていこうという意志はあったけどね。
ガンツ　創刊号に出てるメンバーを見れば、その狙いはよくわかりますよね。前田日明、橋本真也、佐山聡、船木誠勝、髙田延彦、そしてタイガー・ジェット・シン！
一同　ガハハハハハ！
ガンツ　そして表紙が白装束姿のターザン山本！ですからね（笑）。
山口　だから、ウチは創刊当初からU系雑誌と言われてたけど、そこのエッセンスはあまり変わってないと思うけどね。
ガンツ　雑誌の幹としてそこは確実に残ってますよね。
山口　専門週刊誌があまり扱わない、かつ運動体として面白そうなゾーンをピックアップして、雑誌の差別化を図るという観点も含めて、U系やU系の遺伝子を

RADICAL創刊時からの軌道は外れていない（山口）

小川直也と三沢光晴がまさかの接触！　ZERO－ONEで起きたミラクルシーン。プロレス起死回生の場として発進した破壊王の"とプロレス"は、本誌に純プロの新たな方向性を指針してくれた

100年に一度の大事件"1・4事変"は、「プロレスとは何か？」という永遠の命題を本誌やファンに突きつけるかたちに。同時に"ガチンコ"の麻薬的な刺激にマット界の空気はガラリと一新した。

すべては髙田vsヒクソンから始まった！　RADICALはこの世紀の一戦を深く洞察することで、新興勢力「PRIDE」という場の魅力を受け止め、誌面をフル回転させて各方面に伝播していった。

受け継ぐ選手たちを追ってる意識はあった。それがもっとも『RADICAL』の生きる道だと確信して、思い切りはしょった言い方すると、そこに照準を絞ったんだよね。いまでもその軌道は外れてないでしょう。だから〝『PRIDE』の機関誌〟って言われるんだったら、俺はむしろまったく違和感がないよ。
ガンツ　創刊当初は、DSEではなくKRS（『PRIDE・4』までの運営会社）の機関誌だったと（笑）。
山口　それは違うと思うけど（笑）、『PRIDE』っていう未知のイベントの魅力を伝えようとすることには心血を注いだし、それが俺のモチベーションだったからね。従来のプロレスより『PRIDE』の方が面白いと思ってやってはいたけど、『PRIDE・3』の日本武道館大会なんて実券で2千枚も売れてなかったんじゃないの？（笑）。
ジャン　KRS時代の『PRIDE』は本当にヤバイ客入りでしたからね。
山口　でも、未知だけども面白くなりそうなイベントに求心力をつけたいっていう気持ちだけでやってきた。リングスに対しても同様のプロとしての思い入れを持ってやってたんだけども、それはどういうことかというと、つまり「プロレス」から逸脱したものしか俺の目には入ってこなかったわけ。「純粋なプロレスを見ろ」って言われても俺には苦痛だったから（笑）。
ガンツ　いままでのウチの方針からすると、むしろ逸脱したもののほうがプロレスだってことですよね。
山口　そう。「『PRIDE』やリングスこそがプロレス」というね。いまなら、「『ハッスル』こそがプロレスじゃないの？」と言い換えてるだけ。そういう問題提起をしているというか、もっとわかりやすく言うと、『PRIDE』というのはプロレスラーが出ている、プロレスではないイベントなわけでしょ。つまり総合格闘技という、その頃はまだ世間に届いてなかったジャンルを、大きなスケ

ール感の中でエンターテイメントとして昇華させたイベント。いまの『ハッスル』も、プロレス村やコアなプロレスファンからすると、プロレスとは認めないわけでしょ。「あんなものはプロレスじゃない」という意味や視線も含めて、〝プロレス外プロレス〟なわけですよ。で、基本的には、やっぱりそういうもののほうが俺は好きなんだよね（笑）。従来のプロレスだけ見るという視点は俺には持てない。

ノブ 従来のプロレスも、〝プロレス外プロレス〟も、すべてをひっくるめて「プロレス」だという見方をしないことにはつまらないってことですね。

山口 それに、純粋なプロレスだけを繰り返し繰り返し見ていても、それがプロレスの醍醐味だとは到底思えない。そういう意識は、いつ何時でも俺はまったくブレてないし、そこはブレようがない。だから『紙プロ』という媒体自体そうなんだけれども、〝プロレス外プロレス〟を追う姿勢、あるいは〝プロレス雑誌外プロレス雑誌〟という部分がないと、『紙プロ』だとは思えない。たとえ、〝専門誌〟というレッテルを貼られても、営業的にそのカテゴリーの中に入っても、〝プロレス雑誌外プロレス雑誌〟のエッセンスが殺がれていくんだったら、これから先は『紙プロ』ではなくなっていくと思う。言い換えれば、誌名が変わっても、そこの部分を外さなければ『紙プロ』なんですよ。単純にプロレスや格闘技の専門誌を作りたいっていうだけなら、『ゴング』や『週プロ』や『格通』に入ればいい。ウチはそうじゃない部分をひっくるめて概念化したり問題提起していけるのが、作ってて一番面白みを感じるところだと思いますよ。

ノブ （拍手をしながら）僕は入社して、途中ブランクはあるものの、約9年たちますけど、な〜んか入社以来初めて……大統領にコンセプトを説明してもらったような気がするなぁ。目からウロコが落ちましたよ！

一同 ガハハハハハ！

ノブ いやいや、いまの話ってタネ明かしというか、『紙プロ』のレシピという感じだったじゃないですか。殊勝な話だなぁと思ってしみじみしました。

山口 （おもむろに）じゃあ講義料よこせ！

ノブ （まったく無視して）個人的に『紙プロ』が変わったと思ったのは、隔月から月刊になったあたりかなぁ。月刊化のあとに『PRIDE』のブレイクがあって、そこで波に乗ったような気がする。

ジャン でも、坂井さんは『PRIDE』や格闘技には見向きもしなかったじゃないんですか？

山口 「ガチンコにまったく興味がない」って言い切ったのは、俺の周りではノブが初めて（笑）。ある意味、カルチャーショックを受けたよ、こいつには。

ノブ UWF自体に全然興味なかったというか。試合見ても面白くなかったね。

松林 俺も心からUWFを面白いと思ったことはなかったな。でも面白くないから、逆に「裏側に何かあるのかな？」という好奇心はあったんだよね。

ノブ 複眼的な見方はできたってことですね。

山口 だからキミが単眼的だということですよ。でもその単眼的な愚直さというのは、ある時期ノブがWWEを扱いだしてから『紙プロ』にも落とし込まれたのは事実だよね。ノブに勧められて俺もWWEを見始めたし、それもあって『紙プロ』でビンス・マクマホンを二度も表紙にした。それがいまの『ハッスル』にも繋がっているところはある。

ジャン 『ハッスル』への途中経過で言うと、ZERO-ONEを猛烈にプッシュしてましたよね。

「PRIDE.26」からリボーンした「PRIDE」は、残酷で美しい格闘芸術として、強さのベクトルに針を強振した。その象徴のひとりがミルコであり、その主役を追って本誌はクロアチアに飛び込んだことも

〝プロレスラー〟高田延彦でしかできなかった引退試合　田村潔司戦。10年にも及ぶ大河ドラマの終着駅、そして新たなる始まり。U系雑誌といわれた本誌は、三号に渡ってこの一戦の意義をお伝えした

山口 ZERO-ONEという団体もそうだけど、橋本真也というヒトのおもしろさや凄みであったり、そこに小川直也という素材が絡まってきたときの奇妙なエネルギーは、これは伝えなければいけないなと思ったよね

ガンツ ボクらがZERO-ONEをおもしろがっていたのは、ズバリ「破壊王プロレス」なんですよね。

ノブ ZERO-ONE取材で地方出張が本当に多かったよなぁ。

山口 だから、その頃は「ZERO-ONEの機関誌」って言われてたし、その前は「リングスの機関誌」って言われてる時期もあったし、「バトラーツの機関誌」って言われてる時期もあった。いろんな団体の機関誌になってるんだよ、ウチは（笑）。でもそれが一種のモノづくりの原点で、要はどれだけその人たちなり団体なりの思いや方向性を理解できて、イタコになれるかということでしょう。イタコになるにはモノローグよりもダイアローグのほうが必要になってくる。斜に構えてるだけではダイナミズムは生まれないでしょ。イタコになれるくらい、仕事として対象と対話していかなければならないわけですよ。それが、一緒にメシ食いに行くとか飲みに行くとかと勘違いされると困るけど。

松林 一番おもしろかったのが、リングスKOKの表彰式で大統領がトロフィー贈呈のためにリングに上がってコールされたら、会場から大歓声が起こったんだよね（笑）

山口 リングス会場では人気あったよね、俺（笑）。でもそれは、ある時期は俺が、前田日明やリングスの人間よりも、リングスのことを考えていたからだと思うんだよ。これは勘違いではなく、それくらいの自負はありますよ。

ガンツ 大統領ならわかるんだけど、チョロさんまで人気あったから、それくらい『紙プロ』はリングスのおもしろさを徹底的に伝えてたってことですよね。

山口 前田日明でさえ気づいてないリン

な　った（松林）

04年のRADICAL、そしてマット界の主役といえば小川直也だった。幕開けは電撃的なＧＰ参戦に始まって、巨大な幻想による期待感は熱を帯びて、最後は“圧倒的現実”の前に小川は横たわった直也という物語はまだまだ続く。　小川

グスのおもしろさや複眼的な見方も含めてファンに伝えたいという思いがあったからね。だからその結果「機関誌」というふうに揶揄を含んだ物言いをされても、まったく違和感がないし、むしろ勲章だよね

ジャン　いま「ＤＳＥの機関誌」と呼ばれることにもですか？

山口　それはたぶんちょっと違う観点から言われてると思うんだよ。ＤＳＥから俺が裏金をもらってんるじゃないかとかさ、要はヒガミ根性や単なるやっかみのほうが大きい気がするなぁ　前田日明がどっかから聞いて広めているようなことも含めて（笑）。まぁ、それはどうでもいいけどね。

ガンツ　ひとつだけ声を大にして言いたいのは、ボクは政治的な理由で何かを取り上げたりプッシュした覚えはほとんどないってことですね。

山口　俺もないなぁ。これはつまんないけど、政治的なしがらみでプッシュしなきゃいけないとか、そういう経験は皆無だね。広告がらみは別として。だから、いまの『ＰＲＩＤＥ』がつまんなくてプッシュしてるんなら話は別だけど……。

松林　無理して載せてる感はないよね。

山口　『ＰＲＩＤＥ』がつまんなくなれば、扱わなければいいだけの話だし、どっかの専門誌みたいにしがらみや付き合いで載せてるというのは、これからもないでしょう。無理して載せてるのは……あ、あった！　●●●●●●●●（笑）。

ジャン　え〜、文字を増やして伏せ字にします（笑）。

山口　『ＰＲＩＤＥ』や『ハッスル』もさ、もちろん大会によって出来・不出来はあるけど、あの場をつまんないと思ったことはないし。なんか無理しておもしろくないソフトを押し上げているかのように言われるのは、名誉毀損で訴えたくなるね。

ジャン　だから偏った誌面になるのはしょうがないと？

山口　偏っていいんですよ！　雑誌なんて。ただ、偏りにも2種類あるからね。

ジャン　ほう、教えてください！

山口　ひと〜つ！（魔邪風に）。ひとつは銭になる偏りだぁ。そしてもうひと〜つ！　もうひとつは銭にならない偏りだぁ（笑）。この2種類あるわけです。銭にならない偏りは、自分でＨＰでも立ち上げてやってくださいということ。じつはここらへんにモノづくりのヒントが隠されている気がしますね、ワタクシは。

松林　そうだよなぁ。銭になる偏りは大切だよねえ（しみじみと）。

山口　何をいまさら（笑）。

松林　でもちっちゃい頃から、『紙プロ』は「月刊・山口日昇」だと思っていたんだけど、リングスがなくなったあたりから、その感じはなくなってきたような気がするな。

山口　そういわれてみると、そうかも知れない。マスコミになってからの俺があんなに愛着を持った団体は、リングスだけだったから。リングスって一言でいうと、“最後で最高のプロレス団体”でしょ。末期にはＫＯＫが始まって、ガチンコになったけど、最後の最後の最後のプロレス団体というか。

ガンツ　いわゆるシュートとワークが混在したという意味でのプロレスっていうのは……。

山口　（遮って）またそんなこと言うと、また前田日明に殴られるよ（笑）。リングスの話になるとガンツは長くなるから、はい、次！

山口日昇の居場所はあるのか？

ジャン　リニューアルするということで、『紙プロ』の中味も変わるのかどうか、というのが読者も気になるところだと思うんですけど。

山口　というか、変わったかどうかを判断するのは読者だよね。こっちは変えるつもりはないと言っても、「変わった！」って言う人はいるだろうし、「こっちが変えますよ」って言ったところで、「変

わってない！」っていう人はいるだろうし。それはもう読者の判断に任せればいいんですよ。でも、俺はさっき言ったように、「プロレスの概念」に対する軸はまったくブレてないんですよ。

ガンツ　とにかくおもしろいものを推していくってことですね。

山口　俺は『ハッスル』のプロデューサーという立場でもあるから、『ハッスル』を推してるんだという揶揄やツッコミを受けても全然かまわないんだけど、だったらレイザーラモンHGやインリン様よりおもしろいプロレスラーを俺の目の前に連れてこいって話だよ。破壊王亡きいま、とてつもないエネルギーのあるレスラーっていないでしょ。そういうプロレスラーがたくさんいるなら、あの2人がリングに出てくることはなかっただろうしね。まぁ、『ハッスル』もつまらなくなったら、『紙プロ』で取り上げなくていいから。その代わり先入観と食わず嫌いだけで「つまんない」と言うのはやめてくれって話。

松林　橋本真也という豪傑が亡くなったことの喪失感って、これからますます出てくるんじゃないかな。

山口　ズバリ言えば、リングスがなくなったこと。それから破壊王が亡くなったことで、俺の中でのこれまでのプロレスの価値観はもうまったく存在しないって言ってもいいね。いまは新しいプロレスの価値観をかたちづくっていくことにしか興味はないよね。

松林　たとえば第2次リングスがもしできていれば、『紙プロ』的には大プッシュしたのかな？

ガンツ　いや、僕は活動休止直後から言ってますけど、リングスを再興してほしいという気持ちはまるでないんですよね。なぜかといえば、リングスから格闘技へと時代が移り変わる大河ドラマをすべて見せて、散っていったと思いますから。それにいまのノゲイラ、ヒョードル、ハリトーノフらの活躍こそが、第2次リングス〟なんだと思ってますしね。

リングス休止後、『紙プロ』は『月刊・山口日昇』ではなくなっ

山口　彼らは第2次リングスというか、第5次ぐらいまで進んでいるよね（笑）。こないだのヒョードルvsミルコだって、本当に人間の限界を超える試合だったし

ガンツ　でも、『UPPER』の舟木昭太郎さんはやっぱり凄いですよ！　「ヒョードルは強い　ここでやっぱり見たくなるのはヒクソン戦　実際試合になればまだヒクソンの方が上だと私は見ている」ってことを大真面目にブログで書いてるんですから。これじゃあ、〝私のムエタイへの旅〟がいつまでたっても終わらないわけだなって（笑）。

〝底知れぬ格闘大国ロシアの雄〟セルゲイ・ハリトーノフ、その師ヴォルク・ハン。彼らの佇まい、相手を威圧する雰囲気は、いにしえのプロレスラーそのもの。『Kampro』はこんな凄玉を今後も追いかけ続けるぜ！

ノスタルジーに走ることしかできないプロレスを根こそぎ壊滅するところか、身をもって新たなプロレスを提示。本誌は「総統はプロレス界の救世主である」と、どこかの格闘技グラフィック誌風に宣言する！　ビターン

山口　……何を書いてもいいけどね（笑）。たしかに幻想を持たせることはマスコミとして立派な仕事のひとつだよ。でも「存在感としてはまだまだ上だ」って言うのならわかるけど、何の根拠もなしに「ヒクソンが強い」って言われると困っちゃうよね（笑）。だからさ、みんな〝あの頃〟にとらわれすぎなんだよ。『紙プロ』の中の〝あの頃〟でいえば、リングスや勢いのあったころのZERO-ONE、そしてバトラーツ。もっと言うとちっちゃい版型の頃の『紙プロ』。これらはひと言でいうと、すべて〝あの頃〟のものだし、〝あの頃〟でしかできなかったものなんだよ。「あの頃の『紙プロ』はおもしろかった」なんて言われても、いまではできない。だって時代は進んでるから。いまは、いましかできないことを真摯にやっていけば、賢明なる読者がきっと付いてきてくれますよ。

ガンツ　「紙の新聞」でドラゴン（藤波）を扱うのだって、あの頃だからおもしろかったんですよね。ウチでやり出したら、スポーツ新聞までやりだして、完全にイメージ変わっちゃいましたけど（笑）。

山口　〝あの頃のもの〟はあの頃のもの。それを再現しようなんて愚は犯しません。あの頃以上のエネルギーを遣ったもので表現していけばいいんですよ。逆に〝あの頃の『紙プロ』〟をありがたがって、あの頃のものしか認めないというファンは、あの頃の『紙プロ』だけをいつまでも読んでいてください。俺の言いたいことは以上！

ジャン　で、大統領はリニューアル後、どういうスタンスで関わってくださるんですか？

山口　なんだよ、その「くださる」なんていう他人行儀な言い方は。俺は今後も編集長ですよ！　そして大統領でもある。（笑）。

ノブ　ま、いままでと変わりないってことですね（冷たく）。

山口　いや、リニューアルしたら、いまより現場には出るから。半年くらいは（笑）。あ、いいこと思いついた。俺も豪ちゃんみたいにこれからスーパーバイザーって名乗ろうかなぁ（笑）。

ガンツ　編集長なのに（笑）。

ジャン　じゃあ、ついでにちっちゃい『紙プロ』のリニューアル号と、『RADICAL』創刊号の表紙にもなった山本さんにもスーパーバイザーに就いてもらいましょうか（笑）。

山口　それならスーパーバイザーの3人できちんとコミニュケーション取らないとな（笑）。な、ノブ？

ノブ　某・老舗専門誌の三者三様みたいに毎号毎号茶飲み話でもしてください！（最後まで冷たく）。

山口　茶飲み話、フォ〜〜ッ!!……ノブ、おまえ表に出ろ！

【05年9月某日／編集部にて収録】

何？!

『紙のプロレスRADICAL』がロゴを『kamipro』に変えるんだって？ やられた。やられたよ。

私が『週刊プロレス』の編集長時代の話である。だから今からもう12、13年前のこと。あれは1993年か4年のことである。今は亡くなってしまったベースボール・マガジン社の2代目社長だった池田郁雄氏に「ねえ、社長。『週刊プロレス』を〝週プロ〟に変えましょう、早く登録商標を取ってください！」とお願いしたことがある。

しかし、その話はついに実現することはなかった。そのうち私は1996年7月にベースボール・マガジン社を退社。『週刊プロレス』の編集長も当然、降りた。とにかく私はいつも時代よりも数歩、進みすぎているのだ

半歩、進んでいるぐらいでちょうどいいんだよと、よく言われたが半歩じゃだめだ。それでは物事は中途半端になるだけだ。それが私の信条でもあるのだ。それにしても『紙のプロレス』が私の夢を実現させることになるとは……。

やっぱり〝紙のプロレス〟はターザン山本のDNAを正統に受け継いだ唯一のマガジンと言えるのだ。ほかのプロレス専門誌（紙）は真の改革をできないまま ずるずると、終わっていくんだろうなあ。終わるならまだいい、滅ぶことになるんだよ。

雑誌にも人間と同じように必ず〝一生〟があるのだ。誕生（創刊）してから青春時代を迎え、やがて中年になり、そして老年になっていく。

時代はプロレスから格闘技へ。それはもう『K・1』が誕生し、『PRIDE』が出て来た時から完全にわかっていたことである。だから私は『週刊プロレス』の編集長を辞める時、その最終号で「これからの時代は、プロ格になる！」と予告した。

まったくその通りの展開になったではないか？

プロ格の「プロ」とはプロフェッショナルのことであり、またプロレスの略称のことである。「格」はもちろん格闘技全般のことをさす。

つまり、その二つのものが融合して〝プロ格〟が新しいジャンルとして繁栄していくのだ。あ〜あ、私の予言は別に的中しなくてもよかったのだ。自慢話をしても仕方がない。意味がない。所詮、何を言ったところで媒体を持っていない者の話なんか、負け犬的発言にしかとられないからだ。

ハッキリ言おう。あえて言うしかない。雑誌は〝天才〟が作るしかないのだ。私は最近、そういう結論に達したのだ。私はといえば自称〝無冠の天才〟である。たとえ自称であっても天才は天才なのだ。

それに〝無冠〟というのも私らしくていいではないか？ 仮に天才でなかったら編集長は変人でなければならない。私はそのことをI編集長（井上義啓氏）から徹底的に学ばせてもらった。

それに何を隠そう、I編集長はまぎれもなく信念を持った変人、哲学を持った変人編集長だった。そしてI編集長も自分が書くものを〝井上プロレス〟と呼んでいた あれも別の言い方をすると〝自称天才〟と言っているものと同じなのだ。

I編集長とターザン山本！は実を言うと自称天才の師弟コンビということになるのだ。

変人を奇人と言い換えてもいい。I編集長はまさしく奇人なんだよなあ。井上編集長のどこが変人であり奇人かというと、セメントとガチンコが大好きなとこである。

私だってどんな言葉よりも一番好きな言葉は八百長である。私なんか人間が人工的にやるもの、作っているものはすべてフェイクで八百長だと思っているのだ。逆説的に言うとだから八百長の中にしか真実はないともいえる。

人間が作った人工的なものの中で最高のものは都会であり文明である。都会と文明には真実があるではないか？ プロレスの中にセメントとガチンコがあり、そして最終的にまたプロレスに戻っていく。これがプロレスにおけるベストな循環である。

だが今の時代は最初がプロレスであってはダメなのだ。最初に格闘技・前提は真剣勝負というわけである あとそれに付随してくるアングルや仕掛けやギミックは、もうプロレスであってもかまわない。

そういう構造、システムしか世の中の人たちが認めなくなったのだ。受け入れなくなったのだ。

ここに古き良き時代のプロレスの生態系は完全に、意味をなさなくなった。品物のラベルが〝プロレス〟になっていたら、もうそれは売れない商品になってしまうのだ。

ラベルは絶対に格闘技にする必要がある。スーパーなんかで野菜に〝無農薬有機栽培〟というラベルがあると、消費者が信用するあれと同じだ。

人工的なものをフィクションという言葉と同等に考えるとしたら、プロレスも格闘技も私からするとフィクションになるのだ、ということは極論してしまうと格闘技も八百長なのだ。

まあ、それぐらい柔軟な思考をして物を見ていた方が失敗はない。どうせ人間がやるものだよ。そんなもん信用なんてできっこない。

だって神からすると人間がつくるものはフェイクにしか見えないだろう。神がたぶん大笑いしているのは人間が勝手に作っているルールである。あんなしゃらくさいものはないと神は天上からそれを笑って見ているはずなのだ。

『紙プロ』リニューアルを前に

敗

私が考えていたことを『紙プロ』にやられてしまった！

「紙のプロレスRADICAL」第1号
表紙モデル・ターザン山本さん（当時51才）

リニューアルを機にこういったビジュアルのページも完全撤廃いたします（編集部）

例によって話が大脱線した、私がここで言いたい事は形としてのプロレスには、もう社会的ポジションはない。居場所がなくなった。だったら我々は格闘技の方へと平行移動、民族大移動をしていくしかないのだ、

もはやプロレス専門誌は週刊誌として存在する理由はどこにもない。あれは昭和の美しき遺物である。化石である。化石は美しいに決まっているではないか？ それはマンモスを見たらわかる。マンモスにはロマンがあるからだ。

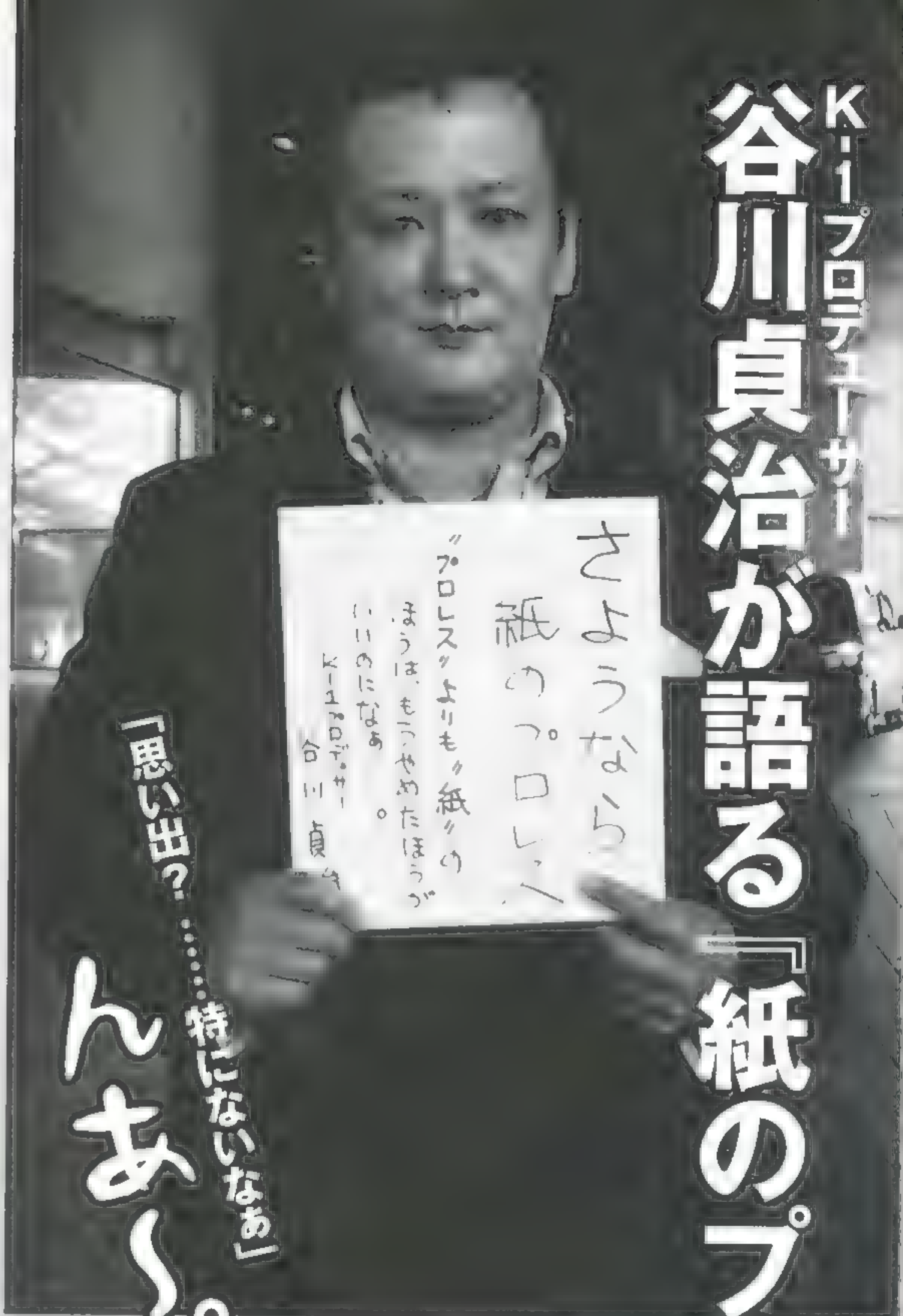
専門誌が自然な形で〝プロ格〟になっていったとしたら、その時はプロレス専門誌以上のセンスが求められる。なぜなら格闘技をプロレス的見方で語ることがこれから要求されてくるからだ。

プロ格雑誌こそプロレス者の記者、ライターの出番なのだ。ただし格闘技をプロレスと思ってないない記者はもう最悪だよ。それではまったく役に立たないのだ。それだけは言えるのだ

本物のプロレス者がプロ格雑誌を作った時だけ、雑誌は生き残ることができる。これが私の持論である。格闘技ライターというのは私は認めない。あれほど嘘っぽい人種はいない。なぜなら真の格闘技にライターはいらないからだ。いる必要がないではないか？

そもそも真の格闘技とはなんぞやとなってくるのだ。観客とマスコミがかかわっているものはすべてがフィクションであり人工的世界になるのだ。

さて、『紙プロ』のリニューアル号はどうなるのか？ 先に私が考えていたことを『紙プロ』にやられてしまった以上、私はここに堂々と〝敗北宣言〟をする。私は負けた。私に残されたことは〝高みの見物〟。なるべく長生きして高みの見物をすることが、もうせめて私に残された最後の楽しみということにしておこう。グッドラック！

K-1プロデューサー 谷川貞治が語る『紙のプロレス』の思い出

『思い出？……特にないなぁ』

んあ〜。

聞き手＆構成／松澤チョロ

谷川　今日はどうしたの？

——お忙しいところ、申し訳ありません！　実は今号で『紙のプロレス』が最終号になるので、古くからお世話になった谷川さんに、いろいろと思い出話など語っていただければと思いまして。

谷川　へぇ〜、終わっちゃうんだぁ。

——そうなんです。早速ですが、谷川さんは『紙のプロレス』というとどういった思い出がありますか？

谷川　『紙のプロレス』の思い出は……え〜っ……。

——特にないようですね（笑）。

谷川　うん。特にないなあ……。

——アハハハハ！

谷川　特にないけど、真剣になって遊べる場所だったかな。でも、最終号って、次からどうなるの？

——要は「プロレス」っていう言葉がいま、どちらかというと悪いイメージで捉えられる場合が多いので、版元が変わる機会に誌名を変えようということで、『紙のプロレス』から『ｋａｍｉｐｒｏ』という形になるんですよ。

谷川　でも、もうだいぶ前に『週刊プロレス』が『週プロ』にしようとしてたよ。ターザンさんがね、『週刊プロレス』が最後の取材拒否されたときに「『週刊プロ』にしよう！」って。

——あ、そうだったんですか！

谷川　山本さんが10年前に言ってたことだよ、それ。もう遅いよ！

——10年遅かったですか（笑）。

谷川　いっそのこと『紙のＰＲＩＤＥ』にしてみたら？（笑）。

——よく言われますけどね、「『紙のＤＳＥ』にしろ」とか（笑）。

谷川　でも前から『紙プロ』は『紙プロ』だもんね。それに『紙プロ』の読者っていうのは要するに『紙プロ』ファンなわけでさ、誌名が変わっても何にも変わらないような気がするんだけど。

——ウチも所選手が一夜にしてヒーローになったように、誌名を変更することによって一気に部数を伸ばそうかと。

谷川　それは無理でしょ（笑）。

——無理ですか。そこで、敏腕プロデューサーの谷川さんから見て、面白い内容で、なおかつ売れる雑誌を作るにはどのような方向性で行けばいいのか、ヒントを与えていただければと思いまして。

谷川　なるほど。『紙プロ』が売れる方法……まず一番は〝紙〟にしないことでしょうね。

——谷川さんは、前からそれは言われてましたけど、そう言われても身もフタもないというか（笑）。

谷川　まず、紙じゃないことを考えることと、それから山口日昇さんは撤退されて、チョロさんが編集長をやるのがいいんじゃない？

——え、ボクですか？

谷川　それが一番いいと思うなぁ。

——でもボクは、いま編集部所属じゃないんですよ。実質的な編集長は堀江ガンツですから。

谷川　ガンツ君は……しっかりしてるよね。で、なんだっけ？　そうか、『紙プロ』を売る方法ね。……考えたこともなかったなあ。

——まあそうでしょうけど（笑）。

谷川　僕も好きなんだけど、いまは凄く難しいよね、雑誌は。これからの格闘技の映像っていうのは、どうやって求心力を持たせていくかっていうことが大切になってる部分に対して、紙媒体に関しては、どうやって遠心力を持たせていくかっていうことだよね。やっぱり、『Ｎｕｍｂｅｒ』の今回のミルコvsヒョードルの特集って面白いじゃん。

——読み込むかどうかは別として面白そうな雰囲気はしますよね。

谷川　うん。雰囲気がまずあそこにはあるし。単純にあれ面白かったなあ、アンケート。

——著名人が選ぶ総合のベストバウトですね。

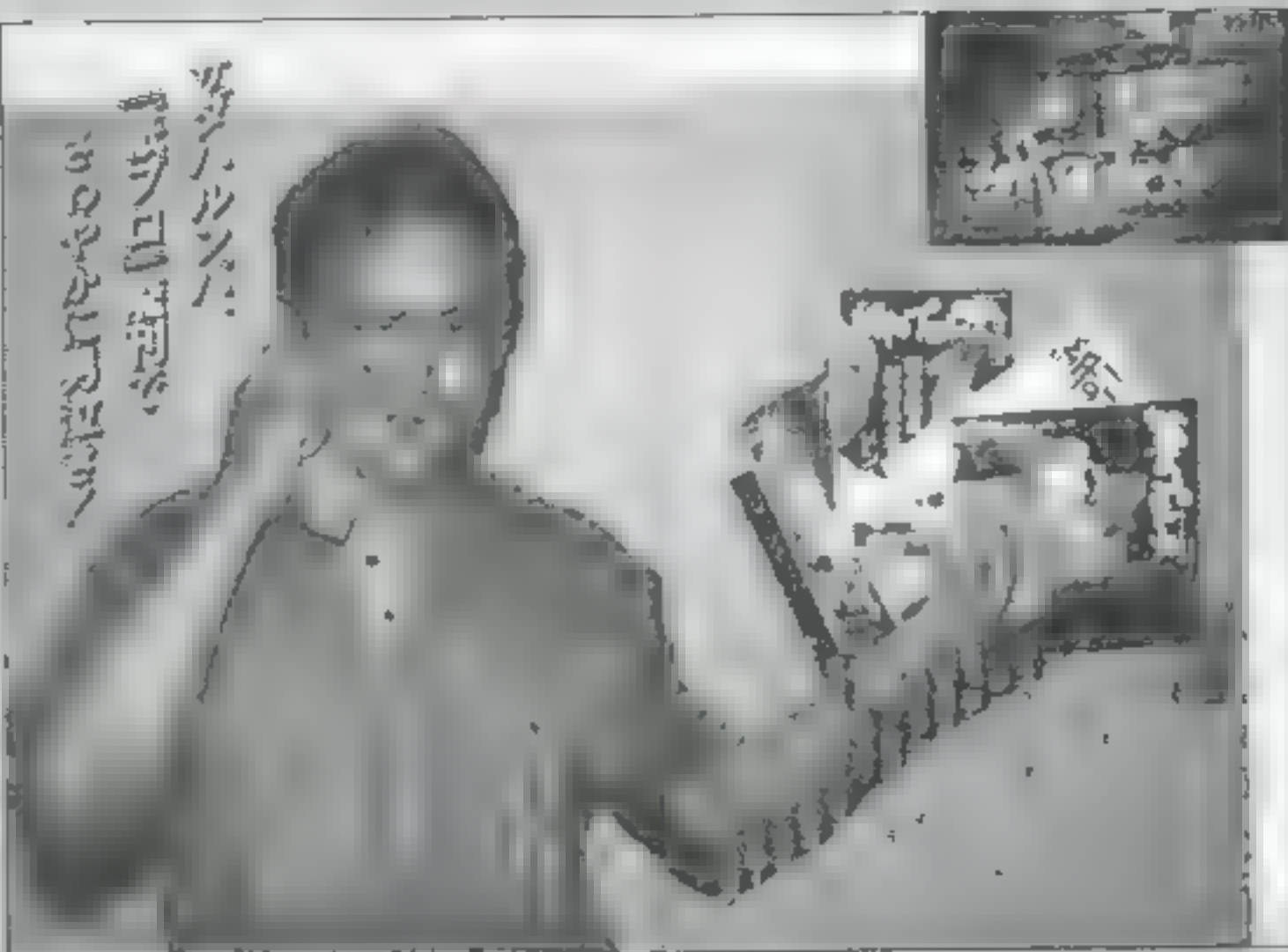
谷川　そう。あれはたぶん、軽い気持ちでやってると思うけど、ああいうのを真剣にやりだすと結構面白いよ。そういう企画とか、あとは座談会みたいな、どう見てるかっていうのもやっぱり面白いよね。格闘技のコアな人たちの意見も当然なきゃいけないと思うし。でも『ＰＲＩＤＥ』にしても『ＨＥＲＯ'S』にしても遠心力のある人とかが語ると面白いよね。

——遠心力のある人ですか？

谷川　たぶん、この間の『ＨＥＲＯ'S』が面白かったのは、高度な勝負論や技術論ではなく、高度な駆け引きっていうか、それがマニアの人でもちょっと見入っちゃったと思うんですよ。どうやってＫＩＤ君の間合いを宇野君が潰してるのかとか、そういう駆け引きのところが凄い見入られたと思う。アクションは大きくなかったけど、そういう求心力の部分では凄く面白かったと思うんだよね。でも、まだやっぱりね、遠心力的に見たら、たとえば宇野君は所君とやったときは負けちゃいけないと必死になってる、で、ＫＩＤとやってるときはメチャクチャ楽しそうな顔して闘ってるとか、そういうところに凄い目が行ったと思うんだよね。その顔とか雰囲気とかを、もっと遠心力のある人だったら面白く語れると思うんだよね。たぶん視聴率が20％に3％足りな

かったのは、そういう部分にまだ目が慣れてないんだろうね。
——技術論っていうのは、どこでもやりますけど、そういった視点から語られることってそんなにないですよね。
谷川 でしょ。そういう遠心力的な語り部を探すことと、それと同時に山本さんとか堀辺先生みたいな求心力的な語り部と両方いると凄く面白いなって感じはするね。あとは選手のインタビューは絶対あった方がいいと思うんだけど、新しい発見はないんだよね。そういうのを戦略的にやれる格闘家も少ないし。でも最近ね、インタビュー読みたいなと思った人は、関係者も含めてナンバー1は所君。
——所選手は気になりますか？
谷川 所君は新鮮だよ。人として興味がある、凄く。底の知れない子だなという感じがしますね。
——いままで、いそうでいなかったタイプですよね。
谷川 そう。いそうでいなかったタイプ。所君は、ちょっと得体の知れないタイプですね。で、ガンツ君はね、ちょっと尖ってるタイプなんだよなぁ。
——所君からガンツ君へと、いきなり話が飛びましたね（笑）。
谷川 やっぱり、ガンツ君もね、遠心力タイプじゃないんだよね。だから退陣（笑）。一般世間に流行らせるんだったら、尖ったところがないタイプだから。ガンツ君は、ノーマルに見えてもやっぱり偏るし思い入れの強いタイプでしょ。

新編集長は私ということで。売れるためのヒントは『HERO'S』にあると思う

——でも、いまの『紙プロ』はガンツ以外にまとめられる人はいないですから。ボクは何度もシャレにならないことばっかりやってきたんで無理ですし（笑）。
谷川 そっかぁ。（ちっちゃい頃の『紙プロ』を読み込みながら）やっぱり、この本、面白いなあ。
——いま読んでも全然面白いですよね。
谷川 そうだよね。ホントにこれは求心力あったよね。あ、じゃあリニューアルを機に思いきってちっちゃくする？
——そっちの方向ですか（笑）。
谷川 そうそう、方向転換して。で、ガンツ君を中心にガンガン尖ったことをやっていく。どう？
——「どう？」って言われても、2冊同時はしんどそうだなぁ。
谷川 いい作品に共通して言えるのは、広い意味でさ、尖った部分がキラリとあるんだよ。そのキラリができるのは………僕ぐらいじゃないの？（真顔で）

ちっちゃい頃の『紙プロ』が廃刊騒動に巻き込まれた際も、さわやかな男泣きを見せてくれた谷川貞治氏（当時・格闘技通信編集長）。紙のプロレスでは、ターザン山本、石井前館長らと誌面でバスケ対決を繰り広げたり、編集後記を長々と書いたり、様々なコスプレ姿を披露してくれたのも忘れられない。

——アハハハハー じゃあ谷川さん、編集長よろしくお願いします！（笑）。
谷川 やりますか（笑）。新編集長は私ということで。
——んあ〜。
谷川 でね、新編集長からのアドバイスとしては、ヒントは『HERO'S』にあると思う。
——ヒントは『HERO'S』。K-1でもMAXでもなく？
谷川 そうそう。なんでかっていうとね、正直言うと『HERO'S』は修斗だもんね。やってることはK-1のシステムだけど、出てる人間は所君と元気君以外は、ほとんど修斗出身でしょ。
——ああ、たしかに。
谷川 だから修斗に元気君とか所君を合わせて、K-1風な土壌でできたのが『HERO'S』だと思うんだよ。で、『武士道』もたぶん修斗だと思うんだよ。でも『武士道』はね、たぶん……別に悪い意味で言ってるわけじゃないんだけど、あれ『修斗』って名前だったら凄い客入ると思うよ。今回のトーナメントなんか特に。
——ああ、なんとなくわかります。
谷川 そこがちょっと『武士道』と『HERO'S』の違いだと思うんだよね。実際『HERO'S』っていう名前だからっていうのもあるけど、修斗の感じってまったくしないでしょ。
——言われてみて、ああそうかって感じですね。
谷川 今回のトーナメントでも、片方にKIDがいて、片方に高谷君がいるんだけど、見せ方っていうのは修斗とはまったく違うと思うし、「あれ修斗じゃん」って言う人、いないと思うんだよね。
——聞いたことはないですね。
谷川 それがマスに届いてるってことになると思うんだよね。で、『武士道』は僕なんかからすると、やっぱり尖ってるイメージがあるんだよね。その尖り方っていうのは僕も凄い好きなんだけど。だから、さっきも言ったように、今回のトーナメントって「修斗」でやったら凄い客入ると思うし。川尻vs五味戦があって反対側にいるのがマッハですからね。
——非常に贅沢なカードですよね。
谷川 そうだよね。でもやっぱり、『PRIDE』とK-1では、まったく違うものを目指してるからなんだろうけども、マスと尖ったものっていうのは相反するものだと思うんだよね。どっちがいいかは人それぞれだと思うけど。
——好みの問題もありますしね。
谷川 たとえば、いままでの『紙のプロレス』がいま言った修斗だったら、まず目指すのは『HERO'S』っぽい感じっていうか。それはいいヒントになると思うよ。実力者がいっぱい揃った修斗をうまくマスに乗せてあげたのが『HERO'S』なわけだから。
——実力者のクオリティーを最大限に引き出した上で、マスに乗せたのが『HERO'S』だと。
谷川 うん。見せ方っていう部分では、強いだけの選手ってたくさんいるけど、僕なんか、どうやっても●●●●は無理だもんね。売る自信がない。
僕の手には負えないと？（笑）。
谷川 うん……手に負えないっていうか、いらない！（キッパリ）。
——んあ〜。
谷川 でもそういう●●●●の活きる世界っていうのは絶対あると思うし、そこが『kamipro』の出番でしょ。
——でもそうなんですかね（笑）。でも非常に勉強になりました！ 今後ともよろしくお願いします！

本誌 Back Number

no.14 '95.04

特集 神秘とは何か?

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

50%OFF

780yen⇒390yen

no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄規・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

50%OFF

780yen⇒390yen

パンクラス公式読本

矛・盾

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターサンも炎上してますよォォ!!

50%OFF

各1260yen⇒630yen

no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

50%OFF

780yen⇒390yen

ハッスル公式読本!!

ハッスルMAGAZINE vol.1

三大特別ふろく（❶髙田総統のありがたいお言葉CD ❷インリン様のM字固め特大ポスター ❸マンガ「ハッスル物語」特製豆本）／髙田総統×髙田統括本部長／髙田総統×綾小路翔／インリン様洗脳グラビア／「ハッスル」ポスターコレクション　他

1600yen（税込み）

"燃える情念"石川雄規、初の自叙伝!!

情念～夢一途なり～
石川雄規

「紙プロ」で2年半に渡り連載されたバトラーツ社長・石川雄規の繊細かつドラマチックなエッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ "情念"とは何か…自称"世界一の猪木信者"の著者があまねくすべての人に捧げる珠玉の一冊である

50%OFF

1700yen⇒900yen

---

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07/900yen

灼熱の「PRIDEミドル級GP」直前号!!

- "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 「PRIDEミドル級GP」出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08/880yen

ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!

- "最後の皇帝"燃え上がる！ ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!!　ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る！ 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲！　イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09/880yen

ミルコ、「武士道」電撃出陣! もはや誰にも止められない!!

- 緊急独占インタビュー！　ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!!　長南亮
- "天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- 「東スポ」とは何か？　柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10/880yen

吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(キ)は赤く染まるか!?

- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー！ ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 「PRIDEミドル級GP」決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&小川&橋本 他 '03.11/880yen

人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!

- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦
- 横綱かK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー　桜庭和志
- "野良犬"「紙プロ」初登場！　小林聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12/900yen

大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!! 年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!

- 出てこい！ 泣き虫!! 橋本真也&小川直也
- 「泣き虫」著者登場！ 金子達仁
- 大晦日直前インタビュー！　田村潔司
- アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01/880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!! OH、ゴーバー登場!「ハッスル」とは何か!?

- PRIDE征服宣言！　ミルコ
- シウバに宣戦布告！　近藤有己
- ド真ん中の真実を語る 佐々木健介&北斗晶
- 発表！ 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&髙田 '04.02/880yen

プロレスよ、踊れ! 3・7「ハッスル2」は大フィーバー!!

- 「PRIDE GP」優勝宣言！ ミルコ&ノゲイラ
- 待望の「紙プロ」初登場！　川田利明
- 理想のプロレスを追い求める！ AKIRA
- スクープ！ 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03/840yen

最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

- GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- 第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- 全て見せます!!「突撃」佐々木健介邸

no.73 表紙 小川直也 '04.04/880yen

暴走王が忘れたころにやってきた! PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

- GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也
- PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
- キックの名伯楽登場！　伊原信一
- 魔界のニューリーダー　村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05/880yen

シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ! いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!

- PRIDE・GPでハッスル成功 小川直也
- リベンジロード発進!!　桜庭和志
- "ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場
- 製園会館皇帝　佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06/880yen

英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

- シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也with藤井軍鶏侍
- 奇蹟の独占インタビュー！　髙田総統
- インド狂虎登場！ タイガー・ジェット・シン
- 年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07/880yen

プロレス大爆発へ最後の挑戦! ハッスルするなら今しかねえ!!

- スクープ発言連発！　小川直也
- 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ
- 厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志
- 新連載「月刊PG談（仮）」 吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也 '04.08/880yen

「PRIDE・GP決勝」直前濃密大特集! 小川、史上最大の査定試合へ!!

- 「相手かヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」 小川直也
- 狙うは皇帝の首ひとつ！　ミルコ
- サンボの神様降臨!!　ビクトル古賀
- ロシアで英雄と再会！　ヴォルク・ハン
- 幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也 '04.09/840yen

PRIDE・GP」徹底総括! ハッスルとは出直しの連続なり!!

- 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也
- 小川の敗戦をどう見る!? 髙田PRIDE統括本部長
- K-1のトップが小川を語る　谷川貞治
- 壮絶インディー人生！　田中将斗

no.79 表紙 髙田総統&小川直也 '04.09/840yen

プロレス暗黒時代に魔王降臨! 髙田総統の激白を独占スクープ!!

- ハッスルキャプテンに休息なし！ 小川直也
- 特別付録・髙田総統特製ピンナップ
- 谷川さん推薦企画「曙は是か非か?」
- ビビッたか? ホヤいたか!? 金原モンスター軍

no.80 表紙 ミルコ・クロコップ '04.10/880yen

「PRIDE.28」直前! 守護神ミルコ、外敵狩りへ

- 独占ロングインタビュー　ミルコ
- ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也
- 新連載! 佐山サトルの右流々ン探訪紀
- 袋とじ企画・女子プロ界の謎に迫る！ グリズリー岩本

no.81 表紙 桜庭和志 '04.10/880yen

サク、4度目のシウバ戦決定! 大晦日格闘技戦争・濃密大特集号

- ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ
- 新日本でハッスル成功！　小川直也
- スーパーひとし君登場！　草野仁
- 狂気の天才対談が実現!! 佐山サトル×船木誠勝

no.82 表紙 桜庭和志 '04.12/890yen

大晦日大戦・超直前特集号! 男のSADAME、見に来いやーッ!!

- 「ホクは絶対に諦めない」 桜庭和志ロングインタビュー!!
- "道場破り"の全てを激白！　安生洋二
- WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪
- 伝説の悪徳レフェリー降臨！　阿部四郎

no.83 表紙 ミルコ '05.01/880yen

打倒ヒョードルに向けミルコが激白! PRIDEヘビー級王座への野望と渇望!!

- PRIDE 男祭り 怒濤の大総括！
- 2005年ハッスル大進撃計画を発表!! 小川直也
- 蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝
- シヘ超5！公開記念SP対談！ 水野晴郎×サスケ

no.84 表紙 セルゲイ・ハリトーノフ '05.02/880yen

ロシア人はロシア人が始末する! ハリトーノフがヒョードルに宣戦布告!!

- PRIDE王座へまっしぐら！　ミルコ
- "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ
- "頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司
- "起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

no.85 表紙 前田日明&髙田総統 '05.03/860yen

PRIDE vs HERO'S開戦! とっちが面白いか決めたらええんや!!

- PRIDE GP2005特集！ 桜庭和志、田村潔司、髙田延彦
- パンクラス2大王者が揃い踏み！ 髙阪剛×近藤有己
- 怒濤の37ページ!「前田イズムとは何か?」
- HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

no.86 表紙 ヴァンダレイ・シウバ '05.04/860yen

出場16選手を徹底分析! PRIDE GP 2005開幕直前号!!

- 大物再会！ 超U級対談か実現!! 船木誠勝×田村潔司
- ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!
- 皇帝、いざミルコ鎮圧へ　E・ヒョードル
- PRIDE GP&K-1 WORLD MAX 出場全選手パーフェクトガイド

no.87 表紙 吉田秀彦 '05.05/860yen

史上最も過酷な一回戦 PRIDE GP開幕戦を大総括!

- 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦
- GP1回戦突破対談! 桜庭和志×中村和裕
- 船木誠勝のマットネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫
- 蘇れ! 新日本プロレス学校対談 Part2 金原弘光×池田大輔

no.88 表紙 ハン&ハリトーノフ '05.06/880yen

格闘幻想大国2005 ロシア潜入徹底大特集号! 売り切れ寸前!!

- キラー発言連発!!　E・ヒョードル
- 狼魂伝承対談！　ハン×ハリトーノフ
- メヒコで大激白!! 初代タイガー×ウルティモ・ドラゴン
- 新生「武士道」大爆発！　五味隆典
- ADCC 17ページぶち抜き大特集!!

no.89 表紙 ミルコ・クロコップ '05.07/880yen

ミルコ、皇帝狩りへ 運命の一戦、待ったなし!! 売り切れ寸前!!

- さらば破壊王! 橋本真也追悼特集
- クロアチア現地独占取材!!　ミルコ
- ZST兄弟が感動(?)の再会!! 所英男×矢野卓見
- とっこい生きてる全女魂！　松永高司
- 前・新日本社長が独白！　草間政一

no.90 表紙 ミルコ・クロコップ '05.08/880yen

歴史的「PRIDE GP」ド直前!! 男の中の男たちの生き様に刮目せよ!!

- クロアチア現地取材第2弾！　ミルコ
- レッドデビル潜入取材！ 皇帝の強さの秘密に迫る!!
- 「HERO'S」パーフェクト選手名鑑
- カラーで大特集! インリン様とは何か?
- ターザン&デンジャーが"曙"を検証!!

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください

①「紙プロHand」で注文
② 電話注文
03-5368-1797
③メール注文
kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります

▷送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります

ご注意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください

紙のプロレスRadical 常備店

- アイドール新宿店
- 新宿ファイター
- プロレスマニア館
- チャンピオン
- タコシェ
- レッスル池袋
- 書泉ブックマート
- 書泉ブックタワー
- 書泉グランデ
- グレートアントニオ
- 東京イサミ

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する!
ノア勢フルメンバーで登場!!
- 三沢、秋山「紙プロ」初登場!
- プロレススーパースター列伝 仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.31 '01.0? / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
- ZERO-ONE本格始動　橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人　ランディ・クゥートアー

no.37 表紙 小川直也 '01.04 / 840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!!
純プロレス戦国絵巻
- 安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
- アブダビコンバット2001一大探検記!
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスかWWFにはある!

no.38 表紙 高田(イラスト) '01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- 忘れ物の正体は——。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen

猪木軍vs K-1に見たいものは"地上最強のプロレス"
- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- グラバカの核弾頭　郷野聡寛

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?
- トン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen

サクと「PRIDE」のケツに火がついた!!
- ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- 金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな　中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen

サクの連敗が「PRIDE」に語りかけるものは何か?
- その修羅場の数々! シーザー武志
- 怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ティック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen

「K-1 vs 猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- 悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!
- "天才"武藤敬司が「紙プロ」驚愕の初登場!
- 噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る
- 第一次リングス開幕特集
- プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- 奇跡のメガトン対談 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- WWEを知る男　ウォーリー山口

no.49 '02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!!
マット界灼熱の噂!
- 和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!
- 「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ギョ!? [編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen

ZERO-ONEに願いを!
- 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- 「PRIDE」の魅力をマン開! 小池栄子
- 天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- 新・超獣　ザ・プレデター

売り切れ寸前!!

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ!
小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 「PRIDE」侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の「LEGEND」前夜

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen

世紀のビックイベント「Dynamite!」直前大解剖!!
- ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- 爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- 偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.09 / 880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
- "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.56 表紙 Uインター '02.10 / 880yen

愛すべき若気の至り!
受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- 田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦
- 蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山
- 高田vs田村、観る側の覚悟! 浅草キッド
- 「紙プロ」に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

売り切れ寸前!!

no.57 '02.11 / 880yen

一瞬の11・24!!
高田延彦引退試合を大総括!!
- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 '03.01 / 880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談　田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会　宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02 / 880yen

吹けよ!呼べよ嵐!!
マット界新風景が見えてきた!!
- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器　中村和裕
- UWFの再興と再考　田村潔司

no.60 '03.03 / 880yen

英雄、変貌好む!!「PRIDE」RE・BORN!!
- ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04 / 880yen

5・2仁義ある闘い!!
やっちゃうぞバカヤロー!!
- 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05 / 880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
- ウァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- 藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲(イラスト) '03.06 / 880yen

吉田秀彦が大英断!
ミドル級GP出陣!
- 「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦
- 「PRIDE」REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

リニューアルを機にいろんな力を求めます

株式会社ダブルクロスの求人情報

kamipro

スタッフ募集!

『紙プロ』を作ってる会社、(株)ダブルクロスでは、業務拡大のため社員(編集スタッフ)を募集します。募集内容は以下の通りです。

募集内容

1.編集者(編集経験者)

2.編集見習い※アルバイト含む(紙プロ、単行本、パンフレットなどの制作業務)

3.電気部(紙のプロレスHandの制作業務)

4.衣料部(グッズの制作・販売)

【応募資格】 30歳ぐらいまでの都内近郊在住者(学生可)
編集経験者、コンピューターに詳しい方優遇/勤務時間、休日、給与等は要相談/交通費支給(通勤時間1時間以内・勤務地=代々木)

【応募方法】 希望職種明記の上、履歴書(写真貼付)、作文(テーマは『紙プロと私』400字×2枚)を下記の宛先まで郵送してください。なお、自己PRグッズ(編集経験者は、これまで作った刊行物等)、編集企画書などを同封していただいても結構です。なお、履歴書は返却できません。

【締め切り】 10月17日(月)到着分有効

【宛先】 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
株式会社ダブルクロス スタッフ募集係

【問い合わせ】 03-5368-1795(担当:堀江、坂井)

フリーカメラマン、ライター、編集者も募集!

新生『紙プロ』で力を発揮してみたいと思っているフリーのカメラマン、ライター、編集者、イラストレーター等も大々的に募集いたします。興味がある方は、下記までお電話下さい。作品を見させていただきます。たくさんのご応募お待ちしております。

【TEL】 03-5368-1795(担当:堀江、坂井)

UWFからOH祭り、
そしてBMLを陰で支える
徳島の名物男

“フクタの大将”奮戦記

フクタレコード店長／BML取締役

福田典彦

このたびビックマウス・ラウトの取締役に就任した福田典彦といえば、徳島のプロレス興行には決して欠かすことのできない名物男。前田日明や上井文彦と繋がりを持ち、新生UWF徳島大会の獅子奮迅ぶり、そしてあのOH祭りだってしっかりサポート！　そんなスーパーサポーターのこれまでの奮戦ぶりをおうかがいした

聞き手／ジャン斎藤　designed by Shitak　TwoThree

──今日は、UWFの伝説的人物として語り継がれている福田（ふくだ）さんにお会いできて光栄です！

福田　いやいや、何が伝説かわからないですけどね（笑）。私はただのレコードの親父ですよ。

──でも福田さんの存在なくして新生UWFの隆盛はありえなかったと言われてるわけですから。できればその辺のお話と、福田さんが取締役に就任された「ビックマウス・ラウド」（以下BML）について詳しく聞かせてください！

福田　ああ、BMLのこともですか（笑）。まあ、わざわざ東京から徳島まで来てくれたことだし、言える範囲でしゃべりますよ。

──よろしくお願いします！　まずはプロレス・格闘技への関わりからおうかがいしたいんですが、もともと福田さんは格闘技をやられていたそうですね。

福田　昔はかなりかじってたんですよ。喧嘩で網膜はく離になってからは駄目ですけどね。

──喧嘩で網膜はく離！　昔はかなりヤンチャだったんですか？

福田　そやね（笑）。だからこの辺で道場やってるのはだいたい私の友人たちばかりで、その関係で若い連中が自分のとこに寄ってきてるんですよ。それがノブ（・ハヤシ）〈注1〉やアレク（サンダー大塚）〈注2〉だったりね。

──四国出身で福田さんが面倒をみた選手は数多いですけど、それは福田さんがUWFに深く関わっていた影響も強いんでしょうね。

福田　それもこれもユニバーサル（・プロレス、旧UWF）〈注3〉がすべての始まりですよ。私はずっと格闘技をやってきた人間ですけど、ユニバーサルの格闘プロレスを一目みてピンときましたから。こんな闘いを俺らは目指してきたんや！ちゅうね。

──それで福田さんが中心になって、ユニバーサル徳島後援会を設立されたわけですか？

福田　私は副会長だったんですけどね、会長がユニバーサルの事務所に電話して、「徳島にぜひ来てくれ！」ってお願いしたんですよ。いま振り返ってみると本当に無謀でしたねえ（笑）。

──いくら大好きだからって冒険がすぎますよね（笑）。それって興行をプロモートされたってことなんですか？

福田　いや、買い興行ってわけじゃないんですよ。ウチのレコード屋をプレイガイドにしてチケットをさばいていたぐらいで。

──それって普通の業務だし、とりたて興行との関係性も強くないから、本当に熱意だけで協力されてたんですね。

福田　ユニバーサル側からするとね、徳島にすごいスポンサーがいるって思ったみたいなんですよ。そこは完全に誤解なんですけど（笑）。

──わざわざ電話して「徳島に来てくれ！」というからにはそう思うでしょうね（笑）。

福田　ところが実際に来てみたら、スポンサーはおらんのやけど、私らの熱気がもうすごかったんやわ。で、そういうことなら来るしかないだろってなったんでしょう（笑）。私らからすれば運動会の延長っていうかね、そんなかんじですよ。

──でも、ユニバーサルの地方興行って本当に客が入らなかったみたいじゃないですか？

福田　入らなかったですねえ。私が呼んだときもそんなに入らなくて、しかも前田（日明）さんは来れなかったんですよ。

──佐山（聡）さんとセメントマッチ〈注4〉をやった直後で欠場されてた時期だったんですか？

旧UWFの格闘プロレスを一目みてピンときて 絶対に徳島に呼ぼうと思ったんですよ

福田　そうそう。そういうことがあったから「どうしても前田さんを徳島に呼びたい」ってことは神（新二）〈注5〉さんにも言ってたんですけど。神さんも私らの熱を感じてくれて「もう一度来ます」って言ってくれたし。

──でも結局ユニバーサルは倒産しちゃって。新日本と業務提携することでなんとか生き延びることになったわけですけど。

福田　でも、そのあいだっていうのは神さんや鈴木（新生UWF副社長）さん、それに選手の方々から私にちょくちょく電話が入ってたんですよ。「かならずもういちど団体を旗揚げするから！」って。

──じゃあ前田さんが長州さんの顔面を蹴って新日本を解雇〈注6〉されたときなんかは……。

福田　あの事件で私は自信をもちましたね。神さんから「いよいよやります！」という電話もありましたし、実際、本当に新生UWFを立ち上げて徳島に来ることになりましたから。

──その新生UWFは興行を打つたびに超満員で、とにかくすごい人気だったわけですけど。

福田　旗揚げ戦の後楽園ホールはチケットが15分間で完売でしょ？　ああいう打ち出しは音楽業界のステータスで、それをプロレスで最初にやって大きく取り上げられたのがUWF。それがね、私らにはプレッシャーになりました。なにがあっても満員記録を途絶えさせるわけにはいかないから。

──でも地方では「UWF？　なにそれ？」というかんじでまだ浸透してなかったんじゃないですか？

福田　本当にそうなんですよ。地方で

UWFの大会プロモーションのために徳島を訪れた前田日明。腕相撲大会や握手会、なんと献血運動にも参加！ このあと前田自身もしっかり献血に協力したとのこと

いきなり完売なんてありえない。満員に超を付けないといけないってことで、神さんたちにはだいぶ尻を叩かれましたけどな（笑）。

札幌大会はリング・パレスの日野（雅仁）〈注7〉さんが協力していたそうですけど、第二次UWFってけっこう大胆な博打を打ってますよね。だってボランティアの存在が大会の命運を握っていたところがあったわけですから（笑）。

福田 本当にね（笑）。日野さんにしても私らとはやり方が違うかもしれんけど、あくまでボランティアというスタンスですよ。客がどんだけ入ったからって、それに対してなんかもらったわけじゃなし。

それくらいUWFに熱中していたし、エネルギーを掛けるべきものがあの団体にはあったということですね。

福田 当時のファンは熱かったからね。いまインターネットで騒いでるファンとはまるで違うで。ちゃんと顔を向き合わせてプロレスを見ていたし。そのころ週プロの（ターザン）山本さん〈注8〉が、UWFの地方興行を「密航」という言葉で煽っていたから、その後押しも大きかったと思いますけど……それでも本当に大変でしたねえ。

福田さんからすると、いかにしてプロレスファン以外にチケットをさばくか、という勝負になったわけですよね。

福田 同じ四国でも高知なんかではテレビのチャンネルが少なかったから、もの珍しさでお客さんが入るんですよ。民放なんて2、3つしかなかったからね。でも徳島は、なまじっか関西のチャンネルが全部入ってまうから、ちょっとやそっとのことじゃあお客さんがわざわざ会場に足を運ばない。日本武道館を満員にした当時の浜田省吾でさえ徳島では入らなかったからね。

まるで興行には向いてない土地なのに、福田さんは徳島市立体育館を超満員にしたんだからすごいですよ！

福田 まぁ自分の力には限界があるから、あとは若いもんがどれだけがんばってくれるかっちゅうとこもありましたわ。まいにち街じゅうを営業して歩いて、夜は飲み屋をまわってね。

——興行主でもないのにそこまでやりましたか（笑）。

福田 あの頃はバブルが終わりかけの時代やから、お酒飲んでいい気分になってる人ってけっこう勢いで買ってくれるんですよ。もう押し売りみたいになっとったわ（笑）。

あとハウンドドッグの大友（康平）さんに宣伝文を書いてもらったんですよね。「俺たちはライブで徳島には行けないけれど、近くに住んでいるみんなはどうか男たちの熱い闘いを見届けてくれ！」といった内容で。

福田 そうそう。友さんが直筆で手紙を書いてくれてね。もちろんそれをコピーしてファンクラブの会員に配送したんやけど、ホント義理堅い人間なんですよ。

高田（延彦）さんがカラオケでよくハウンドドッグを熱唱していたのは、そういう繋がりで大友さんと親交があったからなんですか？

福田 いまはどうなってんやろな？ 一度、高田さんと友さんとは大喧嘩したって聞いてるけど。たしか高田さんがトイレの順番を待ってたのを友さんがすっ飛ばして先に入ったとかで。

ものすごい理由の喧嘩ですね（笑）。

福田 半分冗談かもしれんけどな（笑）。で、その友さんの結婚式が新生UWFの旗揚げ戦と同じ日だったんですけど、運命的なものを感じましたねえ。私は友

人代表で挨拶させてもらったから旗揚げ戦は観れなくて、そのときに言った言葉が「今日ほど身体が二つほしかった日はない」だったんですけど（笑）。

――前田さんが「選ばれし者の恍惚と不安、二つ我にあり」と言ってる裏でそんなことを（笑）。そういえばＵＷＦってマット界で初めてチケットをチケットぴあで売ったんですよね？

福田　じつはそれを紹介したのが私なんです！　マザーエンタープライズの福田（信）さんという方を神さんに紹介したことがきっかけになってるんですよ。

――マザーエンタープライズはハウンドドックの事務所になるわけですが、その福田さんの人脈がＵＷＦを大きくしたという側面もあるんですね。

福田　だから前田さんがいまだに「福田さんがいたから……」と言ってますけど、それはボクじゃなくてマザーの福田さんを指しているんだと思います。もしかして両方かけてるのだったら光栄ですけど。

――当時のプロレス界では画期的だったレーザー光線などの会場演出も、マザーの福田さんのアイデアなんですか？

福田　そう聞いてますね。マザーの福田さんは音楽業界のノウハウをプロレス興行に持ち込みましたから。

――新生ＵＷＦは、外面的には栄華を極めましたが、福田さんから見た選手同士の仲っていうのはどうでした？

福田　すごくよかったですよ。和気あいあいとしてて。とくに前田さんと髙田さんの二人は兄弟のような関係でしたよ（しみじみと）。

――むかしは本当に仲が良かったと言われてますよね……。崩壊の原因は、金銭絡みの疑惑がフロントと選手の間に持ちあがったせいだと言われてますけど。

新日本営業時代の上井さんと、"打倒・プロレス"の闘志は尽きない青柳館長。福田さんは徳島に訪れるあらゆるプロレス団体に協力は惜します、上井さんと福田さんはユニバーサル、新日本時代からの付き合いなのだ。

福田　そういう噂はあったけど、どこまで本当かはわかりませんね。ただ、考え方の違いというか、みんな会社に対してそれぞれの、こうあるべきだという意見があったんやね。たとえばマザーの福田さんは「ＵＷＦがここまで大きくなった以上、社長の神、お前はベンツに乗れ」と。それがステータスっちゅうか、社長という立場上、会社の経営がどんなに苦しくても、外に出るときは颯爽と肩で風きって堂々としとかなあかんというね。

――見栄を張ることも大事な仕事ってことですよね。

福田　そうそう。結局みんなそうしてますやん。ただ、前田さんはそれを許さなかったんですよね。もうちょっと会社が軌道に乗ってからでいいんちゃうかと。ホントかどうかわからんけど神さんに言わせれば、上の選手たちには自分ら以上の給料を渡してたみたいなんですけど、それが逆に前田さんからすればイヤだったみたいで。

――だからこそ前田さんは第二次ＵＷＦ解散後、下の選手たちが路頭に迷わないように自腹で給料を払っていたんでしょうね。

福田　前田日明というのはそういう男なんですよ！　リングスのときだって、選手が怪我で試合しなくても給料を払ってましたし。

――前田日明を見続けてきた福田さんからすると、当時と比べて前田さんが何か変わられたところってありますか？

福田　う〜ん。いまは角が取れたっていうかねえ。人の話をちゃんと聞いてくれるようになりましたね。

――前は人の話をきかなかった（笑）。

福田　前は話なんか聞きませんよ！　良くも悪くも、それが前田日明（キッパ

リ）。それはUの連中も同じでしたから。

　UWFは個性の強い人たちの集まりでしたよね。

福田　船木（誠勝）選手もそうだし鈴木（みのる）選手なんか、気にくわない話になると、いつのまにか電話をプチっと切ってしまってそれから3ヶ月は電話に出てくれませんでしたから（笑）。

　当時こそが「世界一性格の悪い男」だった（笑）。

福田　なんとかそんな選手たちをまとめようと、神さんが努力していたのは知ってましたけど。なにしろ強烈な個性のぶつかりあいやからねえ。

　結局「誰が悪い」という話でもないんでしょうね。

福田　そうそう。神さんや前田さんの言うこともわかるんですよ。でも自分としては「神さんはそんなに悪い人じゃないですよ」って選手たちに説明できなかったという不甲斐なさはありましたよね。

　選手とフロントの狭間に立って苦労されたところもあるんですね。

福田　たとえばね、大阪球場大会が満員になったということになってたんですけど、じつはあの大会にお客はあまり入ってないんですよ。

　あ、そうだったんですか！　よくよく考えれば大阪球場を満員にするって大変なことですよね。

福田　赤字じゃないとは思いますけどね。大阪界隈にはナショナルの看板を掲げるお店が何百軒とあるんですけど、そこに招待券を5枚づつ送ってるんやから。選手からすれば、あれだけの観客が入ってるんだって思うだろうけど、神・鈴木というのは裏で苦労してたんですよ。私はそれを知ってましたけど、そういう説明は選手に対してできなかったですねえ……。

　真実を明かせば選手のプライドを傷つけることにもなりますよね。

福田　そう。選手からすれば、俺たちを見るためにあれだけのお客さんがチケットを買ってくれたんだ！　と思ってるわけやからね。

　一枚岩にヒビが入るのってたいていそういうときですよね。「あれだけ客が入ってるのに、なぜ会社の運営が苦しいんだ!?」っていう猜疑心が選手に生まれてしまって。

福田　正式な数字を出したとしても、選手は選手で「そんなことあるか！」って思うわけやしね。そのへんで選手とフロントとの壁がありますよね。だからって選手が社長をやったら状況は良くなるのかっていったら、そう上手くもいかへんしね。

　福田さんはそんな内部のゴタゴタをどうしようもなく静観していたというかんじですか？

福田　私らなんかは何だかんだ言いつつ、うまくいくやろと。そういう甘え考えがありました。ええカッコするわけじゃないけど、私はいろいろ話を聞いていたから逆に口出しできないし、選手のほうからも相談を受けるんですよ。そしてそれに対してホンマの話はできないというね。仮に神や鈴木をほめようとしたらコレですよ（手を払いのける仕草）。

　中野（龍夫、現・巽耀）さんなんかは神さんのことをだいぶ理解されてたみたいですけど。

福田　中野のたっつあんだけは、中立というのかな、神さんたちの話を聞いてくれてました。でもそういうことを「とてもじゃないけど先輩のレスラーたちには言えません」っていうてたね。

　では、UWF最終幕の興行となった松本大会のバンザイ事件〈注9〉で、事態はいい方向に転がると思いましたか？

福田　一般のファンはどう思ったかわかりませんけど……。選手ばっかりで手を挙げたことだから。フロントにはひと言も知らされてなかったからね。

　でも結局、選手側も一致団結できずに第三次UWFは幻に終わり、3つ（リングス、藤原組、UWFインターナショナル）に分かれてしまって。

福田　私は最初から、よっつぐらいに分かれるんじゃないかという予感があったんですよ　というのは、数人の選手たちとそれぞれ話をして、こんなに個性が強い人間たちがひとつにまとまるわけがないっていうね。そんなもん、誰がまとまるかいって。それに選手からすると、当時はあらゆるものに対して不信感の塊だったと思いますよ。解散したあとも神さんは毎日のように、選手に引きとめの電話をかけていたしね。

　神さんは仕切り直そうとしてたんですか？

福田　そういう野心は持ってましたね。前田さんさえ外せば、まだ選手はついてくるんじゃないかって思ってたんでしょう。船木・鈴木両選手にしても、毎日のように私に電話をかけてきたんですけど、神さんの話が正しいのか、前田さんの話が正しいのかっていう話ばかりでしたよね。私からすると、もう誰も悪くないんだけど。

　そのあとの3派分裂劇で前田さんがひとり孤立した状況というのは、フロントや前田さんに対する不信感だけが選手のなかに残ってしまったという結末なんですね。

福田　私は、別れた直後もみんなとそれぞれ会ってるんですよ。前田さんは徳島まで来てくれて、髙田さんとは東京でお話しして。神さんは結局、そのあと水を売るとかなんかいうとったんかな。

　神さんは露天商のビジネスをやってるという噂を聞いたことありますけど。

福田　一時期たこ焼き屋をやってたって聞いてますね。鈴木さんも一緒に水とたこ焼きの露天商をやっていて、川崎（浩市＝ブッカーK）」〈注10〉なんかも売らされてましたから。

　いまや大物ブッカーの川崎さんもたいへんな道のりを経てますね（笑）。ちなみに鈴木さんは何をされてるんですか？

福田　鈴木さんはね、日本古来の笛をつくってるのかな。

　UWF、水、たこ焼きを経て、日本古来の笛ですか（笑）

福田　自分で吹いてるっていうてた。なんかそれがビジネスになってるみたいで、東京でお会いしたときに相撲の行事さんのような格好をしてはったよ。

　なんか現実離れしてますね（笑）。

福田　まぁ、いろいろあったからなあ、UWFは……（しみじみと）。

　UWFってプロレスの変革を目指すいわゆる運動体だったと思うんですけど。いつの世の運動体も挫折するのが常で、そこに関わった人たちは何かしらの喪失感を体験していますが、福田さんは何か自分の一部を失ってしまったという実感はありますか？

福田　どうやろねえ。私のことをね、（ターザン）山本さんは「Uの化石」って言うんですよ（笑）。どっちかっていうと、私にはまだ、Uというものがこの身体につながっているというか、失った感覚ってないんですよ。どうこう言ったところでしょうがないですやん。まあ新しく熱中できるものを追いかけるだけでね。

―いまはBMLだと？

株式会社ダブルクロスの求人情報

[illegible]の名物男 "フクタの大将" 奮闘戦記

昨年9月、横綱・朝青龍の結婚披露宴に出席した前田日明。前田の前方には福田さん、BMR最高顧問の和田さんがおさまり、高山善廣、新崎人生らの顔も見える

福田　自分が今日いちばん言っておきたいのもね、やっぱりそのBMLのことなんですけども。そのもとになったのはね、じつは山口日昇（本誌鬼畜編集長）さんなんですよ！

へ？　もしかしてウチの山口がなにか失礼なことでも……。

福田　いやいや、そうやないで（笑）。すこし大袈裟に言うとね、山口さんがいなかったらBMLはできてなかった（キッパリ）。

きっと本当に大袈裟に言い過ぎてますよ！（笑）。いったい何があったんですか？

福田　話せば長くなるんですけどね。ほら、ちょっと前に『OH祭り』〈注11〉が徳島に来たでしょ？

プロレス史に残るほどトラブル続きで、仕切る人間が不在でなぜか山口がフォローしていたイベントですね。大会関係者は散々な目に遭ったみたいですけど、外野のボクらは楽しませてもらいました（笑）。

福田　私は徳島大会だけお手伝いさせてもらったわけですけど、『OH祭り』のときは本当に時間がなくて、ホントどうしようか？ってぐらいチケットが動かなかったんですね。

徳島大会だけが唯一盛況だったみたいですけど、やっぱり裏側では大変だったわけですか？

福田　ますチケットが出回ってなかったですしね（キッパリ）。

ワハハハ！　それは大変というより根本的に何かが間違ってますよ！

福田　いや、ウチの担当分はちゃんと届いてたんですけど、そのあともなんでかチョコチョコ送ってくるんですよ。それでウチにきたチケットの座席表を塗りつぶしていったら、な～んか客席のほとん

〈注1〉『ブブ・ハヤシ』[illegible]

〈注2〉『アレクサンダー大塚』[illegible]

〈注3〉『ユニバーサル・プロレス』[illegible]

〈注4〉『セメントマッチ』
1985年9月2日大阪スポ[illegible]
[illegible]戦。前田の膝蹴りが佐山の金的[illegible]佐山が試合続行不可能を告げ[illegible]田の反則負け。憤りを隠せない前田は[illegible]リーズを欠場する

〈注5〉『神新二』
しんしんじ。新日本プロレス営業からユ[illegible]

〈注6〉『新日本を解雇』
1987年11月9日、新日本プロレス後楽園大会、サソリ固めを仕掛けた長州を前田がカットプレーした際、長州の顔面を蹴り上げてしまう。長州の顔はみるみ[illegible]
[illegible]として、前田は新日本を解雇される。[illegible]

〈注7〉『日野雅仁』
北海道の[illegible]プ「リング・パレス[illegible]」のパーソナリティを務めている

〈注8〉『ターザン山本！』
[illegible]

どが塗れてしまう勢いなんですよ。だいたいウチで売れる枚数なんか決まってるのに。

――しかも『OH祭り』のチケットを取り扱ったCNプレイガイドが徳島にはなくて、福田さんは「山口さん、CNプレイガイドは徳島にないで！」って絶句したわけですよね（笑）。

福田 そんなんで売れるはずないで（笑）。

あとコンビニの「サークルK」でも買えたそうですけど、高松までいかないとなかったみたいで（笑）。

福田 おまけにウチ以外では会場の徳島市体育館に残りのチケットを全部送ってることがわかって。

――……馬鹿げた質問ですけど、徳島市内で『OH祭り』のイベント告知は当然されてたんですよね？

福田 それはもちろんやっとったよ（笑）。私が出演していたラジオ番組でも宣伝してましたから。

――福田さんからすると、『OH祭り』は一般的な段取りとか含めて、いわゆるちゃんとしたイベントだと思われてたんですよね？

福田 もちろん思おてました。

――どのぐらいの時期から雲行きの暗さを感じました？

福田 どの時期も何も、大会がすむまでは私ら荷馬車のごとく走り回ってましたからね。他のところにお客さんが入ってないことを聞かされてないんですよ。

――まあ、開幕戦の数日前に決勝会場の富士急ハイランドを押さえてなかったことが判明したぐらいですからね（笑）。ちなみに正式な主催者の方とは会われたんでか？

福田 いやあ、全然知りません。主催者というか、中村（祥之）さんやオッキー（沖田）とかZERO－ONEのスタッフとは会いましたけど。

――聞けば聞くほどミステリアスなイベントですね（笑）。

福田 もともとOH祭りが徳島に来ることになったのもね、四国にアイランドリーグという野球リーグと、ヴォルティスというプロスポーツ集団がふたつできたんですけど、ヴォルティスのGMをやってるのが米田豊彦という人物なんですわ。もともと徳島新聞の事業部長をやってたんですが、その米田GMが高校生を集めて、小川（直也）さんを呼んだ講演会をやったのよ。

――ああ、たしか山口が司会をやったんですよね。

福田 そうそう。そのときに米田GMが「小川さん、四国でプロレスをやるときは声をかけてください」と言ってたんです。それで山口さんが「徳島にも行こう！」ってことになったんでしょう。

――なるほど！　徳島はあの巡業ルートからはまったく外れてるからおかしいなとは思ってたんですよ（笑）。

福田 でも米田GMはプロレスの興行のことをよく知らなくて、私が応援したわけですけど。あんまりにもチケットが動かないから米田GMにスポンサーを紹介してもらったんですね、それでお会いした方が、いまBMLを支援している実業家の和田（友良）さん！

――BML最高顧問の和田さん。やっとBMLに繋がりました（笑）。

福田 山口さんがいなかったら和田さんとも知り合ってないし、そしたらBMLもなかったんですよ（笑）。

――……な～んかやっぱり山口の存在はあまり重要じゃないですね。

福田 そんなことないで。しかもそう考えたほうがおもしろいでしょ？

BMLができるきっかけは じつは山口日昇さんなんですよ！

――前田連合軍と山口の政治的な状況からすれば（笑）。和田さんって朝青龍の全国後援会会長なんですよね。

福田 そうです。それにね、じつは和田さんという方は、ザンテ・聖デニス・ギリシャ勲章〈注12〉をもらってるんですよ。

――いったいそれはどういった勲章なんですか？

福田 （大きく息を吸って）過去の勲章受理者はケネディ大統領、マザー・テレサ、シュバイツアー！

――凄い！（笑）。歴史の教科書に載ってもおかしくない人間がBMLを後援している！　と。

福田 そういう方なんて、誰もが知ってるわな、この政財界では。それがじつは格闘技がすごい好きな方でして、和田さんは和田さんで福田典彦という人間に一度会ってみたいと思っていたそうなんです。

――上井さんのほうは和田さんをご存じなかったんですか？

福田 朝昇龍関のお兄さんにブルー・ウルフがいてはるでしょ。その関係で何度か会ったことはあるって言ってました

BMLの旗揚げ記者会見は、ちんけなVシネがビビってたじろぐド濃厚な顔ぶれ！　前田日明、和田最高顧問、そして顧問に就任した前田信者でプロレスファンの横峰さくらの父、良朗氏「旗揚げ戦の日は、さくらのキャディーをやらなきゃいけないんたけと後楽園に行きます！」とノリノリ

〈注9〉『バンザイ事件』
1990年12月1日、UWF松本大会 [illegible]

〈注10〉川崎浩市
[illegible]

〈注11〉『OH祭り』
平成の七大ミステリー [illegible]

〈注12〉ザンテ・聖デニス・キリシャ勲章
[illegible]

〈注13〉安生洋二
[illegible]

リニューアルを機にいろんな力を求めます

株式会社ダブルクロスの求人情報

徳島の名物男 フクタの大将 奮戦記

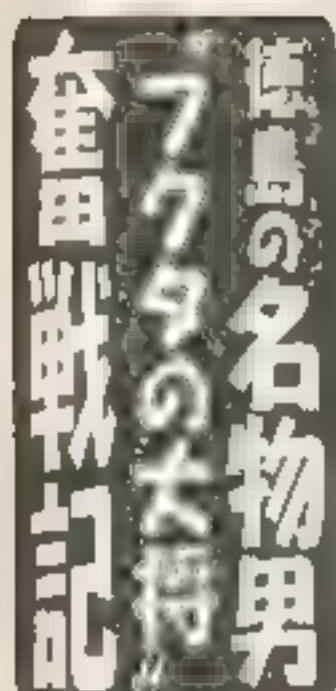
けど、そのときはそんなに深く知り合ったわけではなかったんです。そのあと上井さんから私のほうにスポンサーを紹介してほしいという相談があって、それを和田さんに話したところ「福田君、上井さんを徳島に呼んであげたら」と言ってくれたんですわ。じつは和田さんは私の紹介で前田さんとも会ったことがあって、そのときも「何かしら協力したい」と言ってくれましたから。

たしか朝青龍関の披露宴に前田さんが招待されたのもその繋がりからなんですよね。

福田　そうなんですよ。私はリングス休止後も前田さんとは連絡を取ってたんですけど。でもね、私はむつかしい話には一度もよう触れなかった。「前田さん、元気にやってますか？　徳島に遊びに来てや」って言う程度のことしか言われへんかった。

前田さんのほうも込み入った話には触れなかったんですか？

福田　うん。その代わりといっちゃあなんですが、弱音も愚痴もいっさいなかったわな。というか前田さんは弱気なところは見せんな。それに人の悪口を絶対に言わなかった。こっちが水を向けても前田さんは絶対にいわなかった。ただ、安（生洋二）〈注13〉ちゃんのことだけは言うてたけどな（笑）。

―さすがに（笑）。あの充電期間に前田さんが何をやっていたのか興味深いんですけど、やっぱり釣りや刀を磨いたりして悠々自適に過ごされていたんでしょうかね？

福田　前田さんは刀や槍が大好きだからね。むかしね、私の知り合いに木下藤吉郎（豊臣秀吉）の遠縁にあたる人がいまして、前田さんを連れてその家に行ったことがあるんですけど、旧家だから蔵があるんです。その蔵に前田さんがひとりで入っていって、伊万里焼のおちょことか自分で洗ってきれいにしてね、嬉しそうにもらって帰ってましたけど（笑）

前田さんにとってみればお宝の山だったんでしょうね（笑）。

福田　楽しそうにしてはったわ。あとそこに槍が飾ってあったんやけど、ひと言「いいですか？」って言った直後には七つ道具を持ち出して槍の頭を簡単にバラしてもうとるんよ。そんでコンコン叩いとるかと思ったら、虫眼鏡でジーッと見とったりね。それでどれぐらいの値打ちのもんかっちゅうのを本を持ってきて調べてはりました

しかし和田さんの件もそうですけと、福田さんの人脈が前田日明という人間に活力を与えているわけですね

福田　いやいや、私は何にもしてないよ（笑）。和田さんが前田日明という人間をえらい気に入ってくれたことが大きいだけでね。でも、その前に上井さんをどないかしてあげんとしゃーないやろってことで、徳島で上井さん、和田さんの3人で飲んだんですわ。

―そして、3人のイニシャルを合わせたらUWFだったことが発覚して。

福田　上井さんのUに、和田さんのWに、私のFでね（笑）。それには驚きましたし、和田さんも上井さんを後援することになって。

――上井さんは『W―1』や『HEROS』にも携わっていましたが、やっと上井色を全開にできることになったわけですね。

福田　私からすると、和田さんという存在は、マザーの福田さんに被るんですよ　それで和田さんが上井さんのスポンサーになった条件というのが「ひとつお願いがある。福田君を取締役に入れてくれ」ということで。

―それで福田さんもBMLの取締役に就任されたんですね。

福田　応援はするけど、本当は表に名前を出したくなかったんですけどね。でも、上井さんには義理もあるし一丁やったるかと。

秘密兵器を前田さんに預けようと思ってます

【ふくた・のりひこ】徳島・東新町のフクタレコードの名物大将。四国放送で7年間に渡り、放送されたラジオ番組「徳島発週刊チャ ークプロレス」のパーソナリティーを務める。福田氏の波瀾万丈な格闘技歴は各自調査！　プロレス・格闘技好きがフクタレコードに集う理由がよくわかるのた

取締役として、BMLの方向性というのはどういうかんじになるんですか？

福田　……じつはですね、私はまったくわからんのよ（笑）。東京で旗揚げ会見前に前田さんの家に選手や関係者が集まって打ち合わせがあったんですけど、こっちで阿波踊りがあったから私は行けなかったんですよね。私の口から、「どんなかんじになるんですか？」って聞くわけにはいかんし、まぁ上井さんという人は、相当いろいろ考えてると思いますけどね。はっきり言って、すべては上井さんにかかってるからね。

前田さんも「旗揚げ戦に中心人物を連れてくる」って言ってますよね。

福田　人材発掘のことなんかは私も力になれるかなっていうのがありますし、和田さんはモンゴルにつながりがあるわけですよ。前田さんは前田さんで「ロシアにはハリトーノフやヒョードルがゴロゴロいてる」って言うてますし。

前田さんは「山本KID級がゴロゴロしてる」ってよく言ってますけど、ヒョードル級もゴロゴロしてますか！

福田　ただね、わたしがひとこと言ったのは、主役は日本人選手じゃなきゃダメですよって。

興行的にも宣伝するためにも日本人の柱は必要ですよね。

福田　K―1なんかもいま何でMAXに人気があるかといえば、魔裟斗選手なり武田（幸三）選手なり小比類巻（貴之）選手なりの日本人がそこそこ上位におるからであってやな。ま、四国にもすごい逸材がいますからね。私は見る目だけはありますから、その秘密兵器を前田さんに預けてK―1にでも送り込んでやろうかなって思うてますねん。

――これからも前田さんのサポートを期待してます！

【05年8月21日／徳島にて収録】

NATURAL BORN
HERO'S
9.7 HERO'S 2005
MIDDLE WEIGHT TOURNAMENT
ARIAKE CLOSSEUM

須藤元気　山本"KID"徳郁

生まれ持った星に殉ずる覚悟と凄み

文／[illegible]本[illegible]洋　撮影／乾晋也

やっぱり、人間には生まれ持った星というものがあるんだろうか。この大会を見ていたら、そう思わずにはいられなかった。実力も個性もあふれんばかりに持ち合わせた選手8人が決勝進出の切符を争った「HERO'S」ミドル級トーナメント。大番狂わせや劇的なドラマを生む可能性は、いくらでもあったはずである。が、最後に残ったのは須藤元気と山本"KID"徳郁。

所英男が宇野薫を相手に見せた驚異的な健闘ぶりには心を揺り動かされた。キャリアや実績では遥かに下のはずの所を徹底的に研究、スカードされ際の十字という得意パターンを完全に封じた宇野の試合運びにはうならされた。高谷裕之がレミギウス・モリカビュチスに完勝したのには本当に驚いた。それでも、結局はというかやはりというか、「HERO'S」スタート前からの人気選手であり、本命の2人が決勝進出。

"勝つべくして勝つ"という当たり前のようでいて恐ろしく難しいことを成し遂げた須藤とKIDには、心の底から感服した。しかも須藤は2試合とも一本勝ち、KIDもKOとTKOでの勝利である。正直、大会前にはこの2人が途中棄権するんじゃないかという危惧もあった。知名度抜群の須藤とKIDは、試合で負けさえしなければ絶対に価値は落ちないのだ。須藤は前大会をケガで欠場しているし、KIDはハードヒッターゆえ拳を傷めやすい。いまさらリスク背負って優勝を狙うまでもない。無理しなくていいよ。そうなってもおかしくはなかった。

だが、2人は準決勝のリングに上がり、きっちり結果を残した。ここぞという舞台は絶対に逃さず、他の誰よりも輝いてみせる。それがつまり、彼らが生まれながらに持った星なのだろう。彼らには数値では表すことのできない"実力以上の実力"がある。そしてこの2人

ミドル級世界最強王者決定トーナメント準決勝

○山本"KID"徳郁vs宇野薫

[2R 4:04 TKO]

宇野との対格差を考え、KIDはスタンド勝負。お互い何度も拳が交錯するスリリングな展開の中、宇野が左目上から出血。一度は続行となったものの、ドクターストップとなった

ミドル級世界最強王者決定トーナメント準決勝

須藤元気vs高谷裕之×

[2R 3:47 三角絞め]

強打を誇る高谷が半身で逃げる元気にプレッシャーを掛け続けペースを握るが、2R、高谷が足を滑らせたところで元気はバックに回り、十字狙いから三角絞めに切り替えて逆転勝ち！

ミドル級世界最強王者決定トーナメント準々決勝

○山本"KID"徳郁vsホイラー・グレイシー×

[2R 0:38 KO]

昨年、タックルを潰され、元気にパウンドでKOされたホイラーは今回、スタンドでも勝負。しかし、2Rヒザ蹴りを放ったところカウンターのフックを浴びて失神負け！

ミドル級世界最強王者決定トーナメント準々決勝

須藤元気vs宮田和幸×

[2R 4:45 腕ひしぎ十字固め]

序盤レスリングで上回る宮田がタックルを決めるなど、有利な展開に持ち込むが2Rになると元気がペースを取り戻し、チョーク狙いと見せかけての腕十字で一本勝ち！

が決勝進出を果たしたということは、つまり大晦日の『Dynamite!!』で須藤元気VS山本"KID"徳郁戦が実現するということだ（当たり前だが）。もう、ホントにとてつもない爆弾カード、キラーコンテンツである。大晦日視聴率戦争は、早くも『Dynamite!!』が大量リード。今大会の勝者は須藤であり、KIDであり、そしてTBSでもあった。

全てが完璧。万々歳。そんなムードのはずの主催者サイドにあって、ひとり不機嫌そうなコメントを残した人間がいた。他ならぬ前田日明スーパーバイザーである。

「元気くんの戦法は行き過ぎるとどうかなと。相手のミスを誘って攻めていくという。海外だったらイエローカードですよ。1から10まであれになると、ちょっとズルいんじゃないかと思いますね」

間合いを大きく取ってサイドキックやバックブローを繰り出しつつ、相手がバランスを崩した瞬間、一気に仕留める。前田氏曰く「魚釣り」。うまいねどうも。ただ筆者としては、敵がエサに食いつくまで待ち続けた須藤の集中力を称えたい気分もある。まして、須藤はネームバリューで判定勝ちしたんじゃない。極めて勝ったのだ。負けたらシャレにならない状況で、なお連続一本勝ちを収めた非凡さ。見るべきはそこではないかと思うのだが、どうか。

テレビ中継を録画した人は、改めて宮田和幸戦の入場シーンを見てほしい。花道で軽快なステップを刻みながら、しかし須藤の目は完全にテンパッている。準決勝では入場パフォーマンスなし。K-1 MAXのトーナメントでは「入場は3試合分用意してました」という須藤が、この日は剥き身で、余裕などまったくない自分をさらけ出して勝負に挑んだ。それは生まれ持った星に殉じようと覚悟を決めた男の、決死の"パフォーマンス"であったはずだ。

――奇跡は起こらなかった。9・7「HEROS ミドル級トーナメント」の2回戦で大敵・宇野薫に健闘しながらも敗戦を喫した所英男。「胸を借りるつもりで闘う」と言って臨んだ試合だったが、修斗で頂点を極め「UFC」という世界を経験している実力者・宇野を前にしては、さすがのシンデレラボーイも力及ばず。だが、大舞台「HEROS」でアレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ戦、宇野戦という格上との試合を経験した所の心の中では、確実に変化が生じていた。

聞き手／堀江ガンツ　松下ミワ　撮影／乾晋也

自信と経験がこの男を変える!!

もう胸は借りません。

所英男

HIDEO TOKORO

所選手には前号でもインタビューさせていただきましたが、そのときに比べると随分男前になりましたね（笑）。

所　あ、そうすか？（照）。

試合前には髪もカットしたそうで。

所　あ、はい。練習仲間に美容師さんがいるんですけど、いつも格安でやってくれるんで、試合前もちょっと。

それはやっぱり地上波っていうのを意識してということですか？

所　そうです！

ハハハハ！　また、あっさり認めましたね（笑）。

所　でもその美容師の人、ラッキーカラーを間違えたみたいで。いつもラッキーカラーの色でカラーリングしてくれるみたいなんですけど。

じゃあ、負けたのはその美容師さんのせいというわけですか？（笑）。

所　はい！

ハハハハハ！　しょっぱなから人のせいにするというのは逆に潔いですね（笑）。では、その『HERO'S』の話に入りましょう。敗れはしたものの大一番を終えた率直な感想を聞かせてもらえますか？

所　そうですねぇ、宇野さんって強いだけじゃなくて、やっぱり心情的にもやりづらい部分がありましたよね。燃えるなとは思いましたけど。試合が終わった感想としては、悔しかったっていうのもあるんですけど、正直ホッとしてますね。

その心情的にやりにくいっていうのは、昔から宇野選手のことを知ってるという理由からなんでしょうか？

所　昔は応援してた人ですし、サインももらったことありますし。宇野さんプロデュースの試合にも出してもらったことがあるんで。

やっぱり勝ちたい気持ちが強い方が勝つんですよ「胸を借りる」とか言ってる場合じゃなかったです

――そんな選手に僕の踏み台になってもらうなんて、という感じですか（笑）。

所　いや、できませんでした（笑）。

――試合前は「胸を借りるつもりで闘う」と言われてたんですけど、そうも言ってられなくなってきたんじゃないですか？

所　そうですね。それだけじゃダメだなって。試合って本当に勝ちたいっていう気持ちが強い方が勝つと思うんで、今回は僕の方がそういうのが足りなかったかなって反省してます。「胸を借りる」とか言ってる場合じゃなかった。

勝ちたい気持ちっていうよりも、宇野選手の場合は「負けられない」って感じだったと思うんですけど。

所　あー、そんな感じです。

――試合中、宇野選手はなかなか所選手の懐まで攻めていかない感がありましたけど。

所　僕が寝てるときに、「何でここから攻めてこないんだ！」っていうのでちょっと焦りましたね。しかも、そんな状況で何もできない自分にもイライラしてましたし。

向こうが攻めてこないと腕も足も取れないですからね。

所　試合前ひょっとしたら「固めてくるのかな」って思ってたんですけど、僕のイメージで"固める"っていうのはガードの中で固まるとか、押さえ込んで固めるっていうイメージしかなかったんですけど、ああいう中間距離で固める闘い方もあるんだなって思いましたね。まさかあんな風に来るとは……。

所選手自身はどういう作戦で闘おうと思ってたんですか？

所　やっぱり宇野さんのパスガードって独特なんですけど、ヒザから入ってきたり、パスしてきたりっていう宇野さんの動きに合わせて極めたりしようと思ってたんですよね。

――いわゆる寝技のカウンターを取ろうと。

所　はい。でも……。

――パスしてこないとは思わなかった（笑）。

所　そうですね（苦笑）。まあ実際、普通に闘っても負けるかもしれないんですけど、正直な気持ちを言うと普通に真正面から闘いたかったですよね。

たしかに宇野選手も所選手の寝技を、かなり警戒してましたよね。ジャッカル戦（03・11・23『ZST・GP』）や中原太陽戦（03・9・7『ZST』）みたいに、下からスルッと腕十字を極められるっていうのを警戒していたんでしょうね。

所　でも、あんなの奇跡的なんで、あんまり警戒されてもしょうがないんですけど（笑）。

ああいうなかなかチャンスがない中で、イケるなっていう場面もありましたか？

所　今回の試合に関しては、もうあれよあれよという間に2R

猪木アリ状態でパウンド、足への蹴りを確実に当てる宇野。所も下から顔面を蹴り上げたり、アームロックを狙うなど積極的に仕掛けるが、極めるまでには至らず。見せ場をつくり大"所コール"を呼び起こすなど、会場を味方につけたのは所だったが、宇野の完璧な攻めと守りに完封される

終盤だったんで、何かそういう気持ちはあんまり起こらなかったですね。でも、試合前は勝てるんじゃないかという気持ちもありましたけど。

――いいロングフックがバンッと入った瞬間もありましたけどね。

所　あれは前田さん直伝です！

――ああ、あれがそうなんですか！　たしかに前田さんがよく身振り手振りでやってますね。

所　はい、練習じゃ全然できなかったんですけど、不思議と試合でできちゃったんですよ。試合後、前田さんには褒めていただいたんですけど。

――前田さんからは、試合後、他に何かコメントはもらったんですか？

所　「お前はまだいける！」みたいな感じのことを言われたんですけど……。でも僕自身、宇野さんとの試合は三本勝負だと思ってるんで。

――じゃあ、まだ一本目（笑）。

所　はい（笑）。今度はお互い出し合っていい試合したいです。

――でも、あの試合はこの間の『HERO'S』の中でもベストバウトという声が多いですよ。

所　みんなそう言ってくれるんですけど、それだけが救いだなと。負けた人間にとってはそれしかコメントできないですからね。

――やっぱり『HERO'S』という舞台を二度経験して、所選手の中で意識が変わってきたんじゃないですか？　ちょっと前の所選手だったら、宇野選手みたいな大物とやって負けても、「自分は試合をさせていただいただけでありがたい」みたいなことを言ってたんじゃないかと思うんですよ。

野球場で「所さんですよね」って言われました。視聴率って、そういうことなんですかね？

所　はい。でも、宇野さんと試合して、そういう気持ちは捨てました。「胸を借りる」とか言ってた自分が甘かったって反省してます。厳しい世界ですよね……。でも、負けたとはいえ、そこまで差はないと思いました。『ZST』のトップで頑張ってる人と変わらないですよ。レミギウスにしてもそうですけど。

――所選手の場合、すでに人気では宇野選手を超えてますしね（笑）。

所　いやぁ（笑）。

――試合中、あの大・所コールは聞こえましたか？

所　はい。聞こえました。やっぱうれしかったです。頑張らないとなって思いました。まあ、頑張れなかったことが悔しかったですけど。

でも、もう完全に味方に付けてましたもんね、会場を。

所　テレビ局さまさまです（笑）。絶対僕の力じゃないんで。TBSさんのおかげですよ、本当に。

でも、そういう風に選ばれる人もいないわけですからね。強い選手や格闘家はたくさんいても、スポットが当たるのはほんのわずかしかいないんですから。

所　選ばれし者なんですかね（笑）。恵まれてますよね、僕。

――逆に言ったら、こういう立場に立ったんだから、もっと期待に応えていかないと。

所　もう、走るのがヤダとか言ってられないですね。

――あ、いままでそんなこと言ってたんですか（笑）。

所　はい（笑）。でも、来週からもうランニングも再開しようと思ってるんで。頑張んな

1 2R終了前に渾身の力をふるって“立ったままアームロック”を仕掛けた所。もう少し、というところで宇野にはずされた　2 宇野の打撃をくらって鼻から出血。骨折までには至らなかったが、ドクターチェックで「つぎ血が出たら、試合止めるから」と告げられるほどの酷さだった　3 試合後、お互いに笑顔で土下座する両者。だが、勝敗同様この瞬間の気持ちは両極端だったのかも

HIDEO TOKORO

いと、見捨てられるのは早いと思うんで。

――この波を逃したくないという気持ちはありますか？

所 そりゃありますよ。やっぱ頑張ることによって僕の生活とかもよくなるし、『ZST』の評価もどんどんよくなるんで、すごいやりがいありますね。僕がダメだったら『ZST』の評価まで落ちちゃうのはかなりプレッシャーですけど（笑）。

――それで、大晦日のご予定は？

所 出れたら出たいですけど、『Dynamite!!』。

いや、TBSが放っておかないでしょう。なんと言っても『HERO'S』の瞬間最高視聴率シーンを獲得してますからね。

所 あれはKID選手を見てた人が、たまたま僕も見たっていう感じじゃないかと思うんですけど（笑）。

――いやいや、あれは所人気ですよ。街を歩いてても以前とは違うでしょう？

所 あ、そういえば、昨日プロ野球見に行って東京ドームで声かけられたんですよ。野球場で声掛けられるって嬉しいもんですね。でも、中日が僕と同じ3－0で負けたのは悲しかったですけど（笑）。

――でも、これだけ顔が知られると、これからは迂闊に変な雑誌とかも買えないんじゃないですか？（笑）。

所 でも僕はそんなに……。あの、『紙プロ』さんのおかげで、そういう人間だって知られてるんで大丈夫かなと（笑）。

――イメージのズレは生じないかなと（笑）。

所 はい（笑）。

――話は戻りますが、大晦日って、何か打診なんかはなかったんですか？

所 試合当日のパーティで、谷川さんに「ひょっとしたら声かけるかも」って言われたんですけど、まだそれは正式でもないんで。

――じゃあ、脈ありという感じ？

所 そうですね、脈ありです（笑）。

やりたい相手とかはいないんですか？

所 できれば須藤さんとやりたかったんですけどね。それか、もう一回宇野さんとやってもいいかなと思うんですけど……。それはやめた方がいいですかね（笑）。でも、レミギウスとやった高谷選手も凄かったんでやってみたい気持ちはありますけど。

高谷選手は凄かったですね。レミギウスのパンチをまともにくらって倒れなかったのははじめてですよ（笑）。

所 最初のボディとヒザもめちゃくちゃダメージがあったと思うんですけど、いっさい表情に出さないし。僕とはまったくタイプが違うなと思いましたね（笑）。

なるほど。でも、せっかく大晦日なんで夢のあるカードにしましょうよ。

ところひでお■1977年8月22日生。岐阜県揖斐郡出身。STAND所属。170cm、65kg。本拠地である『ZST』には旗揚げから参戦。7・6『HERO'Sミドル級トーナメント』の一回戦では現修斗ライト級王者・ペケーニョをバックブローで破るという劇的な勝利を飾る。が、二回戦の宇野薫戦では接戦の末、惜しくも判定負け。大晦日の『Dynamite!!』出場に向け、11月の『ZST』で再起を図る。ちなみに好きな車は「マジックミラー号」。

所 夢のあるカードって、誰ですかね？

曙さんとか（笑）。

所 ハハハハ！ そういえば、僕ゴールドジムで曙さんとしゃべったんですよ。そのときにちょっと、この人はいい人だなと思いましたよ。顔は何か恐いんですけど、親しみやすい感じがしますね。訛り口調がかわいいというか、憎めないというか。

――所選手と曙選手という異色の組合せでどんな会話をしたんですか？

所 いや、「（曙選手の訛り口調を真似て）7日、試合ですよね」とか（笑）。

所選手と曙選手がしゃべってるシーンは見たいですね（笑）。でも、大晦日に出るとなると、貧乏キャラもそろそろ卒業ってことになるんじゃないですか？

所 やっぱプロは夢を与えなきゃいけないって山本（喧一）さんにずっと言われてたんで。今度は成功するさまを見せるようにしたいと思ってるんですけどね。僕を見て「自分も頑張ろう」と思ってもらいたいというか。でも、「貧乏じゃないと応援しないぜ」って言われる可能性もあるんですけど（笑）。

そういえば最近、『FLASH』にも、その貧乏生活が載ってましたよね？ もうご覧になりました？

所 あ、見ました見ました。僕の家には3冊も送っていただきました（笑）。

ちなみに、所選手ってここに載ってるように、インスタント・ラーメンを鍋に入ったまま食べたりするんですか？

所 いや、僕もやっぱりその辺はちゃんと育ってるんで。……たまに鍋に入れて食べているということで（笑）。

――『FLASH』のやらせ発覚、と（笑）。

所 （突然）あ、そうだ！ 『紙プロ』の重大発表って何ですか？

あれですか。ご存知の方も多いと思うんですけど、実は……『紙のプロレスRADICAL』は今号をもって終了するんですよ。

所 え～～～っ!? 本当ですか？

はい、残念ながら……。その代わり来月からは新しく『紙プロ』がスタートします。

所 は？

――要は単なるリニューアルなんですよ（笑）。

所 それは、もっと販売規模とかが大きくなるということですか？

――そういうことです！

所 すごいじゃないですか！

――やっぱり、池袋の雑居ビルの一室で始まった『紙プロ』も、風呂なしアパートからスターになった所選手と同じように大きくなっていきたいなと（笑）。

所 あ、本当ですね。

もう所選手は『紙プロ』ではすっかりレギュラーですからね。

所　5回連続ですよ！　考えられないですよ本当に。何かうれしいです。これからも話題を絶やさないようにしないと。

――そう言えば、『HERO'S』のファイトマネーも入って、そろそろ引っ越しの予定とか、そういうのはないんですか？

所　年内はないですね。そうだ、この間大家さんのところに家賃を払いにいったら、「あんた、『K-1』とかに出てなかった？」とか言われたんですよ。そこの大家さんは家族みんなでやってるんですけど、おばさんはすっごい僕に食いついてくるんですけど、おばさんがおじさんと息子に「この人、テレビ出てたよ！」って報告したら、二人はただ「へー」だって。

――まったく興味を示されなかったんですか（笑）。

所　その二人まで取り込めれば、ちょっと家賃の滞納分を大目に見てくれるかなとか思ってたんですけど、甘かったです（笑）。

――世の中厳しいですね（笑）。でも、引っ越しした暁には『紙プロ』が新居に取材に行きますから。

所　あ、本当ですか？　ぜひ！

――貧乏キャラを返上して、高級ワイン片手にバスローブ姿の所英男を撮影しますよ（笑）。

所英男のサイン入りTシャツプレゼント

所英男選手から『紙プロ』読者にサイン入りTシャツをプレゼント（1名様）！　なんと、このTシャツはロシアのリングス・エカテリンブルグ大会でしか買えない貴重な一枚。サイズはM。ふるってご応募ください！　あて先はP159を参照

『Dynamite!!』に出て、そして引っ越しします まずはユニットバス付きの部屋へ！

所　いやあ、まずはユニットバス付きの部屋からスタートですね（笑）。だけど、引っ越しも本当に現実的になってきたんで。まあノゲイラ貯金ももうあと2試合だと思うんで、それまでに結果出さないといけないですね。

――次の試合は11月の『ZST』って感じになりそうですか？

所　たぶんそうですね。

――でも、今度所選手が出たら『Zeep Tokyo』じゃ、ファンが入りきれないかも知れないですよ。

所　そうなってもらえるとうれしいですね（笑）。

――では、つぎ『ZST』で活躍して、そしてさらに年末も大いに暴れられるよう頑張ってください！

所　はい！　本当に頑張ります。

――今日はどうもありがとうございました！

【05年9月10日／Zeep Tokyoにて収録】

ZST "BATTLE HAZARD 02" Zeep Tokyo 2005.09.10 Sat.

『HERO'S』『PRIDE武士道』という大会に挟まれ、所英男、レミギウス、小谷直之という『ZST』おなじみのメンバーが欠場となった今大会。その代わりにヤノタクこと矢野卓見の久々の『ZST』参戦、そして5・3『ZST.7』のタッグマッチ戦でレミギウスから一本を奪った勝村周一朗がメインを務めるという見せ場を用意した。その勝村、メイン前の6試合中4試合が時間切れ、1試合がノーコンテストという結果が両肩に重くのしかかる中、リトアニアからの刺客セルゲイ・ユシュケビチュスに見事勝利！　また所英男の実兄・所敏彦の試合も会場を大いにわかせる名勝負に。デビュー戦とは思えないその闘いぶりに、所弟もビックリ。所家の格闘DNAは本物だ！

所敏彦のデビュー戦であり、ドクター綱川の引退試合だったこの一戦。綱川のヒールホールドから所が逃れれば、今度は所のアンクルホールドを綱川が凌ぐという目まぐるしいグラウンドの攻防が展開された。最後は時間切れでドローとなったものの、両者の見事なサブミッションテクニックに会場は大歓声に包まれた

綱川vs所兄の試合終了後、所弟、レミギウス、小谷がリング上であいさつ。所弟とレミギウスは9・7『HERO'S』の結果報告のためにマイクを取った。その中で所弟は綱川のセコンドについていた佐藤ルミナに向かって「ようやく同じ目線になれたんで、試合してください」と対戦アピール。また9・25『PRIDE武士道』に参戦する小谷は「相手のことはよくわからないけど、普通に勝ちます」と勝利宣言した

"東洋の神秘"ヤノタクが久々に『ZST』のリングに帰ってきた。寝技を得意とする代官山剣Zとタッグを組み、植村"JACK"龍介・稲津航組を迎え撃った。ヤノタクは相手にお尻を向けた構えで応戦し、タックルから関節を取りにいくという見せ場をつくるものの、植村・稲津組のタッチワークに阻まれ一本は奪えず。終止"極められない"展開がつづき時間切れドロー。消化不良だったのか、ヤノタクは植村・稲津組を見ずに、そのままリングを後にした

『K-1』のリングで実力を発揮しきれなかったダリウス・スクリアウディスが小次郎を相手に『K-1』リベンジに挑んだ。ダリウスが左ハイやパンチなどで前に出ると、小次郎も負けじとパンチを繰り出す。しかし2R中盤、両者バッティングにより試合はノーコンテストに。小次郎は額が切れて10針縫う傷を負う

"ZSTらしくない"試合がつづいた今大会、メインを任された勝村としては何とか会場をわかせたいところ。その勝村、キックボクシング18戦16勝2敗、総合4戦4勝というセルゲイを相手に、開始早々テイクダウンをとり三角絞めを狙うなど積極的に応戦。最後は三角絞めの体勢から変型オモプラッタへ持ち込み、無反応なセルゲイを見てレフェリーが試合ストップ

レフェリーの判断にセルゲイとセコンドのドナタスが猛抗議し、会場は一時騒然となったが、これに対して勝村は「いつでも再戦は受けます。文句があるならいつでも来い!!」と怒りのマイク。試合後は「興行の流れを考えて本当は秒殺したかった」と欲を出した。さらに「周りが"勝村と所の試合がみたい"って言ってくれるようになったら再戦したい」とつづけた

リングスの聖地、ロシアに誕生!!

選手写真／DSE　文／橋本宗洋
構成／ジャン斉藤、松下ミワ
イラストレーション／時代
designed by bun-chan (Two Three

リングスの聖地、ロシアに誕生!!

RINGS

まったく『PRIDE』というのは恐ろしい大会である。9月25日に開催されるウェルター級&ライト級GP。そのライト級GP一回戦で、五味隆典vs川尻達也戦が実現してしまうのだから。『武士道』のエースと、修斗世界王者。総合格闘技ファンが待ち望んだ一戦だ。

川尻の目の前には、常に五味の背中があった。名門・木口道場で鍛え上げられた五味と、茨城で仲間内のチームを作り、指導者のいない環境で強さを模索してきた川尻。デビュー8連勝で修斗ウェルター級王座を獲得した五味に対し、川尻は黒星スタート。五味が戴冠した2001年の段階で、川尻はやっと2勝目をあげたばかりだった。

やがて五味は新たなチャンスを求め『武士道』に参戦、6連続1RKO（一本）勝利という破格の記録とともに、エースと呼ばれる存在になった。一方の川尻も着実に勝ち星を重ね、昨年末にかつて五味が巻いたベルトを手にする。次の目標は当然、自分の前を走り続けてきた五味を倒し、軽量級最強の座を我が物とすること。エリートと雑草という単純な構図ではないにせよ（五味もまた"叩き上げ"の人だ）、実によくできたライバルストーリーである。新旧修斗王者が『武士道』の大舞台でついに雌雄を決する！

……と、ここまで書いてきたことは、しかし現段階での話。もちろん重要なことではあるが、それがすべてではない。五味vs川尻を「一回戦でやるなんてもったいない！」という関係者やファンもいる。この一戦を『武士道』のクライマックスだと捉えるなら、たしかにそうだ。だが現実には、クライマックスはもっと先にある。『武士道』が開催されるようになって、まだたった2年。有明コロシアムで"最終回"になってしまうようなものではないだろう。それだけの可能性を、我々はここまでの大会で感じてきたはずではなかったか。むしろこのGPから、五味vs川尻戦から、『武士道』は本格的なスタートを切るのだといってもいい。

大事なのは、五味vs川尻戦を経て、そこから何が生まれるか、何が始まるか、だろう。

たとえば、最近では破天荒なキャラというよりエースとしての自覚や責任を感じさせる五味が、川尻に追い落とされて再び"追う者"になったときにどんな姿を見せるのか。あるいは、"勝負論の象徴"ともいえる修斗を背負った川尻が、勝負に敗れたあとで何を拠り所にし、どんな変化を果たすのか。ライト級戦線全体への影響も含め、この試合は終わったあとに、かならず何かしらの"火種"を残すことになる

ライバルイベント『HERO'S』は、選手の魅力を引き上げる舞台といえる。キャラクター性や強さにスポットを当て、どんどん光らせていく。そこで行なわれる試合は、闘いであると同時に"活かし合い"でもあるといった雰囲気。どうすれば選手が最大限に輝けるのか、それが考え抜かれているトーナメントでさえ、負けた選手が"沈んだ"という印象は薄かった。一方、『PRIDE』はこれでもかといわんばかりの"潰し合い"。

スター候補同士を闘わせてさらに"ふるい"にかけ、生き残った者のみが真のスターとして扱われる。そして一度スターになっても、次から次へと"最強の挑戦者"が現れ……。果てしなく潰し合い、"ふるい"にかけられ続ける永久運動が『PRIDE』だといってもいい。最大の"ふるい"であるGPは、最強を決める場であると同時に、次なる潰し合いに向けての着火点でもあるのだ。

五味vs川尻は現在の『武士道』最高カード。だが、"最高"とは常に更新されていくものだということを忘れてはならない。

所　5回連
ないですよ本
す。これから
うにしないと
　そう言
のファイトマ
ろ引っ越しの
はないんです
所　年内は
の間大家さ
いにいったら
とかに出てな
たんですよ。
みんなでやっ
さんはすっご
んですけど、
息子に「この
って報告した
ー」だって。
　まったく
んですか（笑
所　その二人
ょっと家賃の
くれるかな
てたんですけ
かったです
　世の中
すね（笑）。
っ越しした暁
プロ』が新
に行きますか
所　あ、本
か？　ぜひ
　貧乏キャ
上して、高級
片手にバスロ
の所英男を
すよ（笑）。

五味君のカッコイイ顔にかすれるよう頑張りますよ

茨城産最強パウンダーが五味隆典を破壊するか？

第8代修斗ウエルター級チャンピオン

川尻達也

「HERO'S」の会場で決して聞くことのできない格オタの野太い大歓声を浴びながら開戦するぜ！　そんな「武士道GP」の大注目カードは、ライト級一回戦でいきなり実現する五味vs川尻の軽量級頂上対決だ。修斗というコンペティションの頂上に君臨する川尻、王者たる所以がGPで爆発するか!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／福島勝儀　試合写真／乾晋也　イラストレーション／時代

リングスの聖地、ロシアに誕生!!

RINGS

――今日は『武士道』の会見のために茨城から上京されたんですか？

川尻　そうですね。電車で来たんですけど、本当に疲れました。今日はやけに暑いこともあったし。

ボクは取材でTOPSのジムにおじゃましたことがあるんですが、東京からだと2時間近くかかりますよね。

川尻　しかも地下鉄降りて（DSEの）事務所とは反対方向に向かっちゃって、15分ぐらい歩いてからようやく迷ったことに気がついて、結局タクシーで来たんですよ（笑）。

正式発表記者会見で、川尻が「よく知らない」と五味の印象を答えれば、五味は「拳の強さを覚えておけってかんじですね」と緊張感溢れるやりとり。カメラマンから両者が睨み合うシーンをリクエストされると、睨み付ける川尻に対して五味は「肩に力が入る」という理由で目を合わせず

最寄りの駅から歩いて30秒ぐらいの場所なのに（笑）。

川尻　しかも、このインタビューが終わったら茨城に帰ってそれから練習ですからね……。

最速でインタビューを終わらせます！　で、先ほどの会見では「サマージャンボ宝くじを全部外したから運が貯ってる」なんて言ってましたけど、川尻さんってギャンブルが好きなんですか？

川尻　いや、じつは生まれて初めて買いました。ちょっと家でも建てようかなって（笑）。なんか（桜井）隆多さんが「買った」とかってブログで書いてたんで。

え！　家をですか!?

川尻　いやいや、家を買うために宝くじを買ったんですよ。だからボクも、一攫千金を狙ってみようかなって。結局、当たったのは300円だけでしたけど（笑）。

サマージャンボじゃないですけど、武士道GPの五味（隆典）選手との対戦は一攫千金の大チャンスになりますよね。

川尻　本当にオイシイですよー。こっちの宝くじは当たると思いますし（ニヤリ）。まぁ目標は当然優勝だから五味君との試合だけで燃焼するわけにはいかないんですけどね。

自信があるからこそミドル級GPのリング上で、五味選手に対戦アピールをしたんでしょうけど、ああいった大観衆の前でマイクをにぎるのってどうでした？

川尻　……いや、アクターズ・スクールにでも入ってマイクの練習をしようかなって思いましたけど（笑）。

――ワハハハ！　ちょっと恥ずかしいマイクアピールをしてしまったと？

川尻　ていうか、ちょっと硬かったなって。プロレスラーみたくうまくいかないっていうか。

でも、川尻さんが「俺はオマエの咬ませ犬じゃないぞ！」とか長州力ばりに吠え出したら不自然ですけどね（笑）。ちなみにあのマイクに点数をつけるとしたら、100点満点中の何点ですか？

川尻　まあ初めてだったんで50点ぐらいじゃないかな。お客さんにうまくアピールして盛り上げることも必要だなってあらためて思いましたね。

そういう意味では、高田本部長なんてかなり饒舌じゃないですか。長回しのマイクもスイスイこなして。

川尻　高田さんはユーモアがあってすごく楽しい方ですね。ボクは高田さんに「たっつぁん」って呼ばれてるんですけど（笑）。

――ガハハハハ！　元UWFの中野（巽耀）さんの愛称を受け継ぎましたか！　そんな本部長とは、『武士道』名古屋大会の翌日に海の家で開催された『PRIDE 夏祭り』でも一緒になったそうで。

川尻　ああ、ありましたね。あのときは、そのイベントの飲み会がすごかったんですよねえ。

誰か暴れたりしたんですか？

川尻　はい。高田さんがいちばん張り切って飲んでました（笑）。

さすがだ（笑）。高田さんの酒豪ぶりは本当に有名なんですけど、川尻さんは絡まれたりしませんでした？

川尻　絡まれたっていうか、高田さんが長南（亮）さんとボクを向かい合わせて「お互いのいいところを言ってみろ！」って（笑）。

――さぁお互いを誉め合いたまえ！と。それじゃまるで自己啓発セミナーですね（笑）。

川尻　ボクは「長南さんは殺気がすごいです！」みたいなことを言って。長南さんは「安定感があるよね！」って言ってくれて、お互いを誉め倒してま

8・28『PRIDEミドル級GP』のリングで、五味、マッハ、長南、美濃輪が『武士道GP』の抱負をそれぞれ述べてリングを降りると、リングサイドで観戦していた川尻が島田二等兵ばりに虚を突いてリングイン。GP参戦を電撃表明、五味戦をリクエスト。これを受けて再びリングを踏みしめた五味は、硬めの川尻のアピールに笑みを浮かべながら快諾！

所　5回連…
ないですよ本…
す。これから…
うにしないと…
そう言…
のファイトマ…
ろ引っ越しの…
はないんです…
所　年内はな…
の間大家さ…
いにいったら…
とかに出てな…
たんですよ。…
みんなでやっ…
さんはすっご…
んですけど、…
息子に「この…
って報告した…
ー」だって。
まったく…
んですか（笑…
所　その二人…
よっと家賃の…
くれるかなと…
てたんですけ…
かったです…
世の中…
すね（笑）。…
っ越しした暁…
プロ』が新居…
に行きますか…
所　あ、本…
か？　ぜひ…
貧乏キャ…
上して、高級…
片手にバスロ…
の所英男を場…
すよ（笑）。

五味君は目を伏せるけど、ボクはガン見しますよ もう穴が開くぐらい見てやろうと思ってます

川尻達也

した（笑）。

そんな微妙なやり取りを肴に本部長は飲まれていたと（笑）。

川尻　結局、ボクは途中で髙田さんから避難しましたけど（笑）。

――そのイベントには五味選手も出席されてましたが、川尻さんが初めて五味選手と目が合ったのはミドル級GPのリング上だったとか。これまでにも二人は何度も遭遇されてると思うんですけど。

川尻　たしかに五味君とは修斗の会場とかでよく遭遇しますけど、目が合ったことは一度もなかったんですよね　ボクもあんまり気にしてないっていうか、べつに五味君のファンじゃないですから（笑）。

――いや、べつにファンじゃなくたって目ぐらいは合うもんじゃないですか？

川尻　まぁそうなんですけどね。お互いにいろいろ立場があるとでもいうか、べつに仲良くなってもしょうがないですから。

――今日のツーショット撮影でも五味選手はまったく目を合わせようとしないで、「肩に力が入るから試合のときも目は合わせない」って言ってたんですよ

川尻　ボクはガン見しますよ！　試合のときも、もう穴が開くぐらい見てやろうかと思ってますけど（笑）。

――ガハハハ。こういったお話を聞くと、二人は仲が悪いのかなって思っちゃうんですけど。

川尻　仲は悪くないですよ、全然。つーか、仲がいい・悪いの関係じゃないです。話したこともないし。

――極端に言うと「知らない選手」のうちのひとりというかんじですか？

川尻　いや、ひとりのファイターとしては興味もあるし、よく知ってるけど、人間としてはまったく知らないっていうかんじですよね　だからべつに好きも嫌いもないし

――でも、二人のインタビューでは相手を挑発するかのような言葉がポンポン出てくるわけじゃないですか？

川尻　まあ何すかねえ。……ボクは盛り上げるために言ってるだけですよ。アハハハ！

――何がおかしいんですか（笑）

川尻　まあ五味君は単純なんじゃないすか（キッパリ）。

――五味選手のほうは、どちらかいうとスカしてるような雰囲気もありますよね

川尻　一生懸命、ボクのことをスカそうと頑張ってますよね。本当にどう思ってるのかは五味君のみぞ知るってかんじですけど。でも、逆に自分のほうが五味君に「川尻と闘いたい、闘いたい！」って言われたら、「お前ウザいよ！」ってなるだろうから、そういう意味では「ウザくてゴメン」という心境ですけど（笑）。

――真面目な話、川尻選手は、五味選手のことをファイターとしてどう評価してるんですか？

川尻　彼は技術もすばらしいんですけど、やっぱ気持ちですべてを凌駕してるみたいな。絶対に引かないし、弱気にもならない。完膚なきまで相手を叩きのめすっていうイメージがずっとありますね。

――五味選手って『武士道』に上がるようになってから、ファイターとしての何かがガラリと変わったという評価を受けてますけど、その部分はどう思いますか？

川尻　それは求められてるものが修斗とは違っただろうし、五味君はそれを受け入れながらも、修斗で闘ってきたプライドなりが上手くかみ合ったんじゃないですかね

――「修斗とは求められるものが違う」というのは、具体的に言うと試合に勝つだけでは認められないっていうことですか？

川尻　よりエンターテイメントな試合を提供するというか、お客さんを喜ばせる試合をしなくちゃいけないのは自分もかんじていることですけど。五味君なんかはずっと『武士道』のメインで闘っているから、ボク以上にそこは意識してると思いますね。

――それって意識して実践できるもんなんですか？

川尻　意識してできると思います。それはボクも修斗でずっと意識してやってきたことだし、だからこそお客さんもボクの試合を見て喜んでくれてると思うんです。

――川尻選手が『武士道』に上がる

武士道・其の八　でブラジリアン・トップチームのルイス・ブスカペと対戦。序盤こそはブスカペに背後を突かれ、試合をコントロールされたが徐々にペースを握り、パウンド、踏みつけ連打で"クラッシャー"たる所以を随所に発揮!

ことによって、自分自身でなにか変わったと感じるところってありますか？

川尻 （即座に）サインを求められたりとか。

――いや、内面的な問題なんですけど（笑）。

川尻 あ、そっちですか（笑）。う～ん、よりデカい会場で、よりたくさんの観客を前にして闘うんで、精神的にタフになって甘えがなくなったというか。ただ、逆にお客さんの反応を意識しすぎて、本来の自分の闘いといまいち噛み合わなかったところがあったんですよ。

――（ルイス・）ブスカペ戦の内容もマイクで反省しきりでしたね。

川尻 あの試合のあとにすごい考えたんですけど、結局いままでどおり闘えば問題ないかなって。ボクはずっとお客さんを意識して試合をしてきたし、お客さんも満足してくれてたと思ってるんで。だから原点に戻って、自分の闘いをただ忠実に実行すれば、お客さんもきっと喜んでくれるんじゃないかなって思いますね。

――そうすると、これまでの『武士道』の2試合というのは、川尻さんにとって決戦までの猶予期間になったところがあるんですね。

川尻 場慣れできたところはありますね。「いい試合しなきゃ！」「おもしろい試合しなきゃ！」って考えすぎて、ちょっとカッコつけてたとこはあったんですけど。

――それでいちおうサインのお話もおうかがいしますけど（笑）。以前と比べてサインを求められる回数は違いますが？

川尻 そうですねえ。ボク、去年の12月に（修斗ウエルター級の）チャンピオンになったんですけど、1月に修斗の後楽園ホールがあったんで、「これはサインをたくさん求められて困っちゃうんじゃないの？」って思ってたんですよね。いざフタをあけてみると、たった2、3人ぐらいで……。

【かわじり・たつや】1978年5月8日、茨城県出身。171cm、71.3kg。02年修斗新人王。ヴィトー・"シャリオン"・ヒベイロを倒して第8代修斗ウエルターチャンピオンに就く。「PRIDE」には「武士道・其の七」より参戦

――ワハハハ！　取らぬ狸の皮算用で落ち込んだわけですか（笑）。

川尻 でも、こないだの修斗・横浜文体だとワ～～ッてファンが群がってきたんですよ！　やっぱ『PRIDE』効果はすごいなあ～って思いましたけどね（しみじみと）。

――それはよかったですね（笑）。

川尻 あと『PRIDE』ミドル級GPの帰りに、ファンが地下駐車場でボクのことを待っててくれて、色紙にサイン求められたんですよ。「川尻さん、応援してます！　『武士道』がんばってください！」とは言うんですけど、よく見ると五味君のTシャツを着てるんですよね……。

――ワハハハハ！　よりによって五味Tシャツを（笑）。

川尻 ちょっとヘコみましたね、あれは（笑）。

――地上波のいい時間帯で放映している『HERO'S』に出ていたら、もっと露出できたと思うんですけど。

川尻 いや～、『HERO'S』はいちファンとしてはたしかに楽しめますけど、そこに自分が選手として参加してどうこうっていう思いはないですね。『HERO'S』は65キロ級の選手が多いんで、あんまり興味ないというか。『武士道』には70キロ級のトップ中のトップが集まっているから、どうしても『武士道』を選んじゃいますよね。

――『武士道』ってそこからまた"ふるい"にかけるようなマッチメイクをするじゃないですか。選手からすれば本当に過酷だと思うんですけど。

川尻 正直に言えば、グランプリはかなりひとごとでしたよね。「あのメンバーで、1日2試合？　みんあ大変だなあ～」ってかんじで（笑）。

――ひとごとじゃなくなった心境はどうですか？

川尻 大丈夫ですよ。前の試合が終わってからちゃんと休養をとったんで、いまは絶好調です！

――トーナメントという形式は何か意識されたりしますか？　五味選手は以前、「トーナメントだと堅い闘い方になるかも」という言い方をされてたんですけど。

川尻 ボクもあっさり勝てるように、あまり意地をはらないで勝利に徹していきますよ。ま、つまんない試合をするつもりはないですけど、勝つことを最優先しないといけないですから。

――あくまで五味戦は優勝への通過点だと？

川尻 1回戦で完全燃焼っていうわけにはいかないですけど、まぁ五味君とは同い年だし、どっかお互いに引けないところがあるのはたしかですよ。もし自分が年下だったら、相手が先輩だからってことでちょっと遠慮したり、逆に年上でも下だからってちょっと引いたりっていうのがあるじゃないですか。でもやっぱ同い年というのは、どこまで行っても引けない部分があるんですよ。同じ道を歩んで、同じベルトを取って、同い年で、こういう『PRIDE』っていう舞台でめぐりめぐって対峙できることは光栄にも思うし、モチベーションも上がりますよね。

――では、最後に五味選手と初めて目があった感想を聞かせてください！

川尻 そうですねえ。ま、いい男だなって思いましたね。五味君は、「かすりもしねえよ！」って言ってましたけど、あの顔になんとかかすれるように頑張りますよ（笑）。

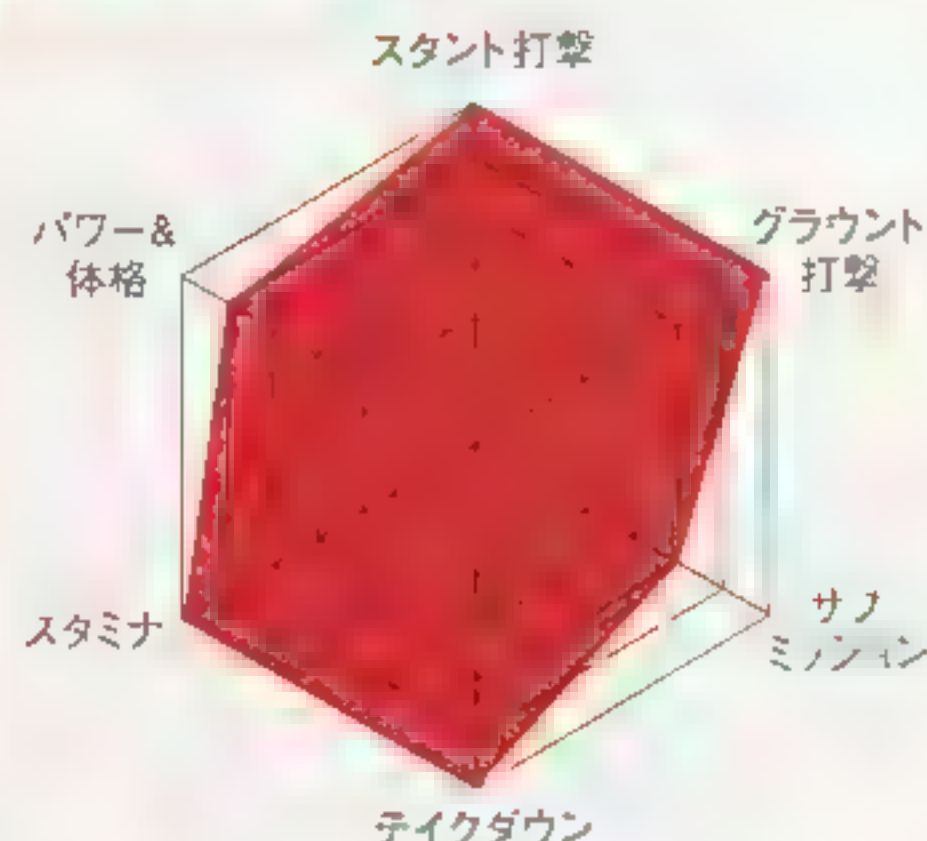
――わかりました（笑）。すばらしい試合を期待してます！

【05年9月1日／たっつあんが迷った北青山にて収録】

五味隆典／日本

『武士道』破竹の7連勝中！ 武士道のエース、初GP完全制覇なるか!?

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	木口道場レスリンク教室
生年月日	1978年09月22日
出身地	神奈川県
身長／体重	173cm、72.9kg
バックボーン	修斗
PRIDE戦績	7戦7勝0敗

タイトル歴

■第5代修斗ウェルター級チャンピオン

過去の戦績

■2005/07/17 PRIDE武士道―其の八―　ジーン・シウバ 2R終了 判定3-0
■2005/05/22 PRIDE武士道―其の七―　ルイス・アセレート 1R3分46秒 KO
■2004/12/31 PRIDE男祭り　ジェンス・ハルヴァー 1R6分21秒 KO
■2004/10/14 PRIDE武士道―其の伍―　チャールス・"クレイジー・ホース"・ベネット 1R5分52秒 アームロック
■2004/07/19 PRIDE武士道―其の四―　ファビオ・メロ 1R8分07秒 KO

GOMI TAKANORI

「武士道」を盛り上げ、引っ張ってきたエースがGPぶっちぎりの優勝を狙う。プロデビューから破竹の連勝で修斗ウェルター級王座を奪取、一時はモチベーション不足に陥ったものの、「武士道」に参戦するや6戦連続1R勝利という快進撃を見せた。このGPにおいても、もちろん優勝の大本命。「原点に戻る」という発言は、すなわち狂気性さえ感じさせる無軌道な暴れっぷりの予告である

▼セールスポイント

6連続一本・KO勝利というのは、生半可な実力でできる芸当ではない。木口道場名物の過酷な体力トレーニングで培ったフィジカルの強さ、卓越したレスリング能力は日本人の枠を遥かに超えるレベルにある。パンチも、いわゆる"総合の打撃"にとどまらず本格的で、ボディノローを巧みに使いこなす多彩さがある。パウンドはガードの中から放っても必殺の威力。シウバやヒョードル、ショーグンを見ても分かる通り、超・攻撃的であることは「PRIDE」王者の必須条件であり、五味はそれを完璧にクリアしている

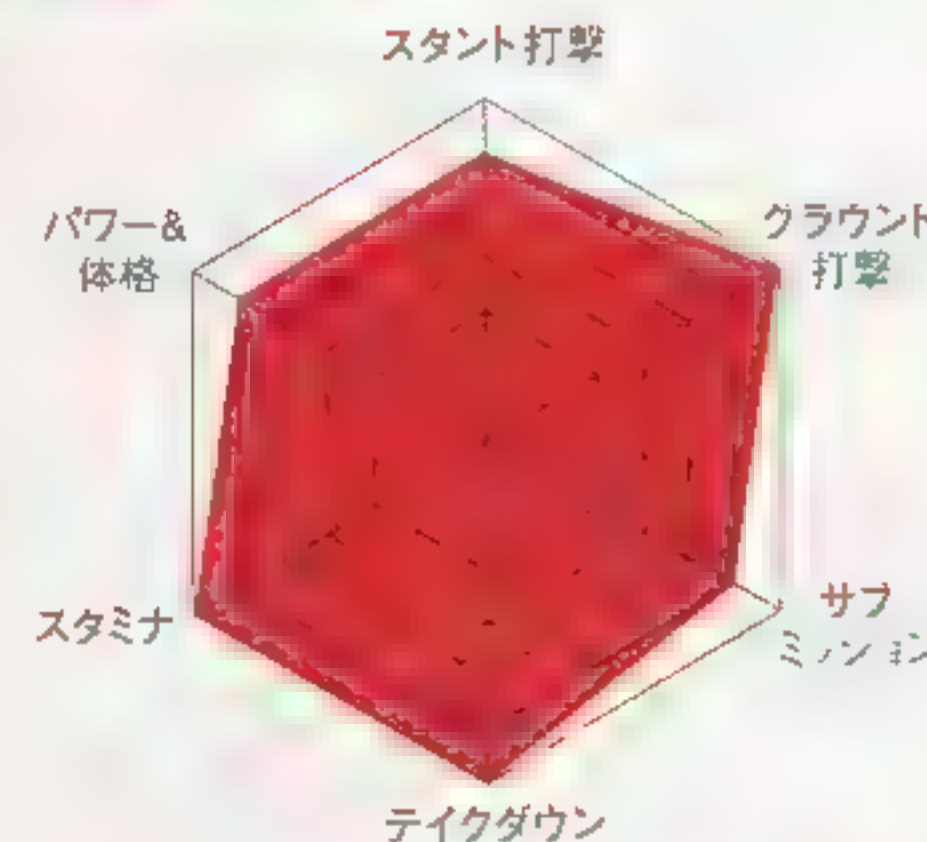
▼ウィークポイント

レスリンクベースで柔術系の技を使わないため、もし下になったら厳しいかもしれない（それをできる選手がいれば、だが）。各媒体での発言を見ると、「判定でも勝ちたい」といったかと思えば「オールKOで優勝」とも。単なる天然か、それとも川尻の強烈な突き上げで"ねじれ"が生じているのか……

川尻達也／日本

現役修斗王者が大本命に喰らいつく。安定した闘いぶりが五味戦で吉と出るか!?

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	チーム・トップス
生年月日	1978年05月08日
出身地	茨城県
身長／体重	171cm、71.3kg
バックボーン	修斗
MMA戦績	19戦15勝2敗2分

タイトル歴

■第8代修斗ウェルター級チャンピオン

過去の戦績

■2005/07/17 PRIDE武士道―其の八―　ルイス・ブスカペ 2R終了 判定3-0
■2005/05/22 PRIDE武士道―其の七―　キム・インソク 1R3分28秒 TKO
■2005/04/23 プロ修斗　ヤニ・ラックス 1R4分42秒 TKO
■2004/12/14 プロ修斗　ウィトー・"シャオリン"・ヒベイロ 2R3分11秒 TKO
■2004/09/26 プロ修斗　ミンタウカス・ラウリナイティス 2R2分00秒 TKO

KAWAJIRI TATSUYA

現役の修斗ウェルター級世界王者として『武士道』に参戦してきた川尻が、GP一回戦で念願の五味戦を迎えることとなった。エースとしての貫禄を漂わせる五味の発言に対して「自分が普通に勝つ」と川尻も応戦。"五味に挑む川尻"という構図は『PRIDE』ファンにとってのものであり、本人にとっては五分と五分、真っ向からの最強決定戦だということだ。彼の試合ぶりを見れば、それもうなづけるというもの。

▼セールスポイント

川尻の『武士道』2戦目、名古屋でのルイス・ブスカペ戦は見事なものだった。かつては五味も対戦を希望した強豪相手に文句なしの判定勝ち。終了ゴングが鳴る瞬間まで踏み付けでKOを狙ったアグレッシブさは、彼の旺盛な闘争本能と「勝てばそれでよし」ではないプロフェッショナリズムを感じさせた。決してエリートではないが、いまや"日本のブラジル"とも呼ばれる茨城で生まれ育った逞しさは魅力。抜群の腰の強さを活かした、倒されずに殴る、あるいは倒して殴るというスタイルは完成度が高い

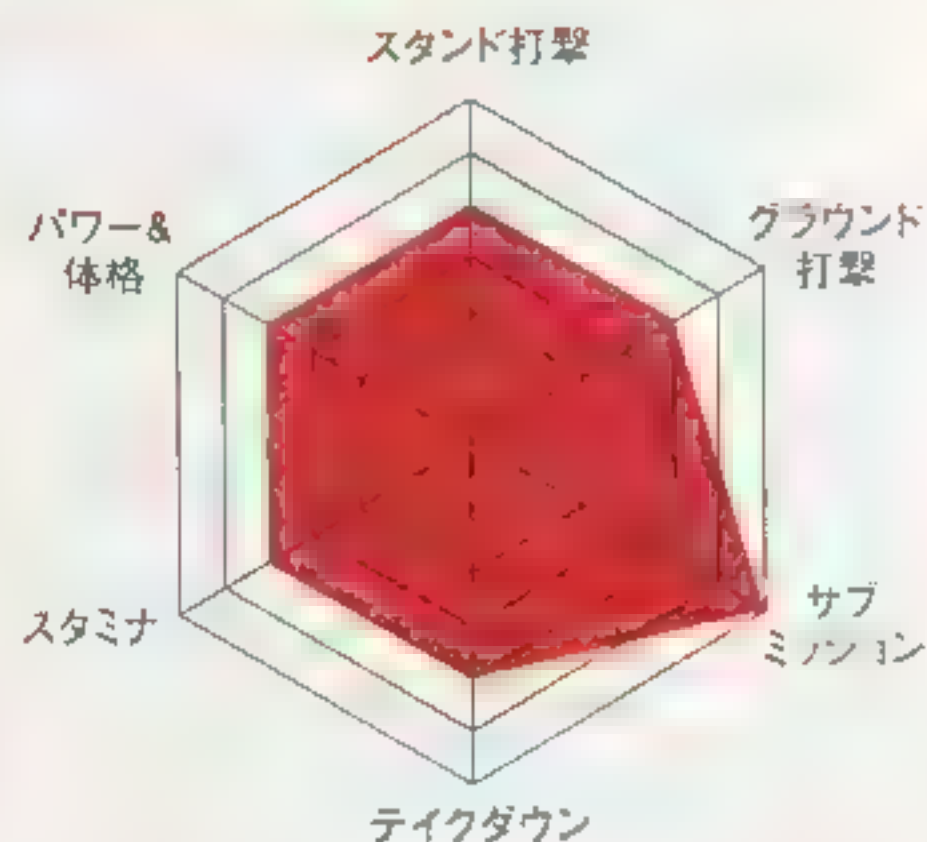
▼ウィークポイント

典型的な"剛"タイプだが、かといって"柔"に絡め取られることもない。この男を倒すには完全に実力で上回るしかなく、それかできるとしたら、やはり五味。川尻を待っているのは、壮絶な一回戦負けか圧倒的な優勝劇という両極端な結末になるのではないか。

リングスの聖地、ロシアに誕生!!

小谷直之／日本

『ZST』のエースが『武士道』のリングに殴り込み！ 初参戦で一気に優勝!?

選手の特徴

所属	ロデオスタイル
生年月日	1981年12月08日
出身地	神奈川県
身長／体重	173cm、73kg
バックボーン	総合格闘技
ZST戦績	9戦6勝2敗1分

タイトル歴

過去の戦績

- ■2005/01/23 ZST GP 2 FINAL　タリウス・スクリアウティス 3R終了 ドロー
- ■2004/09/12 ZST6　所英男 1R1分44秒 ヒールホールド
- ■2004/07/04 ZST BATTLE HAZARD 01　レミキウス・モリカビチュス 1R2分07秒 腕ひしぎ十字固め
- ■2004/05/05 ZST5　●マーカス・アウレリオ 2R3分34秒 レフェリーストップ
- ■2004/01/11 ZST GP FINAL　●リッチ・クレメンティ 2R終了 判定3-0

KOTANI NAOYUKI

『ZST』のエースがついに『武士道』登場を果たす。盟友でありライバルの所英男が『HERO'S』でブレイクしただけに、「試合のインパクトでは負けたくない」と小谷も大舞台での出世を虎視眈々と狙っている。『ZST』では〝査定試合をしなかった男〟と呼ばれていたりもするが、それは主催者側の期待感の表れでもあるはず。所、レミギウスにいずれも一本で完勝しているという事実は、GP出場に充分、値する

▼セールスポイント

「小谷君はああ見えても天才だからね」とは佐伯広報の弁。実際、リングス後期や『ZST』ではそれだけの強さを見せてきた。リングス時代は全勝、『ZST』でも旗揚げ戦からメインに起用され、タッグマッチも含め5試合連続で一本勝ちを収めている。ブレイクが早く、グラウンドでの顔面打撃がない『ZST』ではじっくりと体勢を作ったり、パウンドで崩して極めることかできない。そんな中で一本勝ちの山を築き上げた小谷の極めの強さは、驚異的といっていいだろう。

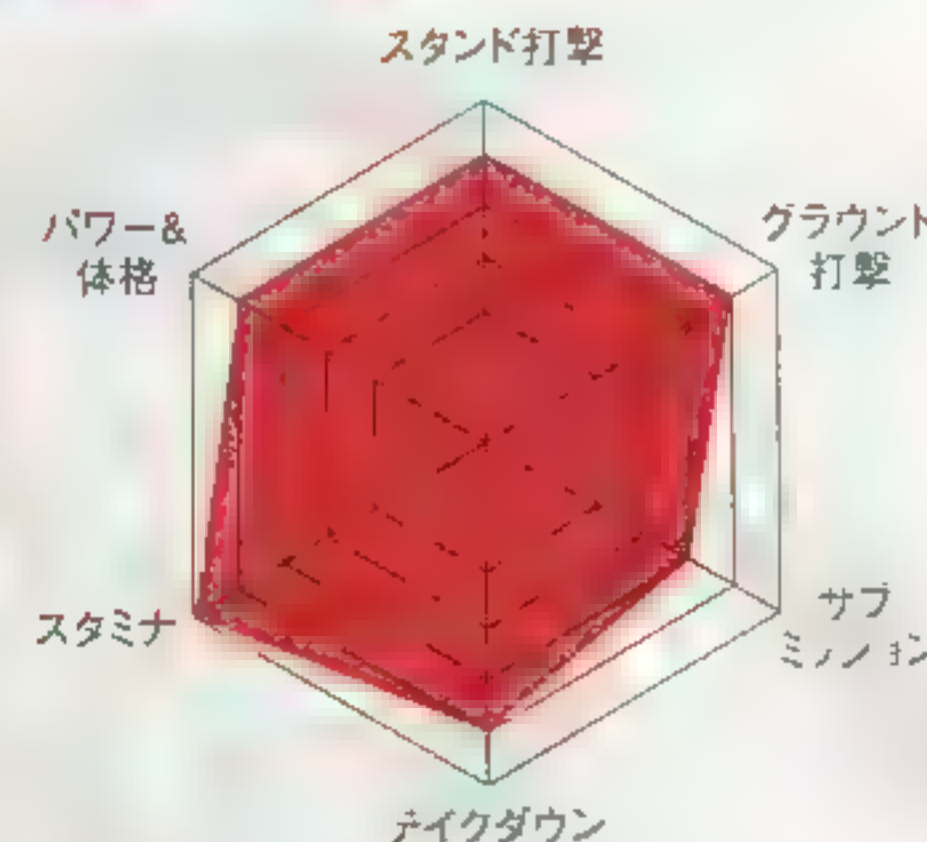
▼ウィークポイント

直接対決では勝っているのに、イメージ的に所に押され気味なのは、最近の勢いの差　特に昨年は海外遠征で2連敗を喫している。アウェーと顔面パウンドが弱点となると、両方の条件が揃う『PRIDE』でどうなるか？　という意味で、グラフの数値はやや抑え目となった。持っている力を出せれば……

ルイス・アゼレード／ブラジル

またもシュートボクセの実力者がベルト狩り。強打&柔術でGPを駆け上がる！

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	シュートボクセアカデミー
生年月日	1976年06月10日
出身地	ブラジル
身長／体重	177cm、72.8kg
バックボーン	レスリング、ボクシング
MMA戦績	13戦9勝4敗

タイトル歴

過去の戦績

- ■2005/05/22 PRIDE武士道－其の七－　●五味隆典 1R3分46秒 KO
- ■2005/04/03 PRIDE武士道－其の六－　ルイス・ブスカペ 2R終了 判定2-1
- ■2004/11/05 Storm Samurai 5　Regicauldo Kexado TKO
- ■2004/08/07 Storm Samurai 4　Eduardo Simoes KO
- ■2004/06/05 Meca World Vale Tudo 11　●Tony Desouza 判定負け

LUIZ AZEREDO

シュート・ボクセ代表としてライト級GPにエントリーするにふさわしい強豪である。『武士道　其の七』での五味にKO負け→大乱闘のインパクトがあまりにも強いが、ルイス・ブスカペに勝利している実力は決してあなどれない。狙うは準決勝での五味へのリベンジ、そしてシュート・ボクセの3階級制覇である。

▼セールスポイント

〝悪魔の巣窟〟シュート・ボクセにおける連日の激しいガチンコスパーで鍛え上げた打撃は強力。飛び蹴りなどのトリッキーな攻撃も使いこなし、五味戦でも試合序盤を支配している。また、もともとは柔術の名門アカデミー、ゴドイ・マカコの出身。ブラジリアン・トップチーム所属のブスカペを相手にグラウンドで互角に渡り合い、腕十字を極めかけてもいる。試合終了までアグレッシブな姿勢を貫き続けたのも高ポイント。スタミナは相当あると見ていいだろう。

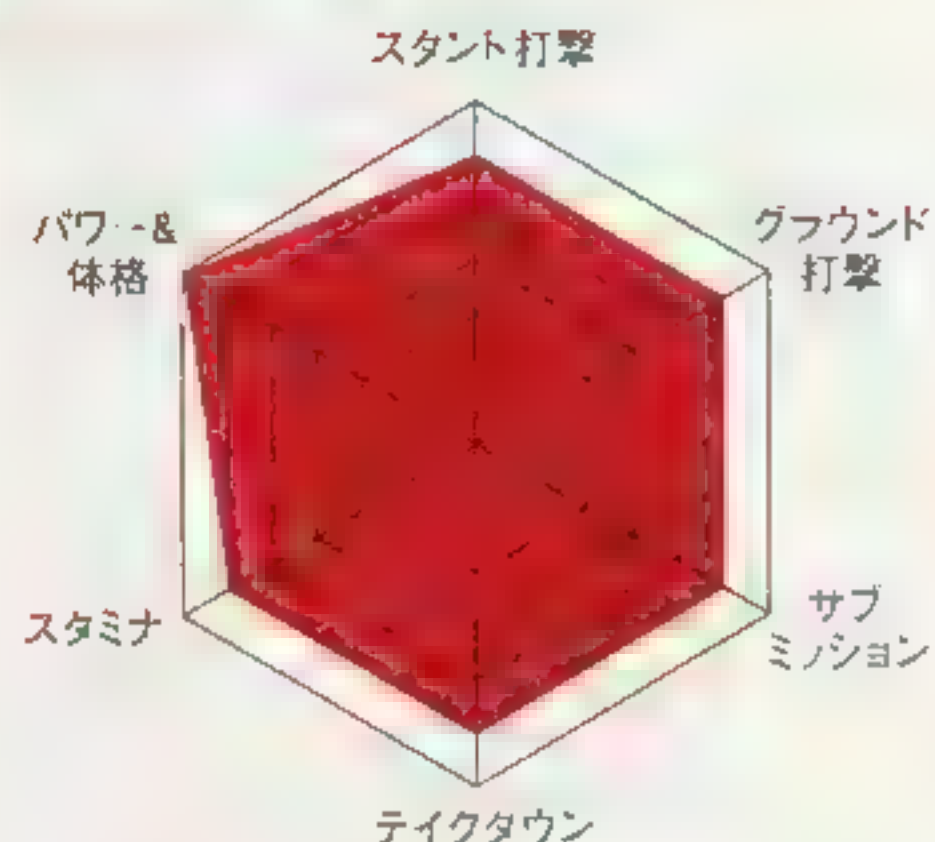
▼ウィークポイント

すべてにおいてハイレベルな選手だが、今回のGP出場選手を見渡すと、それが当たり前という感すらある。穴がない上で、何か一つ飛びぬけたものがほしいところだ。シュート・ボクセ特有の荒々しい打撃も、一歩間違えれば命取り。攻め込もうとするあまりガードがガラ空きになると……。アゼレードにとっては、むしろ打撃戦が要注意ポイントになるような気がする。

所　5回連
ないですよ**
す。これから
うにしないと
――そう言
のファイトマ
ろ引っ越しの
はないんです
所　年内は
の間大家さ
いにいった
とかに出てな
たんですよ。
みんなでやっ
さんはすっご
んですけど、
息子に「この
って報告し
ー」だって。
――まったく
んですか（笑
所　その二
ょっと家賃の
くれるかなと
てたんですけ
かったです
　世の中
すね（笑）。
っ越しした暁
プロ』が新居
に行きますか
所　あ、本
か？　ぜひ
　貧乏キャ
上して、高級
片手にバスロ
の所英男を
すよ（笑）。

桜井“マッハ”速人／日本

元修斗ミドル級王者が『武士道』ライト級でまたもトップを飾る!?

選手の特徴

所属	マッハ道場
生年月日	1975年08月24日
出身地	茨城県
身長 体重	171cm、74.9kg
バックボーン	柔道、修斗
MMA戦績	29戦21勝6敗2分

タイトル歴

■アブダビコンバット無差別級準優勝（'99）
■第4代修斗ミドル級チャンピオン

過去の戦績

■2005/08/20 プロ修斗　青木真也 3R終了 判定3-0
■2005/05/22 PRIDE武士道－其の七－　ミルトン・ヴィエイラ 2R終了 判定3-0
■2004/10/14 PRIDE武士道－其の伍－　●クラウスレイ・クレイシー 2R1分02秒 腕ひしぎ十字固め
■2004/07/19 PRIDE武士道－其の四－　ファンキー・フラディ フィンク 2R4分08秒 フロントチョークスリーパー
■2004/02/15 PRIDE武士道－其の弐－　●ホトリゴ・クレイシー 2R終了 判定3-0

SAKURAI MACH HAYATO

日本を代表する中量級ファイターであり、かつては80キロ以下世界最強ともいわれた男がGPで再起を図る。『武士道』ではウェルター級で苦闘が続いたマッハだが、今年に入ってアメリカ・AMCでのトレーニングでリフレッシュ。身体が引き締まり、ライト級への参戦となった。五味は木口道場の後輩、川尻、小谷は指導したこともある　気付けはベテランと呼ばれるキャリアに達しているが、だからこそ「先輩が後輩に負けるわけにはいかない」。若い日本人選手たちと直接、競い合う今回はマッハ本来の野性味を取り戻す絶好の機会だ。

▼セールスポイント

総合格闘技史上に残るフランク・トリッグ戦での大逆転を演出したパンチとヒザなど、打撃は迫力充分。腰が強く、パウンドもうまく、サブミッションも巧みで、実は下からも得意。オールラウンドな実力に加え、階級を下げたことによる体格的な強みも。この8月には結婚披露宴を行ない、人生の節目を迎えたマッハ。選手としての再ステップアップには、今が最高のタイミングだろう。

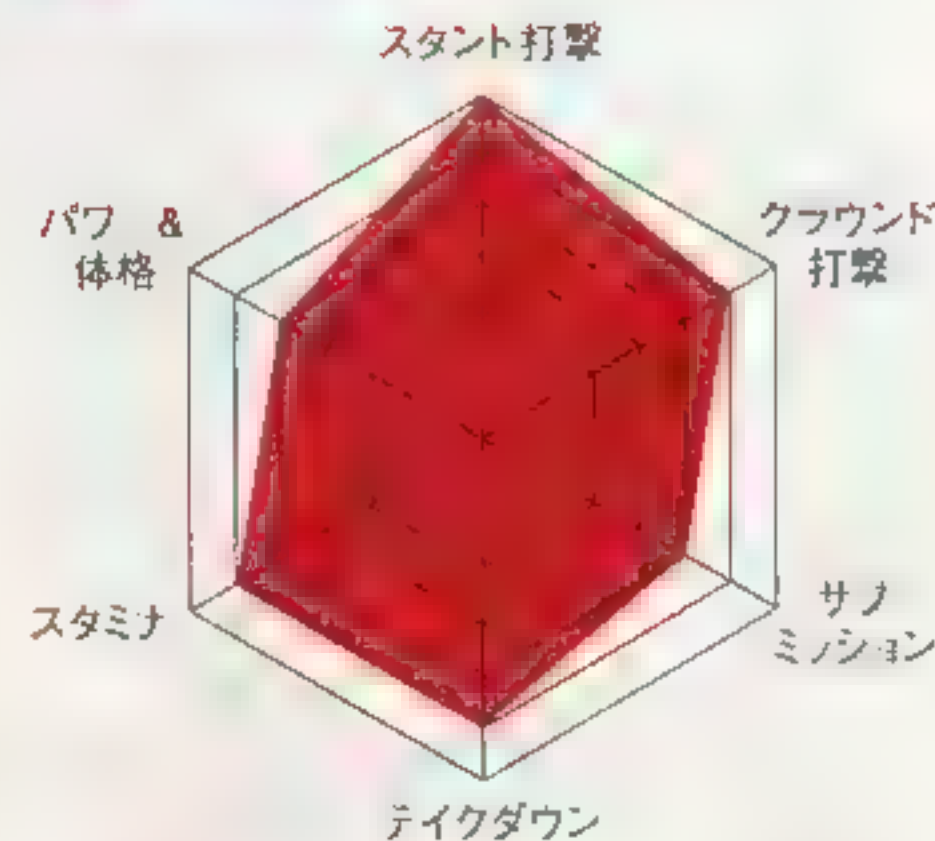
▼ウィークポイント

ウェルター級のダンヘン同様、減量によるコンディション調整の成否が気になる（修斗時代には76キロに落とすのにも苦労していた）。また、ここ2戦は勝ったとはいえ膠着を余儀なくされた。決して絶好調でGPに乗り込むわけではないが、果たして……？

ジェンス・パルヴァー／アメリカ

立ち技勝負はお手のもの。高速回転の打撃連打で初代UFC王者が優勝を狙う!

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	チーム・エクストリーム
生年月日	1974年12月06日
出身地	アメリカ・ワシントン州
身長 体重	170cm、72.0kg
バックボーン	レスリング、ボクシング
PRIDE戦績	2戦1勝1敗

タイトル歴

■初代UFCライト級チャンピオン

過去の戦績

■2005/05/22 PRIDE武士道－其の七－　TAISHO 1R1分00秒 KO
■2004/12/31 PRIDE男祭り2004　●五味隆典 1R6分21秒 KO
■2004/07/08 プロ修斗　ステファン・ハーリング 3R1分47秒 TKO
■2004/03/22 プロ修斗　植松直哉 1R2分09秒 KO
■2003/10/25 IFC-Battle ground Boise　Richard Hess チョークスリーパー

JENS PULVER

かつて宇野薫を下してUFCライト級王座についた世界屈指の強豪が、再び『PRIDE』のリンクへ。初登場となった昨年大晦日の『男祭り』では五味にKO負けを喫してしまったが、その実力は決して衰えてはいない。『武士道 其の七』ではTAISHOを相手に完璧なKO勝ち。再び上昇気流に乗ってのGP参戦だ。

▼セールスポイント

高度なボクシング・テクニックとレスリングを兼ね備えた、総合における“立ち続けて闘う”スタイルの先駆者的存在といっていい。立ち技格闘技シュートボクシングの世界トーナメント『S-cup』に参戦するなど、コンパクトかつ高速回転するパンチの連打は高い評価を得ている。文字通り、いろんな意味で伝説と化した大会『LEGEND』では、村浜武洋と寝技一切なしの打撃戦を展開して勝利。五味戦でもフィニッシュの寸前まで互角の打ち合いを見せた。とりわけ重量感あふれるボディへのフックは強烈！　B・J・ペンに勝利しているのも勲章だろう。

▼ウィークポイント

ここまで5敗のうち3つが（T）KO、2つが一本と、負けるときは案外モロさを見せる（最後の一本負けは5年も前の話だが）。果敢に打ち合うがゆえにリスクも背負ってしまうというわけだ。また修斗ではライト級（65キロ）で活躍しており、PRIDEライト級の73キロリミットは明らかなハンデ。

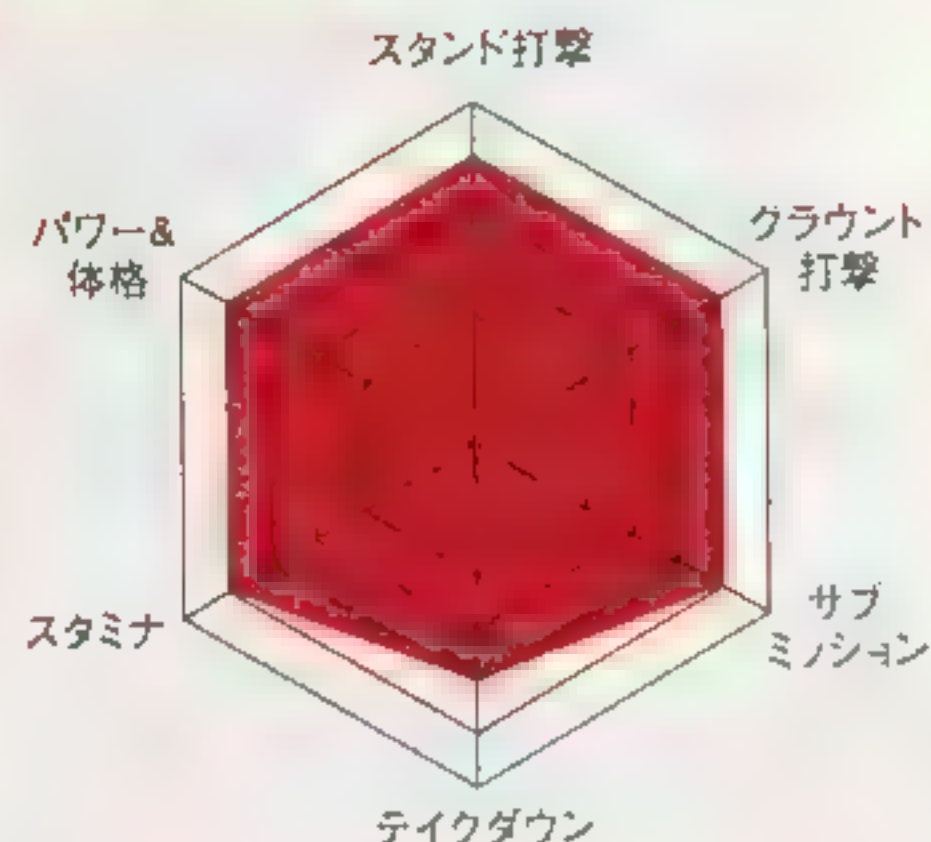
リングスの聖地、ロシアに誕生!!

RINGS

イーブス・エドワーズ／アメリカ

寝てよし、立ってよしの強者。KO&一本での勝率はなんと約80%!

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	サード・コラム・ファイトチーム
生年月日	1976年09月30日
出身地	アメリカ・テキサス州
身長／体重	175cm、71kg
バックボーン	ボクシング
MMA戦績	36戦27勝8敗1分

タイトル歴

■フックン・シュートミドル級チャンピオン

過去の戦績

■2005/05/22 PRIDE武士道一其の七一　三島☆ド根性ノ助 1R4分36秒 腕ひしぎ十字固め
■2005/02/26 ユーフォリアMFC　エルメス・フランカ 3R終了 判定2-1
■2004/06/21 UFC49　ジョシュ・トムソン 1R4分32秒 KO
■2004/04/02 UFC47　エルメス・フランカ 3R終了 判定3-0
■2003/11/21 UFC45　ニック・アガラー 2R2分14秒 TKO

YVES EDWARDS

UFCライト級のトップファイターが『PRIDE』制圧を狙う。97年にデビューし、キャリアはすでに40戦近い。佐藤ルミナに秒殺されて日本のファンに名前を知られた時期もあったが、それは彼のキャリアにおいて例外的な出来事。宇野薫を苦しめ、小谷直之にはTKO勝利。UFCでもエルメス・フランカ、ジョシュ・トムソンというライバルを退け、事実上の頂点に君臨しているだけに、アメリカ格闘技界が彼にかける期待は高い。

▼セールスポイント

これまでの28勝のうち、KOが12、一本が10と立っても寝ても強さを発揮。「武士道 其の六」で三島☆ド根性ノ助から腕十字で一本勝ちを奪ったのも記憶に新しい。ボクシングの世界ランカー、ルイス・ウットと練習するパンチが最大の武器だが、決して単純なストライカーではない。佐伯広報曰く「意外とイーブスが優勝するんじゃないかと思ってます」。「でも、決勝がイーブスvsアゼレード、ダンヘンvsフスタマンチとかになったらどうしよう」と、期待の星であり悩みの種でもあるというやっかいな存在。

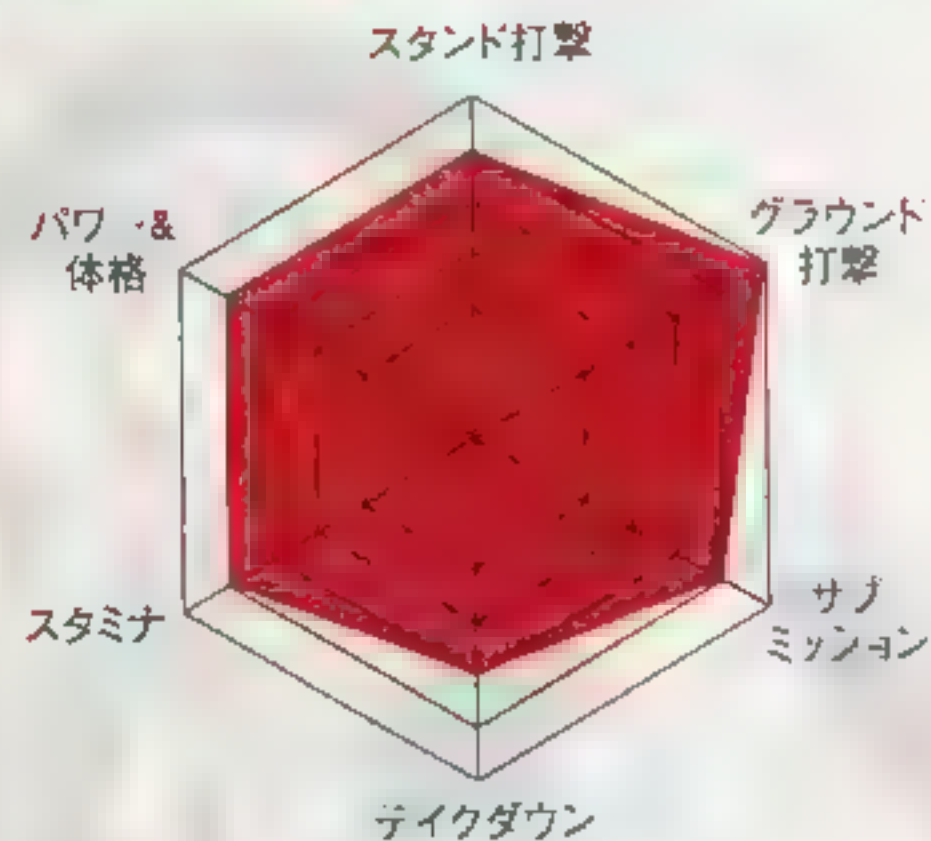
▼ウィークポイント

最も最近の負けが2年前（03年8月）と絶好調のエドワーズだが、そのときの相手が川尻たった。トーナメント制覇に向け、逆ブロックに天敵が待ち構えていることになる。アベレージの高い選手だが、敵地で能力を爆発させられるかどうかが重要なポイントだ。

ヨアキム・ハンセン／ノルウェー

五味、川尻に次ぐ影の優勝候補。"確実に当たる打撃"で強豪を粉砕!!

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	チーム・スカンジナビア
生年月日	1979年05月26日
出身地	ノルウェー・オスロ
身長／体重	175cm、69.8kg
バックボーン	柔道、空手
MMA戦績	13戦10勝2敗1分

タイトル歴

■ブラジリアン柔道欧州チャンピオン（'99）
■スカンジナビアサブミッションレスリングチャンピオン（'99、'00）
■第6代修斗ウェルター級チャンピオン

過去の戦績

■2005/08/20 プロ修斗　富樫健一郎 3R終了 判定3-0
■2005/07/17 PRIDE武士道一其の八一　今成正和 1R2分34秒 KO
■2005/03/26 HERO'S　宇野薫 3R4分48秒 KO
■2004/07/16 プロ修斗　ジェシアス・カバウカンチ 3R終了 判定2-0
■2004/04/05 プロ修斗　ヤクート・メティン 2R3分50秒 TKO

JOACHIM HANSEN

元修斗世界ウェルター級王者、ハンセンは五味、川尻と並ぶGP優勝候補といっていいだろう。今年3月、『HERO'S』で宇野薫との激闘を豪快なヒザ蹴りで制すと、5月の『武士道 其の六』で電撃的な参戦表明。7月の名古屋大会に出場し、今成正和をカウンターのヒザ一撃で沈めてみせた。"北欧の処刑人"という異名を取る打撃主体の残虐ファイトは、4ポイントのヒザ、顔面踏み付け有効の『PRIDE』でさらに猛威を振るうはず。五味を破ったことがあるという点でも、ハンセンの存在は脅威である。

▼セールスポイント

宇野、今成を倒したヒサなど、最近はスタンド打撃のイメージが強いハンセンだが、実はオールラウンド・ファイター。佐藤ルミナはパウンドでボコボコにし、グラウンドで下になった状態からのパンチでも確実に"効かす"ことができる。また五味戦ではバックを奪ってチョークを極めかけ、宇野戦でも互角にポジショニング争いを展開。柔術的な動きもハイレベルであることを証明している。

▼ウィークポイント

現在6連勝中、負ける姿は想像しにくいハンセンだが、8月の修斗横浜大会では、格下のはずの富樫健一郎に大苦戦している。立ってはジャブで機先を制し、グラウンドでは密着して動きを封じる。ハンセンの大胆さに繊細さで対抗すれば勝機も見えるのではないか。それが簡単にできたら苦労はないのだが……。

所　5回連
ないですよ本
す。これから
うにしないと
――そう言
のファイトマ
ろ引っ越しの
はないんです
所　年内は
の間大家さ
いにいった
とかに出てた
たんですよ。
みんなでやっ
さんはすっご
んですけど、
息子に「この
って報告し
ー」だって。
――まったく
んですか（笑
所　その二人
よっと家賃の
くれるかな
てたんですは
かったです
――世の中
すね（笑）。
っ越しした暁
プロ』が新
に行きますか
所　あ、本
か？　ぜひ
――貧乏キ
上して、高
片手にバス
の所英男を
すよ（笑）。

長南亮／日本

"ピラニア"が優勝候補ダンヘンを食うか!?　超本気の打撃に要注目!!

CHONAN RYO

選手の特徴

項目	内容
所属	チームM.A.D
生年月日	1976年10月08日
出身地	山形県
身長／体重	175cm、82.9kg
バックボーン	空手
MMA戦績	15戦11勝4敗

タイトル歴

過去の戦績

■2005/07/17 PRIDE武士道―其の八―　●フィル・バローニ 1R1分40秒 KO
■2005/05/22 PRIDE武士道―其の七―　○ニーノ・"エルビス"・シェンブリ 2R終了 判定3-0
■2005/02/12 DEEP 18th IMPACT　○ホアン・ジュカオン・カルネイロ 3R2分15秒 TKO
■2004/12/31 PRIDE男祭り　○アンテウソン・シウバ 3R3分08秒 首絞め
■2004/10/14 PRIDE武士道―其の伍―　○カーロス・ニュートン 2R終了 判定3-0

『武士道』ウェルター級のエースにして、同階級最強の呼び声も高い破壊的なストライカーである。『DEEP』のリングで桜井"マッハ"速人を下して評価を上げ、『武士道』でカーロス・ニュートン、ニーノ・シェンブリに、『男祭り』でアンデウソン・シウバに勝利。7月の名古屋大会ではフィル・バローニにまさかのKO負けを喫しはしたが、その分、出直しである今大会にかける意気込みは強い。いきなり優勝候補ダンヘンとの対戦となったが『優勝するつもりはない。ヘンダーソンを殺すつもりでやる』と、いかにも長南らしい言葉を残している

▼セールスポイント

本人は気に入っていないというが"殺戮ピラニア"という異名は長南のファイトスタイルにふさわしい。スタンドでのパンチとヒザ、グラウンドでのパウンド、踏み付けなと相手を叩き潰すような闘いぶりは壮絶の一語。失礼な表現かもしれないが"シラフで人が殺せる男"というイメージである。と同時に、アンデウソンを極めた一瞬のカニ挟み→ヒールホールドなと、意外なオプションを持ち合わせているのみ強み。

▼ウィークポイント

ニーノ戦では勝利したものの膠着。相手がKOや極めを狙わす、徹底的に地味な展開を狙ってきた場合、持ち味を殺されてしまう可能性はある。そこで精神的にジレてしまうと、思わぬ落とし穴が待っているかもしれない。

ダン・ヘンダーソン／アメリカ

優勝候補の筆頭!! ミドル級での実績を引っさげ、リアルアスリートが大暴れ!

DAN HENDERSON

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

項目	内容
所属	チームクエスト
生年月日	1970年08月24日
出身地	アメリカ・カリフォルニア州
身長／体重	180cm、88.7kg
バックボーン	レスリング
PRIDE戦績	11戦7勝4敗

タイトル歴

■UFCライトヘビー級チャンピオン（'98）
■リングスKOKトーナメント初代チャンピオン

過去の戦績

■2005/04/23 PRIDE GP2005 開幕戦　●アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ 1R8分05秒 腕ひしぎ十字固め
■2004/12/31 PRIDE男祭り　○近藤有己 3R終了 判定2-1
■2004/10/31 PRIDE 28　○中村和裕 1R1分15秒 KO
■2003/11/09 PRIDE GP2003 決勝戦　○ムリーロ・ブスタマンチ 1R0分53秒 KO
■2003/03/16 PRIDE.25　○大山峻護 1R3分27秒 KO

今年のミドル級GPにも出場したダンヘンが、ウェルター級に階級を下げて登場する。これまでの実績から見る限り、間違いなく優勝候補。第一回リングスKOKトーナメントを制し、ヴァンダレイ・シウバやホドリゴ・ノゲイラをあと一歩のところまで苦しめた（ノゲイラにはKOKでは勝利している）実力は、まぎれもないホンモノである。

▼セールスポイント

ミドル級はもちろん無差別級でも通用する強さは、ウェルター級においてはなおのこと発揮される。テクニックはもちろんハイレベルだし、体格的な有利はいうまでもない。手が付けられなくなる可能性は充分だ。グレコローマンでオリンピックに2度出場したレスリング力に加え、パンチの方も一流。その合わせ技ともいえる、相手の首根っこを掴んでのアッパーは絶大な威力を誇る。寝技においても、レスリング仕込みの抜群のグラウンド・コントロールからパウンド、4ポイントのヒザなど攻撃力は文句なし。

▼ウィークポイント

階級を落としたがために減量苦の危険性も。調整の段階で無理をすれば、必ず試合に響く。また『男祭り』の近藤戦では後半ヘロヘロになり、ミドル級GPのホジェリオ戦も途中で急激に失速し一本負け。代名詞であるはずのフィジカルの強さに疑問符がつくようになってしまった。ダンヘンにとって、コンディションは敵にも味方にもなる。

リングスの聖地、ロシアに誕生!!

郷野聡寛／日本

グラバカの毒舌王が、得意の打撃としゃべりでGPの勝機を呼び寄せる!?

選手の特徴

所属	GRABAKA
生年月日	1974年10月07日
出身地	東京都
身長／体重	176cm、84.4kg
バックボーン	総合格闘技
MMA戦績	34戦20勝7敗7分

タイトル歴

■全日本キックボクシングヘビー級王者（'05）

過去の戦績

■2005/05/22 PRIDE武士道－其の七－ クラウスレイ・グレイシー 2R終了 判定3-0
■2004/11/07 パンクラス ○ティム・マッケンジー 2R2分58秒 TKO
■2004/06/22 パンクラス ○栗原強 1R2分15秒 KO
■2004/02/15 PRIDE武士道－其の弐－ ●マウリシオ・ショーグン 1R9分04秒 KO
■2003/11/30 パンクラス ○ニルソン・デ・カストロ 3R終了 判定3-0

GOUNO AKIHIRO

グラハカの毒舌王は『武士道』GP参戦が決まってもやはり言いたい放題であった。日本人出場選手の多さを「ヘタな鉄砲も数打ちゃ当たる」と評し、「今度のトーナメントは2強3中5弱。そのうち5弱は日本人」と自らも含めてバッサリ。早くもトーナメントを自分のペースに巻き込んでいる。あとは結果を残して落とし前をつけるだけ。そしてそれができる実力は、充分にある。

▼セールスポイント

全日本キックのヘビー級タイトルも獲得したほどの打撃は、他の追随を許さない。といっても単にガンガン打ち合うのではなく、ミドルキックやジャブを中心に相手の光を消していくテクニカルなスタイル。〝判定上等〟のアウトボクシングというスタイルへのこだわり、確信はこの大舞台でも揺らぐことはないだろう。もちろんグラバカだけに、寝技の方も一級品である

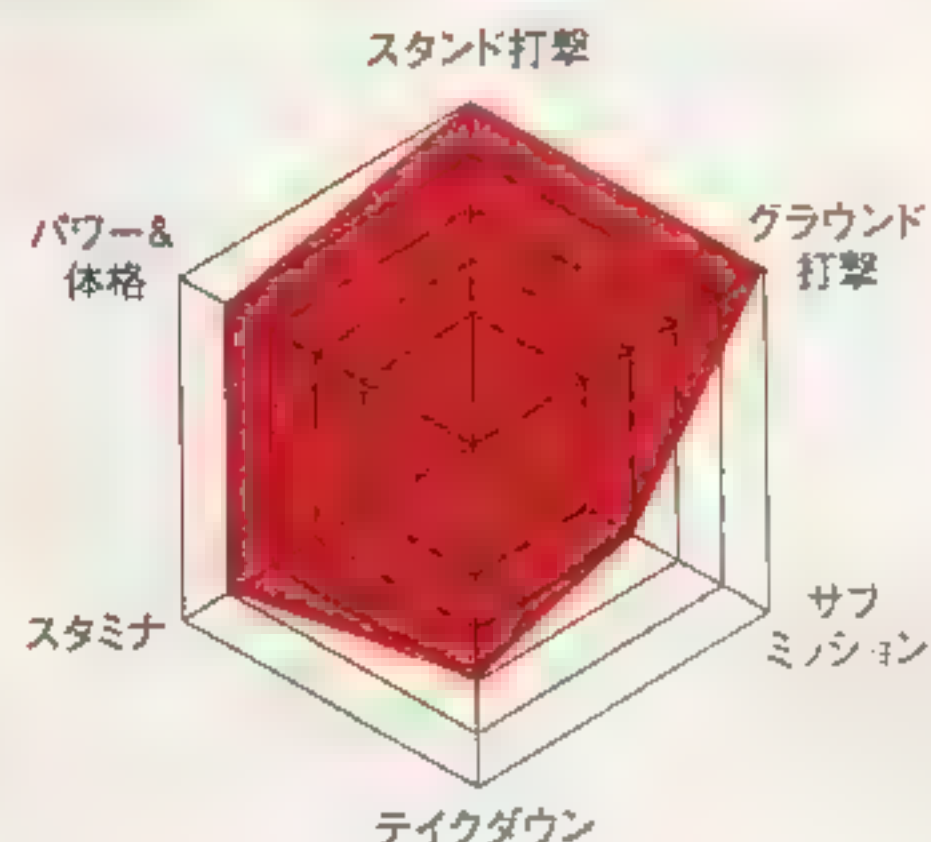
▼ウィークポイント

パンクラスでは無敗で迎えた近藤有己戦で惨敗、『武士道』初登場のショーグン戦でKO負けし、今年もキックのタイトル獲得直後に桜木裕司のワンパンチに沈み……と、〝ここで勝っておかないと〟という試合で実力を発揮できないのが郷野。いまの彼は〝いい選手〟であって〝凄い選手〟とはいえない。一流と超一流を隔てる壁を超えられるかどうかが郷野のテーマ。このGPは、そのための最大のチャレンジになるだろう。

ダニエル・アカーシオ／ブラジル

シュートボクセの十八番、パンチ、パウンド、踏みつけでウェルター級掌握へ!!

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	シュートボクセアカデミー
生年月日	1977年12月27日
出身地	ブラジル・リオデジャネイロ
身長／体重	178cm、82.3kg
バックボーン	総合格闘技
MMA戦績	11戦10勝1敗

タイトル歴

過去の戦績

■2005/07/17 PRIDE武士道－其の八－ 三崎和雄 2R終了 判定3-0
■2005/04/03 PRIDE武士道－其の六－ ○高瀬大樹 2R3分34秒 TKO
■2004/11/05 Storm Samurai5 Danilo Moto-Serra 判定勝ち
■2004/06/05 Meca World Vale Tudo 11 ○Eric Tavares KO
■2004/05/15 Jungle Fight 2 ○Buck Greer KO

DANIEL ACACIO

現在、PRIDE戦線を席巻しているシュート・ボクセのウェルター級代表がこのアカーシオである。『メッカVT』でのアグレッシブな試合ぶりがフジマール会長の目に留まってシュート・ボクセ入り。『武士道』デビューを果たした4月の高瀬大樹戦ではボコボコに叩き潰してKO勝ち、7月の三崎和雄戦でもスリリングな打撃戦を制して判定勝利を収めた。ミドル級に続いてのシュート・ボクセ2階級制覇。その可能性は高い。

▼セールスポイント

打撃。とにかく打撃。立って殴り、倒れた相手を踏み付け、というシュート・ボクセの十八番的ファイトスタイルを、アカーシオも完全にマスターしているといっていい。高瀬、三崎という異なるタイプの選手を撃破したことで、vsグラップラー、vsストライカーどちらでも隙がないことを証明してみせた。三崎戦では、ヴァンダレイ・シウバの「打撃でいけ、男らしい闘いをしろ」とのアドバイスを忠実に実行。恐れを知らぬ闘いぶりは、対戦相手を恐怖に陥れることだろう。

▼ウィークポイント

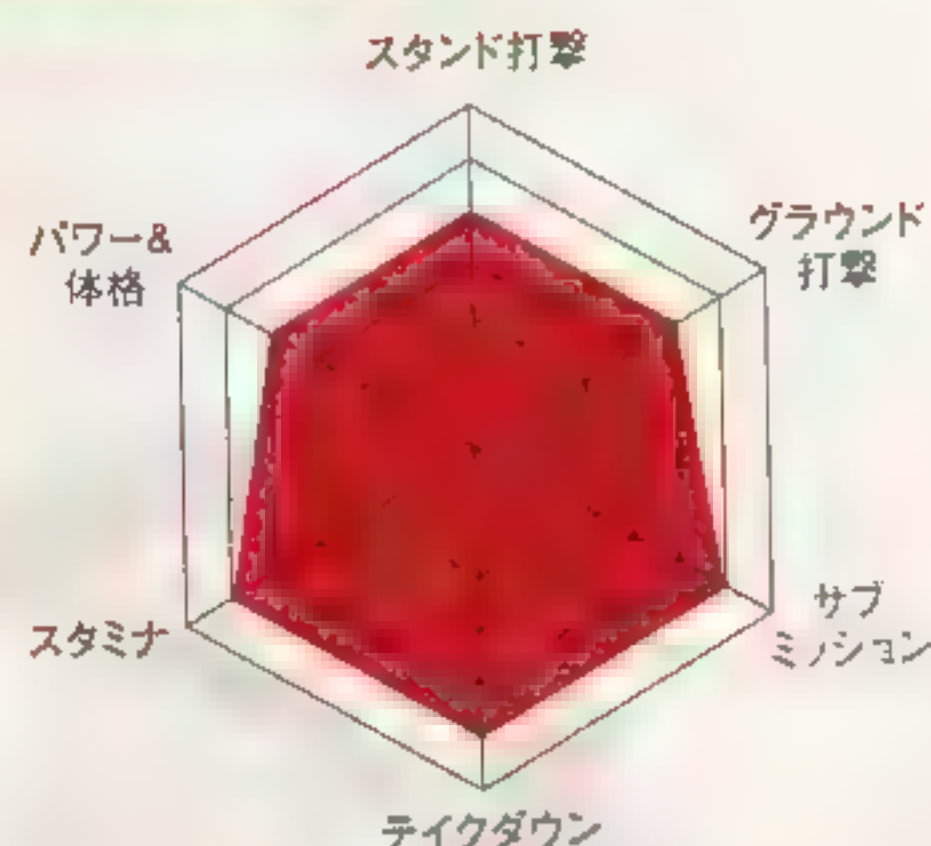
いまだ『武士道』では隙も底も見せておらず、未知数の部分が多い。特にグラウンドの局面。シュート・ボクセでは柔術にも力を入れているだけに寝技の実力も高いだろうとの予測は成り立つが……。シウバ戦でのアローナのような戦法を相手が取ったときにどう対処するのか、注目したい。

所　5回連
ないですよ
す。これから
うにしないと
　そう言
のファイト
ろ引っ越しの
はないんです
所　年内は
の間大家さ
いにいった
とかに出てな
たんですよ。
みんなでやっ
さんはすっご
んですけど、
息子に「この
って報告し
!」だって。
――まったく
んですか（笑
所　その二
ょっと家賃の
くれるかなと
てたんですけ
かったです
　世の中
すね（笑）。
っ越しした晩
プロ』が新居
に行きますか
所　あ、本
か？　ぜひ
――貧乏キ
上して、高級
片手にバス
の所英男を
すよ（笑）。

須田匡昇 ／日本

柔術、サンボ出身のグラウンドテクはお墨付き! 初参戦の大会で王座へ!

SUDA MASANORI

選手の特徴

所属	CLUB J
生年月日	1973年07月24日
出身地	兵庫県
身長／体重	180cm、83kg
バックボーン	柔道、サンボ
MMA戦績	23戦13勝7敗3分

タイトル歴

■第3代修斗ライトヘビー級チャンピオン

過去の戦績

■2005/04/29 SB39-Destiny ●Falaniko Vitale KO
■2005/01/29 プロ修斗 ブライアン・エバーソール 3R2分59秒 スリーパーホールド
■2004/07/09 プロ修斗 ダスティン・テニス 3R終了 判定1-0
■2003/12/05 プロ修斗 ○シャノン"ザ・キャノン"リッチ 1R1分07秒 三角絞め
■2003/09/15 DEEP 12th IMPACT △上山龍紀 3R終了 ドロー

修斗ライトヘビー級王者・須田が念願の『武士道』初参戦にしてトーナメントにエントリーを果たした。修斗王座以外にも、かつてはスーパーブロウル・ミドル級王座を獲得。DEEPでも長南亮、上山龍紀らと激闘を展開してきた。この階級で最強を争うなら決して欠かせない、日本屈指の実力者である。ムリーロ・ブスタマンチとの一回戦を「ブスタマンチは39歳、僕もそんなに若くない。負けたほうが引退でいいんじゃないですか」と語るなど、大一番にモチベーションも高い。

▼セールスポイント

柔道、サンボをベースとするだけに、得意とするのはやはりグラウンド。十字、三角など基本的な技をしっかりと使いこなせる、つまり"はずれ"のないシュアーなテクニックは安定感がある。加えてここ数年はスタンドの打撃も上昇中。イーゲン井上戦ではパンチでKO勝ちを収めた。差し合いのしつこさも含め、大崩れしないところはトーナメント向きだといえるだろう。

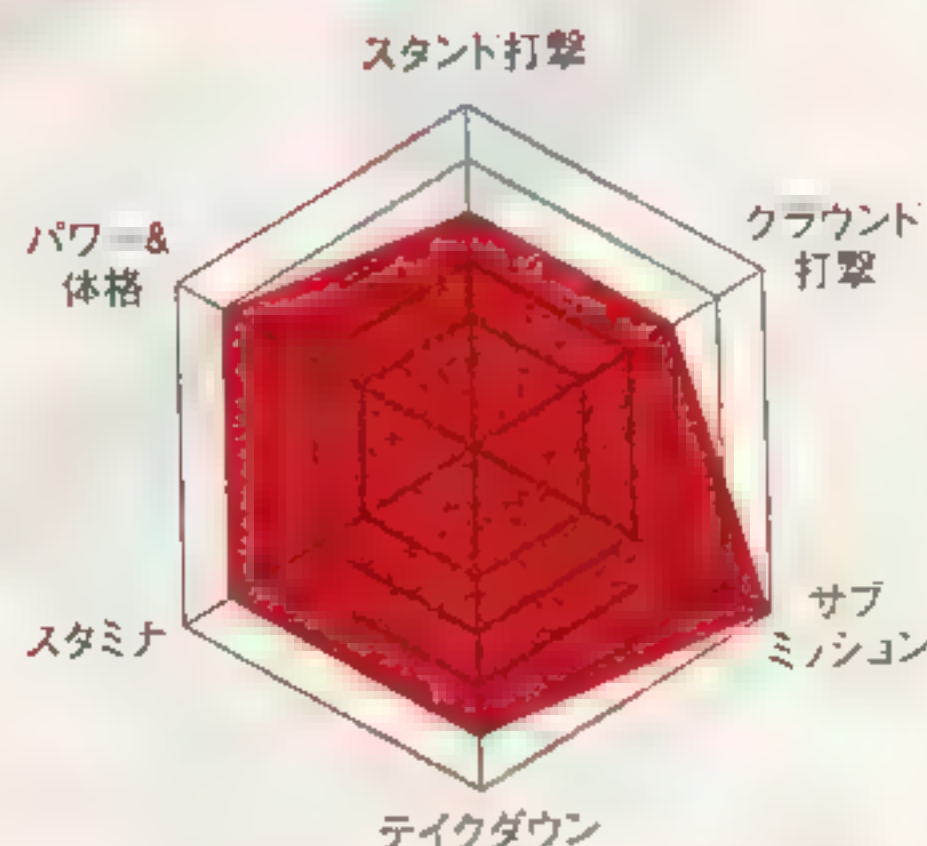
▼ウィークポイント

決定力とはまた別種の"爆発力"に欠ける点は、『PRIDE』での闘いでは明らかなマイナス。特殊な磁場を持つこのリングにおいて、初参戦で普段通りの力を出すことは簡単ではない。アグレッシブな闘いを意識しすぎるあまりペースを乱す危険性は大いに考えられるだろう。観客の反応や膠着イエローカードが、須田の最大の敵か。

ムリーロ・ブスタマンチ ／ブラジル

柔術界の大ベテランがGPを完封する!? 若手を抑えて王座を奪えるか。

MURILO BUSTAMANTE

選手の特徴

所属	ブラジリアン・トップチーム
生年月日	1966年07月30日
出身地	ブラジル・リオデジャネイロ
身長／体重	185cm、82.6kg
バックボーン	ブラジリアン柔術
PRIDE戦績	4戦1勝3敗

タイトル歴

■柔術アブソリュート級ブラジル王者4回
■ブラジリアン柔術世界選手権ヘビー級優勝2回
■ブラジリアン柔術世界ヘビー級現王者
■ルタ・リブレ・柔術チャレンジ 優勝('91)
■W.V.F. 優勝('96)
■第2回 国際マスター&ジュニア柔術選手権ペサード級 優勝('01)
■元UFCミドル級王者

過去の戦績

■2005/04/03 PRIDE武士道－其の六－ 桜井隆多 2R終了 判定3-0
■2004/08/15 PRIDE GP2004 FINAL ROUND ●中村和裕 3R終了 判定3-0
■2003/11/09 PRIDE GP2003決勝戦 ●ダン・ヘンダーソン 1R0分53秒 KO
■2003/08/10 PRIDE GP2003開幕戦 ●クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン 3R終了 判定2-1

これまで数々の栄光を手中にしてきたブラジリアン・トップチームの大ベテランが、一昨年のミドル級GPに続いてウェルター級にも登場する。ここまで『PRIDE』では1勝3敗と芳しい戦績を残せていないが、敗北はいずれもミドル級でのもの。本来の階級であるウェルター級での闘いとなる今回は、その実力がいかんなく発揮されることだろう。

▼セールスポイント

磨きぬかれた柔術テクニックと、豊富という一言では片付けられないほどのキャリアは、他の選手にはない大きな武器。また、4月の『武士道』ではDEEP王者・桜井隆多を完封。これはパンチでイニシアチブを握っての勝利で、スタンド打撃にも強いところを見せ付けている。だが、もしかすると"柔術マスター"の最大の強みはファイティング・スピリットかもしれない。かつてマリオ・スペーヒーらとともにグレイシー一門の"武闘派"カーウソン軍団の主軸としてならし、トム・エリクソンとの体重差40キロ対決でドロー!。ミドル級GPでは決勝進出を果たしたランペイジ・ジャクソンと大接戦を演じるなど、どんな相手にも果敢に立ち向かっていく姿勢は誰もが一目置くところだ。

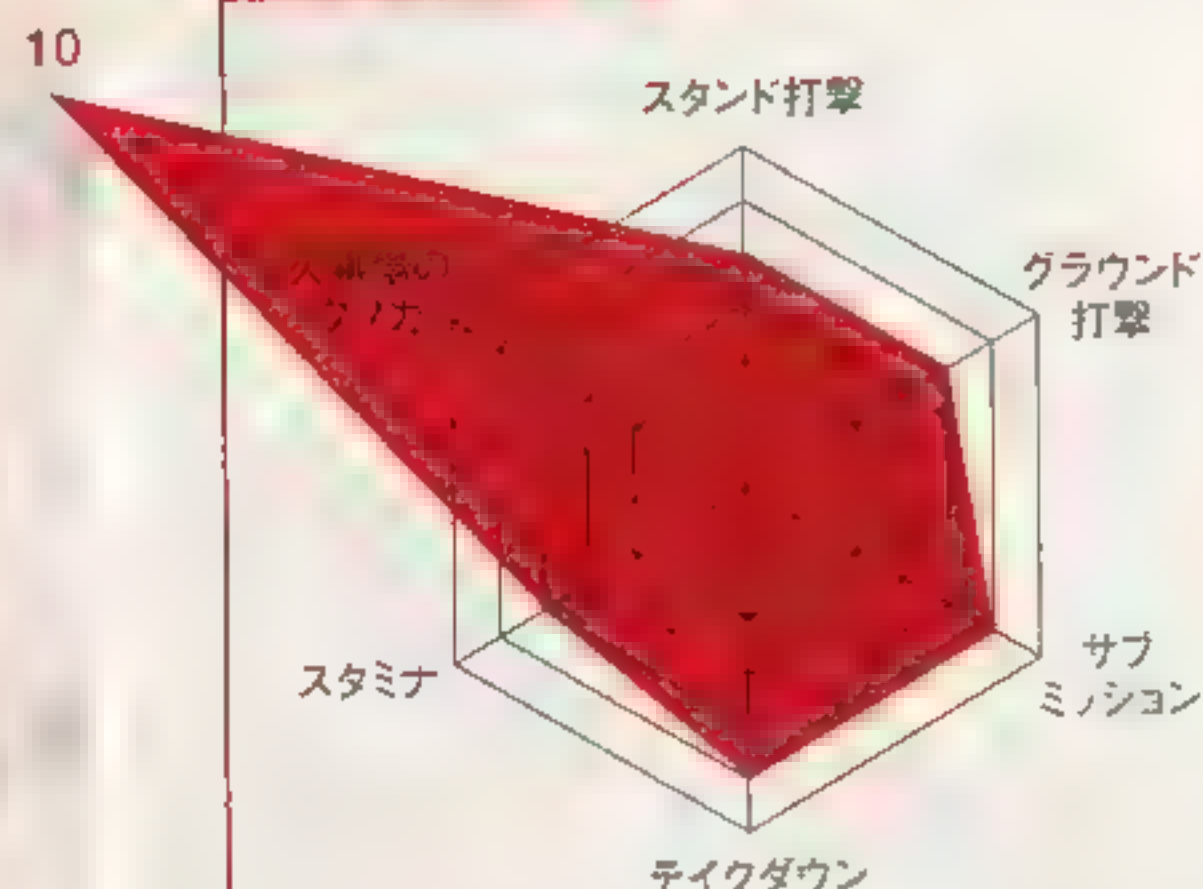
▼ウィークポイント

『HERO'S』でのホイラーと同じく、やはり年齢だろう。若く、勢いのある相手に対した時に御しきれるかどうか。ブスタマンチは時代の移り変わりとも闘わねばならない。

美濃輪育久／日本

何が飛び出すかわからない、それが"リアル・プロレスラー"の最大の武器!!

選手の特徴

10
スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
火事場のクソ力

所属	フリー
生年月日	1976年01月12日
出身地	岐阜県
身長／体重	175cm、85.3kg
バックボーン	プロレス
PRIDE戦績	9戦5勝4敗

タイトル歴

過去の戦績

- 2005/07/17 PRIDE武士道－其の八－ キモ 1R3分11秒 アキレス腱固め
- 2005/05/22 PRIDE武士道－其の七－ ●フィル・バローニ 2R2分04秒 KO
- 2005/04/03 PRIDE武士道－其の六－ ○ギルバート・アイフル 1R1分15秒 アンクルロック
- 2004/12/31 PRIDE男祭り2004 ステファン・レコ 1R0分27秒 膝固め
- 2004/10/14 PRIDE武士道－其の伍－ ○上山龍紀 2R終了 判定2-1

MINOWA IKUHISA

『武士道』のリングを沸かせ続けてきた"リアル・プロレスラー"がGP参戦を果たす。これまで無差別で闘ってきた美濃輪だが、今回は同体格のライバルたちとのシビアなシノギ合いだけに、真価が問われるところだろう。いつ何時でもアグレッシブ、常に規格外の暴れっぷりを見せてきた美濃輪が、トーナメントという勝負論が支配する世界でどんな闘いを見せるのか。本人談によると今回のテーマは、ズバリ"追い風ダッシュ"！

▼セールスポイント

いつ、どこでとんな技が飛び出すか分からない、総合格闘技の枠に捉われない闘いっぷりは、かつての好敵手・菊田早苗をして「ミラクルがある人」と言わしめた。不利を一瞬でひっくり返す極めの強さは、どんな相手でも仕留められる強力な武器。今回は体格的なハンディキャップがない分、パワーも存分に活かされるはず。美濃輪といえば"面白い"だが、今回は"強い"美濃輪が見られるかもしれない。

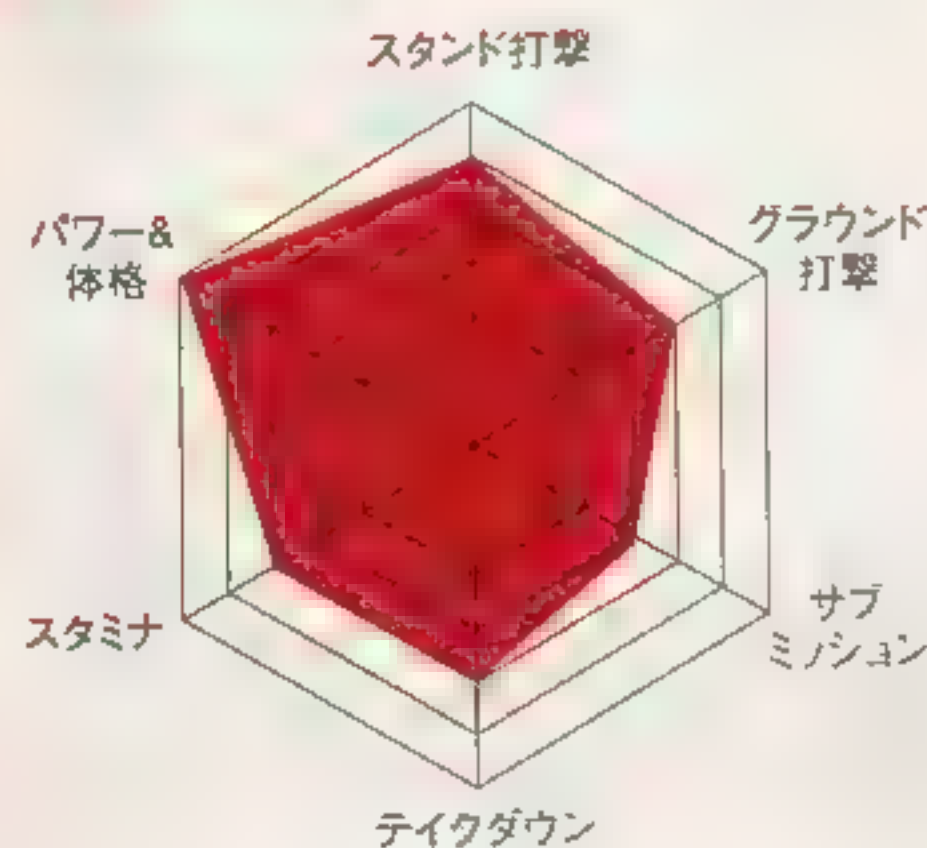
▼ウィークポイント

技術という面では、はっきり言って荒削り。それを気合いと勢いで凌駕してしまうのが魅力でもあるのだが、ジワジワと持ち味を殺され、膠着戦に持ち込まれると厳しいかもしれない。全ての常識を覆す"火事場のクソ力"が爆発するかどうかが勝負のカギといえるだろう。爆発すれば、怖いもんなし。

フィル・バローニ／アメリカ

本GPの台風の目!『武士道』過去2戦のKO劇がGPでも再演されるか!?

選手の特徴

スタンド打撃
グラウンド打撃
サブミッション
テイクダウン
スタミナ
パワー&体格

所属	ハンマーハウス
生年月日	1978年04月16日
出身地	アメリカ・ニューヨーク
身長／体重	180cm、82.3kg
バックボーン	レスリング
MMA戦績	13戦8勝5敗

タイトル歴

過去の戦績

- 2005/07/17 PRIDE武士道－其の八－ ○長南亮 1R1分40秒 KO
- 2005/05/22 PRIDE武士道－其の七－ ○美濃輪育久 2R2分04秒 KO
- 2005/03 Extreme Fighting Challenge ○クリス・クロール アームバー
- 2005/02/05 UFC51 ●ピート"ドラゴ"・セル ギロチンチョーク
- 2004/06/19 UFC48 ●エヴァン・タナー 5R終了 判定3-0

PHIL BARONI

今年5月の『武士道』初参戦以来、美濃輪、長南を連破した"NYバッドアス"バローニは、本トーナメントの台風の目といっていい存在だろう。ド派手なガウンを着ての入場は、往年のNWA世界王者ばりでキャラ立ちも充分。一回戦で美濃輪を返り討ちにすれば、そのまま頂点まで駆け上っていく可能性も。それほど、勢いに乗せたら猛威をふるいそうな選手である。

▼セールスポイント

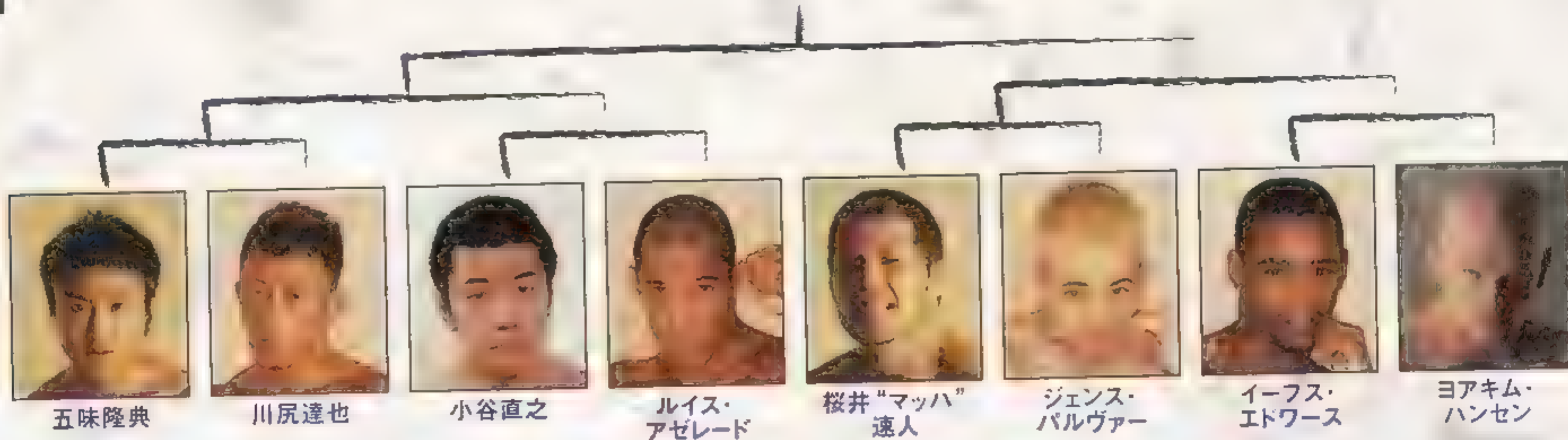
コールマン、ランデルマンと同じハンマーハウス所属とあって、持ち味はパンチ+レスリング。これまで8勝のうち6勝がKOおよびTKO、関節技による勝利が1、判定勝利がわずか1と、抜群の決定力を持っている。美濃輪戦では劣勢の展開を2Rで一気に挽回し、長南戦では一瞬の隙を突いてワンパンチでノックアウト。それを支えるのは、鋼の如き筋肉が生み出すパワーである。真っ向勝負になれば、相当な実力を発揮してくるタイプだといえる。

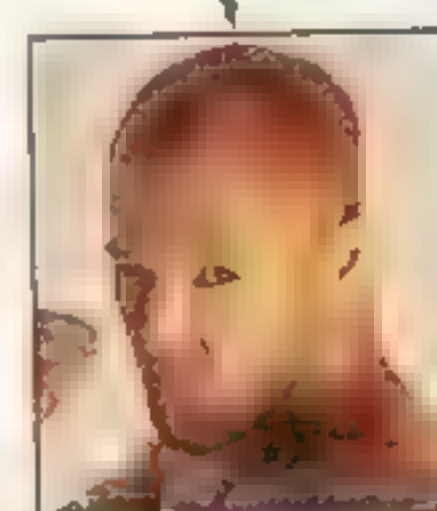
▼ウィークポイント

真っ向勝負には強いが、裏をかかれると失速しがちなのは、やはりコールマン、ランデルマンと同様だろう。これまでマット・リンドランド、エヴァン・タナーにそれぞれ2敗を喫している。粘りのある試合巧者、インサイドワークに長けた選手との対戦が鬼門になってくるはず。マッチョな肉体、短期決戦タイプゆえの"カラータイマー"点滅も怖い。

所　5回連
ないですよ
す。これから
うにしないと
　そう言
のファイトマ
ろ引っ越しの
はないんです
所　年内はな
の間大家さ
いにいった
とかに出てた
たんですよ。
みんなでやっ
さんはすっご
んですけど、
息子に「この
って報告し
ー」だって。
　まったく
んですか（笑
所　その二人
よっと家賃の
くれるかな
てたんです
かったです
　世の中
すね（笑）。
っ越しした暁
プロ』が新居
に行きますか
所　あ、本
か？　ぜひ
――貧乏キ
上して、高級
片手にバスロ
の所英男を撮
すよ（笑）。

PRIDE GP 2005　ライト級トーナメント（73Kg以下）

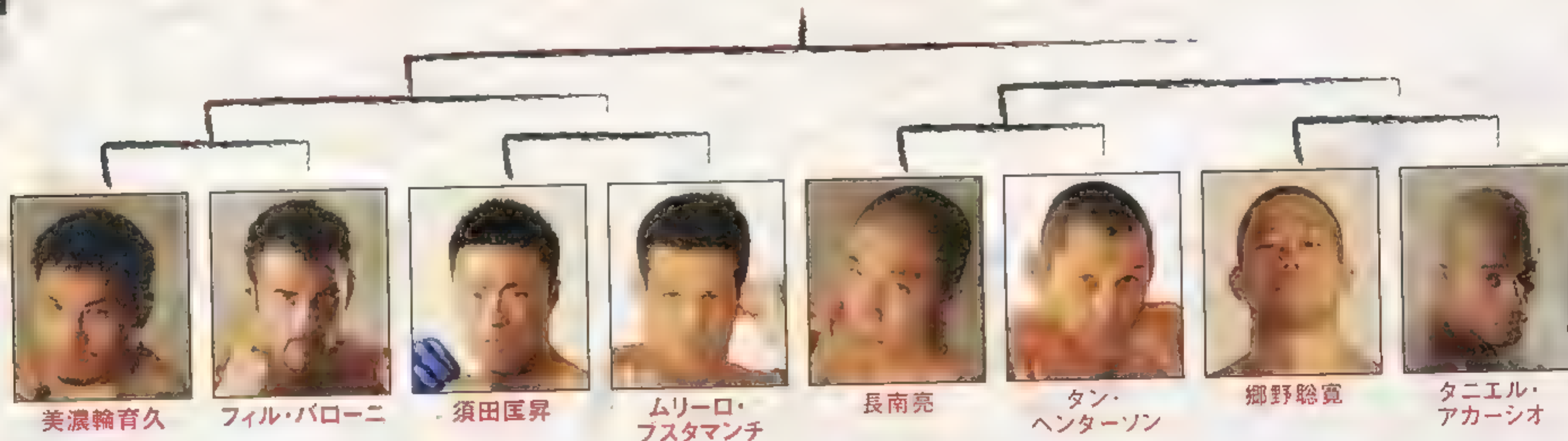
五味隆典　川尻達也　小谷直之　ルイス・アゼレード　桜井"マッハ"速人　ジェンス・パルヴァー　イーブス・エドワーズ　ヨアキム・ハンセン

みどころ

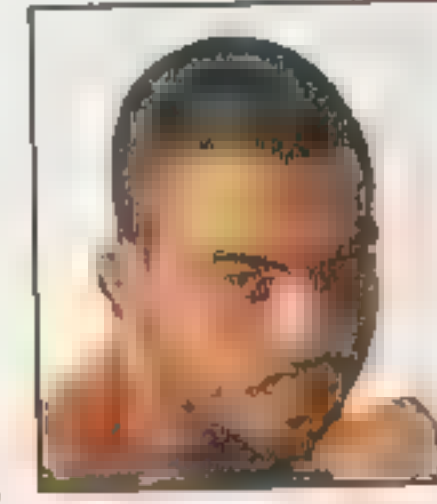
いい意味で誰が勝ち上がってくるのか予想しがたいライト級トーナメント。『武士道』のエース・五味を筆頭に、川尻、マッハ、ハンセンといった現・旧修斗王者がこれだけそろい、さらに『UFC』からパルヴァー、『ZST』から小谷という各大会のトップファイターが一同に集うトーナメントなだけに、どの選手にとっても厳しい闘いになることは間違いないだろう。また、早くも一回戦から実現した"優勝候補の潰し合い"五味vs川尻の対決はなんといってもこのライト級トーナメントの目玉。さらに『ZST』のリングで"査定試合をしなかった男"と紹介されつつも、過去の実績からGP出場を果たした小谷。この大舞台でいつもの実力を発揮できるのか、要注目だ

リザーブマッチ

三島☆ド根性ノ助

チャールス・"クレイジー"・ホーズ・ベネット

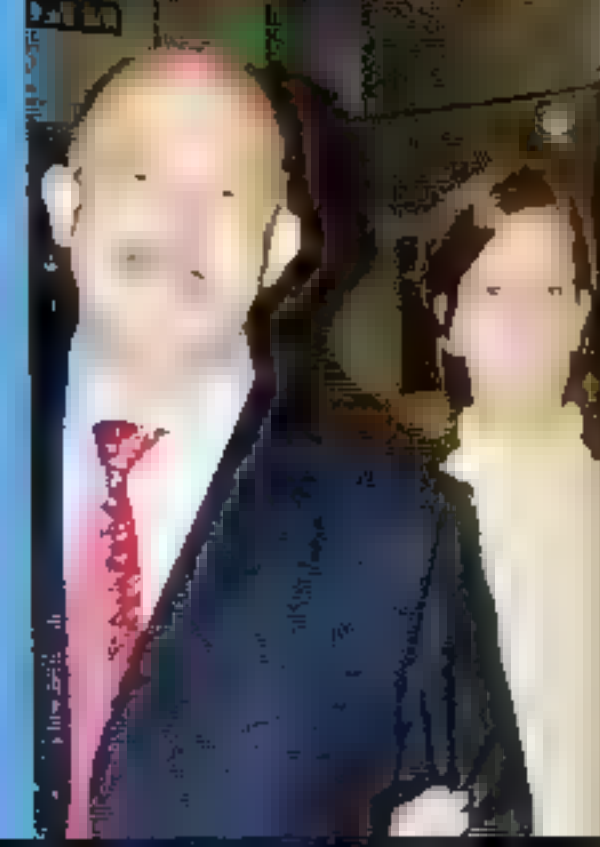
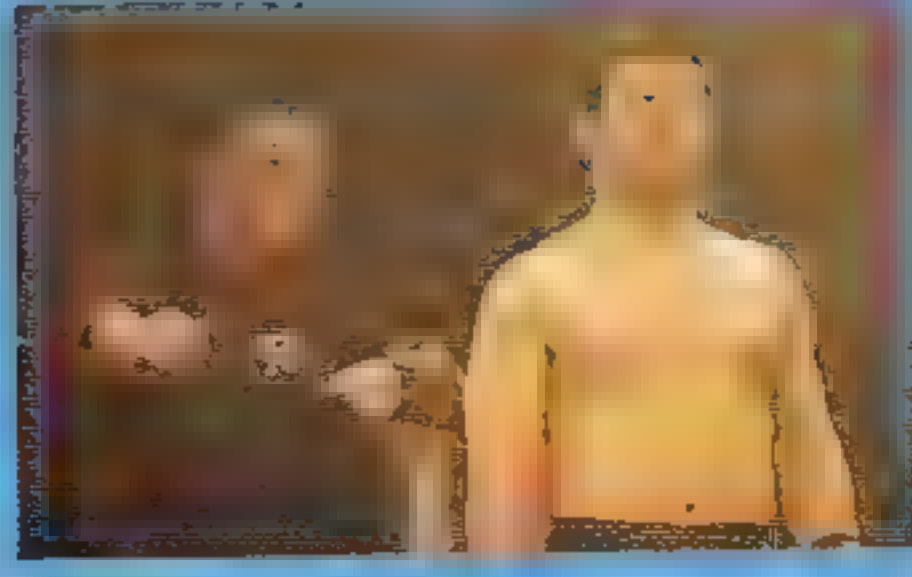
PRIDE GP 2005　ウェルター級トーナメント（83Kg以下）

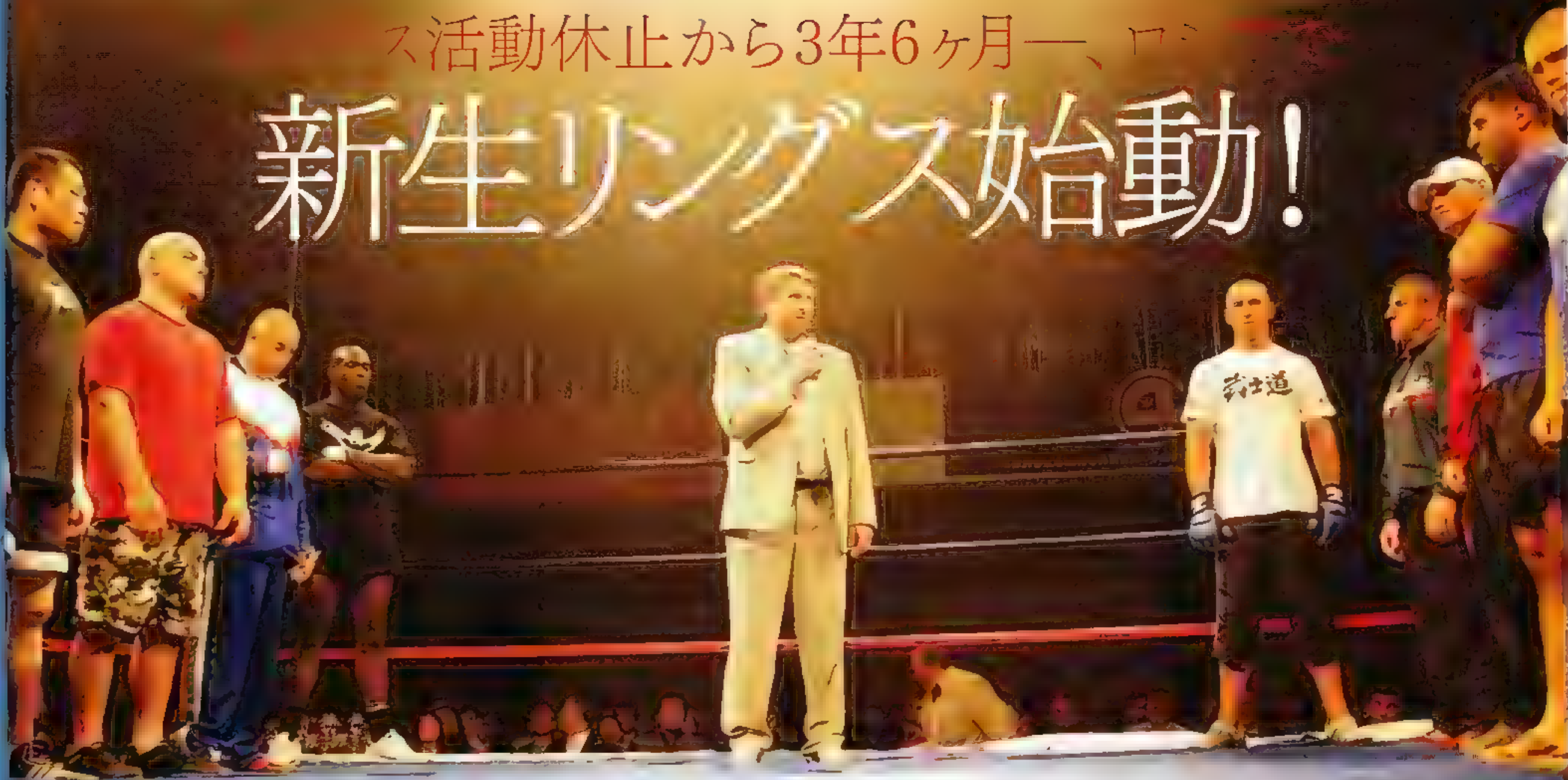
美濃輪育久　フィル・バローニ　須田匡昇　ムリーロ・ブスタマンチ　長南亮　ダン・ヘンダーソン　郷野聡寛　ダニエル・アカーシオ

みどころ

日本人を潰す気か！　と言わんばかりの強豪外国人選手がそろったウェルター級トーナメント。4月に『PRIDE』ミドル級GPに参戦したばかりのダンヘン、ブスタマンチをはじめ、右足の骨折でミドル級GPへの参戦を断念した実力者パウロ・フィリオがリザーブマッチを闘うという恐ろしい面子がズラリ。だが、優勝候補の筆頭ダンヘンと一回戦から対戦する長南は「ダンヘンを潰す！」と本気モード。長南の実力からすると"まさか"の事態も充分ありえるから面白い。また、今回"追い風ダッシュ"をテーマとしている美濃輪は、一度敗戦しているバローニとの対戦。勝敗とともに美濃輪がどんなパフォーマンスを繰り広げるのか。さらに修斗王者・須田の初参戦にも注目したい。

リザーブマッチ

桜井隆多

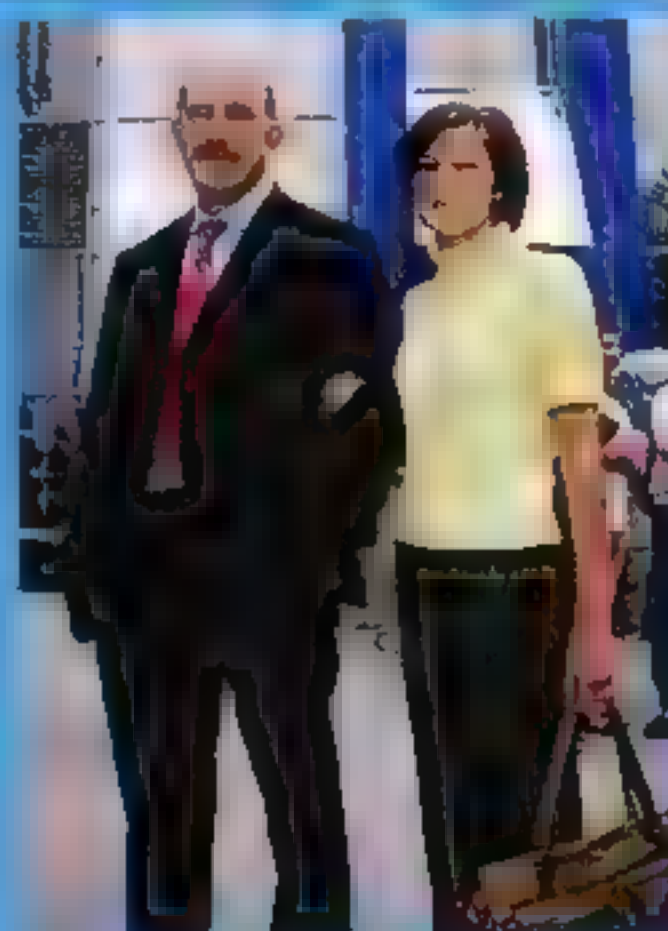
パウロ・フィリオ

リングスの聖地、ロシアに誕生!!
RINGS
СПОРТИВНЫЙ КОМПЛЕКС
STARTING OVER
RINGS
8.20リングス・エカテリンブルグ旗揚げ戦
独占リポート大特集
RINGS

ス活動休止から3年6ヶ月—、

新生リングス始動！

ついにオープンした"殿堂"リングス・エカテリンブルグ。ここでは8・20旗揚げ大会メイン、セミ以外の試合と大会当日のさまざまなトピックスをお届けしよう。

リングス・センターはエカテリンブルク市中心部からはかなり離れた郊外にある。もし行く機会があったら（ないか）この看板を目印に！

エカテリンブルクの空を見上げると、なんとリングスアドバルーンが！ この他、街角のオーロラビジョンでもCMを流していた。

なつかしのコピィロフおじさん（実はまだ40歳）がロシア美女を連れて来場！ なんとこの隣の女性、コピおじの娘さんなんだそうだ。

2階バルコニーには、リングを取り囲むように飲食のできるテーブル席が用意されている。ここに座るとちゃんと注文を取りにくるのだ。

擊圏道もビックリ！ リングス・エカテリンブルグではなんと全試合の合間に必ずロシア美女のダンスが披露され、しかもすべて別の衣装なのだ！

場内はご覧のように通路まで人が溢れる、まさに鈴なりの入り。客席の盛り上がりも、地元選手の応援を中心にもの凄いものがあった。

審議委員としてリングス・グルジア代表ノダリ氏とブルガリア代表ザハリエフ氏も来場。ちなみにレフェリーはリトアニア代表ドナタス氏が務めた。

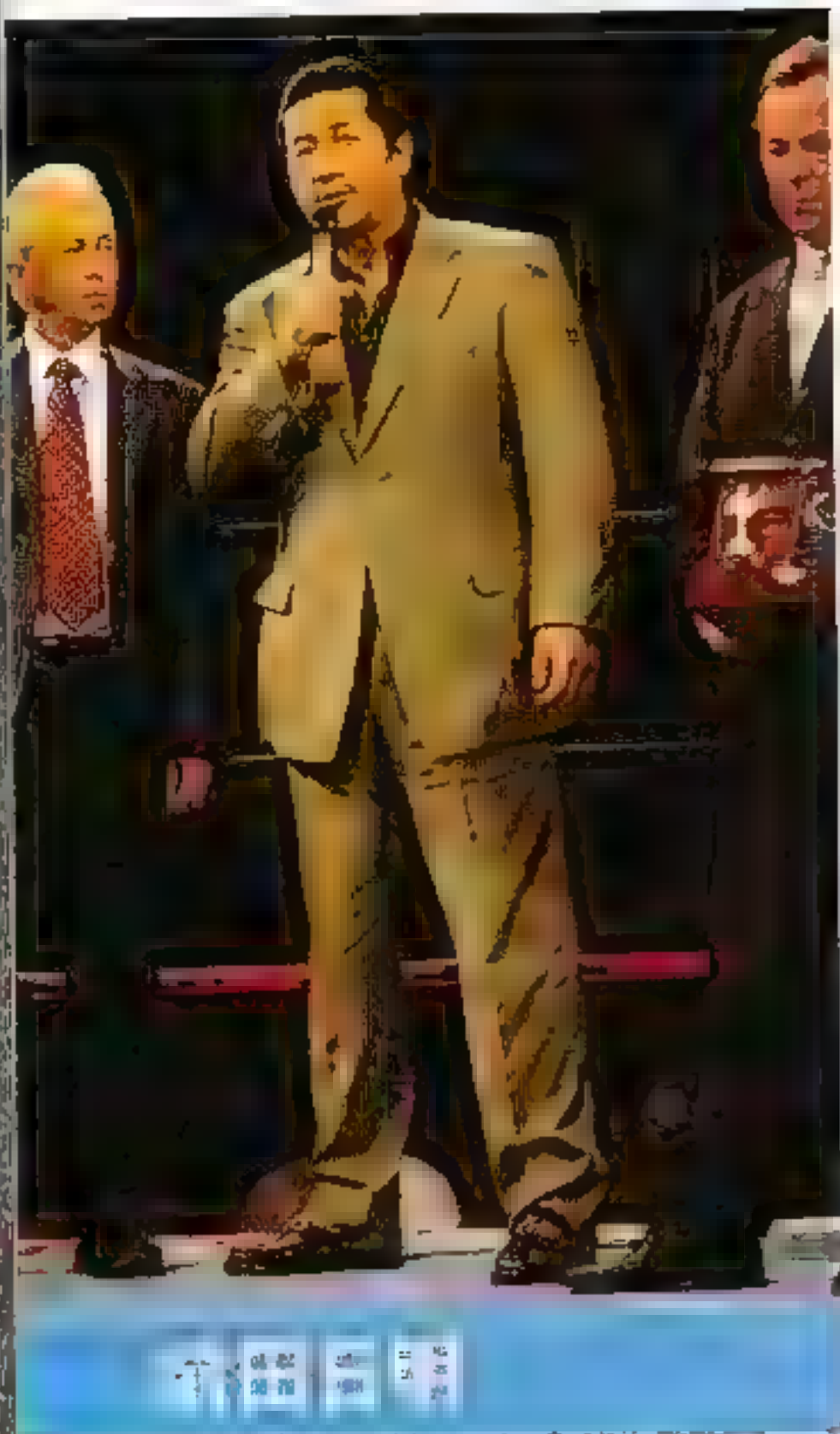
まさにリングス復活祭だ。

本誌88号で全世界に先駆けて独占公開した複合施設リングス・エカテリンブルグ。旧リングス・ロシアの中心選手だったニコライ・ズーエフが建設した、この"ロシア格闘技の殿堂"がついにオープンを迎え、8月20日この施設内にある「リングスホール」にて、完成を記念した大会が盛大に開かれた。

日本、ロシア、グルジア、ブルガリア、リトアニア、オランダという旧リングス・ネットワークの国々に加え、ブラジルからも選手を招聘して行われた今大会は、歴史の渦の中で姿を消したと思われていたリングスの復活、そして新たなる幕開けと呼ぶに相応しいものとなった。

まず、驚かされたのはリングス・エカテリンブルグの外観。なんと前田日明、ヴォルク・ハン、ニコライ・ズーエフ、そしてアレクサンドル・ヒョードロフというリングス4大レジェンドが、巨大タペストリーとなって"殿堂"の壁を覆っていたのだ。まさに建物自体が"リングスの総本山"の趣き。これには、来賓として招かれた総帥・前田日明も「ええ、やんけ」とご満悦だった。

そしてイベント自体もかつてのリングスを思わせる要素が満載だ。なつかしい「リングスのテーマ」に乗っての全選手入場式で始まるオープニング。リングサイドにはリングス・グルジア代表のノダリ氏、ブルガリア代表のザハリエフ氏、さらに我らがコピィロフおじさんが"審議委員"として座る。そして、日本ならば前田日明が行う開会宣言をここロシアで行うのは、もちろんリングス・エカテリンブルグ代表のズーエ

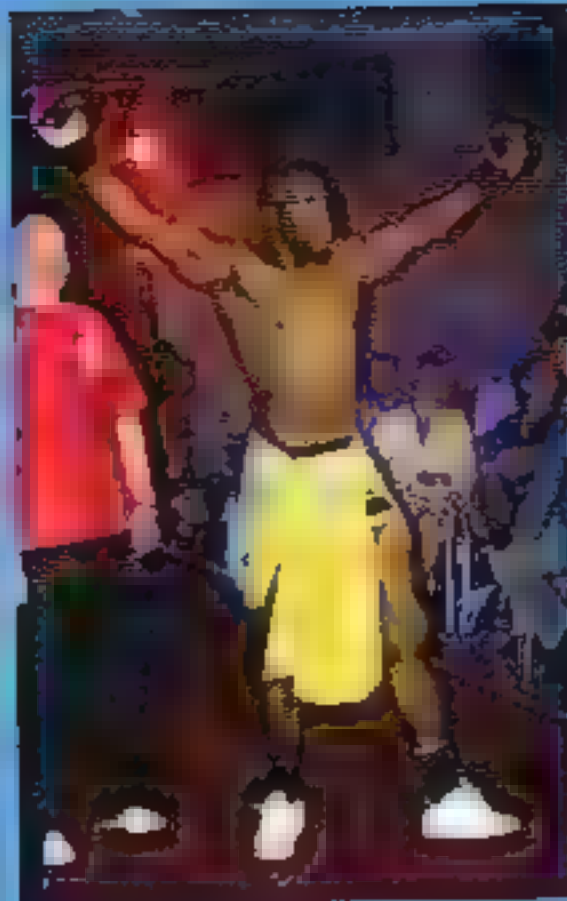
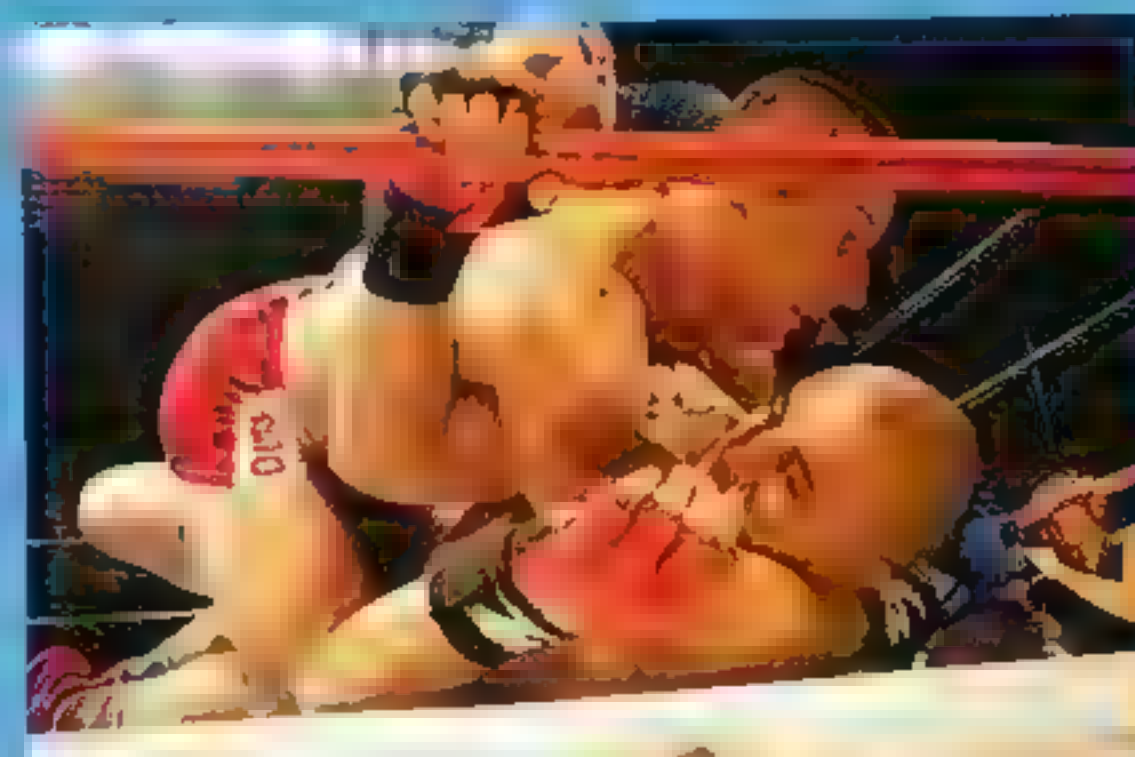
PRIDEルールと旧リングスルールが混在！これぞ"リアルプロレス"の魅力だ！

開会式での前田日明挨拶

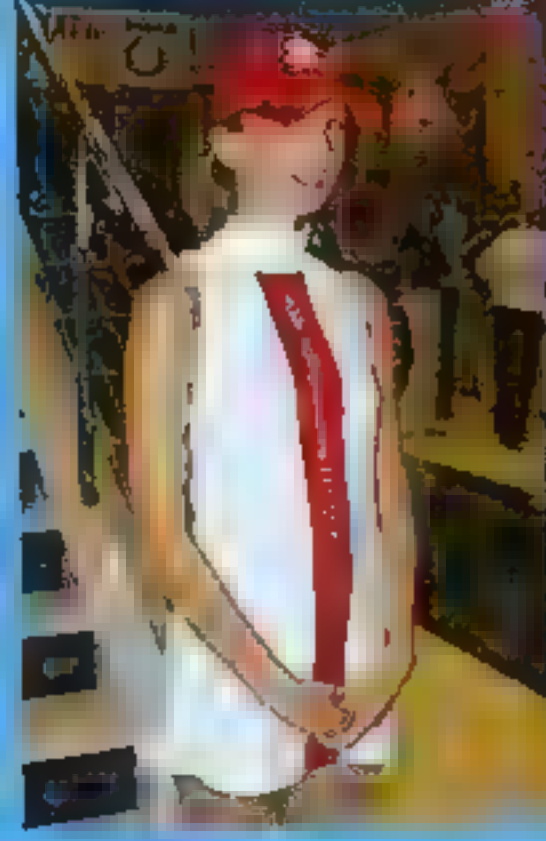
ニコライ・ズーエフと初めて会ってから13年が経ちました。当時の彼はホントにペレストロイカに苦労しているいちサンボ選手でした。でも、毎回会う度に明るい未来、将来の展望や夢を述べて、なおかつ実現するためにはどうしたらいいかアドバイスを求め、そして彼はロシアに帰っていくたびにそれを実現させていきました。今回、この大きな素晴らしい、リングスの本部ビルができることによって、ロシア人のファイターの持つ、限りない無限の可能性が、ここをスタートラインにして、世界中に伸びて行くことを信じてやみません。本日はおめでとうございました。

前田日明閉会の挨拶

え〜、最後はバーリトゥードスタイルの本格的な試合だと思うんですけど。なかなかレベルの高い熱戦で、特にあの、ブラジリアンのシウバ選手をアターエフ選手がホント一方的な展開で破ったんで、ロシア人選手のレベルの高さというのにホントに驚きました。今回初めてですね、リングス・エカテリンブルグのこういう記念の大会にお招きいただきまして、ホントにありがとうございました。

地元エカテリンブルグのコーチキン・ユーリーは『PRIDE.17』でのヒース・ヒーリング戦以来、実に3年ぶりの試合だったが、ブランクを感じさせない試合ぶりでオランダのミルコ・ブーンをアームロック葬。

第一試合は兄リカルドそっくりなアントレ・フィエート（写真・左）が、リトアニアのヴァラビーチェスと対戦。1R三角絞めでヴァラビーチェスが快勝！

いまやロシアの重鎮となった、RTTヘッドコーチでもあるイリューヒン・ミーシャも登場。次々とエスケープを奪い、リングスの醍醐味を見せてくれた。

地元エカテリンブルグの極真空手家ユーリ・ベキチェフと対戦した金原は、1R早々にエスケープを奪い、勝利は時間の問題と思われたが、ベキチェフの大車輪キックが脳天をかすめ大流血。なんとも不運なTKO負けとなってしまった。

"世界のTK"もロシアの登場。巨漢グルジア人ダビット・シャベリのパンチ連打で1ダウンを喫するなど、予想外の苦戦を喫するも、最後は腕十字で逆転勝ちを奪い、雄叫びを上げた。

会場内はご覧のようにかわいい"リングスガール"たちが担当。おそらく皆10代と思われる彼女たちはなんと全員ノーブラ。リングス・エカテリンブルグ最高ー

プだ。

出場メンバーも日本からの招待選手、金原弘光、高阪剛を始め、ミーシャ、アターエフ、コーチキン、ベキチェフ、ヴァラビーチェス、フィエート兄弟と、旧リングスゆかりの選手がズラリ。8試合組まれた試合もハリトーノフ、アターエフ、ヴァラビーチェスらはPRIDEルールで行なったものの、他はロープエスケープありのリングスルール（但しグローブ着用）をしっかり採用。総合格闘技とプロレスが融合した世界こそが、まさにリングスの世界なのだ。

このように、かつてのリングスを知る者にとっては、なつかしさを覚える大会となったが、この施設を作ったズーエフ本人の狙いは別にある。その狙いとはズバリ選手発掘。今大会こそ第1回目の記念大会としてベテラン中心のラインナップとなったが、今後は若手に次々とチャンスを与え、ロシア全土に埋もれている若い才能を発掘し、PRIDEなどで活躍できる選手を育てて行きたいという。

そういえば、かつてのリングスもノゲイラ、ヒョードルら、後に世界のトップとなるファイターたちを発掘、育成していく場であった。そして、このリングス・エカテリンブルグもまた、才能の宝庫であるロシア人ファイターの発掘、育成の場であろうというのだ。これこそがまさにリングスという精神の復活。

いつの日か、世界最強の男は、リングス・エカテリンブルグが決めることになるのである。

戦慄

ロシアン・トップチームの若き2大エース
その残虐なる強さを見よ!!

記念すべきリングス・エカテリンブルグ第1回大会のメインとセミを務めたのは、ヌーエフ代表が「ロシアン・トップチームの2大エース」と呼ぶ、セルゲイ・ハリトーノフとヴォルク・アターエフ。この2人が、まさに"戦慄"と呼ぶに相応しい、強烈なインパクトを残す試合をやってのけた。

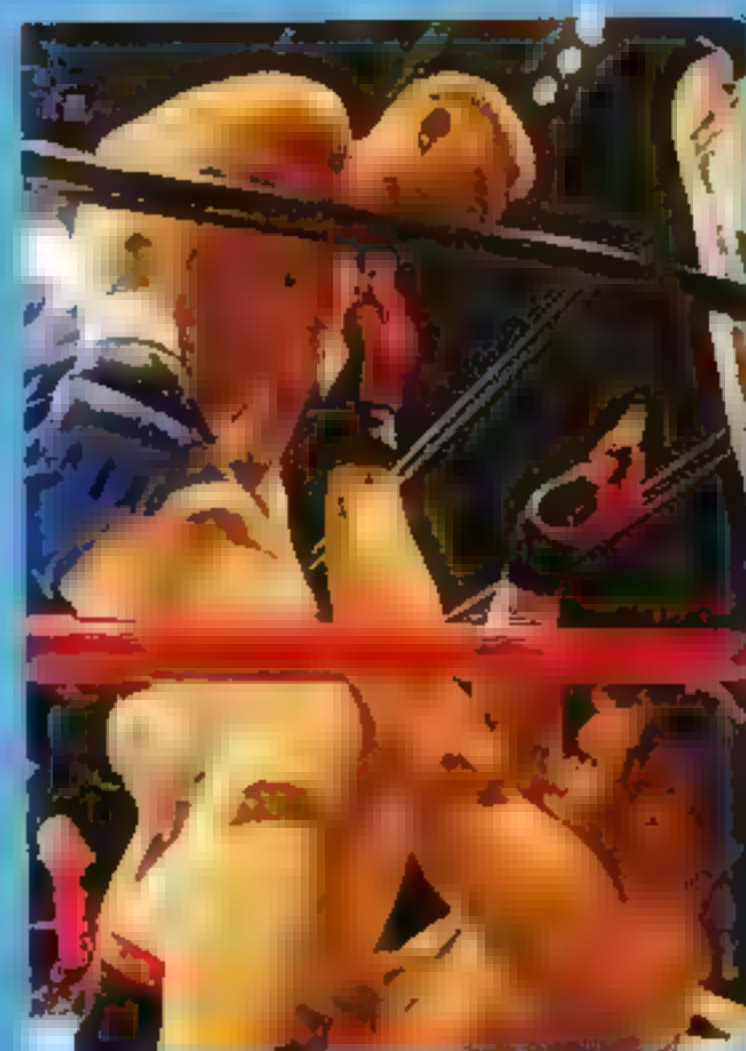
まず、セミに登場したのは、総合格闘技は久々となるヴォルク・アターエフ。かつて1度だけ参戦した「PRIDE」では、アリスター・オーフレイムのヒザ蹴りに沈み結果が残せなかったが、もともとはヴォルク・ハンから"ヴォルク(狼)"の名を唯一受け継ぐことが許されたほどの逸材。08年の北京五輪出場を狙う打撃の[illegible]でもあるので、ここ数年は総合からは遠ざかっていたが、"破壊神"と呼ばれた、一撃必殺の打撃は健在だった。

アターエフの対戦相手はジェファーソン・"タンク"・シウバ。K-1、総合とどちらもこなす実力者として、現在のアターエフを知るには格好な相手だ。試合は開始早々、アターエフ独特のモーションの小さなパンチがシウバを襲い、シウバが下を向いてしまったところをフロントチョーク。これはなんとかシウバが抜け出し、逆にマウントを奪うが、アターエフは冷静にこれをスイープし上のポジションを取ると、シウバの顔面へパウンド一発。するとこれが、ものの見事にシウバのアゴを打ち抜き、なんとたった一発でシウバの体が硬直し失神し、レフェリーが慌てて止めに入り、アターエフのKO勝ちとなった。敗れたシウバは担架で運ばれ病院へ直行。大事にはいたらなかったようだが、たった一発のパウン

若き“メインイベンター”その恐怖の観客論を見よ!

セルゲイ・ハリトーノフ vsピーター・ムルダー
1R 腕ひしぎ十字固め

この日もスタンドのパンチが冴えていたハリトーノフ。この勝利で弾みをつけ、次は10月にいよいよPRIDEヘビー級王座挑戦者決定戦か？

何度もマウントポジションを奪ったハリトーノフは、表情ひとつ変えずに冷徹にパウンドを相手の顔面へと落として行く。今回の試合が対戦相手ピーター・ムルダーにとってトラウマにならないか心配だ。

コーナーで倒れた相手に仁王立ちで上から見下ろすハリトーノフ。ここからパウンドを落とせば勝ちそうだが、あえて殴らずスタンドから試合を再開させた。

パウンド一発で失神!! 狼の拳は進化していた!

ヴァンダレイばりに拳をクネクネさせ、やる気満々だった“タンク”シウバ。K-1ファイターだけにアターエフとは打撃勝負になると思われたが……。

ヴォルク・アターエフ vsジェファーソン・“タンク”・シウバ
1R TKO（パウンド）

アターエフの「一撃」神話は生きていた！ガードポジションも意に介さず、パウンドを打ち抜くとシウバは一発で失神！こんなシーン初めて見た！

わずか一発のパウンドで失神KO負けを喫してしまった“タンク”シウバ。試合後もなかなか起き上がれず、ついに担架で運ばれ病院へ直行したという。

ドで失神KOとは、まさに「戦慄」と呼ぶに相応しい。今すぐにでも「PRIDE」参戦させたくなる、それほど衝撃的な勝ち方だった。「ルスカ最強の弟子」と呼ばれた男、その恐怖の拳はさらに進化していたのだ！

そして衝撃さめやらぬ中、メインに登場したハリトーノフ。日本でも「残虐超人」として恐れられるこの男は、アターエフとはまた別の恐ろしさを見せつけた。この日の相手はフランスのピーター・ムルダー。スタンドの打撃に光るものはあるが、まだ経験不足で、ハリトーノフなら短い時間でKOすることも可能な相手だ。しかし、試合は予想外に長引いた。ただ、それはムルダーが善戦したわけではない。なんと、メインイベンター“ハリトーノフは、観客を楽しませるために、あえてトドメは刺さず、試合を長引かせたのだ。

マウントを取りパウンドを落とし、相手が戦意を喪失しそうになると、自ら立ち上がりスタンドへと戻す。これを表情を変えず2度3度と繰り返すハリトーノフ。プロレスならば、わざとカウント2で相手の肩を上げさせ余裕をアピールするシーンはよく見られるが、これをバーリトゥードの中でやるとは……。そして最後は完全に戦意喪失したムルダーの腕を取り一本勝ち。「残酷ショー」になる一歩手前で「スポーツ」に戻すところがまた恐ろしい。

ハリトーノフ、アターエフ、共にまだ25歳。RTTの若き2大エースは、これからますますその強さ、恐ろしさを増して行くに違いない。やはり、打倒ヒョードルの一番手はこの男たちか。ロシア人はロシア人が始末するのである。

若い選手に試合をするチャンスを与えていく それこそがこの競技の発展に繋がると思って リングス・エカテリンブルグを造ったんです。

――ついに念願のリングス・エカテリンブルグ第1回目の大会が無事終了しましたが、まずは感想を聞かせてください。

ズーエフ 大会には大変満足しています。内容もそうですが、世界各国から選手やプレスの方々が集まってくれ、この施設をシベリア、ロシアだけでなく、世界の人々に知っていただける機会となったことが一番重要なことですね。

――これだけの施設を個人で建設し、オープンにこぎ着けるまでにはさまざまな苦労があったと思いますけど、一番大変だったことはなんですか？

ズーエフ この施設の建設に5年かかりましたから、やはりいろんな面で大変でしたね。この5年間、一つの問題が解決したと思ったら、また新たな問題が生じるといった形で、苦労というのは絶えませんでした。でも、苦労したからこそ、完成し多くの人に見ていただけた喜びというのは格別ですね。

――かなりのお金もかかったと思うんですが……。

ズーエフ たしかに、いろんな問題の中でも重要だったのは金銭面ですね。ただ、それは重要な一つであって、すべてではない。その問題はスタートしたときから、ずっと続くものだとわかっていましたからね（笑）。だから、大会を開くにあたっては、もっと別なことが心配でしたね。

――別なことと言うと？

ズーエフ やはり設備、演出用の機材がきちんと作動するかどうか心配でした。この施設は最新の設備を整えましたから、作業員がそれを使いこなせなければならないし、ライティングや音楽が途中で止まったりしたら、演出が台無しですからね。だから前日に何度も確認し、リハーサルも繰り返し行いましたが、大会が始まる直前まで心配でした。それから設備については、これは本当に必要なのかどうか見極めることも大切でした。高望みをすれば尽きませんから、理想と現実をすりあわせることが重要だったんです。

今大会は照明や映像、それから大会の進行にいたるまで非常に素晴らしかったんですけど、そういった演出面はズーエフさんのこだわりだったんですか？

ズーエフ もちろん。かねてから思い描いていた大会がようやく実現できたわけですからね。たしかに小さな欠点はいくつもありましたけど、大局的に見れば、満足のいくイベントでした。

だからか演出や進行に関しては、昔の日本のリングスと比べても遥かに素晴らしくできが良かったですよ（笑）。

ズーエフ それはないでしょう（笑）。ちょっとそれは褒め過ぎですね。

――いやいや、正直な気持ちですよ。日本のリングスに映像のビジョンはなかったし、あんなにきっちりとした進行ではなかったですから（笑）。

ズーエフ まぁ、お世辞としても、そういってもらえると嬉しいですね（笑）。大会については、規模は小さいながらも演出面や試合内容のクオリティが高いものにしたいという願望がありましたから。

「リングスのテーマ」に乗っての全選手入場式。そして会場の壁には“4大レジェンド”の巨大タペストリーと、ズーエフのリングスの歴史に対するこだわりが感じられる。

――『PRIDE』や旧リングス・ジャパンとは、大会の性質が違うわけですね。

ズーエフ そうです。始めからこのスポーツ施設は街の一番大きなものではなく、クラブ程度に試合を行うために作ったんです。もし大きなイベントを開きたかったら、街の5000人収容の会場を借りれば済むことですが、私の考えは1年に1回大きな大会を開くより、2ヶ月に1回のペースで小さな大会を開き、若い選手や地方の無名な選手たちに、どんどん経験を積むチャンスを与えていく。それが、このスポーツの発展に繋がるだろうと思って、1000人収容という、小規模な会場を作ったんです。

――なるほど。では、これぐらいの規模の大会をこれからも頻繁に開催していく予定だと。

ズーエフ 2ヶ月に1回ぐらいのペースで行いたいと思っています。そして、この施設を『PRIDE』のような世界レベルの大会に出られる選手の発掘に使いたい。なぜなら、ロシアは広大な国土を持っているにも関わらず、総合格闘技の大会が開かれているのは、西の端に位置しているモスクワやサンクト・ペテルブルグという非常に限られたところだけなんです。だから、ほとんどのスポーツマンは総合格闘技の試合に出るチャンスもなければ、この競技を知る機会もない。しかし、ここエカテリンブルグはロシアのほぼ中心に位置していますから、ウラル地方やシベリアの優秀なスポーツマンがモスクワまではいけなくても、ここまでは来れる。世界的に見ても、ここはアジアとヨーロッパのちょうど中間なので、ここに格闘技の拠点ができるというのは、この競技の発展にとても重要なことだと思ったんです。

――では、このエカテリンブルグの大会で経験を積んだ選手を、日本の『PRIDE』など大きなイベントに出場できるようにしていきたいと。それは非常に意義深いですね。すでに有望な選手も何人かいるんですか？

ズーエフ 出場したいという選手はたくさんいます。でも、今回はあえてベテラン選手中心のマッチメークにしたんですよ。気付きましたか？

――ああ、たしかにミーシャ、コーチキン、ベキチェフなど、旧リングスで活躍した選手が中心でしたよね。これはどんな理由からなんですか？

ズーエフ やはり、彼らベテラン選手は今大会が最後とは言いませんが、もう現役が長くない選手ですよね。だから最後の花道ではないけれど、若い選手はこれからいくらでもチャンスがあるのだから、第1回の記念大会はこれまで功績があった選手たちをなるべく優先的に出場させたんです。逆に言えば、次回からは若く可能性がある選手たちが中心になってくるでしょう。

――ベテラン選手が中心の中で、セルゲイ・ハリトーノフ、ヴォルク・アターエフという2人の若い選手が凄いインパクトを残しましたね。

ズーエフ この2人が世界のどこに出しても恥ずかしくない、我々ロシアン・トップチームの2大エースです。です

今回、来賓として招かれたリングス総帥・前田日明は大会終了後のパーティで、「リングス・エカテリンブルグには、『HERO'S』の世界ネットワークに加わってもらいたい」とコメント。はたして、ここロシアから“山本KID級”の選手は発掘されるのか？ 注目！

『HERO'S』に選手を送り込むかどうかは私の一存で決められることじゃありません。パコージンとよく相談しないといけませんね。

から、最後の2試合はこの2人に任せたんです。ロシアの格闘技界は先人たちの努力の上で成り立ち、その栄光は若い選手たちが受け継ぎ、ずっと続いていく、そんな意味をこめて前半はベテラン選手、最後はこれからのロシア格闘技界を牽引していく2人が出場するというプログラムになったんです。

――今回もかつてのトップファイターであるアンドレイ・コピィロフさんがリングサイドで審議委員を務めている姿を見て、"リングス・ロシア"の歴史を感じましたね。

ズーエフ　コピィロフだけでなく、今回はヴォルク・ハンも審議委員を務める予定でした。しかし、家族が病気でその看病をするため残念ながらこれなかったんです。当日まで本人は「来たい」と言っていたんですが、仕方がないですね。

――リングス・センターの壁に前田さんとハンさんとズーエフさん、そしてヒョードロフさんの巨大な写真がタペストリーがさげられているのは、すごくいいですね。

ズーエフ　私を含めたその4人は試合には出ませんけれど、会場に来てくれた人たちに知ってほしかったし、忘れてほしくなかったんです。これからはセルゲイやアターエフの時代です。でも、その礎を築いた人間がいる。それを開会前に来てくれたみんなに見せたかったから、ああいったアイデアが生まれたんです。

ハリトーノフの勝利を称えるズーエフさん。コーチとしての手腕にも定評があるだけに、今後、ここエカテリンブルグから第2、第3のハリトーノフが生まれるに違いない。

――あの4人がリングスの歴史で最も重要な4人だというわけですね。前田日明さんとも久々にお会いしたと思いますけど、どういったことをお話されましたか？

ズーエフ　今回は私自身、大会運営にあまりにも忙殺されていたので、ゆっくり話をすることはできませんでした。でも、世界中から選手を集めて大会を開くというのは、そもそもはマエダさんの発想ですから。こういった大会や施設ができたことは、彼にも喜んでもらえたのではないかと思います。マエダさんと会ってからもう10年以上になりますが、彼には私がこういった施設を作ろうと思いたったときから、いろんな相談に乗ってもらいましたし、この施設の出発地点は日本のリングスなんです。そして、こういった施設がモスクワでもサンクト・ペテルブルグでもなく、第3の都市であるエカテリンブルグに作ることができた。ですから、彼には非常に感謝しています。

――前田さんは、いま日本で『HERO'S』という大会に関わっていて、そのリングにエカテリンブルグの選手を出してほしいという話をしていましたが、そういった可能性はありますか？

ズーエフ　日本だけでなく、選手が希望すれば、アメリカやオランダ、リトアニアなどにも選手を出場させたいとは思っています。しかし、それは私が決めることではありません。パコージン（ロシアン・トップチーム総監督）と相談する必要があるでしょう。

――では、今回はこの施設が完成し、大会を開いたことで大きな夢が実現したと思いますけど、これからの夢や目標はなんですか？

ズーエフ　リングスの母はサンボだと思っています。ですから、私はリングスと共にサンボを世界にアピールしていきたい。ですから、ここは総合格闘技のホールではありますけど、サンボの大会も頻繁に開いていきたいし、強い総合格闘技のクラブであると同時に強いサンボのクラブでもありたい。それが私の望みです。

――今年中にまだ大会は開く予定はあるんですか？

ズーエフ　10月か11月ぐらいを考えています。ただ、国際的にどこでどんな大会が開かれているのかリサーチしてから、期日を決定したいと思います。日程がぶつからないようにね。

――では、最後にリングス・エカテリンブルグとは関係ないのですが、（この時点で）来週、ヒョードルとミルコのPRIDEヘビー級タイトルマッチがありますけど、ズーエフさんはどちらが勝つと思いますか？

ズーエフ　難しい質問ですが、私は60％の確率でヒョードルが勝つと思います。まあ、ヒョードルはロシアン・トップチームから別のクラブに移ってしまいましたが、もしここに残っていたら、100％の確率だったんですけどね（笑）。

――ファンはヒョードルとセルゲイ・ハリトーノフの対戦も期待していますが、セルゲイだったらヒョードルを倒せると思いますか？

ズーエフ　その闘いは、もう少し機が熟すのを待ちましょう。我々もその闘いには非常に期待しています。そして来年、セルゲイがPRIDEの新しいチャンピオンになっていると私は信じています。

――わかりました。今回は取材のご協力ありがとうございました！

【ロシア・エカテリンブルグ／リングス・スポーツコンプレックス社長室にて収録】

ニコライ・ズーエフ
1958年4月20日、ロシア・エカテリンブルグ出身。全ソ連選手権優勝経験を持つサンボの達人。師匠アレクサンドル・ヒョードロフ譲りの相手を壊しかねない危険なロシアン・サンボの使い手としても知られ、リングスマットでは、ハン、コピィロフと並ぶ存在だった。98年に引退。リングス・エカテリンブルグ代表として、ロシア格闘技界発展に尽くす。

”喧嘩

長州小力、サイパンで長州、破壊王、パラパラを語る

俺も業界のド真ん中を突っ走ってやる!!

パラパラで大ブレイク!

長州小力
～ロングインタビュー～

『小力パラパラ』を引っさげ、様々なバラエティ番組で大ブレイク中の長州小力。本物以上に似ていると言われる、その長州ムーブをプロレスファンはもちろん、長州を知らない世代まで絶大な支持を受けている小力。「100回の腕立てより1回の打ち合わせ」を重視する芸人たちによるプロレスごっこ「西口プロレス」所属の長州小力にロングインタビューを敢行した!! コラッ! ど真ん中っ!!

聞き手／松澤チョロ　撮影／福島俊彦

小力　（取材場所に姿を現すや）おい、松澤！

——は、はい？……あ、「おい、金沢！」ならぬ「おい、松澤！」ってことですね！　なんか、嬉しいなぁ（笑）。

小力　（無視して）今日は何が聞きたいんだ、コラッ！

——も、もしかして、キレてます？

小力　（長州ボイスで）キレてないですよ。

——アハハハハハ！　前フリはこれぐらいにして……。

小力　（遮って再び長州ボイスで）前フリはいらないって！

——し、失礼しました！　「前フリはいらない」っていうのは最近、長州さん、よく言ってますからね。

小力　……キャラ的には、いまみたいなテンションでしゃべった方がいいんでしょうけど、僕は普通のプロレスファンで、プロレスラーをリスペクトしてるので、プロレス雑誌で、こういうインタビューを受けるのは恐れ多いっていう正直ちょっと複雑で。

——いきなり素に戻っちゃいましたね（笑）。

小力　はい（苦笑）。やっぱり、僕がホントにプロレスラーで、凄く自信があって、身体も鍛えてたらプロレス雑誌で言いたいこと言うと思うんですよ。でも僕は結局、真似てるだけで、プロレスのこと何も知らないし。いま『紙プロ』を読んでる皆さんと同じことしか知らないですからね。いや、それ以下かも。

——いやいや、そんなことはないでしょう（笑）。

小力　でもホント、ただの1ファンなんで。だからプロレス雑誌で語ることなんて僕はひとつもないなって思ってて。友達と「あの試合こうだったね」っていうのは楽しいし、それはするけども、やっぱり「どうですか？」って聞かれても言えないですよね。僕が逆の立場で、プロレスラーの方がR-1グランプリ（※吉本主催のピン芸人ナンバー1を決める年1回のイベント）とか出て変なことばっか言ってたら、やっぱりちょっと嫌だし。

——それはあるでしょうね。

小力　自分がやってることは自信があるし、自分の畑は荒らされたくないっていうのもあるんで。そう考えると、自分がやられたくないことは他人にはやりたくないですから。その辺は、なかなか難しいですけど。

——そういう意味では、『紙プロ』では『ハッスル』で大活躍中のレイザーラモンHGやインリン様も普通にインタビューしてますから、気にせずにお話しいただければと思うんですが。

小力　ああ、レイザーラモンさんとか『ハッスル』出てますよね。インリン様は、また僕とはジャンルが違いますけど（笑）、でも最近よく言われますよ。「『ハッスル』でレイザーラモンと闘うの？」って。

——レイザーラモンHGは11月の『ハッスル・マニア』でのデビューが決まりましたけど、その相手は小力さんじゃないかと？

もはや説明不要の小力パラパラ。「ナイト・オブ・ファイヤー」にノッて各種、長州ムーブを織り交ぜた小力のパラパラは絶品。絶賛発売中の西口プロレスDVDを買ってキミも踊り狂えコラッ！

小力　なんだかわからないけど、そう思ってる人が多いみたいで（苦笑）。レイザーラモンさんは学生時代、ちゃんとプロレスをやってたみたいですけど、僕がやってるのは、ただのプロレスごっこですから。万が一、そういうお話をいただいても基本的に無理です。

——同じお笑い芸人でもバックボーンが微妙に違うと？（笑）。

小力　そうですね。たまにプロレス関係の方からもオファーとかいただくんですけど、あまりお受けしないというか。頭で描いてみても、なんか違うかなって。もしかして、もうちょっと身体がデカくて自信でもあったら「どこのリングでも上がってやるよ！」って言うのかもしれないですけど。

——その辺はレイザーラモンさんは学生プロレスも経験して、しかも、いい身体してますから、多少なりとも自信があるのかもしれませんね。

小力　でも絶対葛藤はあると思いますよ。プロレスファンとして自分はリングに上がっていいのかなっていう。

——ここまでの話を聞いただけでも、小力さんのプロレスに対するリスペクト具合がわかった気がします。それにしても、ここ最近の活躍ぶりはホント凄いですよね！　正直、ほとんど休みもないんじゃないですか？

小力　そうですね。スケジュールは自分でやってるんですけど、せっかくいろいろお仕事もらってるんで、やるときはやらなきゃなって。僕もなんだかんだいって10年ぐらいやってて、どうにか最近になってテレビとか出させてもらえるようになったんでそういうこと考えると、ちょっと疲れたぐらいで休んでちゃしょうがないなと思ってやってるんですけど……さすがにちょっと疲れが取れなくて（苦笑）。

——嬉しい悲鳴の反面、本気で身体が悲鳴をあげそうだと？

小力　そうですね。パラパラの踊りすぎかわかんないですけど、ちょっと四十肩気味で（笑）。そういうのもあって最近よくマッサージに行くんですよ。やっぱり身体に気ィつかわないとヤバいな、と。

——プロレスラー同様コンディション整えなきゃいけないと？

小力　身体を使うっていっても芸人の使い方は、またちょっと違いますけど、でもやっぱりこういう仕事をするっていうのは身体を使うことなんで。ホントは鍛えなきゃいけないんですけどね。

——小力さんの主戦場でもある西口プロレスは、あくまでも"プロレスごっこ"と、うたってますけど、トレーニングとかは特にはしてないんですか？

小力　そうですね。基本的にプロレス中心にものを考えて動いてないんで。だから身体も鍛えてないです。ホントは自分の中では鍛えた方がよりいっそう面白いことはできると思うんですよ。面白い動きもできると思うし。

——よりいっそう長州力に近づけるというか。

小力　そうです。で、体力があるっていうことは長く面白いことができるわけですよ。持続力があれば、その中で緩急もつけられるなと思うので、そういった意味での基礎体力は上げたいとは思うんですけど、別に西口で闘うからといって、そのために鍛えるっていうのは価値観としてないというか。

——なんとなく言いたいことはわかります。

小力　だから、細かいこと言い出すとそういうところでプロレスとは似ても似つかないというか。それは自分も他のメンバーもそうですけど、実感してて。やっぱりプロレスラーというのはメチャメチャ鍛えた人間がリングの中に入って体力の削り合いをやるわけじゃないですか。避けてもいいものを避けずに受けきるっていう。そこに僕は魅力を感じてるから、僕はそこは出さなくてもいいかな、と。痛いときは痛い顔して「痛いよ！」って言っちゃった方がお笑いとしては成立するし、見てる人もわかりやすいから。

——「キレてないですよ」もそうですし、ブレイクしているパラパラでの動きを見ても、一説には長州力より長州力に似てるという評判も出ているわけですが（笑）。

小力　ハハハハハハ！　まあ、単純に好きだったからこうなったというのが一番の理由だと思いますけどね。ただ自分の中でも前よりも似てきてるのかなというのはあります。

——やり始めた頃よりも自信がついたと？

小力　やっぱり板の上に立つことが多くなって、人前にコスチューム姿で出なきゃいけないし、成立させるために意識はより高くなってると思うんで、そういった意味では似てきてるとは思います、外見的な面では。

　同じモノマネでもユリオカ超特Qさんなんかはドラゴン好きが高じて、気がついたら

9月3日、HMV渋谷店で行われた西口プロレス1stDVD発売記念イベントには多数の西口マニアが集結。小力はライバルの小猪木とステージ上で模範試合を披露、イベントには小力がパフパフ指導をしたHINOIチーム（平均年齢13・5歳！）も駆け付けた

1・4の新日ドームでレスラーの格好して賑やかしをしてました

モノ凄く似ていたって感じですけど、小力さんも単純に一番好きなレスラーは長州さんになるんですか？

小力　これが難しいんですよね（苦笑）。「はい」と言ってしまえばいいんですけど、なかなかこの人が一番好きっていうのがないのが僕の見解ですね、プロレスファンとしての。

長く見てはきてるけども、特にこの人っていうのはないと？

小力　そうなんです。偏ってないっていうか、長州さんはやっぱり好きですし、蝶野さんも三沢さんも皆さん好きなんで、正直なこと言うと誰が一番っていうのは決められなくて。

逆に長州さんのモノマネをやろうと思ったのは似てると言われたからとか、そういうことなんですか？

小力　そうですね。似てるというのと、あと1・4の新日の東京ドームに行くと、いま西口で一緒にやってるアントニオ小猪木とか、イタコTHE 青森とか、そこら辺のメンバーで休憩時間にプロレスラーの格好をしてみんなで賑やかしをしてたんですよ。

よくコスプレの蝶野さんとか見かけますけど、同じような感じで？

小力　そうです。僕らは早い段階からやってて。で、やっぱそういう人が周りにも多くて、知らない間に凄い大人数になってましたね。

いつの間にかコスプレレスラーが大集合していたと（笑）。

小力　ええ。知らないカシンがいたり、知らないライガーがいて。その当時は大仁田さんとかも多かったですけど。

大仁田コスプレは、かなりいましたからね（笑）。

小力　だから芸でどうのこうのっていうよりは、自分たちの普通の楽しみで東京ドームで「1、2、3、ダーッ！」ってやってウエーブを煽ると、猪木さん引退のときは1周半ぐらいしたんですね。それを見て感動しましたし。あとドームのオーロラビジョンに、カメラさんとかちょっと粋な人がいるんですよ。

コスプレしている人たちを写したりしますよね（笑）。

小力　そうすると会場中がそれを見てるんで、こっちも「ウォーッ！」ってなって。で、最終的にケロちゃんに「はい、もう座ってください」って言われてた一人です（笑）。

——そうでしたか（笑）。小力さんはずっと長州さんのコスプレをしてたんですか？

小力　僕はずっと長州さんでしたね。だからこういう芸事やる前から白いシューズは持ってて。そのときのためだけに持ってたんです

よ。まさか当時は仕事になるとも思ってなかったし（苦笑）。

――仕事になると手応えを感じたのっていつぐらいなんですか？

小力　手応えを感じたのは去年ぐらいですね。去年『R-1グランプリ』のとき、たまたま後輩がチラシを持ってたから、「何それ？」って聞いたら「ピン芸人の吉本の大会があるんですよ」。「あ、じゃあ俺も出る」って。それで出てみたらなんとなく勝ち上がってって。

――軽い動機で出てみたら勝ち上がってしまったと（笑）。

小力　「意外と俺、大丈夫なんだ」と思ってそこで、もしかしてもうちょっと頑張ったらイケるかなと思って。で、R-1がキッカケで業界内の人にもこういうヤツがいるっていうことを知っていただいて、その関係で去年2～3本テレビに出していただいて。それが今年につながったというか。そのテレビを見てた別のテレビマンが僕を呼んでくれたんです。

あとはナイナイの岡村隆史さんが気に入って使ってくれたのも大きいんじゃないですか。岡村さんに目をつけられた人は売れるっていう法則があるらしいですし。

小力　それも大きかったですね。やっぱり『めちゃイケ』の「笑わず嫌い王」に出たっていうのは、一般的認知ももちろん高いんですけど、さらに業界内認知が凄いんですね　フジテレビの土曜8時のバラエティーっていうのは、昔、僕らが凄い楽しんだ ひょうきん族」から、あの枠は看板枠じゃないですか。そこのスタッフとか出演者が使った芸人というと、もうそれでちょっと価値が上がって「じゃあ俺も使う」ってなるみたいで。

――岡村さんはプロレス好きなんで、元ネタの長州さんを知ってるだけに面白さもわかると思うんですけど、それこそ、若い女の子やチビッ子とか、おそらく本物の長州さんは知らない小力さんのファンも多いと思うんですよ。それについてはどう思います？

小力　そういう意味では意外と幅広く好まれてるのかなっていうのを感じますね。それは子供だったり、意外と年配の方が「小力君、見てるよ」って言ってくれたり、「子供がファンなんで写真撮ってください」とか。実際、ウチの甥っ子に2歳と6歳がいるんですけど、2歳の方が会うとちょっと怖がってたんですよ。でも最近DVDが出て、兄貴がそれ見せると一緒に踊ってるみたいで。

――2歳ってことは、間違いなく長州さんのことは知らないでしょうね（笑）。

小力　そういうのは計算はしてなかったですけど、範囲が広がってるんだなと思って。でもそれはテレビの力っていうのが大きいんだろうな、と。

――それはあるでしょうね。ちなみに小力さんの下積み生活は何年ぐらいになるんですか？

小力　今年で11年目です。

――いや、もう下積みとは言わないと思いますけど（笑）。でも確か、最初は劇団に入られてたんですよね？

小力　そうです。最初はちょっとテレビに出たいなと思って、大きな劇団に入って て、お芝居みたいのを習うんですけど、同世代のヤツらと一緒に習ったりとかチマチマしてて嫌だったんで、要は実践したいな、と。それで劇団みたいなものを作って1年ぐらいやってたんですね。

――どうせなら自分で好きなことをやってしまおうと。

小力　そうです。でも、やっぱりちょっと照れ臭いんですよね。ちゃんとしたセリフを言うのとか泣き芝居とかって。そうすると三枚目のものがやりやすくて自分も楽しいんで、ずっと三枚目をやってたんですけど、そのときにたまたま知り合ったお笑い芸人がコントに誘ってくれて。それでコントやったら、コントの方がいろんな意味で楽しめたし、楽って言ったら変なんですけど、割と自由にやれたので、こっちかなと。

――それがいまの流れにつながるわけですね。これまでの人生で、プロレスラーを志した時期っていうのはあったんですか？

小力　昔から身体が小さかったので、やっぱりデカい人には凄い憧れがあって。プロレスラーになりたいかっていったらちょっと怖かったから、なりたいと思ってたっていうよりはデカくなりたいとは思ってましたね。

――それはいまでも？

小力　そうですね。一瞬考えたことありますけど、縁がなかったんでしょうね。小さい頃にタイガーマスクとか見てて、空手をやりたかったんですよ。で、親父に「習いたい」って言ったんですけど、近くに道場がないから、

僕の長州力のイメージはファミコンの『超人類』とかの頃ですね

「じゃあ俺が合気道を教えてやる」と。

——俺が（笑）。お父さんは合気道の心得はあったんですか？

小力 あったらしいんですけど、でもいま思い返すと、合気道って力のない人間が力の差を埋める技術じゃないですか。

——相手の力を利用してって感じですよね。

小力 でもそのときの親父は確実に大人の力を使ってたんですよ。

アハハハハハ！

小力 それでやっぱり子供ながらになんとなく思い描いてたものと違ったんで、1ヶ月ぐらい経ったら「もういい」って言ってやらなくなっちゃって。格闘技にはそこからもう縁がないですね。サッカーとかサーフィンはやってましたけど。

あと聞いた話によるとアイドルを目指してた時代もあるとか？

小力 ありますね（苦笑）。16歳ぐらいのときなんですけど、目指してたっていうか、それも簡単に言うと高校辞めたんですよ。特に理由もなくて、高1の1学期で。

また早いですね（笑）。何か問題でも起こしたんですか？

小力 いや別に。1学期はサッカーやりながら無遅刻無欠席で　朝練もちゃんと通ってたんですけど。夏休みに凄い遊んだんですよね、

現実には実現不可能な（？）長州力＆小力のツーショットが中川画伯の愛あるイラストで実現！　この待画がゲットできるのは世界中どこを探しても「紙プロHand」だけッ！　欲しい人は表紙裏のQRコードから一発アクセス！　もう前フリはいらない！

中学時代の女の子とかと。そしたら男子校に戻るのが嫌で。

気持ちは非常にわかります（笑）。

小力 で、2学期始まって行ったんですけど、みんな「辞めたい、辞めたい」って言うじゃないですか。で、俺も辞めたいなって思ったんで、それで辞めちゃって。

——何か具体的にやりたいとかじゃなくて、夏休み気分を続けていたいぐらいの感覚で辞めてしまったと？

小力 そうですね。誰かと仲悪いとかそういう理由も特になく、ただ嫌だと思ったんで辞めちゃったんですよ。僕の人生、そんな感じの繰り返しです（笑）。

アハハハハハ！

小力 で、20歳ぐらいのときに、やっぱり区切りの年というか。家業をやってたんで、俺は将来これを継ぐんだろうと思って

合気道を教えてくれたお父さんは何をされていたんですか？

小力 八百屋をやってたんです。だから高校を辞めて、車の免許取った18歳ぐらいからもう家業をやってたんですね。学校給食専門の八百屋だったんで、朝仕入れに行って配達して。でも20歳ぐらいになって、俺ずっと八百屋でいいのかなってちょっと思って。その頃、お袋の財布から金盗もうとしてバッグを開けたら、ジャパンアクションクラブの募集の切り抜きが入ってたんですよ

お母さんのバッグにJACの募集の切り抜き!?

小力 お袋は、家の手伝いをちょっとやっちゃあ自転車で出かけてプラプラしてたのを見て、それじゃマズいと思ったんでしょうね。それに僕、JACとかジャッキー・チェンがモノ凄く好きなんですよ。

——じゃあ、お母さんも、そっちの方面だったら興味を持ってくれるんじゃないかと。

小力 そうだと思います。ただ、昔、JACのドキュメントとかよくやってたんですけど、あそこも厳しいんですよ。

厳しいので有名ですよね。

小力 僕、厳しいのが嫌なんですよ（苦笑）。

——あ、そうですか（笑）。

小力 だから、これはヤバいと思って、自分でもっと緩いとこ探そうと思って。それで劇団に入ったんですよ。お袋にしてみれば嬉しかったかもしれないですね。なんかさせようと思ってたけど、自分から言ってきたから。

——やる気になってくれたんだと。

小力 と思います。それで劇団入ったんですけど、結局遊びたいし、別に役者になりたいとか凄い強く思ってたわけじゃないから続かないんですよ。で、辞めちゃって。

あららららら（笑）。

小力 それから家業を継いで成人式ぐらいのときに、このまま俺は八百屋でいいのかななんて思ったときに、もう1回テレビ出たいなって思って。それで辞めちゃった劇団にまた戻ったんです。それで同世代のヤツと劇団始めたんですけど、そこも同じように続かなくて。やっぱり、お芝居は難しいなと（苦笑）。

またしても挫折しましたか（笑）

小力 はい（苦笑）。笑いが簡単だとは思ってなかったですけど

自分に合っていたと感じたわけですか

小力 そうですね。やってて楽しいなと。そこから家業をやりながらだから時間か自由に使えるんで並行してやってたんですけど、その頃からO　157とかが給食室で大発生したり、児童の数が激減したりで商売にならなくなって、家業が傾いて。しかもその後、親父が亡くなって八百屋は辞めちゃったんですよ　で、バイト生活になったら、今度は時間の自由が利かないんですよね。

融通が利きそうなフリーターでも仕事によっては自由が利かないもんですからね。

小力 そうなんですよ。でもバイトしないと生活できないし。で、もうお笑いはいいかなと思って新しいバイト探しをして、

——フリーター生活が続くと（笑）。じゃあ長州コスプレで会場行くってのはストレス発散って意味もあったんじゃないですか？

小力 なってましたね　そんなときに西口プロレスに誘ってもらって、もう芸人もいいやと思ってたんで、芸名もレスラー名も長州小力と名乗って。西口のメンバーってレスラー名と芸名が違う人が結構いるんですけど、僕は芸人とうのこうのはもういいやと思ってたんで、そのまま一緒で。

——じゃあ、西口プロレスの設立と同時に長州小力というキャラクターが誕生したと。

小力 そうです。それまではホントに年に何回かの趣味でやってたぐらいなんですけど、まさかこうなるとは思わなかったですね。

——長州小力になるにあたって、あらためて勉強はしたんですか？

小力 いや、あんまり……。

テレビで見て自然に身に付いたって感じなんですか？

小力 そうですね。長州さんのことは小さい頃から見てたし。どっちかっていったら勉強熱心ではないので。

そんな気はしました（笑）。

小力 好きなものはわりかし器用にやるんですけど、興味持たないものってできないんですよ。長州さんの場合は好きだったからこそできたっていうのはあるでしょうね。

ちなみに小力さん的には、いつ頃の長州さんをイメージしてるんですか？

小力 いつの長州さんをイメージしてるのかなって考えたら、意外と昔、ファミコンで新人類」ってあったじゃないですか。

ありましたねぇ（笑）。

小力 そういうのだったり、「アッポー」とか、あそこら辺の昔のプロレスに出てくる長州さんの動きみたいなものをイメージして。

割と全盛期の長州力って感じになりますよね。

小力 そうですね。だからいまVTRなんか見ると自分が思い描いてたものと全然違うんですよね。モノ凄いですよね、昔の長州さん。

いまの長州さんとは当然、スピードから何から違いますよね。

小力 昔のジャパンプロレスだったりとか、ジャンボ鶴と天龍vs谷津、長州戦とか見てると凄い動きが速いんですよね。で、迫力のある雑さがあって。それを見たときに、俺は何をイメージしてたんだ？　全然違うと思って。

冷静になると、あまり似てなかったと(笑)。

小力　そうなんですよ(苦笑)。そういった意味で、本物をそのまま真似るっていうのは凄く難しくて。ただ、勉強しない分、好きなのでイメージはモノ凄い膨らんでて。それが身体に入ってるんで似てきてるとは思うんですよ。

――細かい動きはかなり似てますからね。

小力　それに、僕はモノマネをしたいと思ってこういうことやり始めたんならもうちょっとちゃんとやると思うんですよ。ちゃんとっていうのも変ですけど、もうちょっと、こと細かいことやると思うんですよ。でも僕はもともとお笑い芸人なので、モノマネをしたいと思ったんじゃなくて、西口に入って長州小力と名乗ってライブに出始めて、あの格好で、じゃあ何をしたらいいのかと考えて。最初は長州さんのモノマネして漫談みたいのやってたんですけど、結局マネをすればするほど伝わらないんですね。

――それは困りましたね(笑)。

パラパラをやる前は長州力の動きでラジオ体操をやってましたね

小力　内容で笑かさなきゃいけないのに、語尾だけ聞こえるみたいなしゃべり方で伝わらなくて。これじゃダメだっていうのを繰り返しながらいまに至ったんですね。

――パラパラは自分から「これだ！」と思って始めたんですか？

小力　パラパラは、西口がまだ人数が少ない頃に、いまでもそうなんですけど、実況解説もレスラーなんで試合やるんですね。その間の着替えの時間がないんですよ。その間に誰かなんかやらないかって話になって、じゃあ俺がやるって言って。最初、長州力の動きでラジオ体操やってたんですよ。で、悪くはなかったんですね、受けてたし。だからいいんだろうなと思って3〜4回やってたら、打ち合わせのときに誰かが「ねえ、もうラジオ体操いいんじゃない？　次なんかないの？」とか言うから、なんとなく、売り言葉に買い言葉じゃないけど、「じゃあパラパラ」って言ったらみんなが凄い受けたんですよ。で、ヤバいと思って、これは言った以上やらないといけないから、それでちょっとだけ勉強しようと思って。

――パラパラの勉強をし始めたと。

小力　そうです。でも、そういうときに限って何にもないんですよ、資料が。中古ビデオ屋で探しても、探し方が悪いのかわかんないですけど、全然ないんですよ。それで、レンタルビデオのAVコーナーに行ったら、なんとかパラパラとか、エッチなタイトルのパラパラのビデオがあって。

――パラパラAVですか―(笑)。

小力　なんかの参考になるだろうと思って見たんですけど、なんの参考にもならなくて。

――あんまり興奮もしなそうですね(笑)。

小力　そうなんですよ。だから借りたはいいけどなんの使い道もなくて。これはダメだなと思ったら、ちょうど知り合いにパラパラ世代がいて。

――パラパラ世代がいましたか(笑)。

小力　で、「パラパラっていったらなんの曲？」って聞いたら「ナイト・オブ・ファイヤー」ってことだったんで、そのメインの振りを教わって。あとはその曲をずっと聴いてたんですよ。ずっと聴いて、この音のときはこうかなって。あとは間の埋め方としていろんなことを入れて、どうにかみんなの前でやったら凄い受けたんですね。で、「『オンバト』行け、『オンバト』行け」って言うんですよ。その当時、NHKの『爆笑オンエアバトル』が盛り上がってて。でも誰も『オンバト』の出場の仕方を知らなくて。

――アハハハハハ！

小力　出たこともないヤツらばっかでしたから。そんな感じで結局人に煽られてとか。やっぱり西口で出来上がった部分が一番デカいですよね。

――そんな西口プロレスが、こないだのベルファーレ大会では1500人以上の観客を集めたりしたわけですけど、小力さん的にも感慨深いものがあるんじゃないですか？

小力　そうですね。今日もイベントがあってファンの方にたくさん集まっていただけたんですけど、僕は初期の頃のイベントで1回バックレてたりしてるんですよ。

――そんなこともありましたか(笑)。

小力　でもまた誘ってくれて。僕も10代とか20代前半っていうのは嫌なものはやらないし、揉めごとも嫌いだったから、揉めるんだったらもういいって感じだったんですけど、西口入ったら意外と自分が年が上の方なんですね。そこでこれはちょっとよくないな、と。で、お笑いはもう諦めてて、西口だけやってりゃいいやと思って入ったら、お笑い一生懸命やってるヤツらが周りにいっぱいいるじゃないですか。

――たくさんいますよね。

小力　自分は年が上なのにサボってるから、これじゃいけないなと思って自分もお笑いライブに出るようになって。またそこもサボるんですけど(苦笑)。

――アハハハハハ！

小力　もうライブ行きたくない、全然ウケないしって。で、「腹痛い」とか嘘ついて休んだりすると、メンバーのエール橋本とかユンボ安藤とかから必ずライブ終わってからメールをくれるんですよ。「もうレギュラーでライブ出てんだから来なきゃダメだよ」とか、サボると注意してくれる人間が周りにいたんで、いまに至るので。だから今日のイベントなんかもきっかけは僕かもしれないですよ、露出度は僕が高いし、テレビにも出させてもらってるし。そこは自分でもわかってるんですけど、西口プロレスが出るきっかけを自分が成しえたのは凄く嬉しいです。ここからはあとはみんなの持ってるものの勝負だし、僕はテレビの中でみんなと仕事をしたいんで。西口は僕にとってはモノ凄い大切なところですね。

――その西口プロレスも、これまでの話を聞く限り、小力さんが5年続けられてるっていうのは奇跡的なんじゃないですか(笑)。

小力　また、ちょうどいい、いい加減さをみんな持ってるんですね。「プロレスだったらこういうアングル作ってやろうよ」って言うんですけど、「いいよ。お笑いなんだから」って。別に固く決めないんですよ。結局みんなでワイワイしゃべって決める感じで。それで

一番面白かった意見にみんなが乗るっていう状態なので、それが良かったんでしょうね。

——話は長州さんに戻りますが、小力さんは長州さんのモノマネしてるっていう意識はそんなになくて、逆にジョーダンズの三又さんや神無月さんの長州モノマネを見ると勉強になると何かのインタビューで言ってましたよね。

小力 凄いですよ、あの2人は。やっぱり自分とは違いますね。

——三又さんとか似てないモノマネも結構ありますけどね（笑）。

小力 ハハハハハ！ でも、神無月さんとかは、よくご一緒させてもらいますけど、もう笑いますよ。だからモノマネの凄いっていうのは「あ、そういうのやる」ってとこじゃないですか。それがどこにでもあるんですよね。神無月さんのリングインっていうのは、長州さんが1回髪をこうやって、上をちょっと見てから入るんですよ。「うわっ、それやる！」って思って。僕は階段でアキレス腱をたしかめてる長州さんのイメージがあって。

—それもやりますよね。

小力 それとリングインとごっちゃにしてるんですけど、正解は神無月さんです（笑）。誇張の仕方はみんなそれぞれですけど、基本的に僕はモノマネ芸というより音芸ですから。音芸とか顔芸とか動き芸なんで。

それはそうかもしれませんね。やっぱり、長州さんのインタビューとかは読み込んだりするんですか？

小力 そこもちょっと迷うところで、いちプロレスファンとしては長州さんの動向とか情報は気になるんですよ。こないだの『レッスル1』とかモノ凄い気になって。

——試合後、北斗さんが激怒したりと、いろいろありましたからね。

小力 そういうのもありますし。ただ自分で思うのは、読んじゃうと、どっかでそれを言いたくなっちゃうんですよ、名言があると。それをドンドンやっていくと、コアな部分だけになって伝わらなくなっちゃうと思うんで。

そういう部分はあるでしょうね。

小力 そう考えると知らない方がいいのかなと思って。だから意識的に読まないときもあるんですけど……最終的には目が行ってしまうんですよ（笑）。

——アハハハハハ！ そういえば、以前イベントで、長州さんのことを誰よりも知っている永島勝司さんの前でパラパラを披露したときは「初めて怒られるかと思った」ってマジでビビってましたよね（笑）。

小力 あぁ、ありましたね。

——小力さんの心配をよそに、あのとき永島さんはホントに「これは凄い！ 似てる！」って感心してましたけど（笑）。

小力 それを聞いてホッとしましたけど。でも「なんて言われても関係ねえよ」と思ってやってたら、こうはならなかっただろうし、自分自身「関係ねえよ」ってものをやることはできないし。プロレスは好きですからね。プロレスってすげえなと思ったのが、どの時代でも必ずバラエティーの中でプロレスの要素ってあるじゃないですか。昔から深夜番組でもよくやってたし、長いバラエティーの歴史の中で必ずやってるじゃないですか。

たしかによくやってますよね。

小力 そう考えるとプロレスってホントに人間模様が面白いし、滑稽だし。そこが僕にとって魅力的で、ネタにしたいっていうよりはそこにいたいっていうか。だって、アピールしてる途中でテーマ曲とかが流れたら、その音が入ったっていうことを認識しておきながら、まだベルトを巻くポーズをして「お前、次ベルト賭けて来い！」みたいなジェスチャーをするじゃないですか。そういうのを見るとモノ凄い滑稽ですよね。伝えたいならガンガン音が鳴ってようが言えばいいじゃんって思うんですけど、そこでパフォーマンスしたり……面白いですよね（笑）。

——ツッコミどころは満載ですからね（笑）。最近の小力さんのブレイクぶりを見て、どこの番組でもやりたいのが本人とのご対面だと思うんですけど、まだ長州さんと直接会ったことはないんですよね？

小力 ないですね。でも僕はどっちかっていったらお会いしたくないんですよ。もちろん、どのツラ下げて会えるんだっていうのもあるんですけど、それよりも長州さんっていうのは『ハッスル』行ってもどこ行っても自分のスタイルを曲げないじゃないですか。

——曲げない人ではありますよね。

小力 ちょっとは揺らぐときもあるはずなのに、それがないんですよね。まあ、だからこそ、いまの長州力があると思うんですけど。

——ここ最近は『東スポ』でハッスルポーズやったりとか、以前と比べると多少軟らかくなっているところは……。

小力 あるんですけどね。やっぱりバラエティーが嫌いとかマスコミが嫌いとかは僕も知ってるので。そうすると、そこで会っちゃうと長州力幻想が崩れちゃうんじゃないかっていうのもあって。

たしかにバラエティー番組に長州さんがホイホイ出てきたら、それはそれでイメージは崩れちゃいますからね。

小力 そうなんですよ。そういった意味で会いたくないのが一番大きいです。たぶん相当いろんな番組で動いてたのもあると思うんですけど。会うならカメラの前とかは嫌ですね。1回本気で考えましたけどね、WJとかリキプロ行ってちゃんと挨拶した方がいいのかなって。でもそれもなんだろうなって思うし。まあ難しいですね。

某関係者に話を聞いたら、長州さん自身はモノマネをされていることは知ってるみたいですけど、怒ってはいないと。ただ、困ってるのはお子さんが「小力、小力」って言われてるみたいで（笑）。

小力 ああ（頭を抱える）。…………（小声で）それはちょっと聞きたくなかった。

——言わなきゃ良かったですね。申し訳ないです！

小力 いや、しょうがないんですけど、基本的に僕は他人に迷惑かけられたり、他人のせいで怒られたりするの凄い嫌いなんですよ。だから自分の嫌いなことは他人にしたくないんですけど……結果的に迷惑かけてますね。……しょうがないっていったらしょうがないんですけど……なんかね、考えますよね。プロレスラーの人とか関係者の人の前でなんかやったりするときに、笑ってもらえたらまた安心するんですけど、やる前が凄い嫌なんですよ。そういう部分でプロレスは僕にしてみれば見ていたいけど関わりたくないというか。ホント、見ていたいだけなんですよ。

——そんな話の後で聞くのも何なんですが、亡くなった橋本真也さんとリング上で最後に向かい合ったのが小力さんだったわけですけど。非常に語りづらい話だとは思いますが。

小力 ……そうですね。なんて言ったらいいのかな。でも「お悔やみ申し上げます」としか言いようがないですね。僕の中にいろいろ思いはあるし、収録後にお話させてもらって、橋本真也に会えたことが嬉しかったし。こっちが一方的に「ハシモトーッ！」みたいなことやってて会えたし。収録後に結構お話しさせてもらって、橋本さんのお嬢さんが「『お父さんのこと言ってる人がいるよ』って言ってて、俺はそれで知ったんだ」って言ってくれて。それをニコニコして言ってたから……そういうのが思い出になっちゃったのが残念ですよね。ホントに残念としか言いようがないです。

あの番組での橋本さんと小力さんとの絡みを見ても、小力さんのレスラーに対するリスペクトは凄い伝わってきましたよ。

小力 そう言われると、少しホッとするんですけど……。でも、あのときは複雑でしたね。恥ずかしいメールを出されて騙されて、それで「うわっ」と思ってたら本物の橋本さんが

ご覧になった方も多いと思うが、6月22日に収録され橋本さん逝去後の7月19日、テレビ朝日系で放送された「ロンドンハーツ」。この番組でドッキリを仕掛けられ破壊王と闘うはめになる小力。強烈な袈裟斬りチョップを食らうも、最後は破壊王から「俺のモノマネをやってくれ！」とお願いされていた

『H
私の
パコ

から、最後の
たんです。
ちの努力の
若い選手た
ていく、そ
テラン選手
格闘技界を
るというプ
——今回も
であるアン
リングサイ
姿を見て、
史を感じま
ズーエフ
回はヴォル
る予定でし
その看病を
かったんで
い」と言って
いですね。
リング
んとハンさん
ヒョードロ
ストリーが
くいいですね
ズーエフ
には出ませ
た人たちに
てほしくな
セルゲイや
も、その僕
を開会前に
かったから、
まれたんです

ゴング

橋本さんのマネは自分にはできないと西口のリングで報告しました

出てきて。単純にファンとして嬉しいんですよね。でもチョップにしろスリーパーにしろ当たり前ですけど、凄く痛いんですよ。

——袈裟斬りチョップは何回もリプレイされてましたけど、かなりいいのが入ってましたからね。

小力　ホント痛かったです。でも、あんなにいろんな感情が入り乱れたことはこれまでなかったですね。

——結果的には、これ以上ないってほどの貴重な体験になりましたよね。

小力　そうですね。だから自分でもあのときのVTR見ますけど、そうすると普通に嬉しそうに笑ってしまいますよ。亡くなったってことはいまだに信じられないんで。

どこからどこまでがホントなんだって思っちゃうでしょうね。プロレスファンとして橋本さんと絡めるってことは夢のような話ですし、一方で冷静になって考えてみると亡くなってしまったのも、また事実ですからね

小力　ホント、複雑ですよね。橋本さんについて何か言うとすれば、1プロレスファンとして、これからも期待してたので凄く残念ですってことぐらいで。いまはそれぐらいしか自分には言えないですね。

——小力さんのモノマネを喜んで見てた橋本さんからは、最後に「俺の真似もやってくれ」と言われてましたけど。

小力　僕は笑かすのが商売ですけど。やっぱり人が嫌がることとか、亡くなった方の真似をするっていうのは……。自分の中で、それで人を笑わせられたとしても、なんかいいもんじゃないなっていうのがあるので。ファンの方からも「橋本さんのモノマネをしてください」とか、いろんなご意見をいただくんですけど、やっぱり自分でやりたくないことはやらないってスタンスなので、「自分はできない」ということは西口のリングでは報告しました。

——ちょっと話題を変えますけど、ここ最近は忙しくてプロレス観戦とかも行けてないんじゃないですか？

小力　忙しいっていうのもあるんですけど、ちょっとプロレス会場に行くのも最近は難しいかなってところもあるんで。

——あ、そうか。間違いなくファンに囲まれるでしょうからね（笑）。

小力　そう考えると、ちょっと残念なことになってきたんですけど。昔、東京ドームで春一番さんがファンに見つかって、モノ凄いコールが起こっちゃって、春さんがちっちゃくなって出て行ったのを見たことがあるから、自分もああなったらどうしようと思って。

——ある種、有名税というか、長州税というか（笑）。それでは、最後に今年の西口プロレスでの目標を聞かせてください！

小力　忙しくなって、周りの環境が大きく動いたからといって、極端に何かを変えたくないですね。いままで通りの西口プロレスをやっていきたいです。会場が大きくなったからといって、それに合わせてドンドン派手なことをやる必要はないと思うんですよ。もちろん、身体もそんなに張る必要はないと思うし。

——これまで通りな感じで身体も張っていくと（笑）。

小力　そうですね。僕らにとっては月10本とか15本あるお笑いライブのひとつっていう感覚で気負わずにやっていきたいですね。僕はそう思ってやってるし、みんなにもそうやって欲しいし。いままで通りやっていきたいですね　それができれば満足です。たから変に、「人がいっぱい入るから後楽園ホール借りてやろうぜ」みたいのはちょっと嫌ですね

——いや、後楽園ホールぐらいはやってくださいよ！（笑）。

小力　後楽園ぐらいはありですかね？　まあ、お客さんに対して優しい部分としては、ちゃんとイスがあって、ゆっくり見れるところがいいのかなとは思うんで、広いところでやるのはいいと思うんですけど、だからといって内容を派手にするとかはどうかなって。

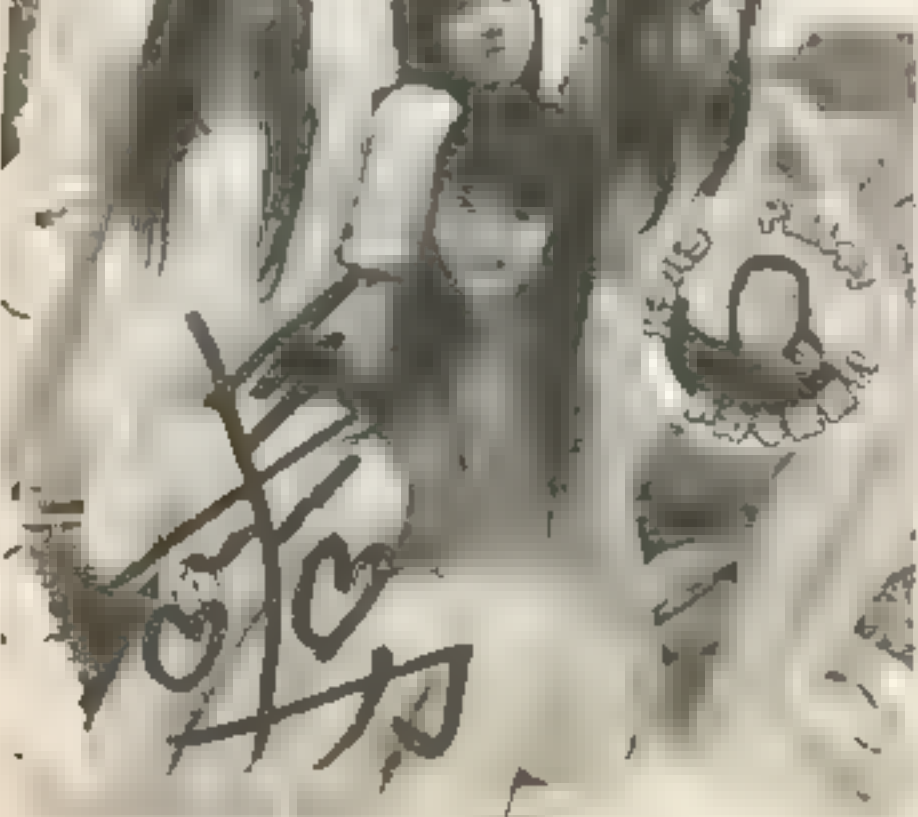
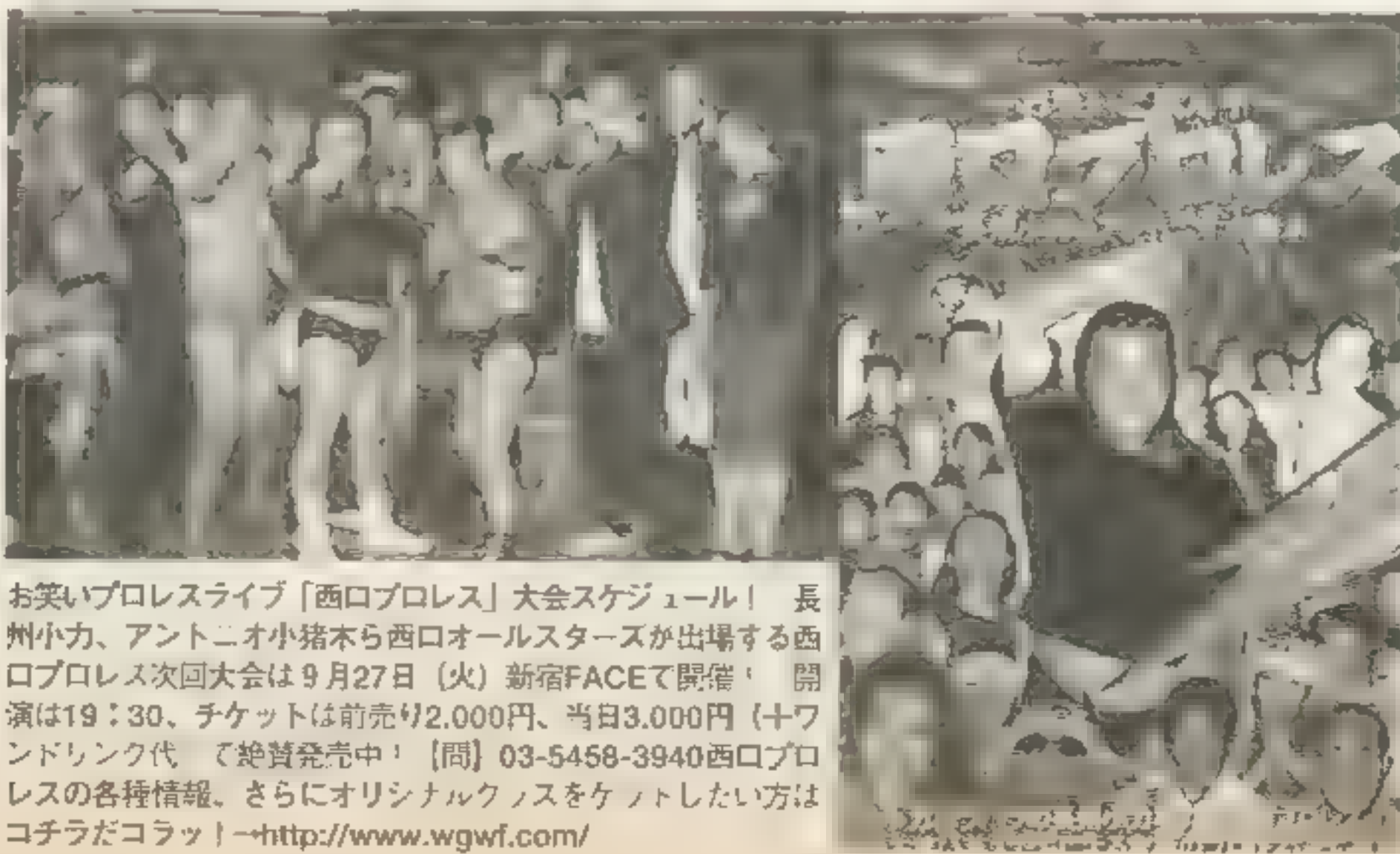
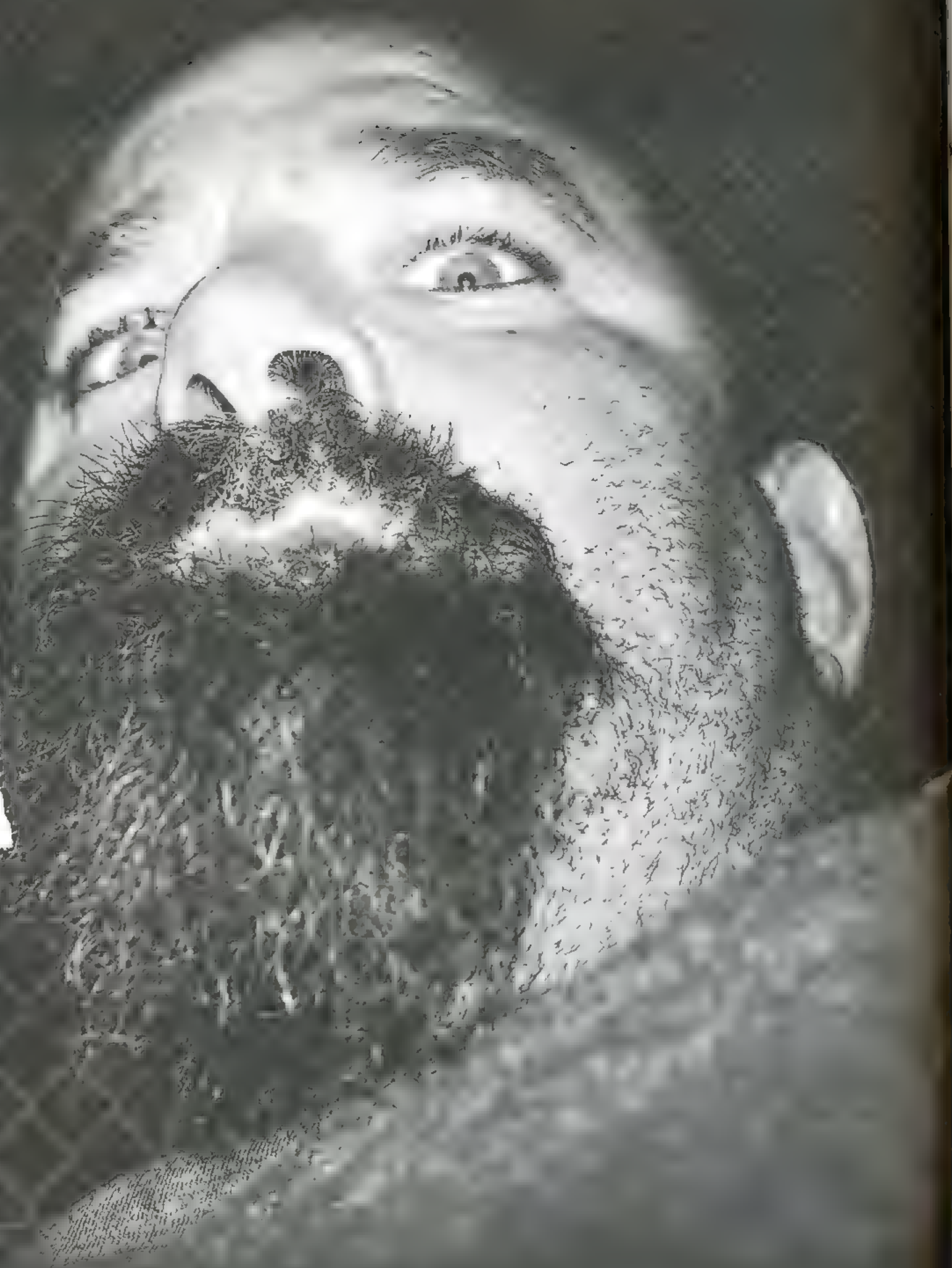
——背伸びするんじゃなくて、ありのままを見せていきたい、と

小力　ですね。結局、プロレスだなんだっていっても僕たちはお笑い芸人なので、芸事に通ずるものをやっていけたら、それが一番いいわけで。急に身体を鍛えだしたら西口の魅力はもうなくなりますから。いつもどおり楽しんで"プロレスごっこ"をやっていきます！

——これまで通りのペースでパラパラにしろ、西口プロレスにしろ頑張ってください！

小力　自分も業界のト真ん中を突っ走れるよう頑張ります！

【9月3日／都内某所にて収録】

ちょうしゅう・こりき■1972年2月5日、西東京市出身。西口プロレスでのキャッチフレーズは「革命閣下」。必殺技は小力ラリアート、サソリ固め、パラパラ。163cm、108kg。コージー冨田、はなわ、原口あきまさ、長井秀和、ヒロシらを輩出した新宿にある「そっくり館キサラ」にも在籍中（たたし、最近は多忙のため、あまり出演できていないらしい）

樋井明日香、小山ひかる、竹中里奈、松岡桂花からなるHINOIチームが7月27日にリリースした「KING KONG」と西口DVDをセットで1名にプレゼント。このアルバムには小力がパラパラ指導しHINOIチームと一緒に踊る「IKEIKE」も収録。宛先はP159参照！

お笑いプロレスライブ「西口プロレス」大会スケジュール！　長州小力、アントニオ小猪木ら西口オールスターズが出場する西口プロレス次回大会は9月27日（火）新宿FACEで開催！　開演は19：30、チケットは前売り2.000円、当日3.000円（+ワンドリンク代）で絶賛発売中！【問】03-5458-3940西口プロレスの各種情報、さらにオリジナルグッズをゲットしたい方はコチラだコラッ！→http://www.wgwf.com/

〃喧嘩屋の中の喧嘩屋〃

タンク・アボット

何？インタビュー？とりあえずビールをよこしやがれ！

8月28日の「PRIDE GP」にて、待望のPRIDE初上陸を果たした“喧嘩屋の中の喧嘩屋”ことタンク・アボット。残念ながらと言うか、やはりと言うか、持ち味のブルファイトが爆発する前に吉田秀彦に敗れてしまったが、豪傑・アボットの魅力はこんなものではない。「酒、喧嘩、女」と三拍子そろった超豪快な人柄に迫るインタビューをお届け！

聞き手／真下義之　構成＆通訳／上杉HG　design by さおとめの事務所

何？『PRIDE・1』に呼ばれてた？そいつは最近、知ったよ！

この日の取材は試合の翌日、朝10時30分よりスタート、しかもホテルから成田へ向かうリムジンバスの中でのインタビューという状況。そんな状況にも関わらず、なにはなくとも「とりあえずビール」を要求するタンク・アボット。お前は男だ！

――（おそるおそる）は、はじめまして。ミスターアボット、今日はどうぞよろしくお願いします。

アボット 俺はこう見えてもジェントルマンなんだぜ、グフフフ。緊張すんなよ。気軽にタンクって呼んでくれ

――ではタンクさん、さっそくインタビューをよろしくお願いしま……

アボット （遮って）ところで、ビールは用意してるんだろうな？（ギロリ）

――は、はい。おつまみと一緒に、たくさんビールを買ってきましたよ！

アボット まず、そいつをこっちへよこせ（と、ビールの入った袋を奪う）。こっちは遠慮しないで勝手にヤルからさ、気にせず何でも聞いてくれ。あとつまみは必要ないから返すぜ。ガハハハハ!!

――今回はひさびさの来日ですが、昨夜の試合後は街に繰り出したんでしょうか？

アボット （プシュッ！とビールを開けながら）ダメージもなかったし、ジャパンはひさびさだったからな。もちろん楽しませてもらったよ。昨日はホテルから繰り出して、まずメシ食って……気が付いたらいつのまにか六本木にいたんだよなぁ。グビグビ。

――PRIDEに来る外人選手はみんな六本木が好きですからね

アボット 詳しくは言えないけど、かなりクレイジーな夜だったぜ。（同行したチーム・タンクのメンバーを指さして）コイツなんか六本木ガールを3人もつかまえて、「まとめてお持ち帰り」したらしい。ガハハハハ！

――うらやましい限りですね。ということはタンクさんも相当にハノスルされたんじゃないですか？

アボット いや、俺は試合のあとだったから、ビール飲んで、仲間とバカ話でまったりと楽しんでいた……ということにしといてくれ。ガハハハハ！

――勝手に想像しときます。ところで、今回は何か美味しい物は食べましたか？

アボット ああ、目黒のステーキ・ハウス『リベラ』に行ったぜ あそこは有名な店なんだろ？

――おお、ホーガンやハンセン、それにマイク・タイソンといった選手まで「来日すれば必ず立ち寄る」ステーキハウスですね。その他にタンクさんが気に入った日本料理はありますか？

アボット いや、ジャパニーズフードは魚が多いから嫌いなんだよな……というか、俺は基本的に肉しか喰わねえんだよ。

――え？ 魚も野菜も食べない、っていうのはタンクさんらしいですが、身体が資本のファイターとしてはかなり珍しいですよね。

アボット 食べ物は確かに偏っているかも知れねえ……ただ俺はオンナの選り好みはしねえぜ！（キッパリ）

――おっ、そっちは好き嫌いなしなんですね（笑）。

アボット 日本語で言うところの……ブサイク？（笑）とにかくなんでもいいんだ たとえば、オンナを1から10までランク分けするとしようか。10がグラマラスなビューティーガールだとすれば、1や2のランクは誰だってカンベン願いたいよな？ でも俺の場合は、マイナス3だってOKだし、なんならマイナス10だって問題ないんだ！ ガハハハ！

――そっち方面でも"なんでもあり"なんですねぇ

アボット それにな（声をひそめて）経験上言わせてもらうと、アレのときって……おデブちゃんのほうが一生懸命尽くしてくれるのさ グフフフ

――そ、そんなタンクさんには特定のステディはいらっしゃるんでしょうか？

アボット いや、特定の彼女がいたことはほとんどないな。どっちかって言えば「一晩だけの関係」が多い。まあ、一晩かぎりのマッチメイクでもキッチリ仕事をするぜ グフフフ。

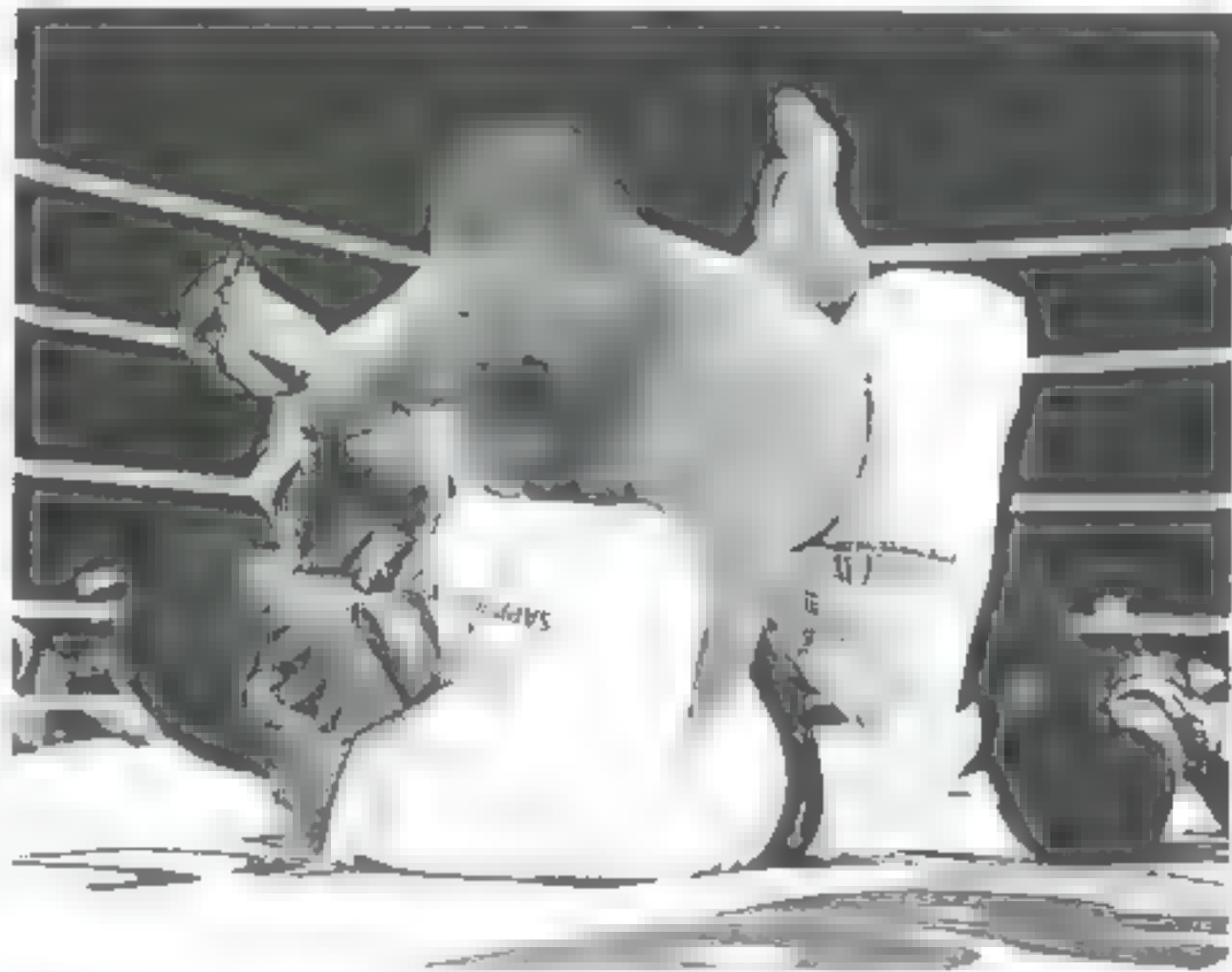
――試合では殴るだけでも、ベットの上ではグランドの攻防を展開すると ところで、昨日の試合（vs吉田戦）は、残念な結果に終わってしまいましたね。

アボット （遠くを見やりつつ）うーん何て言えばいいのかな……。ウォリアーとしてのスイッチが最後まで入らなかったな 考えていた戦術も上手くいかなかった 自分自身がっかりしているんだ ただ俺が100%の実力を出してれば、吉田はタフな相手じゃない こいつは確かだよ

――おお、ところで、今回、初めてPRIDEの舞台に上がったわけですが、UFCと比べてどうでしたか。

アボット まぁ、別モノといやあ別モノなんだろう……例えて言えば、自分のガールフレンドが髪を染めて現れたようもんだな。見た目がちょっと違っていると、でも服を脱がしてみりゃあ一緒だよ。だって同じケツの穴してんだろ！ ガハハハハ！

――ヤルことは一緒と（笑）。そんな豪快なタンクさんは、「喧嘩屋の中の喧嘩屋」「喧嘩屋が恐れる喧嘩屋」として非常に有名ですね。

アボット イエス。俺たちチーム・タンクには喧嘩がメシより好きなヤツしかいねえ。最近は控えめにしてるが、昔は毎日のように喧嘩、喧嘩に明け暮れてたもんだよ。

吉田戦では、試合開始早々、突進してテイクダウンを奪ったアボット。しかし堅いディフェンスに阻まれ、攻めきれず、吉田の柔道技・片羽絞めに敗北してしまった。

ビールを飲む、飲む、飲む。朝一番から、とにかく延々と、しかし確実にビールを流し込んでいた酒豪、タンク・アボット。手みやげとして持参した缶ビール10缶を成田に着くまでの1時間30分であっと言う間に消費してしまう。そして、空港で別れをつげた最後の言葉は「おい、ビールありがとな」だった。シビレる。

ビル・ゴールドバーグ？ あいつはインチキ野郎だ。

聞くところによると、格闘家になる前に、酒屋さんの店員をやってらっしゃったんですよね。

アボット ああ、よく知ってるじゃねえか。酒に囲まれていて、あれはなかなかいい職場だったな。グビグビ。

まさに天職（笑）。でもお客さんをブン殴って、逮捕されてしまったとか。

アボット そのガキは生意気だったから教育のつもりで思い切りシバいてやったんだ。でも、じつはそいつの父親が……地元の刑事だったんだよ（笑）。

それはついてなかったですねえ。

アボット あのクソ野郎、俺様を6ヶ月もブチ込みやがって！ そりゃひどい扱いだったぜ。オマケにその時点の俺の悪行も次々バレたから裁判官には「お前は完全に狂ってる！ これまで人を殺していないのが不思議なくらいだし、永遠に刑務所に入れたいけど、この犯罪は6ヶ月が限界だ」なんて言われたよ（笑）。ホントひでえ話だよな。

いや、タンクさんも十分ひどいと思います……。しかし喧嘩で半年もブチ込まれるのは辛いですねえ。

アボット 法廷で、その刑事の息子がベラベラとウソをついたおかげだよ。だからそこの2人（チーム・タンクのポール・ヘレイラとエディ・ルイス）に手厚～い返礼を受けることになるんだけどな（笑）。

ポール&エディ オー！ なんのことだいタンク？ 覚えてないな～。

アボット じゃ、たまたま似てたヤツがやったんだろうな（笑）。

そんなタンクさんは、97年にも傷害事件を起こして、PRIDE・1に参戦予定だったのが、直前でキャンセルになったんですよね

アボット ああ、『PRIDE・1』出場キャンセルの話については最近、真相を聞いたんだよ。ハッキリ言うけど、俺はPRIDEの話なんかまったく聞いちゃいなかったんだ。実は自称「タンク・アボットのマネージャー」が、当時のPRIDEのスタッフと俺の知らないところで、勝手に交渉してたんだよ

え？ タンクさんには連絡や相談がなかったんですか？

アボット 俺は、自分がPRIDEに上がる話が来てるなんて知らなかった。そこにいるポールに聞いてみろ おい、代理人のトーマスが「俺が『PRIDE・1』に出る」約束を勝手にしてたんだよな？

ポール それはトーマスっぽい話だなあ。いや、このマヌケは何も知らなかったんだよ（笑）

うわ、とんでもない話ですね。

アボット もちろん、PRIDEのスタッフは悪くない。酷いのはトーマスの野郎だぜ。しかも当時、俺はUFCと契約してたからPRIDEに出られるわけないんだ。で、あとから「俺が『PRIDE・1』をキャンセルした」って噂を聞いたんだけど、「いったい何を言ってやがる！」って耳を疑ったよ。大体、俺は一度やると言えば必ずやる男なんだよ！

タンクさんには寝耳に水の話だったと。で、その傷害事件というのは？

アボット いや……当時の俺なら刑務所にいてもおかしくはなかったし、実際にブチ込まれていた時期と重なるかもしれないんだけどな（笑）

そのあと、タンクさんはプロレスのリングも経験されているんですよね

アボット イエス。ちょうどUFCのビジネスが落ちてきていた頃、当時WCWのライターとして活躍していたエリック・ビショフと会って契約したんだよ。

UFCが暴力的すぎるとアメリカの社会問題になっていた頃ですね。

アボット ま、俺も食っていかなきゃなんねえし。ちょうどうまい具合に、プロレスの話が舞い込んだってわけだ。でも、入団した後に、肝心のエリックがWCWを辞めて、WWEに行っちまった。それからはパッとしなかったな。エリック以外の連中は俺のためのストーリーラインや出番をあまり用意してくれなかったんだ。でも俺なりにはがんばってたよ。グビグビ。

――ベストは尽くしたと。

アボット 他のレスラーや関係者からのやっかみも随分あった。同じ裸の商売でも、プロレスで成功するのは大変だよ。バックステージのパワーバランスはとても複雑だし、MMAみたいに「勝ちゃあいい」って話じゃないもんな。

タンクさんは、もともとプロレスに興味はあったんですか？

アボット （苦笑しながら）いや、俺なりに好きになるように努力はしたけど、UFCほど好きにはなれなかったな。やっぱり俺はリアルファイトじゃないと燃えないんだ。ただ……ギャラは決して悪くなかったけどな（笑）

――WCWでは、あのビル・ゴールドバーグ選手とも何度かシングル対決してますね。彼はリアル・ファイトでも強いというイメージがありますけれど。

アボット おい小僧、ワークとシュートはまったく違うってことはハッキリさせたほうがいいぜ！（ギロリ）

は、はい。気をつけます

アボット ま、アイツは強がってはいたけど、まじでインチキ野郎だし、俺を見ただけでビビってたと思う。バックステージではみんなにフレンドリーだったけどな。ヤツはそうしなきゃいけない理由があるからそうしていたんだろうな。この意味、わかるだろ？（ニヤリ）

WCW時代は日本が世界に誇るレスラー、グレート・ムタとも試合をされていますよね。

アボット ああ、ムタと試合したときは……テレビマッチで毒霧を浴びたんだよな。あのミストをくらったときは、顔面にゲロられた！って感じだったな、ガハハハハ！ ま、俺にとってプロレスはあくまでビジネスなのさ。

では、もうプロレスビジネスに戻りたいという気持ちはないですか？

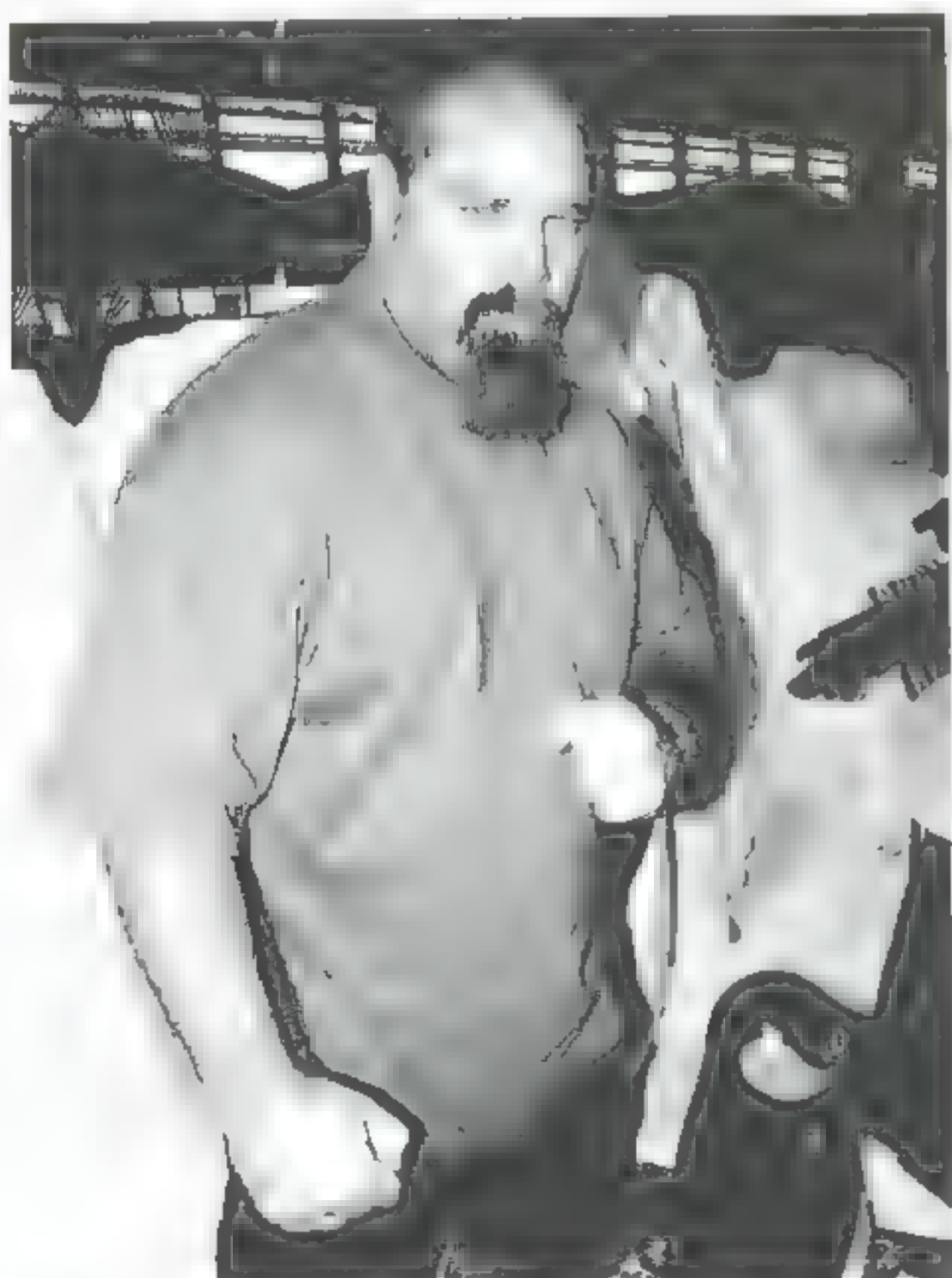
アボット いや、機会があれば考えてもいいぜ。でもビンス（・マクマホン）はシュートファイトは好きじゃないだろ？ いまのWWE自体はすごいことやってると思うし、リスペクトもしてるよ。でも「シュートのマネごと」みたいな試合をするのはかんべんだな

今後、試合の予定は？

アボット まぁ、誰とでも話はするし、いくつか話も来ているみたいだけどな。明日のことは考えない主義だから、どうなるかはわからない。ウィ～（と10本目のビールを飲み干す）。

では、日本で闘ってみたい相手は？

アボット う～ん、やっぱり吉田かな。昨日は本当の自分の姿を見せられなかったから。もう一度リベンジしたいね。俺は誰とでも闘うけど、できればなるべく強いヤツ、ウォリアーの心を持ってるヤツとやりたいな。それから……日本のガールとももっと楽しみたいな（笑）。さっきも言ったけど、俺はベッドではオールラウンドなファイターだからな。ガハハハハ！

……リング上でもベッド上でも今後の活躍を楽しみにしています！

タンク・アボット
1965年生まれ。95年UFC.6でのヘビー級トーナメントに突如出現、"路上の現実"を見せつけるような荒々しい喧嘩ファイトで準優勝を果たし、観客のド肝を抜いた。UFCで活躍後はプロレスラーに転身するも、03年総合に復帰。今年8月、吉田秀彦の相手として待望のPRIDE参戦を果たす。じつは全米Jr.カレッジレスリング王者に輝いたスポーツエリートでもある

紙の MMA NEWS

ここ1ヶ月の格闘技情報をどうぞ！

え〜と、今号は『紙のプロレス』としては最終号となります。というわけで（もないが）、プロレス系の記事がいつもより多めとなっているので、そこからはみ出てしまった、ここ1ヶ月の注目の格闘技大会の情報を一気に紹介します！

スマック真夏の祭典ん〜、「Dynamic!!」一番人気は小林由佳！

8・17 スマックガール「Dynamic!!」代々木第二体育館

❶メインで行われたスマック初代ミドル級王座決定戦。勝ち上がってきたのはアメリカの総合2冠王のローラ・ディオーガストとスマック無差別級王者の藪下めぐみ。藪下は投げを連発し会場を沸かせるも結局判定で敗れローラが総合3冠王に輝いた

❷セミで同門のおっさん相手にライト級王座防衛戦を行った辻。2R2分過ぎ、辻が腕十字を極めおっさんに勝利。試合後は両者ともに涙

❸フジメグから指導を受け総合初挑戦となったアストレスの風香。開始早々から積極的に攻め込んだ風香だったが、最後は川畑千秋が下からの十字を極め一本勝ち。風香、もう一丁！

スマック真夏の大一番、代々木第二体育館で開催された「Dynamic!!」。残念ながら満員にはほど遠い入りとなってしまったが、リング上の闘いは熱戦続き。中でも一番人気だったのが、空手ルールで倍近い体重の藤舘恵里に挑んだ空手界のアイドル・小林由佳。その愛くるしい顔とは裏腹に、試合になると怒濤の正拳ラッシュやド派手な胴回し回転蹴りなども見せ観客の声援を独り占め！

ルミナ流血惜敗！凱旋マッハ、ヨアキムは『武士道GP』に向けて好発進!?

8・20 修斗 横浜文化体育館

マッハが修斗凱旋！　相手の青木真也は驚異的な極めの力を持つ若き実力者。青木はポジショニングではマッハを上回るが、決定的なシーンはつくれず。スタンド＆グランドでこつこつと打撃で攻め立てたマッハに凱歌が上がったが、不完全燃焼に終わったマッハは「すいませ〜ん、以上です！」と絶叫してリングをあとに。噛み合わなさが緊張感に昇華できず、戦前の期待感からすると、二人はハードルをクリアすることができなかった内容だ。

ヨアキム・ハンセン(3R終了3-0)富樫健一郎●

“北欧の処刑人”が「HERO'S」、『武士道』を経て修斗にカムバック。宇野薫、今成戦に続くショッキングなKO劇を期待されたが、富樫のボクシング、寝技のディフェンス・スキルに手を焼き思うように攻めきれず。とくにスタンドでは絶妙なタイミングで放たれる富樫の右フックに苦しんだ。それでも地力の差を見せつけのはさすがだが、『武士道ＧＰ』に向けて不安を覚えるクオリティだった。自らを見つめ直す一戦となったのか、それとも……

ギルバート・メレンデス(1R1分32秒 TKO)佐藤ルミナ●

ウエルター級からライト級に転向、環太平洋王座王者に就いた“修斗のカリスマ”ルミナが、同階級世界王者ペケーニョへの挑戦権を懸けてメレンデスと対戦。序盤はルミナの小気味よい打撃がメレンデスに炸裂！　しかしメレンデスは首相撲でルミナを押さえつけると、強烈なヒザ蹴りを連打！　ルミナの額をザックリ切り裂き、レフェリーストップ決着！　ルミナにとっては悔やんでも悔やみきれないあっけない結末となった。

しなしさとこと現役アイドル・岡本範子の対決は、わずか48秒でしなしの勝利に。前日計量の際には「秒殺はするつもりない」とおっしゃられていた女王・しなしさとこだったが、結果を見れば秒殺以外の何でもない圧倒劇。“私だけ見てればいいのよ”という、しなし姫の圧倒的な力の前に敗れ去った岡本は「秒殺だけはされたくなかった」と号泣。試合後、しなしはリング上からあらためて「『武士道』に出たいです」と笑顔でアピールした

この日のメインは石井淳選手引退試合として行われた12選手参戦のロイヤルランブル！　高森啓吾、青木真也、桜井隆多、石田光洋、ＤＤＴの橋本友彦、しなしさとこ、ＴＡＩＳＨＯ、鬼木貴典、今成正和、我龍真吾、内藤宏治に加え、“超人”と言えばこの人、漫画家のゆでたまご氏まで特別参戦。最後はお宮の松が登場し、石井が容赦なく腕固めを極めて勝利を飾った

メインは石井淳引退ロイヤルランブル！ グラバカ対抗戦勝利、しなしがまたも秒殺！

佐伯さんが仰天公約!?「満員にならんかったら坊主になるよ!!」

9月1日、都内DSE事務所で記者会見が行われ、9月23日「PRIDE武士道　ライト級トーナメントの組み合わせが発表された。DSE広報を担当している佐伯氏(兼・DEEP代表)は「文句のつけようがない」と鼻息を荒くし「これやったら確実に有明コロシアムは満員になるでしょ！　満員にならんかったら？　坊主になるよ！」と仰天の公約までブチあげ、会見に出席した選手をさしおいて、自身の余計な露出を増やす結果となった。どうなる有明コロシアム!?

グラバカvsＤＥＥＰ対抗戦は、２対１でグラバカ勝利！　トップ２の菊田早苗と郷野聡寛がセコンドからゲキを飛ばして見守った。初戦の山宮恵一郎は判定負けを喫すも、新星・横田一則が豪快な投げを披露して観客を沸かせ、判定勝利と大健闘。大将戦は山崎剛がスリーパーで見事一本勝ち！　山崎はこの勢いで『ＤＥＥＰ』フェザー級トーナメントへ乗り込む！

10/28(金) DEEP 21th IMPACT

東京・後楽園ホール
試合開始18:30(開場17:30)
■出場予定選手
[DEEPフェザー級(65kg)初代チャンピオン決定トーナメント]前田吉朗(パンクラス稲垣組)、今成正和(チームROKEN)、ファビオ・メロ(ブラジリアン・トップチーム)、マイク・ブラウン(アメリカン・トップチーム)、TAISHO(チーム・バルボーザJAPAN)、坪井淳浩(グラップリング・シュートボクサーズ名古屋)、ムアンファーレック・ギャットウィチアン(タイ)、山崎剛(GRABAKA)
その他 強豪多数参戦
■問　DEEP事務局 052-339-0303

9月3日「DEEP」有明大会のリング上に[illegible]坪井淳浩、今成正和、試合を終えたばかりの山崎剛が登場[illegible]目標での闘いたい相手として「前田吉朗」に指名が集中した[illegible]1回戦は10月28日、準決勝・決勝は12月2日後楽園大会で行われる

09/23(祝・金) 修斗

東京・後楽園ホール
試合開始 18:00(開場 17:00)
■決定対戦カード
[バンタム級／5分3R]マモル(シューティングジム横浜)vs未定／[バンタム級／5分3R]漆谷康宏(和術慧舟會RJW)vsBJ(AACC)／[フェザー級／5分3R]マルコ・ロウロ(ブラジル／ノヴァ・ウニオン)vs外薗晶敏(総合格闘技道場コブラ会)／[フェザー級／5分3R]植松直哉(クロスポイント吉祥寺)vs大沢ケンジ(和術慧舟會RJW)／[ライト級／5分2R][illegible]彰敏(総合格闘技津田沼道場)vs徳永早矢手(和術慧舟會RJW)／[ウェルター級／5分2R]鹿又智成(パレストラ八王子)vs青木稔(和術慧舟會RJW)／[ウェルター級・新人王決定トーナメント決勝／5分2R]島田雄人(ガッツマン修斗道場)vs[illegible]山修宏(パレストラ松戸)／[ライト級・新人王決定トーナメント準決勝／5分2R]不死身夜天慶([illegible])vs松本大輔(PUREBRED京都)／[バンタム級・新人王決定トーナメント準決勝／5分2R]手塚基(和術慧舟會TIGER PLACE)vs正城ユウキ(X-ONEジム湘南)／[バンタム級・新人王決定トーナメント準決勝／5分2R]赤木敏倫(総合格闘技道場コブラ会)vs下川維生(K'zファクトリー)／[フェザー級・新人王決定トーナメント準決勝／5分2R]加藤JETシン(パレストラ札幌)vs水垣偉弥(シューティングジム八景)
■問　サステイン 03-5725-733[illegible]

09/19(祝・月) IKUSA GP -U60 SUPERSTAR★Z TOURNAMENT FINAL STAGE-

東京・Zepp Tokyo
試合開始 17:00(開場 16:00)
■対戦カード
●[IKUSA-U60 GP 決勝／60kg契約／3分3R(延長2R)]準決勝Aブロック勝者vs準決勝Bブロック勝者　●[スーパーファイト／70kg契約／3分3R(延長1R)]HAYATO(FUTURE_TRIBE／UKF世界Sウェルター級王者)vsALI(ズマズ)　●[IKUSA-U50 初代戦女王決定戦／50kg契約／3分3R(延長1R)]渡辺久江(フリー)vsジェット・イズミ(クロスポイント吉祥寺)　●[スーパーファイト／70kg契約／3分3R(延長1R)]城戸康裕(谷山ジム)vs拳士(シルバーウルフ)　●[IKUSA-U60 GP 準決勝Bブロック／60kg契約／3分3R(延長1R)]KAWASAKI(リアルディール／REALDEALライト級王者)vs石川直生(青春塾／全日本キック・フェザー級3位)　●[IKUSA-U60 GP 準決勝Aブロック／60kg契約／3分3R(延長1R)]及川知浩(龍生塾／SB日本スーパーフェザー級王者)vs山本真弘(藤原ジム／全日本キック・フェザー級2位)　●[IKUSA-U60 GP リザーブマッチ／60kg契約／3分3R(延長1R)]TURBφ(FUTURE_TRIBE ver.OJ)vs大宮司進(シルバーウルフ／ISKA世界Sフェザー級王者)
■問　IKUSA事務局 03-5213-7331

09/17(土) D.O.G -DEMOLITION of Octagon Gear-

東京・ディファ有明
試合開始 17:00(開場 16:00)
■対戦カード
●[93kg契約/5分3R]岡見勇信(和術慧舟會東京本部)vsダミアン・リチオ(チーム・フランス)　●[77kg契約/5分3R]門馬秀貴(和術慧舟會A-3)vsジェス“ジョーカー”リアウディン(チーム・フランス)　●[無差別級契約/5分2R]橋本友彦(DDT)vsアラン・カラエフ(ロシア)　●[95kg契約/5分2R]内藤征弥(和術慧舟會A-3)vs浜中和宏(猪木事務所)　●[70kg契約/5分3R]光岡映二(和術慧舟會RJW)vs[illegible]チアボ(チーム・フランス)　●[65kg契約/5分3R]中原太陽(和術慧舟會GODS)vsフレッド・フェルナンデス(チーム・フランス)　●[77kg契約/5分2R]星野勇三(和術慧舟會GODS)vsモハメド・カチャ(チーム・フランス)　●[56kg契約/5分2R]廣野剛康(和術慧舟會GODS)vsオリバー・マリアーノ(チーム・フランス)　●[95kg契約/5分3R]佐藤光芳(GRABAKA)vs[illegible]
■問　[illegible] 03-3536-5801

※顕微鏡をご使用の上、ご確認ください

ハラハラさせるけど勝つときはものすごい。こんなに試合が面白い男はいないよ（橋本）

橋本　すごく求心力があるね。あの男の試合は当たり前に勝つだろうと思われて、当たり前に勝った試合は実はそんなに多くないっていう。

ささきぃ　ないですねぇ。

橋本　去年のサトル・ヴァシコバ戦でも、1・2Rいい調子で攻めてて、このまま行けばまぁ、判定勝ちだろう、と思ったら、3Rいきなり火がついたように打ちあいだして。で、サトルもそれに応戦して得意技の左ストレートでダウン取って、小林が負けたりとか。(※5)

ささきぃ　その前に闘った吉本光志選手にしてもサトル選手にしても、ホントいい試合してましたよね。(※6)

橋本　サトルも吉本も、実力はあるんだけど、そんなにガンガン打ち合うタイプじゃなかったのに、小林とやった瞬間になんか、一気に化けたというね。もう二人とも口を揃えたように「もう無我夢中で」っていうような。小林は相手をそういう風にさせちゃう選手なのかな、と。オスマン・イギンも含めて。ムエタイチャンピオンのテーパリットも、タイ人なんだからテクニックでごまかすのは得意なはずなのに、なぜかガンガン打ちあって小林のペースに巻き込まれてKO負けしてしまったりとかね。不思議な力があるよね。

☆進化しつづける野良犬

ささきぃ　小林選手は大月晴明戦の後にも進化していますよね。

橋本　そうだね。33歳になってもファイトスタイルを変化させてみたり、新しい練習方法を取り入れたりとか、60戦やって今だにキックに飽きてないというか、精神がすり減ってないというか。デビューしたての選手みたいなフレッシュな感じでやってるっていうのがまた、小林の特徴のひとつで。

ささきぃ　15歳からやってるのに、今が旬みたいな気すらしますよね。

橋本　また強くなってるな、っていう感じを与えるっていう。それはすごくあるね。「途中で辞めたら、損したままで負けだから。ギャンブルと一緒で負け続けてもいつか大勝ちするまでずっとやる」って本人は言ってるからね。

ささきぃ　観てる側もやっぱり賭け続けますよね。サトル戦の時に思ったことですけど、応援してる人が負けたら悲しいけど、後で勝ったら悲しみの分まで戻ってくるじゃないですか。そう思って、やっぱり応援するってことは、その相手に賭け続けることなんですよね。

橋本　そのうち何かやるだろうと。そう思いすぎて、うっかりイタリアまで取材に行ってしまう人とかいるわけですよ。(※7)

ささきぃ　小林聡の眉間に傷が出来る瞬間を見届けられて良かったじゃないですか（笑）。

☆義理のお父さんとZERO1-MAX

橋本　小林の情報としてもう一つ伝えとくとするなら、ターザン山本の"養子"なんだよ。山本さんが覚えてるかどうか知らないけど。

ささきぃ　養子になっちゃったんですか（笑）。

橋本　なっちゃったっていうか、山本さんがしちゃった（笑）。あとアレクもそうかな。

ささきぃ　じゃあ、アレク選手と小林さんは義理の兄弟なんですね（笑）。ターザンからむりやりプロレスに話をつなげますけど、こないだのゼロワンマックスの長野大会に参戦したんですよね。

橋本　あぁ「小林がMAX参戦!」ってヤツだね。どうだったの?

ささきぃ　村浜武洋選手はヒザを痛めていたみたいで本調子じゃなかったですけど、それでも興味深いエキシでしたね。最後、リング上で「スリー、トゥー、ワン、ゼロ・ワーン!　う～、マックス!!」を初披露したんですよ。

橋本　何やってんた（笑）。

ささきぃ　ちゃんと大谷晋二郎の指導に従って「う～、マックスー!」でジャンプしてたのに、どこにも載ってなかったですね。いい笑顔だったんだけどなぁ。

橋本　黙殺されたと（笑）。

ささきぃ　まぁ、今回でこのコーナーも最終回ということで、小林聡バリにスリー、トゥー、ワン、う～、マックスでシメましょうか。

橋本　そのシメはないだろ（笑）。まぁ、このページも最終回になることだし、オレは心の洗濯でタイに行ってくるよ（笑）。

【9月6日・ダブルクロスにて収録】

8月24日、ZERO1-MAX長野大会において、小林聡と村浜武洋がエキシビションで激突。場内は、先ほどまでランジェリー武藤が登場していたとは思えない緊張感に包まれた　小林「(村浜選手の印象は)フリッカー気味のジャブが特徴的だなと年代的にも同じだし、もしかしたら交わるかもしれないなと思っていたんで。面白かったですよ」　メイン終了後には日高郁人・大谷晋二郎らの呼びかけで再びリングに登場。「スリー、トゥー、ワン、ゼロ・ワ～ン!　う～～、マックス!!」を唱和した

国崇がラジャ王者・タップナーの牙城に挑む!!
NEW JAPAN KICKBOXING FODERATION

9/24(土)ニュージャパンキックボクシング連盟
「INFINITE CHALLENGE VIII ～無限の挑戦～」
東京・後楽園ホール　開場・16:45　開始・17:00

【対戦カード】
1.[ライト級 3分3R]蜂川卓也(上州松井) vs 大和哲也(大和)
2.[68kg契約 3分3R]菊池宣顕(E.S.G.／ウェルター級) vs 岩崎充(ARMS／ミドル級)
3.[ライト級 3分3R]浅瀬石真司(町田金子) vs 名和儒孝(キング)
4.[ミドル級 3分3R]守屋拓郎(町田金子) vs 山口治久(格闘道場G-1)
5.[ウェルター級 3分3R]森田泰男(PIT) vs 金日柱(OGUNI)
6.[ライト級 3分3R]ガンバ黒田(OGUNI) vs ひでお(北流会君津)
7.[フェザー級 3分5R]勝光(PIT) vs 久保雄太(立川KBA)
8 [ライト級 3分5R]押炉花者(町田金子) vs 鈴木章浩(OGUNI)
9 [バンタム級 3分5R]佐藤英二(マイウェイ) vs 美保裕介(PIT)
10.[58kg契約 3分5R]中須賀芳徳(OGUNI) vs 高島義幸(習志野)
11.[セミファイナル 63kg契約 3分5R]
山本雅美(北流会君津／NJKFライト級1位) vs ランスワン(タイ／元ムエタイ四冠王)
12.[ダブルメインイベント 67kg契約 3分5R]
笛吹丈太郎(大和／NJKFウェルター級王者) vs テーワリットノーイ(タイ／元ラジャダムナンSフェザー級王者
13 [ダブルメインイベント 55kg契約 3分5R]
タップナー シットロムサイ タイ／WMC&ラジャダムナンSフライ級王者) vs 国崇 拳之会／NJKFバンタム級王者
問:ニュージャパンキックボクシング連盟 043-202-1161

土井広之、王座返上で
大野崇と危険な出直しマッチ!
メインは宍戸大樹が
緒形健一の仇討ちに挑戦!!
SHOOT BOXING

9/25(日)シュートボクシング
SHOOT BOXING 20th ANNIVERSARY SERIES 4th
東京・後楽園ホール　試合開始 18:00予定

【対戦カード】
[3分3R/フレッシュマンクラスルール]
1 岩下雅大(龍生塾) vs 海渡昌浩(フリー)
2 松本賢治(シーザージム) vs KEISUKE(風吹ジム
3 関戸一智(湘南ジム) vs 吉川英明(チームドラゴン
[3分5R/エキスパートクラスルール]
4.山口太雅(寝屋川ジム) vs 尾崎圭司(チームドラゴン
5 金井覚治 ライトニングジム) vs 菱田将気(RIKIGYM)
6 二原日出男 シーザージム vs 東建介(ウィラサクレックジム
7 石川寿司 シーザージム) vs 竹村健二(名古屋JKF)
8 土井広之 シーザージム) vs 大野崇 正道会館)
9 宍戸大樹 SB日本ウェルター級チャンピオン/シーザージム) vs イム・チビン(韓国ムエタイ総連ウェルター級チャンピオン/Kpプロモーション)
問:シュートボクシング協会 03-3843-1212

小林聡とは何か?　文中に登場した用語解説（文責＝ささきぃ）

※**1内田康弘**＝元全日本ライト&ウェルター級チャンピオン、元NJKFウェルター級チャンピオン。現在はR.I.S.E 競技統括本部長。S.V.G.はシンサック・ビクトリー・ジムの略で、多くの強豪選手を輩出したムエタイスタイルの名門ジム

※**2高野拳磁**＝プロレスラー。ジョージ高野の実弟。81年春に新日本プロレス入門、デビュー戦で1分30秒勝利、超ド級の新人と噂される。90年にはSWSに移籍、SWS崩壊後はインディーを転々とし、別の意味で超ド級のカリスマレスラーとなる。主演した「ゆきゆきて人間バズーカ」は、紙のプロレスが企画制作に協力した、監督ザ・グレート・サスケの名作映画。マット界、もう1匹の野良犬。

※**3風車の理論**＝風が強ければ強いほど風車もよく回る。転じて、相手の力を限界以上に引き出した上で、自分がさらにその上の力を出して相手を倒すことで、自分だけでなく相手も輝かせるというアントニオ猪木の理論。シムノフフ。

※**4バトラーツジム**＝ささきぃはここで石川雄規にロシアンフック、小林聡にハイキックを1回ずつ習ったが、「紙プロ」入社とともに忘れた

※**5サトル・ヴァシコバ戦**＝2004年ライト級トーナメントで行われた一戦。この試合は2004年度の全日本キック年間最高試合に選ばれた

※**6吉本光志戦**＝右ヒジ手術からの復帰戦。予定されていたサムゴー・ギャットモンテープ、大月晴明の欠場を受けて緊急出場。復帰戦とは思えないドトウの打ち合いを見せた

※**7イタリアまで行ってしまう**＝2004年11月27日、イタリアのカーオボーンレック戦。海を越えて(有)ゼロワン解散の報を受けた小林聡は「ZERO-ONEの分まで俺がやってやりますよ。大谷、一緒に頑張ろう!」と、ジャンルを超えたメッセージを発信。8ヶ月後、2人は同じリングの上で「う～、マックス!」と拳を突き上げることになった

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

このコーナーも来月リニューアル!!(たぶん)

9・10『フラッシュ7』旗揚げ戦、Hikaru選手は全女崩壊で泣き、公開記者会見で豊田選手に泣かされ、そして試合が終わり復帰てきた喜びで泣く。「泣きすぎ!」と心で突っ込みつつ、一緒に泣いてしまった30歳が担当する情報ページ はじまりはじまり〜

Fight & Ticket 試合・大会情報

9・19 ZERO1-MAX後楽園大会 NOAH丸藤、そして川田が参戦!!

「がんばれ星川尚浩! 激励チャリティー試合」

■日時 9月19日(土)試合開始12:00(開場11:00) ■会場 東京・後楽園ホール

■対戦カード
日高郁人 & 藤田ミノル & 丸藤正道 vs 高岩竜一 & 坂田亘 & タイガー・エンペラー
大谷晋二郎 & 田中将斗 vs 大森隆男 & 川田利明
佐藤耕平 vs 松永光弘
バンビ・キラー & ハードコア・キッド vs 崔領二 & 不動力也
横井宏考 vs 神風
佐々木義人 & 浪口修 vs 村浜武洋 & 高橋冬樹
[US無差別級王座決定戦]アレックス・シェリー vs サンジェイ・ダット

■チケット S席 6000円、A席 5000円、B席 4000円

■問 ファースト オン ステージ03-5730-3966 ■HP http //www.zero-one-max com/

全日本9月シリーズ 曙が2度目の地方巡業!!

2005 FLASHING TOUR

■日時
9月17日(土)熊本・天草町勤労者体育センター(18:00)
9月18日(日)熊本・熊本興南会館(17:00)
9月19日(祝・月)福岡・田川市武道館(17:00)
9月22日(木)岐阜・岐阜産業会館(18:00)
9月23日(祝・金)東京・後楽園ホール(12:00)最終戦

■問 03-3288-0610 ■HP http //oudou b2p jp/

"キックの赤い薔薇" RIKIX総帥・小野寺力が引退!!

NO KICK,NO LIFE〜FINAL〜

■日時 10月29日(土)試合開始18:00(開場17:00)

■会場 東京・大田区体育館

■決定対戦カード
[小野寺力 引退試合]
小野寺力(藤本ジム) vs アヌワット・ゲオサムリット(ゲオサムリットジム)
松本哉朗(藤本ジム) vs ライアン・シムソン(バゾーストジム)

■ライブ提供 湘南乃風

■チケット SRS席 20000万円、RS席 15000円、SS席 10000円、S席 7000円、2FスタンドSS席 8000円、2FスタンドS席 7000円、3FスタンドA席 5000円、3FスタンドB席 4000円

■問 RIKIX 03-3718-2353 ■HP http://www.shinnihonkickboxing.com/

ゲストはHG、そしてI編集長! 『二人祭り』が大阪初進出!!

ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭り!!

■日時 9月28日(水)開始時間19:00(開場18:00)

■出演 ターザン山本! & 吉田豪

■ゲスト 井上編集長、新間寿、レイザーラモンHG

■チケット 3000円(ドリンク別)、当日3300円(ドリンク別)

■問 清水音泉 06-6357-3666

『マッスル』が遂に聖地進出! 行こうぜ、プロレスの向こう側!!

「マッスル・ハウス」

■日時 10月2日(日)試合時間12:00(開場11:00)

■会場 東京・後楽園ホール

■参戦予定選手
ツルティモトラゴン校長、マッスル坂井、アントーニオ本多、趙雲子龍、ペドロ高石、鶴見亜門(演出家)ゴージャス松野、その他、後楽園に相応しい大物 & 小物レスラー

■チケット スーパーシート 10000円(DVD・お土産付き)、特別リングサイド 5000円(当日6000円)、リングサイド 4000円(当日5000円)、立見 3000円 当日のみ 、小中高生立見 1000円 当日のみ、要身分証明)

■問 DDT 03-5360-6653 ■HP http://www.ddttec.com/muscle/

アパッチ、ビッグマウス、ゼロワン! 10・6リキプロ後楽園大会は戦慄の四つ巴戦!!

「裏切り」

■日時 10月6日(木)試合開始19:00(開場18:00) ■会場 東京・後楽園ホール

■対戦カード
❶[下田大作再デビュー戦]下田大作 vs 不動力也 ❷高岩竜一 & ディック東郷 vs 佐々木貴 & GENTARO
❸越中詩郎 & 青柳政司 vs 崔領二 & 浪口修 ❹藤原喜明 vs マンモス佐々木
❺エンセン井上 & 石川雄規 vs 柴田勝頼&筑前りょう太
❻長州力 & 宇和野貴史&関本大介 vs 金村キンタロ & 黒田哲広&BADBOY非道 ❼石井智宏 vs 村上和成

■チケット S席 6000円、A席 5000円、B席 3000円

■問 03-3754-6340 ■HP http://www.rikipro.com/

元・金村キンタロー夫人が プロレスとダンスの融合イベント開催!!

「RING」

■日時 10月10日(月・祝)試合開始19:30(開場18:30)

■会場 東京・六本木ウェルファーレ

■イベント内容
★新感覚プロレス[アトラクタス]※2〜3試合予定
GENTAROvs大石真翔 vs 川嵜風馬 大向美智子 vs AKINO
※その他出場選手 Hi69、Gamma、飯伏幸太、他
★西口プロレス 長州小力、アントニオ小猪木、超能力少年ダイジ、グッドニュース・アレン、ダーティー仮面 ※小力パラパラ講座あり

■ダンス&パフォーマンス 無名(ウーミン)、SquallNoize、EGU-SPLOSION、ないと★な〜す、HIBIKILLA、猫パンチALL STARS、国士舘大学新体操、ダブルダッチ、フレアバーディング

■チケット VIP 10000円、チケットフロア 5000円 ■問 ジ・アミューズメントグループ 070-6653-3947

"B"の聖地に集え!! 石川と村上が4年ぶりの一騎打ち!!

「September Dreams〜果てしなき夢に向かい〜」

■日時 9月18日(日)試合開始17:00(開場16:00) ■会場 埼玉・桂スタジオ

■対戦カード ❶[吉川祐太デビュー戦]原学 vs 吉川祐太 ❷チョコボール向井 vs 澤宗紀
❸竜司ウォルターズ vs 伊藤博之 ❹池田大輔 & 関本大介 vs 臼田勝美&原学 ❺石川雄規 vs 村上和成

■チケット SRS 5000円、自由席 4000円、小中生1000円(当日販売) ■問 バトラーツ048-963-7515

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001 東京都渋谷区東1-25-2 丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■誠道会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seiken-do.com/

■仙台ガールズ・プロレスリング
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒142-0062 東京都品川区小山4-4-9-2F
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場 03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂 03-5464-2806
〒150-0011 東京都渋谷区東2-17-12-404号
http://www.Takayama-do.com

■ドリームステージエンターテインメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス 03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.net

■レッスルエイドプロジェクト
03-5456-2345
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-20-12

■A to Z 03-3678-7777
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GAEA JAPAN
03-5701-7601
〒152-0023 東京都目黒区八雲3-11-4 ラ・ヴィコンテ3F
http://www.gaea-inc.com/

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW 03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■RIKIPRO 03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com/

■SMACK GIRL実行委員会
03-3324-8790
〒156-0041 東京都世田谷区大原1-63-9 恒心ビル801 株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO 0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193-11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW
03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン 03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WMF 049-239-3520
〒350-0812 埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS 0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファーストオン ステージ
http://www.zero-one.to/top.html

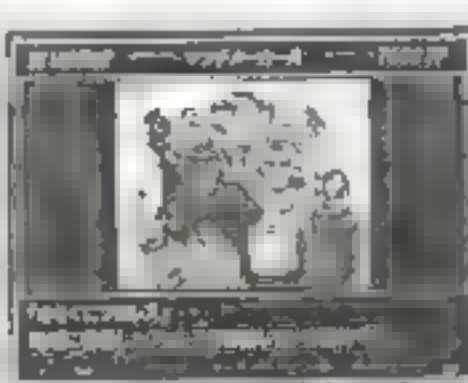
■ZST 03-5388-0707
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp/

DVD&GAME　その他情報

プロレスゲームの王道『ファイプロ』が帰ってきたぜ～!!

『ファイプロ リターンズ』

■7140円（税込）／発売元スパイク

2年前、14年の歴史に終止符を打ったはずの超人気ゲーム『ファイヤープロレスリング』が、ユーザーの圧倒的要望に応えて引退を撤回! 登場レスラー327人、技数1649種類と前作を大きく上回り、蛇光教祖のみが操る"呪文"までをも完全再現! 復活記念にスパイクが「紙プロ」読者3名様にプレゼント! P158へ急げ!!

■対応機種 プレイステーション2
■HP http://www.spike.co.jp

生き証人・竹内宏介氏が全面監修! 国際プロレス伝説をその目に焼き付けろ!!

『伝説の国際プロレス』

TBSに現存する1969～74年の映像をすべて蔵出し! さらに監修の竹内氏がゴッチ vs ロビンソンなど秘蔵映像を多数提供! 登場選手41名、24試合、400分という超ボリューム! 昭和プロレスの浪漫に浸れ!!

■12月14日（水）発売／販売元 ポニーキャニオン ©TBS
■初回限定版DVD BOX（3枚組）15750円（税込） ※2000セット限定
★封入特典 国際プロレス・ブックレット、国際ロゴTシャツ、復刻ポスター・ポストカードセット
■通常版DVD BOX（3枚組）11970円（税込）
■登場レスラー（順不同） ストロング小林、ラッシャー木村、サンダー杉山、豊登、グレート草津、マイティ井上、アニマル浜口、カール・ゴッチ、ビル・ロビンソン、バーン・ガニア、モンスター・ロシモフ、ドン・レオ・ジョナサン、他
■TEL 03-5521-8044
■HP http://www.ponycanyon.co.jp/video/kokusai_pro/

全日本の2005年ベスト3部作! 第1弾はチャンピオンカーニバル!!

『全日本コンプリートファイル 1stステージ』

■発売日10月21日／約180分／6300円（税込）
★チャンピオンカーニバルを中心とした2005年上半期名勝負、名場面集
★武藤 & 小島トークショー
★ノーカット名勝負集（武藤 vs 棚橋、川田 vs 健介、健介 vs ジャマール他）
■HP http://www.yukes.co.jp/

And Others　その他情報

吉田秀彦柔道教室 第14回「VIVA JUDO!」開催!!

■日時 平成17年10月2日（日）13:00～15:00（受付12:00）
■会場 日本体育大学 深沢キャンパス柔道場（東京都世田谷区深沢7-1-1）
■対象者 小学1～6年生（男女・経験不問）
■定員 100名 ■参加費 無料
■参加予定講師
吉田秀彦、瀧本誠、中村和裕、小見川道大、村田龍一
■問 株式会社ジェイロック 03-3414-9000
■HP http://www.hidehiko.jp/

『少年チャンピオン』でPRIDE公認漫画が連載開始!!

『Pound for Pound』

■所十三・著／監修 DSE

『特攻の拓』でお馴染みの人気漫画家・所十三がPRIDE漫画の連載スタート! 第1話には高田統括本部長が登場! ちなみに原案協力"Show"大谷泰顕だ! ひゃっ!?

■HP http://www.akitashoten.co.jp/

おかまムエタイ戦士 パリンヤーちゃんの半生が映画に!!

『ビューティフルボーイ』

世界30ヶ国以上で公開されたパリンヤーちゃんの自伝映画が、遂に日本上陸! 10月15日よりシネマスクエアとうきゅう他にて全国順次ロードショー!! おかまの生き様、見に来いやーッ!!

■HP http://www.beautifulboy.jp/

紙プロHand　更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、9・25『PRIDE武士道』当日に特典付きチケット予約を実施! 10・23『PRIDE.30』&11・3『ハッスル・マニア』のチケットはここでゲッツ! 毎日どこよりも濃くて深い試合結果・会見ニュースをアップ、さらに毎日更新のコラムも大好評連載中です! 写真は中川画伯による『PRIDE GP』ミドル級優勝者、マウリシオ・ショーグン待画。ビッグマウスロゴ・ビッグマウスラウドのロゴも配信中!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

紙プロHand

2005.09.17 fri

Kamipro Times

カミプロタイムス

～マット界の明日を考えるニュースまとめ読みコーナー～

今月号の誌面からは残念ながら漏れてしまったものの、見逃せない、聞き逃せないニュースを総まくりするコーナーが始まりました！　総選挙も熱いがプロレス界だって負けちゃいません。マット界の明日を誰よりも憂う本誌が厳選してお届けします。また、今月は名言もトンデモないものばかり。オレも頑張りたいぐらいだ。

構成／坂井ノブ

9/11 東京・後楽園ホール ビッグマウス・ラウド衝撃的に旗揚げ！

〝ホラ吹きおじさん〟こと上井文彦氏が立ち上げた、ビッグマウスが9月11日、ビッグマウス・ラウド（以下BML）として遂に旗揚げ戦の日を迎えた。

会場には、この日を待ちわびた観客が次から次へと押しかけ、早い段階で当日券は完売。試合前の上井氏の挨拶から異常なほどの盛り上がりを見せた。

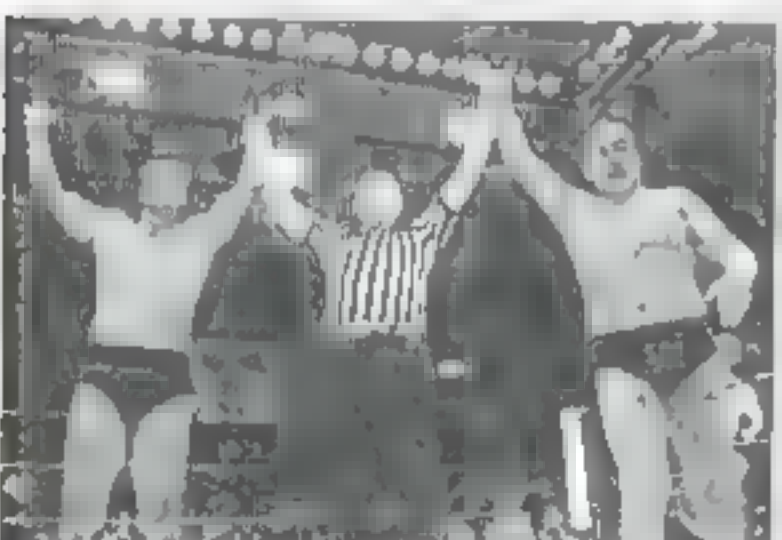
休憩明け、「キャプチュード」で前田日明がリングに登場すると、会場は大「マエダ」コール。前田が「来年からのBMLの中心人物」として船木誠勝を呼び入れると、船木はBMLに対し全面協力を約束。さらに「みなさんは自分が再びリングで試合することを望んでいますでしょうか？」という復活宣言とも受け取れるマイクアピールに、観客は大・大「フナキ」コールで応えた。

メインの村上和成vs柴田勝頼は予想通りの壮絶な蹴撃戦を繰り広げ、会場の異常熱気もあり大成功の船出となったBML。ただ一つ苦言を呈するなら、大会ポスターにデカデカと銘打たれた〝このリングが新しいプロレスの実験場となる〟という団体のコンセプトがビンビンに感じられる試合がなかったことだ。

その点は、この日一番の歓声を浴びた船木の動向にもかかってくるだろう。前田＆上井コンビ、村上＆柴田、そして船木にはパンクラス旗揚げ戦級のインパクトある〝新たなるプロレス〟の実験場を創り出してもらいたい。

数年前には考えられない船木と前田のツーショット。全試合終了後、前田は「船木には復帰してもらわないと。このリングで彼が〝リアル・パンクラス〟を創るんじゃないですか」とコメント。

BML推薦選手としてエンセンと対峙したゴルドー。両者の刺青にどよめきが走る試合はエンセンが、ゴルドーのサミングに苦しみつつも腕十字で勝利。

これも上井マジックなのか、休憩が明けると、超満員に膨れあがった後楽園ホールに巨大なBMLフラッグが出現！南側の客席をすべて埋め尽くす演出は迫力の一言!!

木戸修が一夜限りの復活を果たし組長と対戦（レフェリーは柴田勝久）。20年前にタイムスリップしたかのようなUWFスタイル（ロープワーク有り）で盛り上がった。

上井氏が「UWFのテーマ」で入場すると、会場は大「ウワイ」コール！「ビッグマウス・ラウドを、プロレス界が必要と言ってくれる団体にしたいと思います」と宣言した。

9/11 神奈川県・相模原市立総合体育館 ZERO-1 MAXが新日本プロレスを急襲！

電撃的な古巣への登場だった。9月11日、新日本プロレスの相模原市立総合体育館にZERO-1勢が全員で襲撃をかけた。メイン後に全員で登場したZERO-1勢の前に立ちはだかったのは金本浩二。天下一Jrを制して井上亘との対戦希望をブチ上げていた佐々

8/23 久々となった女子プロレス界オールスター戦を仕切った男とは？

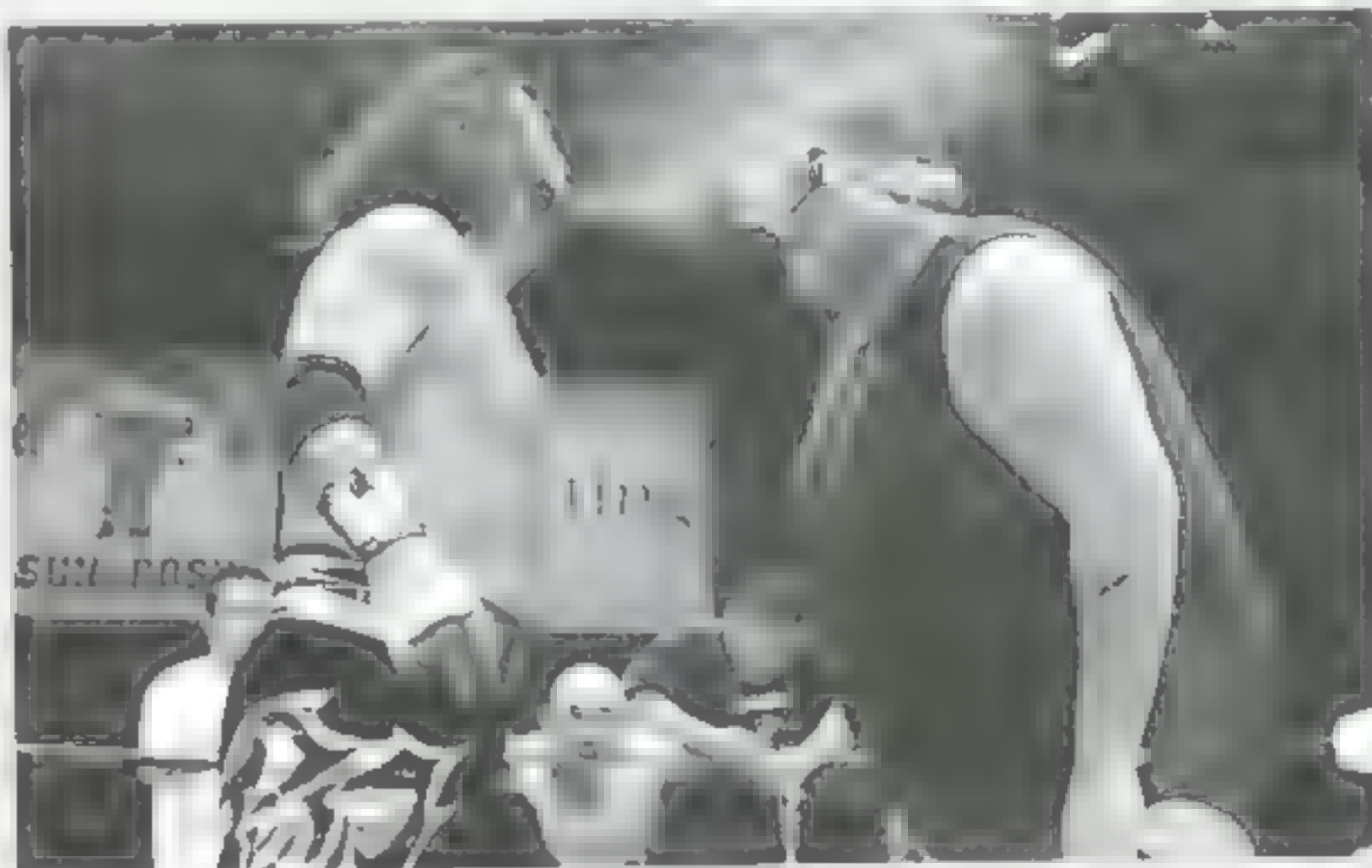
「俺の[illegible]を潰そうとする連中、お前らがいなくても女子プロレス界は永遠に不滅なんだ[illegible]」と、大会前リング上でシャウトしたのが8月23日T[illegible]1GP主催者の二見理氏。普段はチケットショップを経営している二見氏が10周年を機に付き合いのある女子プロ団体から選手を集めて行った興行がT[illegible]1GPである。メイン後、金網マッチで勝利をあげた前川が「こんな意味の無い金網はやりたくなか[illegible]もん勝ちしてんじゃねえよ[illegible]とブチ[illegible]二見氏、主催者と選手が[illegible]んて見たことない[illegible]動員的には苦戦[illegible]大成功か[illegible]

木義人とにらみ合いを繰り広げ、両者はお互いに蹴りを入れ合った。火祭り刀を抜いた大谷も臨戦態勢。10月8日の東京ドーム大会を前にいきなり大きなうねりが発生した。

8/21 東京・後楽園ホール
曙、潜在能力が開花！武藤親方も太鼓判！

第64代横綱が、華々しく後楽園デビューを果たした。8月21日、全日本プロレス後楽園大会の第4試合に参戦した曙は、諏訪間幸平とタッグを組んで嵐&雷陣明組と激突。必殺技"64"で雷陣を沈め、開幕戦を白星で飾った。この日の活躍はこれだけでは終わらなかった。セミファイナル、武藤敬司と対決したブードゥー・マーダーズ（VM）のTARUは、セコンドを介入させて大暴れ。レフェリーに毒霧を噴いて反則決着後も、武藤をロープに縛り付けてさらに痛めつける。これを見た曙は、巨体を揺らして救助へと駆けつけ、VM勢をなぎ倒してみせた。

形勢逆転を狙ったTARUが毒霧を噴きかけると、なんと曙の顔にはゴーグル！グレート・ムタ戦で学んだ"教訓"を生かした曙がチョークスラムでTARUをマットに叩きつけると、武藤がトドメのシャイニング・ウィザード。完璧な連携を見せた2人は揃って"LOVEポーズ"をキメ、大歓声の中リングを降りた。

その後、曙はフェリーに乗って北海道巡業へ。「札幌で負けたら"マケボノ"に改名しろ」と迫るVMに「うるさいんじゃい！」と言い返すなど、口でもひけを取らず。最終戦の9月1日札幌大会ではもVMを撃破して武藤親方からは三冠挑戦も「射程圏内」と太鼓判を押した。

8/17
全日本女子プロレス社長 松永国松氏が自殺

全日本女子プロレス社長・松永国松氏が、17日に都内のビル7階から飛び降り自殺していたことが18日、明らかとなった。動機は不明だが、遺書が残されていたことなどからほぼ自殺と断定されている。遺族の意志により、遺書は公開されない。享年63歳。

国松氏は1941年、松永家の四男として東京都目黒区に生まれる。68年に次男・健司氏、三男・高司氏、五男・俊国氏とともに全日本女子プロレスを旗揚げした。ジミー加山の名でメインレフェリーも務め、マッチメイク、ロードマネージャーとして手腕を振るい、ビューティーペア、クラッシュギャルズなど全女隆盛の一翼を担った。その後、経営状態が悪化し35億もの借金を抱え全女が倒産。今年4月17日、全女が後楽園ホールでラストマッチを行い、社長だった国松氏は健司氏とともにファンに土下座。「こんな終わり方で申し訳ない」と涙ながらに語ったのが公の場では最後の姿になった。

編集部一同、謹んでご冥福をお祈り致します。

9/7 東京・リキプロ道場
リキプロ長州&石井が打撃対策！ニコラス・ペタスと公開練習

9月7日、リキプロ道場にて10月6日のリキプロ後楽園大会で村上和成とメインで激突する石井智宏がニコラス・ペタスと公開練習を行った。

コーナーで長州力が見守る中、石井は仮想・村上に扮したペタスのハイキックの対処の仕方などを伝授された。

公開練習後、長州、石井、ペタスの3人で会見を開いた。会見冒頭で長州がペタスと協力体制にいたった経緯を次のように説明した。「ある人を通じてペタスさんを紹介されました。村上や柴田といった選手とやってると、打撃に対する対処の仕方とかどうしても手こずっている。正直、我々ではそういった部分で指導するには無理なところもあるなと思ってたところに、タイミングよくペタスさんが協力してくれることになりました。すぐには成果は出ないと思いますけど、我々の打撃の未熟さをカバーしてもらえればと思ってます」と満面の笑みを浮かべながら語った。指導を受けた石井も「いままでは、来るなら来いという感じで熱くなって意地で受けていた部分もあったけど、これからは技術を身に付けて冷静に対処して勝利に一歩でも近づけたい」と語った。

今月の名言を総ざらい!!

爆言大将

1 清原なら、少子化問題対策委員長がいい。百人くらい女を作って、片っ端からどんどん産ませる。オレも頑張りたいぐらいだ！（アントニオ猪木）

週刊文春9月15日号より。去就が注目される清原に対してアントニオ猪木がエール。同記事ではK−1谷川プロデューサーが大みそかの目玉として格闘技転向を提案しているのだが、なぜか猪木は「政界に打って出るのもいい」とアドバイス。そして上記のお言葉。最近さらに凄くなってきたようだ

2 私がプロレスラーであることにいまだに中傷がある。ここで正式に引退を表明します（馳浩）

8月31日、地元・石川県で行われた衆議院選挙の出陣式で馳先生がいきなりプロレス引退を宣言。馳候補は9月11日の選挙で石川1区で当選を果たした

3 ファンが喜べば何をやってもいいと思うところもありますね（長州力）

ハッスル翌日、ビッグマウス・ラウドの試合後に長州とは思えない一言。「ハッスルとかに出るようになって、ここ何年かプロレスっていうのは、そんなに気張んなくてもいいんじゃないかって」「「嘘だろ!?」「絶対あり得ない」ってことをやっていきたい」何をやるんだ!? まさかパラパラ…!?

4 ヘブンだ（美濃輪育久）

PRIDE武士道に出場する美濃輪が9月上旬に富士山トレーニングを敢行した。自然と一体化するため、あらゆる場所でのトレーニングを積んできた美濃輪が次に選んだのは富士山頂。火口付近でランニング、スクワットなどを敢行して一[illegible]

5 サップは黒豆（チェ・ホンマン）

9月5日、都内のK−1ジムで行われた公開練習で身長218センチの"テクノゴリアテ"チェ・ホンマンが、9月23日のK−1GP開幕戦で激突する身長200センチのサップをかわいい子供扱いした。言葉のチョイスもなかなかのセンスを感じさせてくれる。

果たして、船木の出場はあるのか!?

WRESTLE-1 GP2005〜2回戦〜

【日時】10月2日（日）16:00〜

【会場】代々木競技場第一体育館

【W-1GP2回戦進出選手】

グレート・ムタ／天龍源一郎／秋山準／佐々木健介／ボブ・サップ／諏訪間幸平／主催者推薦枠2名

※出場予定選手

曙、村上和成、柴田勝頼、他

【チケット】

SRS席 ¥20,000／RS席 ¥15,000／S席 ¥10,000／A席 ¥6,000／B席 ¥4,000

【問い合わせ】

WRESTLE-1製作委員会

TEL.03-3234-0969（LEGLOCK）

卓球少女似 松下ミワのハガキ愛ランド

松澤チョロ命名

うー、ショック!! その凶報は突然告げられた……。「91号で、ハガキ愛ランド、終わりだから、ちゃんとそのこと載せといて」とあっさり現場監督・堀江ガンツさんに言いくだされた松下ミワ。何でだ!! 何でだ!! 何でか!? 何でなのかぜんぜんわからん!!（怒）。そんなの始まって終わりじゃないかー!!。すると堀江さん、「いや、紙プロ』リニューアルするからさ」と一言。あ、そっか。納得。というわけで、あれよあれよと『ハガキ愛ランド』終了することになってしまいました!! 読者のみなさま、不束な読者ページに本当にたくさんのハガキを送ってくださってありがとうございました!!

90号へのお便り紹介

喫茶店トークが載ってなくて寂しかった。あの〝言うちゃわるいけどもやね〟にはじまるI編集長節をまた炸裂させてほしい。あれは一体いつ再開されるんだ? あれがないと、もう生きていけない! 中毒なんだ!! 何とかしてくれ!!
（佐賀県・メルヘンフラワーさん・45歳・寿司職人）

↓油断するな! I編集長はもうすでに復活だー!! 復活の第一声は8月29日『紙プロHand』の喫茶店トーク!! 先日のミルコvsヒョードル戦をはじめ8・28『PRIDE GP』について熱く語っている!! 題目は「復活!! I編集長 ヒョードルにたまされたー!」だ!! 一体何が起こってるんだ!?

草間のインタビューで「ハゲと言ったら許さんぞ!!」と書いてあったけど、それを見たらますますハゲと言いたくなりました。この熱い気持ちをどうすればいいのか、教えてください。
（沖縄県・夏休みの宿題さん・12歳・小学生）

↓他の人に言おう!! 解決策はそれしかない!! ちなみに、草間政一さんインタビューの隣のページに「髪一源」の広告があるのは、決して故意ではないので、誤解なきよう願います

〝新生〟W-1座談会を読んで、曙の試合をぜひ生で見たくなった。テレビで放送されなくても試合の雰囲気が伝わってきた。
（大阪府・阪本昌嗣さん・22歳・専門学校生）

↓まだ曙を生で見てないなんて何をやっているんだ!!（怒）……はっ!! そう言えば私もまた生で見たことがないんだった（ガックシ）……いや、待て! 見たぞ!! そういえば昔、九州場所で見た!! ホッ。（よいこは『全日本』&『W-1』などで見よう!）

橋本かずみさんインタビューが面白かった。「シャンプーは健介と同じでも、使っている量が違うんやー」という破壊王のアピールが凄まじい!!
（兵庫県・春名毅行さん・38歳・会社員）

↓破壊王語録は健在だ!! ちなみに、その破壊王の暴れっぷりが存分に楽しめる『紙の破壊王』なる本が近日発売!! こはもう、永久保存版。

「神様の〝神〟に子供の〝子〟と書いて、〝神子〟と申します」と自己紹介をすると、「神子? KIDと同じじゃん」と言われる回数激増中!! 『K-1 MAX』『HERO'S』の浸透ぶりを痛いほど実感する今日このごろです。
（東京都・神子佳世さん・22歳・会社員）

↓お久しぶりです神子さん。新読者ページもヨロシクお願いします。しかし、地上波の影響はスゴい!! 『PRIDE』放送中にも、「いま、みることひょーどるっていう人が試合しよっちゃないとね!?」「ええ!?」とミワ母からメールを受信。母さん! 格闘技きらいって言ってたじゃない!! なのに、どうしたのよ!……はっ!! やっぱり地上波ってスゴいのか。

インリン・オブ・ジョイトイのインタビューが面白かった。インリン様に憧れてるというだけある。あと、インリン様の分析・解説はすごくわかりやすかった。
（東京都・川村剛さん）

↓このページはインリン様大好きっ子の〝マシモンスター〟こと真下さんが、熱を入れまくりまくってつくったページ。ちょうど隣にいるので、真下さん一言コメントを!! 真下さん:「お前ら!! 俺の熱を読め!!（怒）」。インリン様バンザイ!

2003年11月からミルコvsヒョードルの一戦を楽しみにしてました。それから対決があるのではないかと思われる試合はすべて観に行きましたが、すべて空振り……。しかし、今度こそは実現濃厚!! ついに完全決着だ!! ミルコ頑張れ!! でも勝つのはヒョードルか!?
（神奈川県・大内和彦さん・31歳・会社員）

↓「第11話までちゃんと見たのに、最終回を見逃した!!」というのは人生でよくあることだが、大内さんは無事にミルコvsヒョードルの決戦を会場で見ることができたのか!? ちなみに、当日の会場はかつてない緊張感と盛り上がり!! こうなったら観る側も体力勝負だ!! 3、2、1、海辺ダッシュ!!

ビッグマウス・ラウドのページの柴田さん、カッコいい～! もう、Vシネみたい!!
（山形県・高橋香織さん・30歳・アルバイト）

↓そうだったっけ? と、改めて前号のビッグマウス・ラウド（BML）のページを開いてみると……、確かに!!（驚）。これはもう、ぜひBMLに掛け合ってVシネデビューを懇願しよう!!

今回は初めてマジメに書きます。面白かった記事、インリン様と迷ったのですが、あえて女子バーネットにしました。しなしさとこvs岡本範子という女同士の熾烈な闘いは、まさにプロレス!! 試合より面白いぞ!!
（埼玉県・菓子折りさん・42歳・漫画家見習い）

↓決戦当日、しなしチケットを買ったファンには、読者プレページにも掲載されている「メイド姿のしなしポストカート」が配られた模様。相手の土俵でも勝負する、その潔さはさすが!!

はじめまして、上杉です

誌面初登場ではないんですけど、こうして顔がちゃんと載るのははじめてなので、自己紹介します。えっと、2月に入社した新人の上杉です。僕の特技は何を隠そう、英語とスペイン語。今号のタンク・アボットのインタビューは僕が通訳したんだよ。それと、ちょっとした変身グセがあるんだけど、それはまだヒミツ! 右の写真は僕が居眠りしてるときに盗撮されちゃった写真なんだけど、こんなのでよかったら僕の顔、覚えてね♥

撮影／松澤チョロ

90号・面白かった記事ランキング

順位	記事
1位	橋本かずみインタビュー
2位	ミルコ・クロコップ関連記事
3位	インリン様関連記事
4位	須藤元気インタビュー
5位	検証・曙

2号に渡って破壊王パワー炸裂だー!! かずみ元夫人が破壊王の子供っぷりを存分に語ったインタビューが爆発的に読者のハートをゲッツ!! さらに、8・28『PRIDE』ヒョードルとの運命の一戦を迎える前のミルコインタビューが2位を獲得!! 気になるミルコの行く末は……、ミルコ特集ページの今井さんコメントを熟読だ! そしてそして、インリン様関連記事は男性の圧倒的な支持を受け3位にランクイン!! ゲンキンすぎるぞ、男性陣! でも、私もインリン様好きだー!! だって、かわいいもん

はみだしお便りコーナー

なんと ハレンチ モンスター軍の使者・オブ・ジョイトイの山田さんからこんなイラストが届きました!! 山田さんによると、前号のインリン・オブ・ジョイトイさんのインタビューをお読みになったインリン様は、超ご満悦だったご様子 インリン様、ヒマでモテないハレンチファンを、これからも素敵に洗脳してください!! しりしりしり、ヒターン!! くわっ!!

（埼玉県・稲葉聡さん）
ユア ショーック!! と歌い出さんばかりのこの世界観を見よ!! とくに、破壊王と武藤の顔には、なんだか感動ストーリーをうかがわせるオーラまで出ている!!

（福岡県・江本洋・43歳）
I編集長の語り口調で なんたい、これは? 言うちゃ悪いけどもやね、ヒョードルじゃないよ、こりゃ どっちかというと、小学校の時に同じクラスだった山本くんだ!!

（埼玉県・小川徹）
前号で6枚のハガキを送ってくれた小川さん「次号は7枚くれ!!」と無理難題をふっかけたところ 本当に7枚送ってくれた!! 健介じゃなくていいですよ、一番は 一番はもう小川徹!

（北海道・アカツキさん）
整骨されたてホヤホヤのタンク・アボット独占インタビューが今号絶賛掲載中!! その暴れっぷりを見たいヤツは105ページへ急げ!!

（神奈川県・蛋ちゃんさん）
"プロレス界の救世主"という衝撃的な名言まで誕生させ、マット界に大ブームを巻き起こしつつあるファイター・曙 もう、問題なんてあるわけがない!!

（埼玉県・中川画伯）
久々ひさびさに中川画伯が読者ページに投稿! ありがとうございます!! 画伯が描いてくれたのは、チョロさん&ささきさん&もみしさん、という電気部の諸先輩方が夢中の小林由佳選手 かわゆいかわゆい由佳ちゃんの顔は……、とわっ!! 梶原一騎先生ばりの空手バカっぷり!! でもやっぱり素敵だ! 後日、チョロさんから「俺は二人とは違う 俺は本気で夢中だ」と言われました。

ハードゲイ乱入

ハカキ、**フォー!!**　ちょっとちょっと、何ですか〜!?　あなた、のんきに卓球少女なんかやってる場合じゃないですよ〜。時代はいまやダブルクロスのハードゲイ、上杉HGを中心に回ってるんですよ〜!!　なのに、何ですか〜、あの前号の扱いは(←90号P119■ダブルクロス裏事情参照)。私のことを載せるなら、もっと堂々と写真入りで載せないとダメなんじゃないですか〜!?　確かに、もう親も友人もいない裏の世界でしか生きられませんけどね〜、はっはっは〜(涙)いやー、こうなったら今号はページジャックを決行するしかないですね〜。みなさーん、覚悟はいいですか〜!?　3、2、1、乱入、**フォー!!**

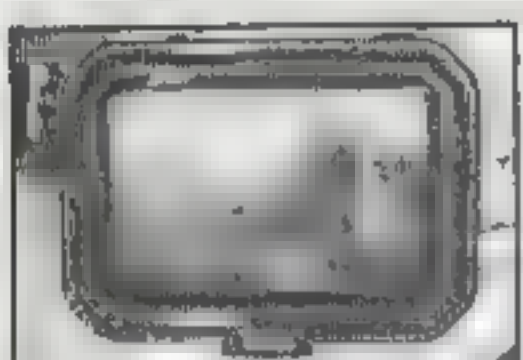
うぇ、上杉HGだ!!　ちょっと前号に載せてやったからって、人のページにズカズカと入ってきやがって!!　でも、今回はそのハードゲイ・フル装備&フル稼働の勢いに負けた!!　というわけで、ドカンと2/3ページを割いて、上杉HGの一日をご紹介。"夢の共演"なる感動ストーリーをガツンとお披露目だ!!

12:00

「あ〜、あ〜、あ〜、またチームジャパンが熊野と決裂!?　お前らピースが足りねえんだよ、ピースがよ〜」と東スポを読みながら得意の英語でチャチャを入れる上杉HG。新聞を読むときもグラサンを外さないのは、ハードゲイのポリシー

17:56

「ダブルクロスですぅー!」と明るく電話応対。これまで5回転職するなど、わりと世間慣れしている上杉HGは、電話と言えども笑顔が大切であることを知っている

「A4、フォー!!」とさくさくコピーを取る上杉HG。「ノブさん、これって何の書類なんですか〜?」と積極的に聞いたHGだったが、「は?　読めばわかるじゃん」とつれない返事。「冷徹、フォー!!」

「リングス」エカテリンブルグ大会で堀江ガンツさんがGETしたお土産。ルノアールやモネなど印象派の画家を思わせる美しい画風だが、どこか共産国の香りが……。編集部員、誰もがこの絵の存在に疑問を抱いているのだが、誰も何も言い出さないためテレビの横が定位置になっている

裏には幻の「RINGS」の文字か!

18:30

青山通りで信号待ちする上杉HG。「ノブさん、タクシー乗ってもいいですか?」「歩いていけよ(怒)」「歩き、フォー!!」

自信満々に缶コーヒーを差し出す上杉HG。しかし「480円になります」とレジの女性はいたって普通。ちょっと寂しかったのか、自分のコーヒーであるにも関わらず、上杉HGは「領収書ください(笑)」とささやかに反撃

19:50

ちょっと緊張した面持ちの上杉HG。何を隠そう、今日はDSEである大物を取材する予定だったのだ。「誰の取材かって?　それはまだ言えませ〜ん」

DSEのデスクに潜入しつつも、まったく相手にしてもらえない上杉HG。だんだん居づらくなって、目線も遠く…。「あ〜、俺らって一体何やってんだろうなぁ」と本音をポロリ

20:10

取材のお相手がついに登場!!　その人物とは、なんと本物のハードゲイ・レーザーラモンHGだったのだ!!　初対面である二人は社会人の基本である名刺交換から関係をスタート。「見かけによらず、丁寧な方♥」と早くも恋心!?

レーザーラモンHGのフォト撮影に立ち会う上杉HG。自分とは違い、華やかな世界を生きるレーザーラモンHGに羨望のまなざしを送る。「俺だって、俺だっていつか……!」

21:05

上杉HGの思いが通じたのか、早くもフォトセッションに加われることに!!　身のこなしが人一倍不自然な上杉HG。本家本元レーザーラモンHGにゲイポーズを手取り足取り尻取り教えてもらえるというビッグチャンスまで到来!!　この尻は一生洗えません!!　上杉、フォー!!

おハガキ募集フォー!!

"ハガキ愛ランド"は終わっても、みなさまからのお便りは、引き続きどんどん募集します!　ご意見、ご感想、苦情(怒)、抗議(怒)、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもOKです!　お便り、お待ちしています!

※先月号に引き続き+α、いろいろ募集!!

- ザ・目撃!!
- おもしろ写真投稿(NEW!!)
- 選手に対するご意見、試合の感想
- その他、読者ページでやってほしい企画

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは

radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6　パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
「HGは斜め前の席」係まで。
携帯サイト「紙のプロレスHand」からの投稿もできます

スクープ!　ザ・目撃!!

●8月28日の「PRIDE GP 2005 決勝戦」の会場で、瀧本選手と村田選手が一緒に歩いている姿を発見した。うれしくなった俺は、ついつい「あっ、チワッす!」と元気よくあいさつした。だが、当然俺のことを知らない二人は微妙な反応だった。それでも「あ、どうも」と返事してくれた!　俺は二人のことが大好きになった!!!!
【埼玉県・入墨番長さん・25歳】

➲ステキなエピソードをありがとうございます!!　きっと瀧本選手も村田選手も、初対面にも関わらず、非常に元気よくあいさつした入墨番長さんに圧倒されたに違いない!

●羽田空港でタイガー戸口(キム・ドク)が歩いてたのを発見。同日に高校野球をガン見するギバちゃんも発見したが、タイガー戸口に心の軍配があがった。【フグリー長谷川さん】

➲すみません!!　PRIDEからマット界入門を果たした私はタイガー戸口選手のことをいまいち知らなかったので、ちょっと検索
タイガー戸口:在日韓国人の父を持ち、大学でバスケットと柔道を経験。67年に日本プロレスに入門し、68年8月に柴田勝久戦でデビュー。72年のアメリカに遠征し、キム・ドクに改名。帰国後、大木とタッグを組んで、ジャイアント馬場&ジャンボ鶴田組を破り、インタータッグ王座を獲得。79年7月には全日本プロレスに入団し、タイガー戸口に改名する。81年8月には新日本プロレスに登場。82年のタッグリーグ戦ではキラー・カーンと組んで準優勝を遂げる。その後は活動拠点をオレゴン州ポートランドに移し、リング名を再びキム・ドクに。さらに、映画「レッドブル」にも出演するなど

俺だ(怒)!!

●先日、後楽園に行く途中、電車の中で松澤チョロさんを見かけました!　チョロさんは車内に貼ってある下着メーカー「PJ(ピーチジョン)」(スマックガール等で活躍する渡辺久江選手が広告塔として年間契約しているという情報アリ)の広告を見ると、なぜかケータイを取り出して写真をパシャリ。その後もニタニタしながらケータイをいじっていましたが、あれは何のために撮った写真だったのでしょうか?　すごく疑問です。チョロさん、教えてください!【東京都・匿名希望】

➲よく覚えてないけど、たぶん「PJ」と「BJ」を間違えて「BJペンも有名になったなぁ」と感心して撮ったか、「PJ」って「ポイズン澤田JULIEの略?ちょっと略しすぎ」と思って撮ったかのどっちか。深い意味はなし(チョロ)

●T-1GP後楽園大会で斉藤清六さんを見かけました。その数週間前は全日代々木大会、さらにその前はIWA後楽園でも発見。ほぼ月1ペースで目撃してます。一番インタビューをしたい芸能人なんですが、本人は「ファンとして楽しみたいから」との理由で取材はNGだそうです。ガックリ。【東京都・松澤チョロさん】

➲凄まじい目撃件数です。編集部内では、斉藤清六さん目撃コーナーを作った方がいいのではないかという熱い意見まで浮上中

●代々木駅前のカツ丼屋で谷津嘉章さんを目撃しました。青のつなぎというか作業着姿で長髪&ヒゲの大男は非常に目立ちましたが、一目で谷津さんとわかりました。でも、声はかけませんでした。また「紙プロ」に登場してもらいたいです。【東京都・堀江ガンツさん】

➲ここに掲載できなかった分を含め、代々木周辺は目撃率が高いようなので、ファイターのみなさん、ご注意を!!

●ハッスルハウスの会場にかなり遅れて到着したのですが、途中、馬券売り場で安田忠夫を発見してしまいました。安田は柱に寄っかかって座っており、レース票を真剣に見つめていました。借金&博打ネタはあまり本気にしていなかったのですが、今日の安田の様子を見て本当かもしれないと思うようになりました。
【東京都・ハッスル大魔神・25歳】

➲安田選手はハッスルハウスに出場していたにも関わらず、試合直後にもう競馬!!　さすがです!!

今月の衝撃写真!!

8・10都内ホテルで会社設立会見を行ったばかりのビッグマウス・ラウド、略して「BML」が、早くも専用駐車場を所持していた!!　さらに驚いたのが、これがBML番・松澤チョロさんの自宅前で発見されたという事実(運命)!　毎朝「おはよう」を言い合える距離だ!!

(石川県・シーザー孝志)
アリスター、惜しかった〜(8・28「PRIDE GP」ショーグン戦で敗退)!!　でも、そんなアリスターとは対照的に、ハガキを送ってくれたシーザー孝志さんは、いま幸せ絶頂期!!　なぜなら、最近入籍したそうなんだ　おめでとー!!

読者ページに引き続き、松下ミワが新コーナーを担当！「笑っていいとも！」のテレフォンショッキング、「はなまるマーケット」のはなまるカフェ、「徹子の部屋」の徹子…… あ、それは「徹子の部屋」でいいですね。とにかく、そんなページに値するのがこの『実況！紙の場外アナウンス』。ファイターのプライベートに破壊的に興味を持つ松下ミワが、直撃インタビューを決行します！選手の方々、来月いきなり目の前に現れるかもしれませんので、ぜひ心の準備を！　うぉぉぉ〜、燃えてきた!!　（ちなみに、リニューアルにともない本ページも今回で終了させていただきます。by編集部）

ー今日は、新コーナー一発目ということで、アローナ選手、よろしくお願いします！

アローナ　ああ、ヨロシク。

ーではいきなりなんですけど、アローナ選手って〝祭〟とかってお好きですか？

アローナ　……祭？　ああ、キライじゃないけど。なんだ、いきなり!?

ーそれでは、わりとこう「わー!!」っと大はしゃぎしちゃうタイプなんですか？

アローナ　ま、まあ、祭当日になるとそうなるけど（苦笑）。何でそんなこと聞くんだ!?

ーいや、このコーナーはファイターのリング外の顔に迫るというコーナーなので、ちょっとアローナ選手のイメージから遠いところから聞いてみようかなと思いまして。

アローナ　そうか。そういうことなら何でも答えてやる。祭はなあ、オレは好きだぜ。それにパーティみたいに大はしゃぎするのもいいな。でも最近はそんなことに費やす時間はまったくないけどな。まあ、子供の頃なんかの方がはしゃいだり、パーティとかはよくやってたけど。

ーへぇ〜、意外な感じですねぇ。そのアローナ選手の子供の頃ってどんな感じだったんですか？

アローナ　小さい頃はもうとにかくどうしようもないぐらいエネルギッシュだった。オレには2人の姉といとこが何人かいるんだけど、彼らとやることといったらとにかくファイト！　でもオレよりみんな年上だったし体か大きかったから、オレは負かされることが多かったんだけどな。

ーじゃあ、もうその頃からすでにファイト生活を送ってたんですね（笑）。では格闘技の実績で言うと何年ぐらいになるんですか？

アローナ　ストリートファイトを入れると、まあ20年近くは闘っているだろうな。

ー20年ですか！　アローナ選手はいまもかなり悪キャラが浸透してますけど、実際には昔から相当ワルだったんですか？

アローナ　いや、そんなことはない（ニヤリ）。

ーそれは結構すごかったっぽいリアクションですよね（笑）。そんなアローナ少年はどんな場所で生まれ育ったんでしょう？

アローナ　ニテロイっていうリオデジャネイロの近くの街なんだけど、すぐ近くに海があって、ちょっとはずれに山がある、自然に囲まれたいい場所なんだ。

ーへぇ〜。日本だとそういう場所では、小さな男の子は虫取りとか魚釣りとかに興味を抱くものなんですけど、アローナ選手は子供の頃にそういった遊びの方は？

アローナ　オレは興味なかったな（キッパリ）。とにかくファイトのことしか頭になかった。本物のファイトもそうだけど、他のスポーツ、例えばフットボールやバスケット、サーフィン、山登りなんかをするときも常に周りとの競争だった。

ーはー、本当に闘い好きなんですねぇ。ちなみにアローナ選手、お勉強の方の競争はどうだったんでしょうか？

アローナ　ああ、もちろん勉強でもかなり競争してたぜ。〝してた〟と言うか、〝させられた〟と言った方が近いけどね。その辺はママがすごく厳しかったからな（苦笑）。だから大学にもちゃんと行ったし、そこで法律まで勉強したんだぜ。

ーえっ!?　アローナ選手は大卒で、しかも法学部なんですか!?　悪いフリしてすんごい頭いいんじゃないですか！

アローナ　いや、卒業はしてないんだけどさ。だって、もうその時は『アブダビコンバット』にも出てたし、日本でやってたリングスにも出てたからな。国内にいることがどんどん少なくなっていって、テストも受けられなくなったんだ。それで結局辞めてしまったんだよな。

ー『アブダビ』とかリングスに出てた頃って、しつはまだ大学生だったんですか（笑）。ってことは、大学時代に寝技世界一!?

アローナ　ハッハッハ！　そういうことになるね！

ー柔術を本格的に習いはじめたきっかけって何だったんですか？

アローナ　確か、13歳の時だったんだけど、あるボクサーと柔術ファイターの試合をテレビで見たのがはじまりなんだよ。ボクサーの方はガタイがいい選手で、柔術ファイターはすごく小さくて。体たけ見ると断然ボクサーの方が強そうだったんだけど、でも死闘の末に、最後に柔術ファイターが一本極めたんだ！　もう、子供ながらに「どうやったらこんなに大きい人を極めることができるんだー！」って興奮してしまってさ。

ーその柔術ファイターって誰なんですか？

アローナ　それが思い出せないんだよ（困惑）。

ーあ、覚えてないんですか（笑）。でも、小さい人が大きな人をやっつけたところに感銘を受けたということは、やっぱりアローナ選手自身も自分より大きないとこの兄ちゃんや姉ちゃんたちをやっつけたかったという気持ちがあったんじゃないですか？

アローナ　アハハハハ！　それはそうかもな（笑）。逆に、やられないようにするためにっていうのもあったんだけどね。もっと本当のことを言えば、自分は同級生と比べても体が小さかったから、同じクラスのヤツらにイジメられないようにするために柔術をはじめたんだ。

ーちなみに、アローナ選手にとって当時の憧れの選手って誰だったんですか？

アローナ　まずアマウリ・ビテッチ、ヴァリッジ・イズマイウ、ムリーロ・ブスタマンチ、それとヒクソン・グレイシーだな。当時はその4人が柔術界ではヒーローだったんだよ。その中でもアマウリ・ビテッチとムリーロはすごく尊敬してた。ヒクソンも強かったんだけど、その頃はもうアメリカに渡っていたからな。

ーじゃあ、いまは憧れのファイターがセコンドにいるっていう、当時からは信じられない状況なわけですね。それじゃあ黒帯をもらったのは？

アローナ 20歳の時だ。20歳で3つのトーナメントを制覇したんだ。えーと、ワールドトーナメント、ステイトトーナメント、ブラジルトーナメントという大会だったんだけど。その後にさらに『アブダビコンバット（00）』で優勝して、それでやっと黒帯になったんだよ。

―すごい！ そんだけ優勝すれば当然黒帯もらえますよ。逆に言うと、茶帯でアブダビの王者になったことの方がすごいんじゃないですか？（笑）。

アローナ そう言えばそうかも（笑）。

そんなアローナ選手のプライベートってちょっと想像しにくいんですけど、オフの日っていつもどんなことをして過ごしてるんですか？

アローナ オフの日は彼女と一緒にビーチに行ったり、テレビを見たり。それに、オレは犬が大好きだから犬と遊んだりもする。休日はたいたいそんなもんかな。とにかく〝ピース〟というのがオレのオフの日の大きなテーマなんだ。

いま、〝彼女〟という言葉がチラッと耳に入ったんですけど、アローナ選手はもしかして彼女と一緒に暮らしてたりするんですか？

アローナ いや、いまは一人暮らしだよ。

あ、でも一人暮らしだったら逆にご飯とか洗濯とかって大変じゃないですか？

アローナ それは心配ないよ。家事は全部メイドにやってもらってるからね。

えっ!? アローナ選手は一人暮らしなのに家にメイドがいるんですか？

アローナ ああ。何かおかしいか？

―日本人はメイドを雇う人はすごいお金持ちだってイメージがあるんですけど……。

アローナ あ、そうなのか？ でもオレはメイドに月150ドルぐらいしか払ってないぜ。

それって日本円に換算すると、……だいたい1万5000円ぐらいってことですか!?

アローナ ビッグファミリーの場合でもせいぜい200ドルってところだよ。ブラジルではそれが当たり前なんだけどな。

―へぇ～！ ちなみにメイドと言えば、いま日本では〝メイドカフェ〟というのが流行ってるんですけど、アローナ選手はそういうのには興味があるタイプなんでしょうか？

アローナ メイドカフェ？ 何だそれは？

―いや、話せば結構長い話になるんですけど…… 。じゃあ、わかった！ 今度アローナ選手が来日されたときに一緒に行きましょう！

アローナ 何だかよくわからないけど、とりあえず楽しみにしているよ。

―本当ですか！ じゃあ私も楽しみにしてます！ ところでアローナ選手はいつ帰国するんですか？

アローナ 明日の予定だ。

―今回は「PRIDE GP」っていう大きな仕事を終えて帰られるわけですけど、帰ったらまず何をしたいですか？

アローナ そうだな。帰ったらいちばんに彼女と愛犬に会うよ。それに、たぶんママにも会いにいかないといけないはずだ。

〝いけないはず〟ってうのは、何か意味深な感じがするんですけど。

アローナ ママには無事にブラジルに帰ったこと と、試合のことを報告しないと殺されるからなー ママは本当にマッチョで恐いんだよ！ オヤジは痩せ形なんだけどな。

先ほどからアローナ選手の〝ママ発言〟が何度か出てきてるんですが、お母さんは格闘技か何かの経験者なんですか？

アローナ バリバリの空手ファイターだ。

それって、本格的に強いんじゃないですか！

アローナ だから冗談じゃなくて、本当に強いんだよ。だってミノタウロ（ノゲイラ兄）もビビってるぐらいだからね(笑)。だからもしオレの試合をママがそばで見てて、オレがKOされそうになったら、きっといちばんに飛んできて相手をブン殴ると思うな。そのくらいクレイジーなんだ。

じゃあ、つぎはぜひセコンドとしてお母さんを連れてきてくださいよ！

アローナ ハハハハ！ それはいいアイデアだ。ムリーロもマリオも圧倒されるかもしれないな。ちなみに、オレのママはヴァンダレイのことがすんごい嫌いなんだぜ。

―そうなんですか（笑）。

アローナ それに、ヴァンダレイのママもオレのことを嫌ってるらしいんだ。お互い会ったことはないんだけどね（笑）。

二人の因縁は親の代にまで広がっているというわけですね（笑）。

アローナ そういうことになるな。ハッハッハー！

お二人の関係は、先日の『PRIDE GP』で日本のファンにもかなり浸透してきたと思うんですけど、アローナ選手の方がすっかり悪役ですよね？ それは問題ないんですか？

アローナ 中途半端にいい顔するよりも、本物の悪役になる方がさっぱりしてていいじゃないか。

潔いですね！ じゃあ、逆にアローナ選手を悪だと思ってる日本のファンについてはどう思っているんですか？

アローナ そうだな。日本はファイターに対してすごくリスペクトがある国だ。ブラジルや他の国とは大違いだな。だからオレは日本が好きだたし、ずっと日本で試合をしたいと思ってる。

日本では、いまや格闘家ってサッカーのトップ選手と同じぐらいのステータスですからね。〝ノゲイラ〟とか〝アローナ〟とかは、もう〝ロナウド〟、〝ロナウジーニョ〟と同じですよ！ ちなみに、先輩に聞いたことがあるんですけど、ヴァリッジ・イズマイウは、「サッカーと言えばロナウド、バーリ・トゥードと言えばヴァリッジ・イズマイウ」っていう風に教えてくれたそうです。

アローナ アハハハハ！（爆笑）。イズマイウはすごいよ。頭いいよなぁ。

頭いいというか何と言うか（笑）。では、そろそろ時間も迫ってきたので、最後にどうしても聞きたかった質問をぶつけてインタビューを終わりにしたいと思います。

アローナ選手！ ズバリ、日本の女性は好きですか？

アローナ 何だ？ かしこまって。

アローナ 何を言うかと思ったらそんなことか。そうだなぁ。オレは日本人とか何とかじゃなくて、彼女以外の女なんかはっきり言ってどうでもいいんだ。

―そうなんですか!? そんなファイターははじめてですよ。確認ですけど彼女はお一人ですか？

アローナ もちろんだ！（怒）。

それは失礼しました！ ヘンゾ・グレイシーは若い頃彼女が7人いたという話を聞いたことがあったので。アローナ選手はそんなことはしない？

アローナ オレは他の女を見るのもイヤなんだ。彼女にも他の男なんか見てほしくないからな。

すばらしい！ それは世の男性陣にぜひ見習ってほしいですよ！

アローナ ただブラジルって国は女の方が人口が多いし、ヤツらはかなり積極的だからな。まったくオレには暮らしにくい国だ。

いまの一言でブラジルに興味を抱いた男性陣も多いと思うんですけど（笑）。でも、私は今日のインタビューでますますアローナ選手に興味を抱きました！ 次回、来日した際は本当にメイドカフェに行きましょう！

アローナ ああ、楽しみにしているよ。

―今日はありがとうございました。

【05年8月30日／都内某所にて収録】

満面の笑みでピースする松下ミワ。アローナの男前っぷり＆ママに弱い＆祭好きという意外な人物像に、ますます興味津々に。さらに、筋肉好きの私がアローナの美しき肉体に見とれてしまったことは言うまでもない

RADICAL CALENDAR

9 SEPTEMBER

17 SAT.
新日本■三重・県営サンアリーナ サブアリーナ（18:30）
全日本■熊本・天草町勤労者体育センター（18:00）
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（18:30）
大阪プロ■大阪・IMPホール（18:00）
D.O.G■東京・ディファ有明（17:00）

18 SUN.
全日本■熊本・熊本興南会館（17:00）
NOAH■東京・日本武道館（17:00）
みちプロ■秋田・秋田市拠点センター アルヴェ（15:00）
バトラーツ■埼玉・桂スタジオ（17:00）
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
DDT■石川・加賀市体育館（14:00）
アパッチプロレス軍■滋賀・県立文化産業交流会館（17:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
北都プロ■北海道・札幌市手稲神社境内特設リング（13:00）
NEO■東京・後楽園ホール（12:00）
JWP■東京・後楽園ホール（18:00）
全日本キック■東京・大森ゴールドジム
NKB■東京・ディファ有明（16:15）

19 MON.
新日本■大阪・なみはやドーム サブアリーナ（15:00）
全日本■福岡・田川市武道館（17:00）
ZERO1-MAX■東京・後楽園ホール（12:00）
みちプロ■岩手・住田町生涯スポーツセンター（15:00）
DRAGON GATE■北海道・倶知安町体育館（18:00）
DDT■富山・イベントプラザ富山（15:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
大阪プロ■兵庫・神戸サンボーホール（15:00）
北都プロ■北海道・上磯町格闘ネットワークアストラル（14:00）
IKUSA■東京・Zepp Tokyo（17:30）

20 TUE.
新日本■愛知・常滑市民アリーナ（18:30）
DRAGON GATE■北海道・旭川大成市民センター（18:30）

21 WED.
DRAGON GATE■北海道・釧路国際交流センター（18:30）
J-NETWORK■東京・後楽園ホール（18:00）

22 THU.
新日本■群馬・県総合スポーツセンター サブアリーナ（18:30）
全日本■岐阜・岐阜産業会館（18:00）
大日本■神奈川・川崎市体育館（19:00）

23 FRI.
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
ZERO1-MAX■埼玉・桂スタジオ（17:00）
バトラーツ■埼玉・東和大昌平高校校庭（13:00）
DDT■大阪・IMPホール（17:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00＆18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（17:00）
息吹■東京・新木場1st RING（12:30）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）
K-1 WORLD GP■大阪・大阪ドーム（16:00）

24 SAT.
新日本■埼玉・蓮田市総合市民体育館（17:00）
ZERO1-MAX■群馬・館林市民体育館（18:00）
みちプロ■岩手・一関市文化センター体育館（18:00）
DRAGON GATE■香川・善通寺市民体育館（18:30）
大日本■静岡・藤枝市蓮華寺池広場（18:00）
国際プロ■東京・新木場1st RING（17:00）
K-DOJO■愛知・名古屋西区ワンダーシティ（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NJKF■東京・後楽園ホール（17:00）

25 SUN.
新日本■新潟・新潟市体育館（16:00）
DRAGON GATE■三重・メッセウインクみえ（17:00）
バトラーツ■埼玉・越谷市役所駐車場特設リング（12:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
K-DOJO■大阪・デルフィンアリーナ（17:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第三競技場（17:30）
J2K■大阪・はびきのコロセアム（12:00）
JWP■東京・JWP道場（13:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（12:30）
PRIDE武士道■東京・有明コロシアム（15:00）
シュートボクシング■東京・後楽園ホール（18:00）

26 MON.
リアルジャパン■東京・後楽園ホール（18:30）

28 WED.
新日本■愛知・名古屋国際会議場イベントホール（18:30）

29 THU.
ZERO1-MAX■東京・新木場1st RING（19:30）

30 FRI.
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）

10 OCTOBER

1 SAT.
ZERO1-MAX■北海道・八雲町総合体育館（18:30）
DRAGON GATE■福井・福井市体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）

2 SUN.
WRESTLE-1 GP■東京・国立代々木第1体育館（16:00）
ZERO1-MAX■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
DRAGON GATE■岡山・岡山卸センターオレンジホール（16:00）
マッスル・ハウス■東京・後楽園ホール（12:00）
アパッチ■東京・後楽園ホール（17:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:30）
ターサン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ（14:00）
パンクラス■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
JWP■東京・東京キネマ倶楽部（13:00＆17:00）
新日本キック■東京・ディファ有明（16:00）

4 TUE.
ZERO1-MAX■秋田・大館市民体育館（18:30）
WWS■富山・高岡テクノドーム（18:30）

5 WED.
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）
DDT■東京・新木場1st Ring（19:30）

6 THU.
リキプロ■東京・後楽園ホール（18:30）

7 FRI.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
LLPW■東京・大田区体育館（18:30）
UFC 55■米国コネチカット州・モヒガン サン

8 SAT.
新日本■東京・東京ドーム（18:00）
NOAH■東京・後楽園ホール（18:00）
DRAGON GATE■富山・イベントプラザ富山（18:30）
DDT■東京・自由ヶ丘三井住友銀行駐車場特設会場（17:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
LLPW■福岡・大川市体育館（19:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）
OYAZI BATTLE■大阪・アゼリア大正ホール（17:00）

9 SUN.
ZERO1-MAX■東京・後楽園ホール（18:30）
NOAH■群馬・富岡魚菜市場特設リンク（17:00）
みちプロ■秋田・山内村民体育館（15:00）
DRAGON GATE■埼玉・本川越ぺぺホール・アトラス（16:00）
大日本■大阪・大阪城ホール西倉庫（15:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
LLPW■大分・蒲江B&G海洋センター（15:30）
J-NETWORK■東京・大森ゴールドジム

10 MON.
全日本■大阪・大阪府立体育会館 第2競技場（17:00）
NOAH■新潟・三条市厚生福祉会館（17:00）
みちプロ■山形・藤島町民体育館（15:00）
ZERO1-MAX■東京・後楽園ホール（12:30）
大日本■大阪・大阪城ホール西倉庫（15:00）
RING■東京・六本木ヴェルファーレ（19:30）
LLPW■大分・佐伯市民体育館（15:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:00）

11 TUE.
全日本■愛知・Zepp Nagoya（18:30）
DRAGON GATE■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:30）

12 WED.
NOAH■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
DDT■東京・新木場1st RING（19:30）
K-1 WORLD MAX■東京・代々木競技場第1体育館（17:30）

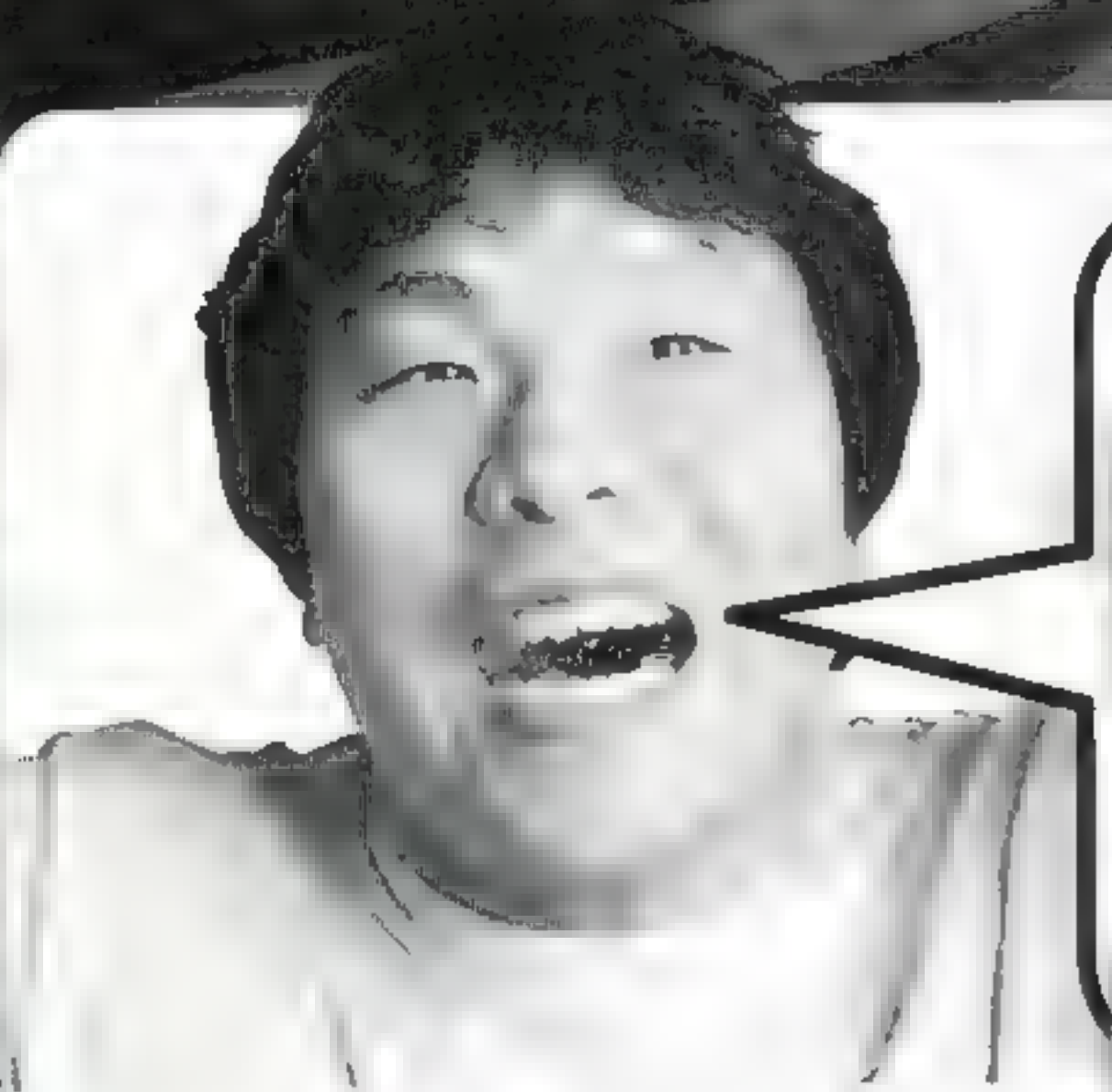
13 THU.
全日本■群馬・ウェルサンピア高崎（18:30）
アジアンエキスプレス■東京・新木場1st RING（19:00）

14 FRI.
全日本■茨城・ひたちなか市松戸体育館サブアリーナ
NOAH■千葉・千葉公園体育館（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（19:00）

15 SAT.
NOAH■東京・ディファ有明（18:00）
大日本■東京・六ツ木小学校横グランド（18:30）
東海プロ■愛知・名古屋市中区大須商店街特設リング（12:00）
格闘美■宮城・石巻市総合体育館（19:00）

16 SUN.
全日本■東京・晴海埠頭特設会場（14:00）
NOAH■京都・KBSホール（17:00）
みちプロ■栃木・国際医療福祉大学アスリーナ（16:00）
DRAGON GATE■兵庫・神戸サンボーホール（17:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00＆18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
東海プロ■愛知・名古屋市中区大須商店街特設リング（12:00）
JWP■東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
NEO■東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
AtoZ■東京・後楽園ホール（12:00）
全日本キック■東京・後楽園ホール

18 TUE.
NOAH■愛媛・アイテムえひめ（18:30）
桃のプロレス■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（19:00）

誌名ロゴに変更に伴い、コラムコーナーも次号からリニューアル決定!!

第6回 散々だったロシア遠征に咲いた一輪の花 日本人みんなが恋したエカテリーナちゃん

『紙プロ』読者のみなさん、こんにちは。金原です。もうご存知だと思いますけど、10月2日パンクラス横浜大会で、近藤有己選手と闘うことになりました。Uインターのころから出たいと思っていたパンクラスのリングで、しかもチャンピオンの近藤選手と闘えてすごく光栄に思ってます。全力を出して頑張るので、応援よろしくお願いします!

この試合が決まったことで、『紙プロ』からも「コラムで近藤選手のことを書いてくれ」って言われたんだけど、今の俺が試合前にチャンピオンに対してあれこれ言う権利もないと思うから、この話はこれぐらいにさせてください。とにかく頑張ります!

というわけで、今回はロシアに行って8・20リンクス・エカテリンブルグ大会に出場したことを書こうと思うんだけど、本音を言えば、このまま何も書かずになかったことにしたいくらいなんだよね(苦笑)。

今回、俺はユーリ・ベキチェフっていう極真空手出身の選手と闘ったんだけど、試合開始早々に関節技でエスケープ奪って、余裕かましてたら向こうが胴回し回転蹴りをやってきたんだよ。それを避けたら、頭をかするように当たって切れちゃってさ、それ見たレフェリーがアッサリ止めちゃったんだよね。こっちは全然ダメージないのに、レフェリーストップ負け! もう不運としか言いようがないよ~!

こんなことなら、エスケープさせないでリングの中央持って行って極めちゃえばよかったと思って。でも、もう後の祭りだし。やっぱり、ああいう試合は難しいよ。

だいたいロシアに行く前は「旧リングスルールの試合」だって話だったんで、ちゃんとレガースとかわざわざ用意して持って行ったのに、行ってみたら試合前日に「レガースはいらないから、グローブつけてくれ」って言われてさ。じゃあ、KOKルールかなと思ったら、中身は旧リングスルールのままなんだよ。仕方ないからOKしたんだけど、もうこういう試合って何年もやってないから難しいよ。KOKでやって負けたなら納得いくけど、ロシアまで来てこんな形で黒星がつくなんて、ホントにやりきれないよ~。

そして控室に帰ってからがまた大変でさ。ドクターに縫ってもらおうと思ったら、なんかマッサージのトレーナーだかドクターだかわかんないヤツしかいないのよ。それで「ドクターか?」って聞いたら「ドクターだ」って言うんで診てもらったら、ろくに消毒もしないまま縫い始めてさ。慌てて「ちゃんと消毒して、麻酔してくれ」って言ったら、「なんで麻酔なんて必要なんだ」って言うんだよね。結局してもらったけど、言わなくても麻酔ぐらいしてくれって!

この娘が本文中に出てくるエカテリーナちゃん。ちょうどシャッターを切るときに目をつぶりそうになってしまったが、本物はもっともっとかわいいのだ。

そのやり取りを見ていたTKが「頭だから、せめて髪の毛切ってから縫ってくれ」って言ってくれたんだけど、そしたら「お前が切れ」って言われて、結局なぜかTKが髪の毛切って消毒してくれたんだよ(笑)。その後、そのトレーナーみたいなドクターが5針縫ったんだけど、また縫い方がヘタクソでさ。もう参っちゃったよ。

それで縫った後って、日本だったら抗生物質とかくれるんだけど、「抗生物質くれ」って言ったら、「そんな薬は体を弱くするだけだ」とか言われてさ。もう価値観が違うのかヤブなのかわからないけど、「もう嫌だこんなところ!」「来るんじゃなかった!」って猛烈に後悔したよ(笑)。

ホントに「もう二度とロシアなんか来るもんか!」と思ったもんね。ハッキリ言ってロシアで良かったことって、女の子が奇麗だったことだけだよ!(笑)。

もちろん、リングスの建物とかは感動するくらい素晴らしかったけどさ、それよりも、あのリングス・エカテリンブルグの前にあるレストランにいたウエイトレス。あの娘の美しさに心を奪われたよね。エカテリーナっていう名前まで覚えちゃったよ(笑)。ロシアに行った日本人、みんながみんなあの娘に恋してたからね。前田さんなんか「あれは家に持ち帰って、人形にして飾りたいな」なんて危ないこと言い出す始末だから(笑)。

で、みんなで「かわいい、かわいい」って言ってたらさ、ロシア人の通訳が「ロシアではあれが普通です」とか言うから、なんて国なんだーって思ったよね(笑)。

そしたらZSTの上原が「リトアニアにはこういうタイプの子がもっといっぱいいますよ」とか俺を誘惑するんだよ。リトアニアの代表にも「11月に大きな大会があるからゼヒ来てくれ」って言われて、どうしようかなと思ってね。ホントはもう海外で試合するのはコリゴリだと思ってたんだけど、エカテリーナ級がたくさんいるなら、行ってもいいかな~と思ったり(笑)。それぐらいレストランの娘はかわいかったね。

ま、10・2近藤有己戦が決まったから、そんなことで浮かれてるヒマないけどね。ホントに今回は大事な試合だと思うんで、自分の力を出し切れるように頑張ります!

Kanehara Hiromitsu
本音炸裂コラム毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

バイバイといえば吉田豪さんにもらった相川七瀬の『BYE-BYE-BYE』はいい曲でした。

花くまゆうさく

リングの汁 ミゼット

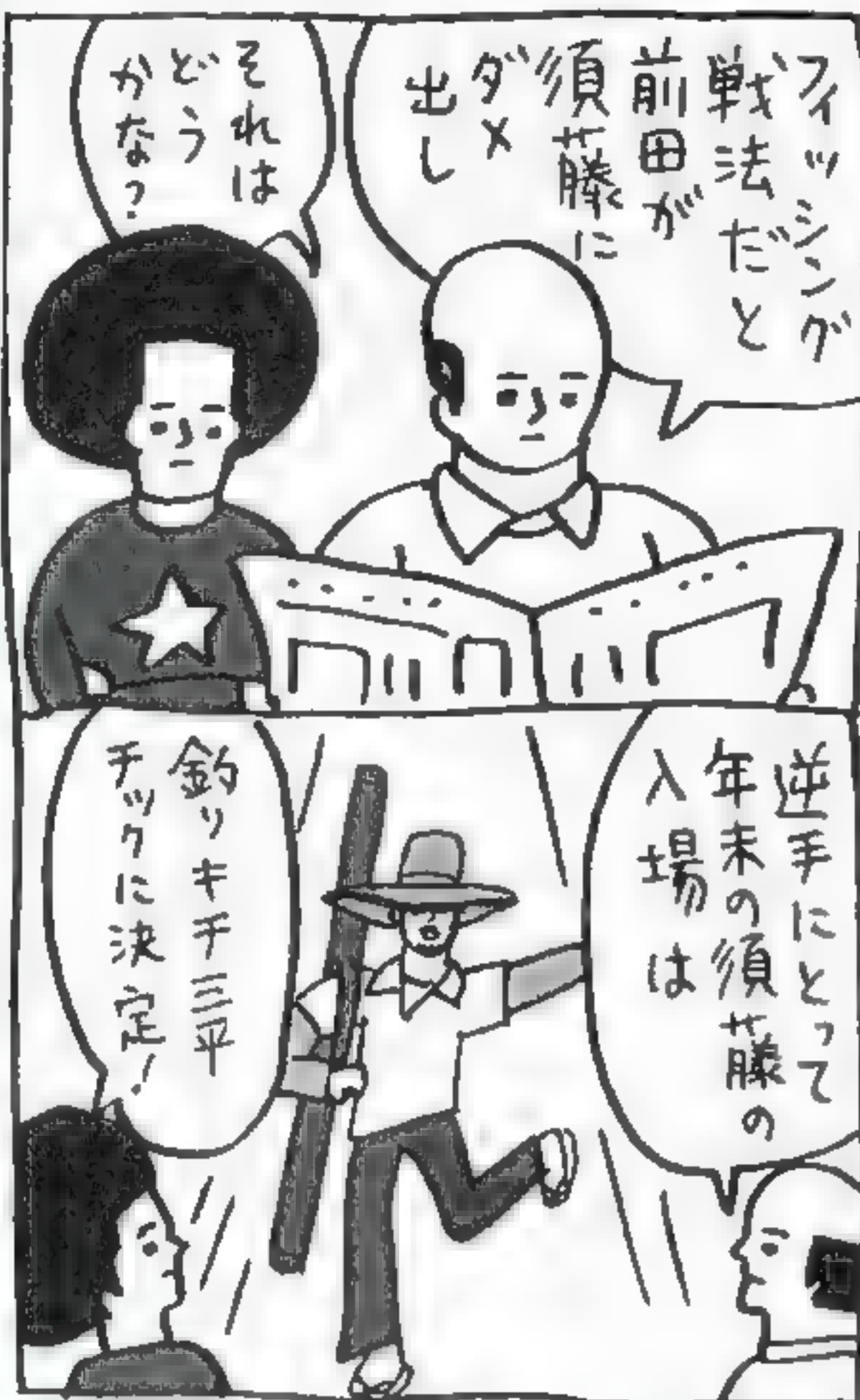
最終回

注目のヒョードルvsミルコの日、ロシアのハバロフスクでサンボしてた私は、いかにしてヒョードルvsミルコの結果を知らないキレイなカラダのまま帰国するかが裏テーマであった。前日までは、ハリトーノフTシャツ着てたけど、それがキッカケで「PRIDE」の話になって結果を言われたらたまらんので、お気に入りのハリTシャツはカバンにしまった。そういう小さな努力のおかげでなんとか、何も知らないキレイなカラダのまま、フジで放送する30日の夜にひっそりと帰国。無事にこの試合にたどり着きました。これでミルコが勝てばめでたしめでたしかなと思ったが、現実は甘くなかった。やっぱり強え～わ、ヒョードル。でもミルコは、柔術でグラウンドかなりがんばってたしね。ヒョードルは次、ジョシュとやってほしいな。そんで次がハリトーノフね。ハリvsジョシュも見たい。

今回の「HERO'S」は、須藤元気につきるね。「コロシアム」でのアンドレ・ペデネイラス戦や、「コンテンダーズ」での宇野薫戦で見せた実力者ぶりを地上波で発表！ 5分2ラウンドの短いなかで、キッチリ2試合とも一本取って凄いよ。特に高谷から取ったのは凄いわ敬服。階級違うし、年末もKIDから一本取っちゃうのかしら!?

階級上の非情な攻めにきた宇野相手に、所も凄えよくやったよね。年末出させてあげたいな。テレビ向けなのかしらんけど、重い階級のレベル低い大味な試合少なくしてもらってさ。

それにしても、せめて5年前にこういう舞台があればルミナが……ってつい思っちゃう。放送で宇野がこのクラスのパイオニアだって何度も言われちゃうと、それはそうなんだけど、なんかつらい。

「DEEP」フェザー級トーナメントは、十段に優勝してほしいな。適正体重でいいメンツそろってるしね。これに、所・ルミナ・植松・KID・小ノゲイラが加わったら最高なんだが、アブダビ王子でも石井館長でもない私は、ただ妄想するだけなのでした。

Hanakuma Yusaku

映画の公式サイトできました。
www.tokyo-zombie.com

骨法鳥合會
8/22 OPEN

中川画伯の絵日記

犬とTVの日々

http://chu-kichi.jp/

最終回

サヨナラ！ サヨナラ！ サヨウナラ！
地雷を踏んだらサヨウナラ！
地雷を踏んでないけどサヨウナラ！

担当のサイノさんにね、突然「ファイヤー！」って言われちゃったからね、今、シクシク泣きながら書いてます。嘘です。でも何か力不足で申し訳無かったです。正直スマン。

そんで最後だから何か違うこと書きたいなぁ…なんて勝手なことを思っちょるワケです、はい。

自分がいつも思ってるコトを書きます。イタチの最後っ屁です。好きなコトを書きます。嗅いでってヨ。

自分は犬が大好き！ だから毎日毎日、犬と遊んでばっかりなんよ。人間よりも犬と一緒にいる時間の方が長いです。

犬は最高です。アイム、犬馬鹿！犬だけ見てればいいんだ、エー！

犬と一緒にいると心が穏やかになります。みんな犬を飼えばいいのに！そしたら戦争とか無くなるのに！って思ったけど、某大統領（ノット、山口日昇）も犬飼ってるわ。…馬鹿はダメだわ。とにかく戦争反対!! ノーモア・ウォー!!

桜庭和志と辻結花が大好き。観るとワクワクして脳から何か（アドレナリン？ ドーパミン？ 何かそんな感じのモノ）がジョンジョンジョロ流れてきてワクワクしてポワ～ンってなるよ。絵を描きたくなるんよ。ほとんどビョーキ！？

桜庭選手がブラジルに行ってスゴく嬉しいんよ！ そうこなくっちゃ！ って感じ。ウキウキするよ。やっぱ桜庭和志は格好良いね。

辻選手は常に1本勝ちを狙ってて、常に進化してて、ほんとにスゴいよ。最高よ。是非一度、会場で観てよ。ハンパ無いから。ピカピカ光ってるから。とにかくステキだから。

SAKURABA KAZUSHI
TAKADA DOJO

メヒコの櫛田雄二郎選手、お元気ですか？見てますか？自分が好きなことに没頭出来るっちゅうのは、とっても幸せなことだと思います。悔いの残らないよう思いっきり満喫してください。ルチャドール・櫛田雄二郎に御会いする日を楽しみにしてます。アディ押忍！

突然お手紙コーナーでした。

何だかグダグダしちゃってゴメンナサイ。ブログ、毎日書いてるので良かったら見てください。http://chu-kichi.jp/chu/blog/です。携帯電話からも見られるんですって。便利ね～。でも、やっぱ恥ずかしいから見なくていいです。

それじゃ、バイバイ！ 中川"画伯"雅博でした。サヨナラ！ サヨナラ！ サヨウナラ～!!

『紙プロ』リニューアルにともない『ザ・検証』も残念ながら今回で、ひとまず最終回。最後のテーマはズバリ「紙のプロレス」だ。それでは、いってみよ〜！（即脱線）

【今月の検証　せき詩郎】紙のプロレス

ステージのライトに明りが灯されたとき、そこには和田アキ子がいた。スターの思わぬ登場に場内は沸きかえった。

だがそれはすぐにため息に変わった。和田アキ子ではなかったのだ。和田アキ子かと思われた人物は、彼女よりも小柄で、線の細い男だった。ため息にブーイングが混じり始めるのに時間はかからなかった。

一瞬にして頂点へ到達した期待を裏切られる形となったのだ。舞台の男に罵声が浴びせる者も現れた。席を立ち帰り支度を始める者も一人や二人ではなかった。

だが、和田アキ子と同じドレスを着て、まるでヘルメットのようなおかっぱ頭のカツラを被った男は動じることなくマイクを握り、観客席に向かって叫んだ。

「はひふへほー！」

完全に興味を失っていたはずの観客たちは一斉に舞台へと視線を送る。『は行』を力強く、かつ独特のリズムで言い放った男を注目した。あの男は和田アキ子のモノマネをするのではなかったのか？「はひふへほー！」とは何事だ、と誰もが同じ疑問を抱きながら、舞台の男の動向を見守り始めた。その「はひふへほー！」がモノマネの歴史を変えることになるとは、そこにいた誰もが思いもしなかっただろう……。

数秒後、音楽が流れ始める。和田アキ子のヒット曲『古い日記』だ。ダンサンブルな前奏に合わせ軽く振り付けをした後、男は歌いだした。

「あの頃は……はっ！」

観客席は騒然となる。本来の歌詞に「はっ！」という文字は無い。もちろん和田アキ子本人もそのようには歌っていない。完全なるオリジナルだ。つまり和田アキ子のモノマネ、イコール、コピーをしていないことになる。

だけれども、それは確かに和田アキ子のモノマネだった。まるで和田本人もいつも「はっ！」と歌っていたと錯覚してしまうほどに。観客たちは不思議な感覚にとらわれる。和田ではないのに和田そのもの。しかも既存の和田アキ子モノマネよりも面白いではないか。

気づくと観客たちはステージの男に合わせ「はっ！」と掛け声をかけていた。「あの頃は」で男がマイクを向けると、観客たちは「はっ！」と応えた。

「はひふへほー！」

さっきまで奇妙な言葉にしか思えなかったこの言葉も、いまや和田アキ子の声にしか聞こえない。とんでもないモノマネタレントが現れた！　会場のボルテージは上がる一方。

そしてこの日、男と観客の声はいつまでも途絶えることなく続いた……。

この男の名は吉村明宏。現代の和田アキ子のモノマネの基本を作った男である。吉村本人は現在モノマネの表舞台に立ってはいないが、その『は行』を誇張したスタイルは今なお布施辰徳等に受け継がれている。

このように、本当はそんなに興味の無い吉村明宏のことを書き、吉村のプロフィールに記されている『柔道（初段）』の文字から格闘技の話題へと繋げ、紙プロの話題でまとめようと思っていたのだが、締め切りまでの時間がそれを許してはくれないようだ。

そういうわけで、紙のプロレス最後の原稿は吉村明宏についてという信じられない結末で終わりです。さようなら。

【今月の検証　椎名基樹】紙のプロレス

連載の都合上、古い話で恐縮だが、G1の優勝蝶野はないよなあ。あそこで、情の世界を振り払って、バッドエンドで藤田が優勝して、藤田がエースと明確となれば新日はもっと盛り上がるだろうに。藤田がそれが嫌なのかな？　まあ、さして熱心に新日を見てるワケじゃないから、偉そうに意見は言えませんが。しかし、サムライTVの再放送でG1の試合けっこう見たけど、なかなかいい試合が多くて、おもしろかったですよ。藤田vs中西とか吉江がらみとか。あれだけみんな身体張って、頑張っているのに、蝶野が優勝じゃあ、なんか帳消しな気がしました。蝶野も遠慮すればいいのにね。

話変わって『HERO'S』最高だった。夢のカード続出、技術レベルも高く興奮した。それにしても、K-1MAXといい、この『HERO'S』といい、6チャンのK-1中軽量級シリーズはどーしてこうもさわやかな世界ができあがっているのだ!?宇野選手と所選手が試合後、笑顔で健闘を称え合う姿に、6チャンのK-1中軽量級シリーズの持つ、さわやかな世界観が浮かび上がってきたように思えた。この『HERO'S』をテレビで見る前に、取材に行ったチヨロ氏から話を聞いた時、「テレビの力がすごいと思ったのは、所選手が一番人気だったこと」と言っていて、その時俺はやっかみ半分、突然ふって沸いたような総合ファンの存在が不可解で「まあ、なんだかあやしい人気だけど（所選手は大好きですよ。思いっきりの良さはKID以上だと思う）」などと答えたのだが、放送を見て自分が間違っていることを悟った。所選手に飛んでいたのは黄色い声援だもんね。俺が「一番強いのは誰だ？」なんて言っているうちに、若い女の子は、一番カッコいい男をぱっと選び、あっという間に熱狂していたわけだ。誰がカッコいいとか、かわいいとか価値観はこっちは持ってないにもんね。カッコいいは持っているけど、女子のそれとはいつも180度違ったりする。降って沸いたように感じるのも当然だ。そうしてみると、集めたワケではないだろうが『HERO'S』はイケメン揃いだ。その中でも所は一番等身大で、女の子が夢中になるのもよく理解できる。エースのKID選手は、猛禽類のような鋭い眼光の美しい嫁も子供もいるしね。

しかし6チャンのK-1シリーズはさわやかだ。きっと偶然自然にそう世界観ができたのだと思うが、それに対して『PRIDE』は男の世界だ。男祭りだ（←この男祭りって最初花くまさんが言い出したよね？）。もちろん、そんな『PRIDE』が大好きだ。しかし、踏みつけ有りの血みどろな『PRIDE』の世界に対抗馬として、『HERO'S』は実にピッタリな世界観だと思う。

それにしても『HERO'S』の直接のライバルとなる武士道の顔ぶれを見渡しても、長南選手を筆頭に非イケメンな、実に男臭い面構えはどーだ！　特にヨアキム・ハンセン！　ミドル級トーナメント決勝大会で、リングサイドに陣取っていた、ヨアキムの顔があんまりデコッパチなので、しばし釘付けになった瞬間がありましたよ。なんにしても『HERO'S』、武士道がともに盛り上がり、いつか対抗戦や交流戦ができるくらいの友好な関係であって欲しいものだと、総合ファンとしては、切に願いますよ。『HERO'S』がWBC、武士道がWBA、そんな感じになったら最高ですが。

ところで、今回で『紙のプロレス』という誌名が最後だとか。「検証・紙のプロレス」を書いてくれと言われたのだが、誌面がなくなった。一言だけ検証すると、紙プロは週プロが新日の取材拒否を発端に勢いをなくしたのに対して、取材拒否されているからこそ、新日に対して好きなことが書けて、しかもそれがそのまま雑誌のコンセプトになっているところがおもしろいなあ、そういう時代だったんだなあと思いました。以上。アディオス・アミーゴ！

最終回?
『日本再生への道』

文/中村カタブツ君(42歳)
取材協力/WaWaWa、株式会社LikeLife

今回の『右流々ン』は催眠術編。かねてから催眠術研究に余念のない佐山皇帝は、以前、紙プロ編集部の斎野に催眠をかけ、鼻水を垂らさせるという見苦しいけれども驚異的な術者としての力を見せつけたものであった。

「あの時はまだ催眠を始めて一ヶ月ぐらいだったんですけど、いまではもう完全に自分のものにしてますよぉ。この前も六本木のクラブで女の子のトラウマを解いてあげましたからね。ふふふ」。

なんと現在の皇帝は、さまざまな苦悩を抱える六本木のオネーチャンたちの精神的ストレスを、催眠術によって解消しているらしいのだ。しかも、その数およそ200人! まさに、"夜の陰陽師"と言ってもいいほどの活躍ぶりに、一体この人は六本木で何をしてるんだろうとつくづく思ってしまうほど。

「いやいや、私は六本木だけじゃなくて、一般の悩める人たちの相談にも乗ってあげてるんで勘違いしないでくださいね」

そうなのだ。実際皇帝は企業からの依頼で、ストレスを溜めた社員のケアをするなど、各方面でも活躍中。「真面目に取り組んでますからね」という言葉通り、この催眠術は強さとは何かを探求し、脳の研究にまで進んだ末に、辿り着いた一つの成果なのである。

というわけで、今回は一切おふざけなし。あくまで生真面目にいく催眠術企画をお送りしたいのである。

『大和撫子育成プログラム』敢行! 堕ちた日本を救うのは真の"強い女性"である!!

鬼頭厚美さん
スポーツ大好きのフリーターさん。左の安田さんと一緒に某キックジムにも通っており、長身から繰り出すキックは破壊力抜群!?

佐山聡皇帝
本日は催眠術士だが、初代タイガーだったり、修斗や掣圏真陰流の創始だったり、小説家だったりと大忙しのジーニアス

安田幸乃さん
貿易関係の会社に務めるOLさん。好きな格闘家はHAYATØ&新田明臣で、守ってくれる強い彼氏を募集中とのこと。さっそく鍛えよう!!

題して「大和撫子育成プログラム」。日本の軟弱な男を変えていくには、真の強さを持った大和撫子の登場こそが急務ということで、容姿のみでなく、精神の美しさも磨いていくのが主旨なのである。しかも、今回は佐山皇帝も愛読する雑誌『WaWaWa』さんの協力によって、鬼頭厚美、安田幸乃の両氏が被験者として参加していただけることにもなった。

さあ、ここに舞台は整った。これから本邦初公開、佐山皇帝による催眠講座がスタートするのである

「リラックスしていきましょう」。

皇帝の低音ボイスだけが部屋に響く中、二人の女性は次第にトランス状態に入っていくようだ。特に安田さんの催眠状態は深い感じ。なにしろ、頭に置いた手を離すことができないという暗示をかけられると、本当に手を離すことができなくなってしまう。

まるで、テレビの催眠番組を見ているよう。安田さんに、「本当に?」と声をかけると、手を離そうと四苦八苦。言っておくが、事前に女性陣には一切演技なしでと、伝えており、その証拠に、鬼頭さんのほうは簡単に手が離れてしまっている。だからこそ、安田さんへの暗示は余計に本物なのである。

そんな中、皇帝は「鬼頭さんのほうはまだですね」と言って取り出したのが琥珀でできた猫型ペンダント。何ですか、それ?

「ん? 猫ニャンみん。これ持ってると結構いい事があるんですよ。それに催眠導入グッズとしてもいいんですよ」と、鬼頭さんの目の前で振り始めると、驚くべきことに彼女はみるみる催眠状態に入っていく。

「ふふふ。ふざけてるみたいでしょ(笑)。で

も、これが不思議と効くんですよね」

と、猫型ペンダントを持って笑う初代タイガーマスク。自分で真面目にと言っておきながら、どこかで茶目っ気を忘れないから素敵。

そういうわけで猫ニャンみんによって、さらに深い催眠状態へと二人を導く皇帝。続いての暗示は、数字の6を忘れてしまうという、これもテレビでは見たことがあるものの、実際目にするのは初めの催眠に取りかかる。

「目が覚めるとあなたは数字の6を忘れてます。さん、にい、いち!」

と、目を開けた安田さん。皇帝に促されて数字を指折り数え始めるのだが、どうしても6が数えられないのだ! ホントに!?

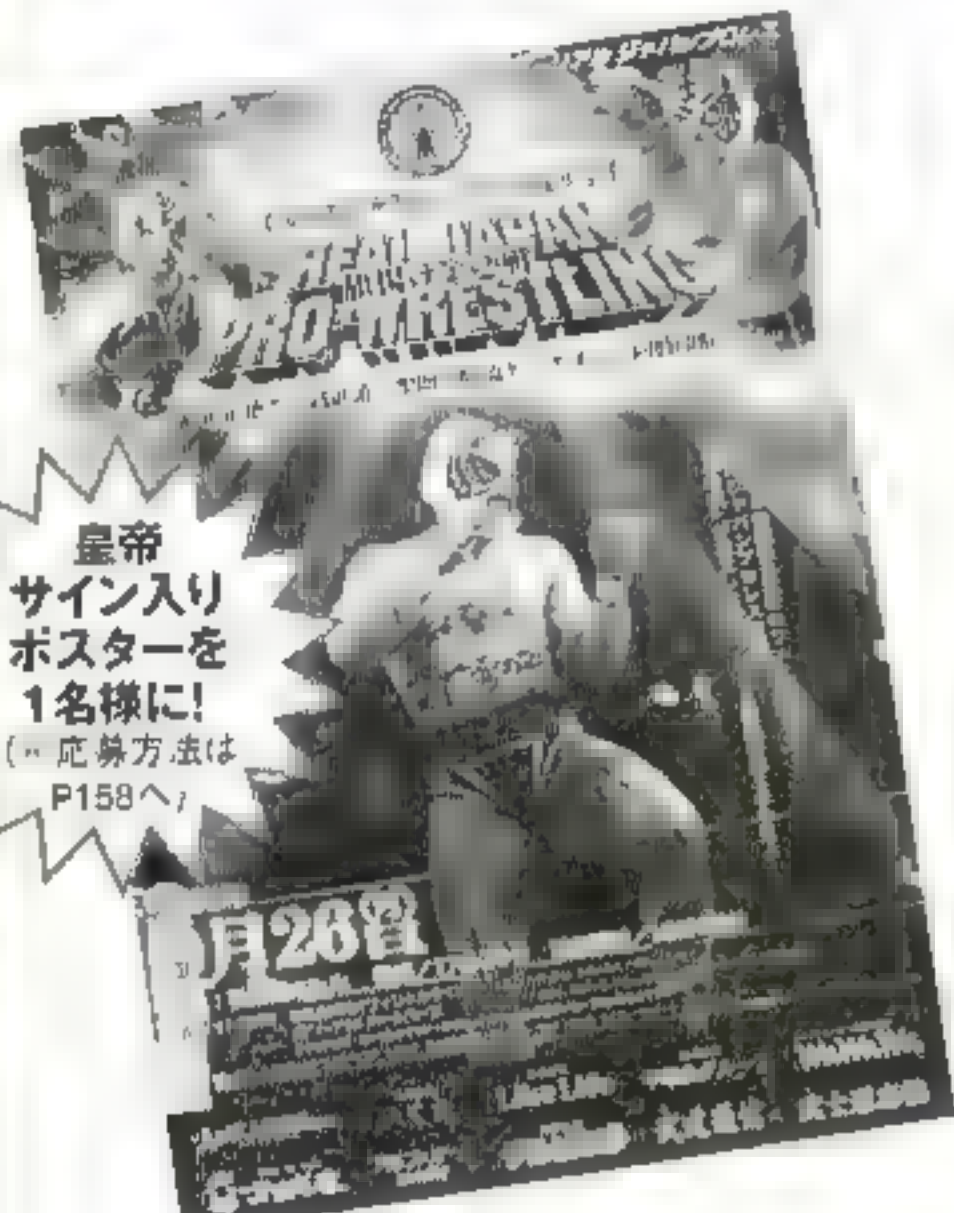
「え、本当に……、え?」と5まで指折り完全に硬直する彼女。6を飛び越して、7、8、9、10と数えると指が一本余ることに自分でも愕然としているのである。半信半疑であった取材陣までも言葉を失うこの結果。さらに皇帝はここぞとばかりに術を繰り出していく。なんと、安田さんを怪力の持ち主に変えてしまうというのだ。

再び、催眠状態に導く皇帝、怪力の暗示を与えたあと、目覚めると安田さんはもう怪力の持ち主になっているという。

う〜ん、半信半疑な取材陣。それじゃあ、ということで、ボクが安田さんと腕相撲をすることになると、マジに強ぇ! 彼女の右腕は微動だにしない。いや、確かにボクは腕相撲は弱い。弱いけれども、女子供相手に勝てないほど、弱いはずはないと思うのに勝てないどころか、押し込まれるという体たらくなのだ。ホント、情けない。とはいえ、それも皇帝の催眠術によって潜在能力が発揮された結果なのだ、という。

「これを格闘技に応用すれば強くなるのはわかるでしょ? 人間の潜在能力ってこんなに凄いんですよ」

いや、凄いのは皇帝の催眠術の力も一緒! ここまで卓越した術の数々を目の当たりにし、唖然とすることしばしなのだ。そんなボクらを尻目に皇帝は……。

「人間が意識している力というのは実はごく一部。普遍的無意識の中に眠っている力はさっきの安田さんのように9割近くあるんですね。で、なぜ、この力が出せないかというと意識と無意識の間にフィルターがかかっていて邪魔するんです。催眠で、このフィルターを取り払ってあげると人間は本来の力を発揮できるし、そこでモラルであるとか、正義心を植え付けてやれば本当に強い人間ができあがるんですよ(笑)」

ただの催眠術講座と思ったら大間違いなのだ。佐山皇帝の実力と思想があれば、本当に大和撫子を育てあげることは可能だろう。

「いま、六本木でも人が倒れていると助けるのはみんな外国人ばかりでしょ? なぜ日本人は人の不幸を見て見ぬふりをするの? それは宗教心に裏付けられたモラルというものを子供の頃から教えられてないからでしょ? そういう日本人にごく当たり前のモラルを入れてあげるには催眠でフィルターを取り払ってやらないともう不可能なんだよね。だから、私はこの研究を続けているんですよ」

感服である。強さと催眠術という一見すると、不可思議な取り合わせを真剣に取り組んで見事に融合させてしまった10年先、いや、100年先を行くのが佐山皇帝であったのだ。

とはいえ、ここで肝心なのが皇帝が考える大和撫子像だ。一体皇帝はどんな女性を育成しようというのだろうか?

「やっぱり銃後の守りを固める奥ゆかしい女性ですよね」

すると鬼頭さんが「じゃあ、佐山さんの奥さんもそんな方なんですか」と素晴らしい突っ込みを入れるのである。

「え、素敵な女性ですよ。だから、マスコミに一切出てこないでしょ?」「具体的にはどんな方なんですか?」「いや、だから、とても美しい人で。というか、家族のことは公にしないんで(苦笑)」と、急に皇帝はドギマギし始める。

「でも、今日の企画は大和撫子育成会なんで、ぜひとも聞きたいじゃないですか(笑)」とさらに詰め寄る鬼頭さん。

「ああ、だからねぇ、う〜ん……」と佐山皇帝は次第に言葉少なになり、ついに自己催眠をかけて瞑想に入り込んでしまったのであった。

見事に催眠に陥った安田さん　皇帝が「あなたはスーパーマンになる」と暗示をかけると、腕相撲で男並みのパワーを発揮!「こんな細腕、ちょちょいのちょいですよ〜!」と余裕ぶっこきのカタブツ君(42歳　だったが、その表情から次第に笑みが消え、引き分けに持ち込むのがやっとの有様。「今日は調子が悪かった」との言い訳が痛々しかった　それにしても皇帝催眠、恐るべし!!

皇帝は『掣圏真陰流の概要』、『戦争に対する事実誤認や情報操作』を講義し、さらに、武士道を忘れ思想やモラルが荒廃してしまった日本、そしてタマ抜きにされてしまった男たちを救うのは"真の強い女性"であると説く。皇帝が使用する催眠の目的は"真の強さ"を構築するための手助けを目的とするもの。「不純な動機なんて一切ありませ〜ん。うふふ」

琥珀(こはく)製の開運アイテム"猫ニャンみん"で精神世界へと誘う皇帝。古代中国では「琥珀」を「虎魄」と書き、虎の魂が死後に石になったという伝説があるという。シンや掛布よりブッチギリで"虎"が似合う男・佐山皇帝にはピッタリすぎるアイテムである。(※猫ニャンみん情報は欄外のアドレスにて)

こんな風にバックからタイガーマスクがハミ出てて違和感がないのは、伊達直人と皇帝くらいなもの　謎の多い皇帝バッグから、本日はミニ・ペンライトが登場し、催眠術に大いに役に立っていた。『発掘戦隊がばんレンジャー!!』には、ゼヒこのバッグの全貌を暴いて欲しい(消される覚悟で)。

ネタバレ情報密売団F・B・Iプレゼンツ

ネタバレ通信 Vol.27

WWEとTNAが開戦!! 月曜日の夜に何が起こる?

叙似位 『SUMMER SLAM』のHBKとホーガンの試合はムチャクチャ良かったですね。

何時男 なんで2005年にこの組み合わせなんだ?って気もするんですけど(笑)。

叙似位 でも、シュートに仲が悪いみたいです、この2人は。

何時男 まあ、プロレス哲学はたぶん正反対でしょうからね。HBKは久々のヒールでしたけど最高ですね。『SUMMERSLAM』前の『RAW』モントリオール大会では番組開始から20分間、「YOU SCREWED BRET!」の大合唱の中でひたすら観客を罵ってて、あらためて最高だなぁと思いましたね。

派乱暴 まさに97年に『Beyond The Mat』の事件があったのがモントリオールでしょう。それなのにブレット・ハートのテーマ曲を流して、観客に「だまされやがった!」って大笑いしてましたからね。

叙似位 もっとヒールで引っ張ってほしかったんですけど、サマースラム翌日からベビーに転向して、クリス・マスターズと抗争が始まってます。『UNFORGIVEN』でシングル対決ですね。

派乱暴 なんか本人も、この抗争には全然納得してないみたいでクリエイティブに怒ってるとかいう噂もありますよね。

何時男 ビッグマッチの後はどうしても谷間になっちゃいますよ。クリス・ジェリコもしばらく戦線離脱してるみたいですね。

叙似位 FOZZYに専念するらしいです。ジョン・シナに負けて「お前はクビだ!」ってビショフに言われて消えていくというストーリーだったんですけど、その放送終了後にジェリコのHPにはTNAのロゴの前でジェリコがポーズを取ってるフラッシュが使われてたんですよ。それでネット上は結構な騒動になってましたね。

派乱暴 単なるイタズラなんでしょ? ホントにタチが悪いですよ(笑)。

何時男 でも、TNAを意識してるってこと何じゃないんですか? いままで『RAW』を放送してたSpike TVという放送局でTNAのレギュラー番組が決まったんですよね?

叙似位 そうです。それが決まってからというものWWEのTNA潰しが凄い勢いで始まってるんですよ。スパンキー(ブライアン・ケンドリック)やジェイミー・ノーブルもWWEに復帰させたし、ホーガンも戻したし、ミック・フォーリーとも契約しましたからね。

派乱暴 ダスティ・ローデスもエージェントとしてWWEに引き抜かれたんですよね。

今年4月からWWEに限定出場しているホーガン。HBKとの死闘は「SUMMERSLAM」最大の目玉カードだった。

何時男 ぶっちゃけた話、TNAはいま面白いんですか?

叙似位 個人的には六角形のリングに抵抗があるんですけどねぇ。AJスタイルズは基本的にフリーランスなんでROHや日本のW・1にも上がっているし、ジェフ・ハーディーもいるんですけど……10月3日からUSA NETWORKで放送される『RAW』とぶつかるんでいろいろ内容は充実させていくんじゃないですか Spike TVはビンスを揶揄するようなCMを流すという噂ですから、かなり気合いも入っているんでしょう。WWEはTNAを潰そうと思えばいつでもできる。しばらく泳がせておいて、攻撃させた方が面白い展開になるんじゃないかなぁ。

派乱暴 10年前にWCWにやられたから、いまは相手が伸びて来る前に徹底的に潰してるんじゃないですか。

叙似位 TNAの方も本気でケンカしたら潰されるのは明白なんで、基本的にはWWEから選手を引き抜いたりしないし、WWEを辞めて3ヶ月のプロテクト期間が終わった選手しかリングに上げてないですからね。

派乱暴 妊娠してるのに解雇されたドーン・マリーにもTNAは声をかけてるんですよね?

叙似位 そうなんですよ。で、じつはドーン・マリーが妊娠した子供の父親がカート・アングルなんじゃないかっていうとんでもない噂があるんですよ。

何時男 え~っ⁉ エディ・ゲレロとミステリオの親権アングルみたいな話ですか?

叙似位 アングルじゃないっぽいですよ、あくまでも噂ですけどね。

何時男 だって、ドーンにはプロレスラーの彼氏がいたじゃないですか。

派乱暴 サイモン・ダイヤモンドですね。

叙似位 もう別れてるんですよね。シングルマザーだと言われてるんですけど、父親は誰だって話になって。それが原因でドーンは解雇されたんじゃないかって噂ですよ。

何時男 それが本当なら、ぜひとも子供を背負ってWWEに復帰してほしいですけど……。それは凄いですね。

今月の新作DVDは家宝級の最高傑作! 各1名様に読プレです

今年6月に行われた一夜限りのECW復活祭PPVが早くもDVD化された! 『ECWワンナイト・スタンド2005』はポール・ヘイマンの世界観が爆裂した夢の世界だ。ハードコア路線の源流となった命知らずの男たちが繰り広げる壮絶な試合は、団体活動停止から4年経ったいまもまったく色褪せてはいなかった! 日本からは田中将斗も参戦、マイク・アッサム(グフジエーター)とのシングルマッチで激しくぶつかり合った。タジリはトレイシー・スマザース、スペル・クレイジーと3WAYダンスで激突! サブーvsライノという往年のECWファンなら涙ものの試合も! そして何と言っても見どころは最後のポール・ヘイマンのマイク! これだけ人の心を熱くさせるマイクはちょっと記憶にありません! 今月のもう一本は『SMACKDOWN!』のPPV『ジャッジメントデイ2005』どちらも9月22日発売!

提供■ユークス

「ジャッジメントデイ2005」
¥3990(税込)本編179分収録。

「ECWワンナイト・スタンド2005」
¥3990(税込)163分収録。

※このページのプレゼント応募方法はP143を参照!!

新日本がドーム大会のたびに名前が挙がるブロック・レスナーだが、遂に参戦決定!? WWE本体よりもその周辺が何かと騒がしい今月もネタバレ通信はフライング上等でお届けします。さらに来月からは誌面リニューアルにともない、当コーナーもリニューアルの予定。乞うご期待!

■『F.B.』とは「踏み込んだところまで、バラしちゃっていいかな?(いいとも!)」の略。何時男(なんじお)はプロレス業界の末端に潜伏中。叙似位(じょにい)は桁外れのパワートで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴(ぱらんぼ)は裏方さんとしてWWEに携わる。WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないスッコケ3人組だ。

派乱暴 ブロック・レスナーがTNAに上がっても面白いと思うんですけど、最近は何をやってるんですかね?

叙似位 『週刊ファイト』によれば、レスナーはNFLのミネソタ・バイキングスに再挑戦らしいですよ(笑)。

派乱暴 本当ですか!?

叙似位 バイキングスのHPを見たら、ブロック・レスナーのブの字も出てこないんですけどね(笑)。

何時男 さすがだなぁ。でも、9月14日付の『東スポ』には新日のドーム大会(10月8日)に参戦と報じられてますね。

叙似位 ただ、レスナーだけに今後どうなるかわからないですよ。

何時男 ちなみに、ハリケーン「カトリーナ」の報道で知ったんですけど、F5ってハリケーンの大きさを表す単位なんですね。

叙似位 そうなんですよ。ハリケーンの大きさを決めたのがフジタって人らしくて「フジタ・スケール」。等級が1~5まであるんです。

派乱暴 ハイデンライクの家族は台風が直撃したルイジアナで行方不明になっていたんですけど、無事だったみたいですね。よかったです。

アメリカでGET復活!? 副社長エースの評判は?

何時男 小橋がWWE参戦か?という話が浮上してるみたいですね。

叙似位 9~10月にアメリカ遠征をするんで、そこにジョニー・エースが来るんですよね。WWEにも参戦して『ROYAL RUMBLE』に出てチョップだけで29人抜きとかやってほしいんですけどねぇ。

派乱暴 ジョニー・エースとの再会は注目ですよ。

何時男 おお、伝説のユニットGET(グローバル・エネルギッシュ・タフ)の復活だ! ……でも、あとひとりいましたよね?

叙似位 パトリオットですよ。町山智浩さんの『USAカニバケツ』(太田出版)によれば、薬物中毒を克服して、いまは自動車のセールスマンをやってるそうですけど。

何時男 WWE副社長と日本の絶対王者とセールスマンか、その現場にいたらしんみりしちゃいそうですね(笑)。

派乱暴 それにしても、ジョニー・エースは評判よくないですね。

叙似位 かなりドラスティックな改革をやるんですけど、解雇する選手には電話一本で連絡するだけだとか。昔のエリック・ビショフみたいですよ(笑)。

何時男 ビショフみたいにエースが表舞台に引きずり出されることになったら面白いですねぇ。

叙似位 辞めた選手が団結してリングに出てきて、抗議したら面白いのになぁ。表舞台に出てきたのはマット・ハーディーが復帰したときぐらいですよね。

派乱暴 あのときはエースが出てくるぐらいだから、よっぽどなんだろうなと思ったんですけど。

叙似位 いま思えば、あれもアングルだったんだなぁ……。マットとリタは仲良くレストランで食事をしてたって話ですから。

何時男 リタがエッジと付き合って、マットと別れたってところからアングルだったんですか?

叙似位 一説によると、マットがケガの治療のためにいったん自由契約になって、「治ったらWWEに戻ってこいよ」という話だったみたいですね。

派乱暴 ということは、別にリタはエッジとも付き合ってないし、マットとも別れてなかったってことですか(笑)。

叙似位 完全に踊らされましたね……。WWEの写真が話題作りのためにミスリードしてるんじゃないですか? ホントのこともウソのこともまじえてリークしてるはずですよ。まあ、これからも僕らはガセネタでも思いっきり踊り続けると思いますけど(笑)。

【05年9月某日、都内某所にて収録】

WWE公式ファンクラブでは限定品も買えてしまうんです!

ニューメキシコ州在住
サム通信員の

USA はみ出しレポート

●ダスティ・ローデス、WWEに移籍デス

一部で「TNAに全力を注ぐ!」と断言していたダスティ・ローデスが先ごろWWEにあっさり入社。クリエイティブチームのメンバーとなり、WWEに全力を注ぐらしい。

●遂に興行戦争開始!? 月曜vs土曜TV戦争

ハルク・ホーガンが「SLAM!Sports」のインタビューに答え、来年の『WRESTLEMANIA22』で噂されるストーンコールドとの対戦について「ヤツが考えているところはわからん」とバッサリ。そんなストーンコールドだが、WWE.comの「ロス・レポート」によると、厳しいトレーニング、ダイエットを敢行しており、いつ何時、誰の挑戦でも受ける!らしい。さらに大手チケット販売会社「Ticketmaster」のHPにて10月3日、つまり『RAW』のUSAネットワーク移行第一回目に出演するとアナウンスされている。他にもハルク・ホーガン、トリプルH、ミック・フォーリーなど豪華な面々が登場するとのこと。かつてない豪華な面々の登場はSpike TV(=NWA-TNA)への当てつけとも言われている。一方のTNAもWWE離脱組を片っ端に集めており、ゲイル・キム、ジャッキー・ゲイダ&チャーリー・ハス(週刊ファイト風)、ウルティモ・ドラゴン、モーリー・ホーリー、フランキー、Xパック、シャノン・モーアが登場予定だという。

●ブギーマンって何なのさ?

モーディカイの再来と言われている(失礼!)ブギーマンだが、最近は「Coming soon!」のCMがストップ。その理由はブギーマンはハウスショーでスティーブン・リチャーズにヒザをブッ壊され大怪我を追った様子。WWEはブギーマンの回復を待ち、改めて登場させるという。

●チーム3D? チームデスドロップ?

スパイク、ダッドリーがプロテクト期間(90日間待機期間)終了次第、ババレイ、ディーボンと合流予定。ただしダッドリーズの名称、および各リングネームはWWEに帰属しているため、それぞれ本名あるいは公募(!?)によりチーム名になるという。どこで募集しているかは謎。

●あの眉毛を忘れない……

WWEをファイアーされたメイヴェンが10月29日にクィーンズボロで行なわれるチャリティイベントでアル、スノーとの対戦し、これを引退試合にするとコメント。教師に戻るのが濃厚だという。ちなみにこのチャリティイベントは「Night of Superstars」と題し、ダスティ・ローデス、ジェリ・ローラー、ロディ・パイパー、カウボーイ・ボブ・オートン、デビット、フレアー、アイボリー、ジャズ、ロドニー・マック、ビリーガンも出場するレスリングイベントで、この収益金はUniversity of Virginia Children's Hospitalに寄付される。

●スパンキーは特別待遇

WWEに復帰したブライアン・ケンドリック(スパンキー)、WWEはスパンキーが以前から契約していたROHの出場を11月まで認めた。契約終了後にジェイミー・ノーブルと合流するという。

●サブゥーがWWE入り?

WWEはサブゥーとの契約を望んでおり、第二回ECW出場、殿堂式典への招聘を目論んでいるとのこと。

●僕は信じません! 信じません!

8月28日のオーランドのロウハウスショーの後、マットとリタが仲良く会場周辺のレストランで食事をしていたと目撃したファンがネットに書きまくり!見た方も書く方ももう少し気を遣えって!

●ヒールのミックが観たい!

ミック・フォーリーのWWE復帰が正式決定。ミックは「ロックン・ソッコネクション」の再来を、ユージンと演じ、最終的にダブルクロスしてヒールターンすることを希望しているという。

チーム鈴木の明るい未来

世界に羽ばたく夫婦コラム

KENZO HIROKO

日本滞在を終えてアメリカ・フロリダの自宅へ帰ってきたケンゾーとヒロコ。日本では充実したリラックスした時間を過ごしていたが、久しぶりに帰ってみると……。今月もケンゾー&ヒロコは世界を股にかけて大騒ぎです！

Q 日本滞在中に会った人物で印象に残っているのは？

ケンゾー 久々だったのに、あっという間だったよ。3週間もあったからいろいろ出来ると思ってたんだけど。会いたい人もやりたいことも色々あったのに。

ヒロコ 確かにバタバタだった。今回は挨拶まわりとかもあったからね。けど、ちょこっと温泉旅行もしたし、趣味の陶芸も久々に出来たんだし。それに坂口（征二）会長や憲ちゃんにも会えたんだし。それは良かったんじゃない？

ケンゾー そうだね。フロリダサーフィンクラブを結成して以来だから（笑）。クラブって言っても、俺と憲二だけだけど（笑）。会長も新しいことを始めるところだし、色々話が聞けて良かったよ。

ヒロコ フジテレビの皆さんと飲んだのも凄かったんじゃない？

ケンゾー あれは最高!! 俺がまだ東海テレビの営業マンだった頃、フジテレビの松村部長に凄くお世話になったんだよ。当時はまだ部長じゃなくて。俺は東京営業だったから、電通とかフジの人とかとの付き合いが太かった。よく一緒に飲みに連れて行ってもらったんだ。で、入社一年もしない頃、俺が言ったわけ「松村さん。俺やっぱサラリーマン辞めたい」って。そしたら「辞めちゃえよぉ!!」って。で、ホントに辞めちゃった（笑）。

ヒロコ だから日本公演の時にお会いしたら「俺にも責任あるからなぁ……」っておっしゃってたんだ（笑）。

ケンゾー 本当に色々教えてもらったんだよ。でも今回はそういう仕事とか抜きで久々に会いたくて。そしたら、すっごい"プロ"のセッティングで（笑）。総勢30人。スタートは中目黒。

ヒロコ 中目黒！（笑）。懐かしい！ サラリーマン時代を思い出す!! しかし帰ってきたのは明け方。あなたは実際そういう"飲み"があんまり好きじゃないけど、あの日は帰って来なかったから、楽しかったんだろうなぁって。

ケンゾー 久しぶりでさ～。フジテレビのWWEの番組プロデューサーだった織田（実）さんにも会えたし。ジョーダンズの三又さんも来てくれて。いやぁ、ホント皆さん変わってなくて。正直楽しかった（笑）。利害とか無いところからずっと純粋にお世話になってる人達に久々に会うのってなんか楽しいよ……。

リラックスした時間を日本で過ごしたケンゾーとヒロコ。陶芸にもチャレンジ！ 果たして完成した作品は…!?

Q 「ヒロコ、ハリウッド進出か!?」なんて写真が一部報道にでてますが……。

ヒロコ あの写真については勘弁してよ……。

ケンゾー そぉ？ いいじゃん。

ヒロコ 良くないって!! 正直言って、相当はずかしい。じつはWWEを辞めた頃、ハリウッドのエージェントから連絡が来た。「写真だけでもやってみないか？」って。別に暇だし「いいですよ」ってノリで（笑）。まさか日本で出るとは思わなくて。「あの伝統的なホワイトフェイスが脱いだら面白いだろ?」」って言われて……。

ケンゾー で、脱いだ……。

ヒロコ 脱いでない（笑）。けど、なんか変な感じでさ。元々リングで下着とかになってるじゃん、私。だから「下着になって」って言われても、何てことないわけ。顔も白塗りじゃないし、脱ぎやすいくらいで（笑）。

ケンゾー 綺麗に撮ってもらって良かったよ。下着とはいえ芸術的で。ああいう写真だったら俺としても大歓迎！

Q ハリケーン「カトリーナ」の被害が騒がれる中、鈴木家はどうだった？

ケンゾー 日本滞在中もそれが心配だった。ニュースじゃニューオリンズの凄い被害が報道されてるし、『フロリダ地方も被害に……』なんていうのを耳にすると、ドキッとして。

ヒロコ 実際、ここ2ヶ月くらいは嵐も多かったしね。凄い嵐だったけど皆"あれくらいは……"って感じだったから、カトリーナなんて、どんな風になっちゃうんだろうって。しかも私達、冬にフロリダへ引っ越してきたばかりで、まだフロリダのハリケーンを知らないし。

ケンゾー で、ダグ・バシャムやトーリー（・ウィルソン）に日本から電話したら『大丈夫。ガソリンの供給が止まって、停電してるくらいのもんだよ』って、「それスゲー！」って感じで（笑）。

ヒロコ 確かに、帰ったら巨大看板が落ちてたり、信号が倒れてたり…。だけど、うちは特に被害を受けなくてひと安心。ま、窓の外側にある雨戸みたいなシェルターを閉めて、外にあるガーデン・デッキもテーブルセットも全部家の中に閉まって、バッチリ準備はして帰国したんだけど。どういうわけだか、窓がひとつだけ、シェルターを閉めてなくてね。『閉めてきてよ！』って頼んだのに……。

（※編集部注　ケンゾーだけ一人遅れて日本に帰国した）

ケンゾー 違うんだよ。全部シェルターを閉めようとしたら、一箇所だけ、そこに鳥の巣があるのを見つけてさ。シェルターを下ろそうとしたら、鳥がピーピー鳴いて大騒ぎなんだよ。巣もバラバラ崩れてきちゃって。で、『雛が落ちちゃったら可哀想だな』と思って。

ヒロコ でもシェルター下ろさずに、窓が割れて家の中がグチャグチャになったらどうすんの？ っつうか、ハリケーンだぜ？ シェルター下ろさなくたって、どうせ巣なんて吹き飛ばされ……。

ケンゾー （さえぎって）そんな可哀想なこと言わないで！（怒）。

ヒロコ 私、鬼かな……？

ケンゾー でもちゃんと巣はまだあったよ。

ヒロコ 確かめたの!?（笑）。すごいな…。

ケンゾー 心配だったもん。雛たちが（ニッコリ）。

ヒロコ ま、とにかく皆、無事で良かった！

※チーム鈴木に聞きたいこと、相談したいことがある方はドシドシと質問をお送り下さい。radical@kamipro.com「チーム鈴木への質問箱」まで

11月3日 ハッスル・マニアで
リングデビュー決定!!

レイザーラモンHG
大特集、フォ〜〜ッ!!

いま飛ぶ鳥を落とす勢いであらゆるメディアに引っ張りダコのお笑いゲイ人、レイザーラモンHG。遂にハッスルでのデビュー戦を行うことも決定して、HGの股間のようにファンも大きな盛り上がりを見せている。9月8日のハッスル・ハウスvol.9に登場した際も、超満員札止めの後楽園ホールの観客からこの日もっとも大きな声援を集めた。この特集ではHGの魅力を分析しつつ、ハッスル参戦がもたらす意義を徹底検証します。3、2、1、ハッスル！ ハッスル！ ハードゲイ、ハッスル！ フォ〜ッ！

構成／坂井ノブ、真下義之
撮影／平工幸雄、山口比佐夫
写真提供／DSE
designed by matsu（TwoThree）

や　ンリン様が生み出す

ーテインメント”

新しいプロレス

ハッスルが放つ最大規模のビッグイベントであるハッスル・マニア。徐々にその全貌が見え始めてきたが、今月号の表紙を飾ったレイザーラモンHGやインリン様というプロレス業界の外から参入してきたキャラクターの闘いが大きな目玉となることは間違いなさそうだ。左ページに掲載したポスターを見れば、純粋なプロレスラーは小川、川田、大谷、そしてアン・ジョー司令長官の4名しかいない。対して、それ以外のキャラクターが12名（重複は除く）というこの圧倒的なバランスの悪さはどうだ。鍛え合った肉体をプロレスラー同士がリング上でぶつけ合うのがプロレスだとするならば、ハッスルはもはや後戻りできないところまで来てしまった。これはプロレスではない、と言い切った方がプロレス業界にとっても、プロレスを知らない若いファン層にとっても親切だという気がする。このポスターがハッスルの方向性を指し示すものだとすれば、ハッスルはプロレスラー同士の闘いの舞台から、プロレスラーを含むあらゆるキャラクターがぶつかり合う舞台に変質し始めたということだ。

PRIDEをはじめとする〝総合格闘技〟のコンセプトは、ルールを限りなく排除して、あらゆる格闘技の中で何が最も優れているのかを決める、というもの。その後、紆余曲折を経て、総合格闘技というジャンルが確立するまでになったが、初期コンセプトにあったのは間違いなく他流試合だった。

一方、対極にあるハッスルに目を移すとインリン様やレイザーラモンHGという異ジャンルから誕生したキャラクターが、プロレスラーを相手にリング上でハッスルしている。異なるバックボーンを持ったキャラクターが、プロレスのタブーや制約を取っ払ったリングで輝きを競い合う舞台だ。そこで行われるのはキャラクター同士の他流試合であり、プロレスという言葉がふさわしくないとすれば、〝総合エンターテインメント〟という言葉こそふさわしいのではないだろうか？

1985年に始まったWWF（当時）の

レイザーラモンHGや

“総合エンター
という名の新し

レッスルマニアは20年の時を経て、現在は世界最大のプロレスイベントとなっている。第1回大会ではハルク・ホーガンとドラマ『特攻野郎Aチーム』で大人気となった俳優のMr.Tがタッグを組み、サブレフェリーにモハメド・アリを起用、シンディ・ローパーがキャプテン・ルー・アルバーノと抗争を繰り広げるという、極限までわかりやすく加工したパーティー・プロレスだった。WWFはこの大会をキッカケに新規ファンを大量に獲得して、ビジネス規模が爆発的に拡大した。同じようにわかりやすくプロレスを加工できれば、ハッスル・マニアもレッスルマニアのようなプロレス史を覆すパラダイム・シフト（価値観の転換）となるはずだ。これは余談だが、レッスルマニアにリバラッチというゲイ（本人は否定）が登場していたのも何かの因縁としか思えない。

約20年前、日本ではプロレスと格闘技を繋ごうとする運動体がUWFとなり、総合格闘技の源流となった。そして現在、プロレスと芸能を繋ごうとする新たなる試みがハッスルであり、その両者を結ぶ架け橋がインリン様とレイザーラモンHGだ。〝総合エンターテインメント〟の母親がインリン様なら、父親はレイザーラモンHGと言えるだろう。ポスターを見る限り、この両者の対決というものがにわかに現実味を帯びつつある。ハッスル・マニアで両者が交わるとき、新しい何かが生まれるに違いない。

（坂井ノブ）

ハッスルおなじみのポスターは今回もハッスルイラストレーター・金子ナンペイ氏の大作だ。高田総統は人間ですらないという仰天の構成で、草間新GMの目は完全にダークサイドに墜ちている……。どうなる、ハッスル!?

レイザーラモンHGが語るプロレス、そしてハッスル

インタビュー、フォーッ!!　いま大ブレイク中のレイザーラモンHGが本誌に登場!　まだまだデビュー戦前だというのにカラーページでの大特集も驚きだが、表紙まで奪取するという破格の扱いだ!　これはまぎれもなく創刊以来、初の快挙!　それだけ本誌はHGに期待を寄せている。いったいHGにどれだけのポテンシャルを秘めているのか、現時点では誰にもわからないが、観客の胸と股間を直撃する高鳴りは半端じゃないことだけは明らかだ。このインタビューを読んでデビュー戦を心待ちにしていてほしい。

構成／坂井ノブ　撮影／山口比佐夫

designed by matsu (TwoThree

完全図解 激しいハッスルポーズ

1 指を3本（ついでに股間も）立てる。腰はクネっと引いて、手は腰に。「スリー」と大きな声でハッキリと言おう。

2 指を2本（ついでに股間も）立てる。人差し指と親指を立てるのがポイントだが、人差し指と中指でも可。

3 指を1本（ついでに股間も）立てる。この直後に激しく腰を動かすので出来るだけ力を抜いておこう。

8 最後の仕上げは両腕を天に掲げて（手のひらは外側に向ける）、足をクロスさせて「フォーッ!!」と絶叫!!

プロレスをリスペクトしてますから、リングに上がることが「恐フゥーッ!!」

――遂にハッスル・マニアでデビューすることが決定したレイザーラモンHGさんですけれども、じつは『紙プロ』登場はこれで2回目なんですよね。

HG そうですね。2回目、フォーッ！（腰をカクカク動かしながら）。2回目は下半身中心にじっくり見てください～。

――いや、今日のインタビューは映像じゃなくて活字なんですよ。

HG 活字、フォーッ！ じゃあ、今日はじっくり語らしてもらいますか。

よろしくお願いします。以前、原タコヤキ君がやっていた「大阪プロレス通信」という連載に出て頂いたことがありまして。

HG 相方（お笑いコンビ「レイザーラモン」の出渕誠）は、投稿ページにも載ってますからね（笑）。

――そうなんですね。『PRIDE.0』という投稿ページの常連で（笑）。

HG だから、今回ハッスルでのプロレスデビューが決まって、一番喜んでいるのは、出渕クンなんですよ。

――ハッスルデビューについては何か言ってましたか？

HG 「セコンドに付く」とか言ってましたけど、「チケットを買って入れ」と言っておきました（笑）。

――厳しいですね（笑）。そもそも、お笑いの世界に進む前は学生プロレスをやってたんですよね？

HG そうです。僕は学生時代に将来の進路を決めるとき、お笑いとプロレスが天秤に掛かった時期があったんですよ。どちらも中学生のときから同時進行で好きで、大学で学生プロレス始めた時点で、プロレスLOVEの方が、一瞬、上に来たんですけど。

でも、プロの道には進まなかったんですね。

HG そのあとホンマに軽い気持ちで受けたお笑いコンクールで優勝してしまったんですよ。

――『今宮こどもえびすマンザイ新人コンクール』ですね。

HG これで、リアルにお金を頂いて。当時、ネタは2本だけですよ。裸で普通にプロレスしながら、社会風刺するっていう、中身のあるようでないようなことをやってました（笑）。総理大臣と国民代表みたいなのが、プロレスしながら、「消費税反対!!」とか言い合って、時の総理大臣がのらりくらりと言い訳しながらかわして、最後に日本は天皇制なんだというのを説くというネタをやったら、審査員のある大先生が「カルチャーショックを受けた」と気に入ってくれはって。その方のひと押しで賞を頂いてしまったんです。しかも、その賞もじつは権威のある賞なんですよ。初代が、大助花子さん、ダウンタウンさん、ナインティナインさんとか取っているような賞なんですけど。

――大スターばかり！

HG だから〝いま一番勢いのある若手〟の登龍門的なコンクールだったので、そういう凄い人が取るはずなんですけど、その大先生に気に入られたばかりに賞を獲ってもうて（笑）。1日10万円という当時にしたら大金を頂きましてね。そこから、気にお笑いの道に進むことになったんですけど。やっぱり夢としてはプロレスラーというのもあったんで、二つあった夢の一つはまがりなりにも叶えたんですけど。もう一つは、一度はあきらめた夢なんですけど、その夢から近寄ってきたというか（笑）。

――ホント、何が起こるかわかりませんね。

HG でも、嬉しい反面、やっぱり会見でも「恐フーッ！」と言いましたけど、怖さはありますよ。

会場は横浜アリーナですからねぇ。

HG いやいや、会場のデカさとか大人数の客の前でやるというようなことではなくて、やっぱりプロのリングに上がるということ自体が「恐フーッ！」ですね。知ってるだけに、やっぱり。

なるほど。

HG 僕はプロレスをリスペクトしてますし。プロレスラーがどれだけ凄いものかということも、わかっているつもりなんで。生半可な気持ちでは上がれないなと。ホンマに「お笑い業界を2ヶ月休ましてください」と言って練習したいくらいの気持ちですね。芸能の仕事よりも、ハッスルに上がることの方が緊張しますよ。もう、ハンパじゃないです！

――すでにハッスル10ではリングに上がってますよね（※注・この取材後にハッスル・ハウスvol.9後楽園ホール大会のリングにも登場）。

ハッスル

「ハッスル！ ハッスル！」と2回発声するのだが、通常のハッスルポーズと異なり、一回「ハッスル！」と言う間に激しく10回以上腰を振らなければならない。

4

ハッスル

同じく2回目の「ハッスル！」のときにも10回以上腰を振る。高速での腰振りが必要になるが、可能な限り腰を突き上げるように動かす。

5

ハード ゲイ

「ハード」「ゲイ」と言いながら、股間を2回指さす。このときも指の動きに合わせて股間を激しく突き上げたい。

6

ハッスル

最後に大きく腰を引いて、最大の力を込めて腰を激しく突き上げる。脇は締めて腰を突き出すと同時に腕は引く。恥ずかしがらずにやるのがポイント。そして最後の仕上げは写真8へ。

7

HG　ゲイ人人生でいちばん嬉しい仕事である反面、いちばん緊張した仕事かもしれないですね。結構、緊張しないタチなんですよ。それが股間の高鳴りを感じて。

――おさえきれませんでしたか！

HG　ホンマに股間が充血しすぎて、破裂するぞっていうぐらいの勢いでしたからね。それ考えたら、ホンマに試合するのなんて……。

――実際、ハッスル11ではビジョンに登場しただけで大受けしてましたよ。

HG　ありがたいですね。

――これだけリアクションが大きいと、試合の方も当然、大きな期待がかかると思うんですけど、すでに特訓を始めているとか。

HG　都内某所にリングを組んで頂いて、指導を受けられる日は受けてますね。ハッスル軍の方は皆さん好きな選手ばかりですし、凄いタマらんですねぇ～（腰を振りながら）。

――アハハハ！　以前やっていた学生プロレスの話も聞かせていただけますか。

HG　同志社プロレス同盟、DWAという団体で学生プロレスをやってました。

――タダシ☆タナカさんが創設されたという団体ですよね。

HG　まあ、創設というのは大袈裟ですけど、あの人が当時、京都の裏千家のプロレスをまったく知らんボンボンを騙して、リングを買わせたという（笑）。そういう意味では創設者なんですけど。当時、学生プロレスでリングを持ってる団体はそんなになかったですからね。

――ムチャクチャいい環境ですよね。

HG　ええ、だからレベルもおのずと上がるし、あと、そのツテで元ユニバーサルの練習生の方にも指導して頂いて、結構、本格的に受け身の練習とかしていたんですよ。

――ちなみに学生プロレスはドネタのリングネームとか多いですけど、その頃のリングネームは？

HG　ギブアップ住谷なんですけど……これはホント恥ずかしい（笑）。将来、芸人になるのがわかっていれば、絶対につけないリングネームですよ！

――まあ、将来のことまで考えてつけるもんでもないですから（笑）。

HG　このリングネームはいまになって、かなりイジられますからね。「お前、それボケてねえだろ！」と。これは汚点の一つですね。それに比べて、相方（出渕）は新崎人生をもじって"チン先真性"という名前でやってましたね。

――ギブアップ住谷よりそっちの方が恥ずかしい気もしますけど（笑）。

HG　でも、よくできた名前ですよ。普通は1、2回生だと先輩から無理矢理に下ネタのリングネームを付けられるんですよ。で、そこを越えたら、自分で好きなのを付けられるんですけど。僕の場合は、もう入ったときに、ポテンシャルの高さから破格の扱いで、「すぐにでもメインで使いたいくらいだから」ということで、ジャイアント馬場さんみたいなエリート街道だったんですよね。だから、僕は下ネタリングネームを頂かずに、自分で決めたんですよね。当時のおもろない脳ではじき出したのがこれなんですけど（笑）。いま思えば、もっとおもしろいものを付けていればなと思います（しみじみ）。

――学生プロレスは試合もバラエティがあってイロモノっぽいのから本格的なハードヒットまで、いろいろあるじゃないですか。

HG　ご存知でしょうけど、新日本プロレスの棚橋（弘至・現新日本プロレスIWGPタッグ王者）選手はDWAの1年後輩なんです。僕と彼はストロングスタイルでやってましたね。

――ストロングスタイルでー

HG　学生プロレスの大会って、大まかな流れがあるんですよ。最初の方は笑いの試合があって、中盤ではお客さんを温めて、セミとかメインで僕や棚橋選手がガッチリした試合をやってイベントを締める、というような。

――いま棚橋選手と交流はあるんですか？

HG　そういえば棚橋から連絡がプッツリ途絶えましたね（笑）。

――最近ですか？

HG　そう、最近（笑）。僕がハッスルに出ることをどう思っているか知りたいですね。

――棚橋選手はどんな試合をやってたんですか？

HG　いまでは丸め込みのプロレスとか言うてますけど、当時はみちのくドライバーとか、あと、いままでも使ってますけどドラゴンスープレックスとかやってましたね。

――当時からドラゴンムーブはやってたんですね（笑）。

HG　やってましたね。ただ、チャラい技も使ってましたよ。

――チャラい技（笑）。ちなみに棚橋さんのリングネームは？

HG　ターナー・ザ・インサートですね（笑）。アルティメット・ウォリアーの格好で、サナダムシのような腹筋は当時からありましたね。

――京都ヘビー級のベルトをターナー・ザ・インサートと争ったこともあるんですよね？

HG　そうです。僕は学年が一つ上で、卒業前に世代交代が必ずあるんですよ。一つ下の後輩にベルトを譲るというのがお決まりなんですけど。で、僕らはそれを終えて就職活動に励むみたいな流れで（笑）。それで、当時チャンピオンだった僕と当時一つ下で一番抜きんでいたターナーとベルトを懸けて試合をやって、ベルトを譲ったんです。

――ちなみに、どんな試合だったんですか？

HG　バチバチの試合をやったんですけど、最後に雪崩式みちのくドライバーを喰らわされて……。

――え～っ!?　ムチャクチャ危ないじゃないですか。

HG　それで首を負傷するということに……。

――やっちゃいましたか。

HG　やっちゃいましたねぇ（しみじみ）。

――その後にプロレスの道じゃなく

レイザーラモンHG

トクの推薦でハードな新メンバーが入団。会見場に腰を振りながら登場したのはレイザーラモンHG！　勝手に、激しいハッスルポーズ普及

PTAとか教育委員会から苦情も来ますけど、
万人に好かれようとは思ってないですから

てお笑いの道に進んで大ブレイクしたわけですね。それがいまはお笑いを一時休業してでも、プロレスのデビュー戦に備えたいと（笑）。

HG ええ。まあ、学生プロレスですけど自分でやってたからこそ、生半可な気持ちではプロのリングに上がれないと思ってます。

――しかも、レイザーラモンHGという当時とは異なるキャラクターでリングに上がるわけですからね。プロレスファンからは賛否両論になることが予想されますけど。ただ、お笑いの世界でも、わりと賛否両論だったりしますよね？

HG そうですね。子供には見せられない、という声もありますし。PTAとか教育委員会からガンガン苦情が来ているみたいです。ま、万人に好かれようと思ってやってないですから！ 試合をやるとなれば「プロレスをナメんなよ」みたいな人も多いでしょうね。

――試合で見せるしかないですね。

HG そうなんですけど、まあハードヒットはそんなに受けられないし、リック・フレアーばりにノラリクラリとかわしながら、試合を組み立てていかなあかんなという感じですね。

9月8日、後楽園ホール大会で行われたハッスル・ハウスvol.9で最後を締めくくったのはレイザーラモンHGの“激しいハッスルボーズ”だった。ちなみに、この後、HGはマイクスタンドに激しく腰をスリスリ。ストリッパーのようなセクシーダンスを披露した。

――ちなみに「フォーッ!!」はリック・フレアーが元ネタなんですか？

HG あれは、何かを意識したわけじゃないんです。きっかけは、レイザーラモンが泥水すすっている時代なんですけど、たまたま奈良の学園祭にある人が出られなくなって、助っ人で行ったんですよ。お客さんからすれば、「誰やねん？ TV出てないし」「呼んでへんのに勝手に来やがって」というかなりアウェー感の中、「15分やってくれ」と。ハードゲイのキャラが確立したての頃で、なんとか盛り上げなければならないという状況でパッと出た言葉が「奈良、フォーッ！」だったんですよ（笑）。

――なんとか盛り上げようと（笑）。

HG ええ。なんとか賛美しようと思って。海外のミュージシャンが来て「オオサカッ!?」って言ったら、会場がワァーって盛り上がるじゃないですか？ そのイメージで、土地の名前を言ったら、絶対つかめるなと思って、「奈良フォーーッ！」って言ったんですけど、いかんせん「誰やねん？」「なんちゅーカッコしてんねん？」と。それと、地方から来ているヤツも多くて、奈良に思い入れのあるヤツが少なくて（笑）。

――つらいですね。

HG で、シーンとなったんです。山奥の学校だったんですけど、ホンマにやまびこが聞こえましたね。「奈良、フォーッ！ フォーッ・フォ……」みたいな。それが誕生の秘話ですね。

――つまりリック・フレアーはまったく関係ないということですね（笑）。

HG まったくのオリジナルです。

――話は変わりますが、ひとりのプロレスファンとして見たハッスルはいかがでしょう？

HG 僕はWWEが、WWFだった頃から好きだったんです。エンターテインメント路線だった頃のFMWも好きだったし。ハッスルはその踏襲というか、エンターテインメント路線じゃないですか？ だから好きですね。

――どのレスラーが一番好きだったんですか？

HG 僕はやっぱりレイザー・ラモン（＝スコット・ホール）ですね。彼は一番目立ってるのにトップになれる選手じゃない、名バイプレイヤー的な感じでいいですね。立ち振る舞いだけでカッコいいですよ。

HG カッコいい！ 好きになったキッカケは、レイザー・ラモンとショーン・マイケルズのラダーマッチで、あれで2人同時にハシゴをビヨーンと打った瞬間はもう鳥肌立ちましたね。

――やはり股間に目がいきましたか（笑）。でも、あれは本当に素晴らしい試合ですよね。

HG そうなんです。だから、ショーン・マイケルズも大好きで。ブレット・ハートも好きですね。

――WWE90年代の黄金時代ですよね。

HG そうですね。ブレット・ハートとショーン・マイケルズのアイアンマンマッチ（※注・60分試合を行って多くフォールやギブアップを奪った方が勝ちとなる試合形式）なんて、60分ほぼアドリブでやってたと思うと凄いですね。

――そういう要素は学生プロレスにも取り入れてたんですか？

HG ええ。じつは僕はアメリカンプロレスを見たことで、アドリブでやるおもしろさみたいなのに目覚めてしまってですね。これは学生プロレスをやり始めた頃の話ですけど、試合の内容を0から10まで紙に書いて覚えてたんですよ、「ラリアットして、返して、丸め込んで……」とか。

――丸暗記してたんですね。

HG ええ。でも、それをやめて、最初の10分は何も決めずに、フィニッシュだけ決めるような試合をしてましたね。

――かなり実験的な学生プロレスですね。

HG あと、自分の試合では攻めることよりも受ける喜びみたいなのを感じてました。

――アメリカの選手は、受けもみんな派手ですよね。

HG トップを張ってる選手はうまい人しか残っていないですもんね。まあ、僕はプライベートでは攻めなんですけど（笑）。

――ハードに攻めるわけですね（笑）。

HG ことプロレスに関しては、受

けも得意です。プロレスってつまるところは受けの美学じゃないですか？ プロレスって最初は真剣勝負だと思って見始める人が多いですよね。ある時点で「あれ？ おかしいな」と思うラインがある。そこでプロレスファンをやめる人と、さらにその上を行く人がいるじゃない人がいるじゃないですか。僕もそういう時期があって、「あれ？」って思った時期に、学生プロレスや『紙プロ』とかにも出会って、「受け身が凄いな」とか「ケガをしてるのに凄いな」というものを理解したので、さらに深いところに行けましたけど。そこからさらにプロレスを見る楽しみが広がりました。

——そこに到達するまでのハードルはかなり高いですけどね。

HG だから、プロレスを見るときは攻めるところよりも受けるところに目がいってしまうんですよ。たとえば僕は日本人だと邪道・外道選手、ディック東郷選手、天山広吉選手のプロレスが好きでしたね。

——みんな受けがうまい選手ですね。

HG そうなんですよ。天山選手のDDTの受け方なんか凄いですよね。一瞬、頭で立ちますから！ 顔で受けるというか（笑）。

HG それに耐えうる身体を持っていないとできない受けですからね。

——では目下のところ、リングに上がるに当たって、身体作りというか、コンディション作りが課題ですか？

HG そうですねぇ。実戦に向けてこれから集中トレーニングに入りますよ。あとは、欲情しないように気をつけて……。

——それは難しそうですね（笑）。

HG 欲情をコントロールする精神力が必要ですね。じつは、いま一応考えている必殺技がありましてね……。

——話せる範囲内で教えてください！

HG もし上に乗られて僕がガードポジションになった場合、下からの三角絞めを狙っているんですけど、ただの三角絞めじゃない「HGトライアングル」を考案してまして。

——おおっ！ どんな技なんですか？

HG 三角絞めは足の腿と膝で三角形を作って、その三角形の面積を狭めて首や頸動脈を絞めるという技ですけど。まあ、三角形を狭めるのも限界があるじゃないですか。そこから、さらに僕はペ●スを勃●させることによって、面積を狭めると。

——それは強烈ですね……。

HG 相手も「うっ！」と顔をそむけたくなると思うんですよね。「これ以上は絞められないだろう」というところから、さらに絞められるわけですから、予想できませんし、そしてペニ●が目の前にあるという屈辱感から、先に心が折れるかなと思いますね。まあ、これが必殺技かな。ただ、相手がインリン様だと……ちょっと難しいですかね。ハードゲイ的には相手が男だったら勃●力もより強くなるんで。そのへんは相手次第でしょう。

——ジャンボ鶴田が相手によってバックドロップの角度を変えていたという伝説がありますけど。

HG 僕も相手によって●ニスの角度は変わりますから。それを応用した技になるでしょう。

——なるほど、期待して……いいんですかね？（笑）。

HG 期待して下さい～。僕がハッスル軍を盛り上げるしかないですね。いまモンスター軍の髙田総統とインリン様の力で押されていますから。

——実際、プロレス界自体が盛り下がってきているので、プロレス界自体の起爆剤にもなって頂ければと思います。

HG 小川選手がハードゲイのコスプレするぐらいの勢いで影響を与えたいですね。

——それはぜひ見たい！（笑）。ハッスルでは、他に注目されている選手、あるいは闘いたい選手はいますか？

HG 髙田総統を引きずり出したいですよね。モンスター軍に傾いた流れを僕がひっくり返しましょう！

——おおっ！ 楽しみです！

HG ハッスル・マニアでは是非とも僕の下半身中心に注目していてください～。3、2、1、ハッスル、ハッスル！ フォーッ！（腰をカクカク動かしながら）。

【05年9月2日／DSE事務所にて収録】

れいざーらもんえいちじー■1975年12月18日、兵庫県出身。同志社大学で学生プロレスラーとして活躍後、「今宮こどもえびすマンザイ新人コンクール」福笑い大賞を受賞。相方・出渕誠とともにレイザーラモンとして活動。特技はイラストでHGのサインもイラスト入り。身長185cm、体重85kgという立派な体格の持ち主。11月3日、ハッスル・マニア（横浜アリーナ）でプロ・デビュー戦を行う。

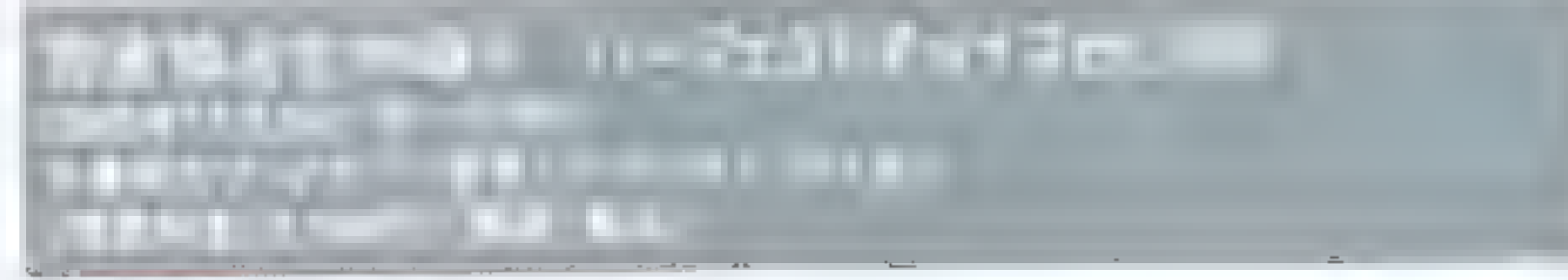
これから集中トレーニングに入りますよ あとは欲情しないように気をつけます！

安生洋二が語る
ハッスル、そして髙田モンスター軍

髙田総統、そして髙田モンスター軍を支える名参謀として試合に、記者会見にと、“水を得た魚のように”大車輪の活躍をみせているアン・ジョー司令長官。そんなアン・ジョー司令長官と同一人物疑惑が噂されるのが、安生洋二選手。これまでもプロレスと格闘技の両極をまたいで、ダイナミックな活動を続けてきた安生選手に、エンターテインメントの極北であるハッスル、そして現状のプロレス界に関して、存分に語りおろし ミスター200%の超本音トークを聞き逃すな！

聞き手／坂井ノブ、真下義之　撮影／平工幸雄　写真提供／DSE

designed by matsu（TwoThree）

ハッスルの構造はシンクロナイズドスイミングに似てる！ とシンクロを実演してくれた安生選手 なんとその背後には、同一人物疑惑の流れるアン・ジョー司令長官が・・・。

——え～今日は髙田総統にビターンされて以来、アン・ジョー司令長官としてハッスルで絶賛活躍中の安生洋二さんにハッスルに関してお話をうかがいたいと……。

安生　おいおいおい、アレは俺じゃないからね！

——えっ、安生さんじゃない？

安生　アレは違うんだよ！　ま、ハッスルは大好きだからPPVで欠かさず見てますけどね。でも、間違えないでほしいけど、アン・ジョー司令長官と僕とは、完全に別人ですから！

——なんだか余計、怪しいですけどねえ。

安生　ワハハハハ！　でも最近のハッスルを見てると、UWFよりも、心の中にビシッとハマる感覚があるんだよね。ハッスルの方向性やエンタメ路線はすばらしいよ。もう「ハッスルLOVE」ですよ！

——司令長官の記者会見や試合を見てても、本当に「水を得た魚！」という感じですもんね。

安生　だから別人だって言ってるだろ！

——す、すみません……。そんな安生さんのエンタメ好きってUインター後期の**ゴールデンカップス**※1が最初だと思うんですけど。

安生　ゴールデンカップスかぁ……なんか最近、昔の記憶が定かじゃないんだよな。もう20年選手になると、バンプ（受け身）を取ったときのダメージが頭に蓄積されてるからなあ。

——まさに「プロレス＝危険な職業」を心身ともに体現されているわけですね。

安生　いや「ワンバンプ、ワンバンプ命削ってるな～」って思うよ。だから、いまのプロレス界には「もっと大事にバンプとろうよ！」と言いたいよね。

——それはハッスルの方向性にも、通じそうな話ですね。話を戻すと、そのゴールデンカップスで印象的だったのは、**冬木弘道さん**※2とのハレンチきわまりない抗争劇なんです。安生さんがガムテープでぐるぐる巻きにされたり、パンティを被ったり、生きているタコや、生タマゴを出したり……と、かなりハチャメチャな勢いがありましたよね。

安生　う～ん。あれは俺というより、冬木さん主導の抗争だったからね。ま、生タコは俺のアイディアなんだけど。ちょっとエイリアンぽく、顔にのせたら面白いかなって（笑）。

いまのハッスルには「冬木弘道が足りない」のかもしれない。

——あれはグロかったですよね。で、冬木さんは、そのあと極端なエンタメプロレスに走ってゆくんですが。当時、冬木さんの活動に共感する部分はあったんでしょうか？

安生　いや実は、僕も当時から「プロレスやるならエンタメだな」って思ってたんですよ。

——それはちょっと意外ですね。

安生　自分で言うのもなんだけど、僕の活動って「総合格闘技から、エンターテインメントまで」ってすごく振り幅が広いじゃないですか。もうマット界の両端から両端に、針を振るような生き方じゃない？　生きざまそのものがドリームステージエンターテインメントの方向性と合致してるというか（笑）。

——確かに人生そのものが、DSEと完全に同調してますよね（笑）。

"顔面を腫らすプロレス"？ いまの時代とは合わないでしょ。

安生 ただ、ゴールデンカップスのころってアイディアはあったけど、お金がついて来ない……DSEみたいな経営手腕がなかったんだよね。でも、冬木さんが指向していたエンタメプロレスって今なら受け入れられると思うし。もしかすると、いまのハッスルには「冬木弘道が足りない」のかもね。

――いいこと言いますねえ。確かにハッスル軍にあんな人いたら抜群に面白いでしょうけど。

安生 モンスター軍とか独立軍にいてもいいしね。だから冬木さんにとっても、ハッスルって"夢のステージ"だったんじゃないかな？

――冬木さんのFMWもアイディア先行型で資金的には、四苦八苦してました。安生さんもアイディアが、ビジネスや動員に直結しない、いらだちはありましたか？

安生 いやいや、短期間だけど自分のビジネスには繋がってたんだよ！ ただ持続力が足りないのが、僕の弱点というか……。

――そのあと安生さんは、フリーとして様々な団体に上がることになるんですけど、実は"ド真ん中プロレス"を標榜するWJという団体にも上がってたんですよね。

安生 ま、WJの時はあくまで職人として腕を買われて行ったから、団体の方向性うんぬんを言う立場になかったしね。ただ行った瞬間から"こりゃ、合わねーな"って"もって1、2年だろう"と思ってたけど。

――ワハハハハ！ 具体的に手が合わない選手っていましたか？

安生 やっぱりトップグループかな。まぁ、ド真ん中な方々とは……プロレス観は合わないですよねえ。

――両極を極めている安生さん的には、ド真ん中な方たちとはスイングしないわけですね。

安生 両極でがんばっている人は、好きなんだけどね。ド真ん中とは縁がない。でも、この時代にド真ん中行っちゃってもねぇ。

――案の定というか、WJは1年で崩壊してしまいましたけども。

安生 WJだけでなく、いまはド真ん中的なプロレス自体、難しくなってきてるでしょ。ここ5年くらいで総合格闘技とエンタメという両極の世界がものすごく広がっているじゃないですか？（図1）そんな状況で「ここが世界の中心だ！」っていばっても、仕方ないじゃん。なんか昔、「地球は平らだ」って信じてた人たちが「そこ」、はじに行ったら落ちるよ！ だからド真ん中来いよ！」って叫んでるみたいじゃない。

――「地球は丸かった」って発見される前の人たちみたいですね。

安生 この時代に「地球は丸くないから落ちちゃうよ！ 地面はゾウさんや大きい人が支えてるんだよ！」って絶叫してる。そのくらいプロレス観の違いは感じますね。

――もう天動説と地動説の違いみたいですね。

安生 だからいまのファンが「ド真ん中プロレスに夢を見れない」ってのはわかりますよ。そこにあった夢はこの50年で食い尽くしちゃったんです！ 確かに昔は夢ありましたよ！ でも（ささやくように）「それは気持ちの中にとどめとこうよ……」って。

――ウハハハハ！ いい思い出にしようと。

安生 それは昔のことだから、いまはPRIDEとか、ハッスルに夢があるから、そっちにファンも進んでいくし、そっちで夢を見ようよ！と言いたいよね。

――そろそろ現実を直視してみようよと言いたいわけですね。

安生 UWFだってド真ん中な時期があったじゃないですか。僕もド真ん中で「俺が世界一強いぞコノヤロー！」って言ってたわけだし。その勢いで当時、最強と呼ばれたヒクソン・グレイシーのところに「何が最強だ！ コラー！」って殴り込みかけたら……そこでまったく違う風景が見えてしまったわけですよ。そこから、プロレスの方を振り返ったら「ド真ん中からは、こんなに遠かったんだ……」ってすごいショックを受けたわけ。

――「地球って丸かったんだ」みたいな大発見をしてしまったと。

安生 でも、そういう発見があったから、日本の総合格闘界は広がってった訳じゃないですか。

――まさに歴史の分岐点でしたよね。そういう意味でも安生さんは言うなればマット界のガリレオ・ガリレイですよね！

安生 そう！ マット界の格闘ガリレオ・ガリレイは俺ですよ！……って、そうなのかなぁ（笑）。

――そんな格闘ガリレオ・ガリレイにとって、最近、プロレス界でよく言われてる「顔面を腫らすプロレス」というキャッチフレーズはいかがですか？

安生 う～ん。いまさら何言ってんの？ って感じですよね。だって、「顔面を腫らす」以上の「顔面が破壊する」ような試合をPRIDEが見せちゃってるわけですから。

――そうですね。ヒカルド・アローナ戦のような顔面がボコボコに破壊された桜庭選手の姿がお茶の間に流れちゃってますしね。

安生 それが日本中で放送されてる状況なのに、いまさら「顔面を腫らすプロレス」ってどうなの？ ノーガードで打ち合うの？ って話ですよ。ギャラがPRIDE並みならいいけど。普通のプロレスのギャラで「やれ！」って言われたら、僕は絶対に受けたくないですよ。

――しかし安生さんて、プロレスをやるにせよ、格闘技をやるにせよ、ものすごくギリギリのところを歩いてる感がありますね。

安生 でも危険を承知して歩いてみると、「なんだ結構、道幅ひろいじゃん」って思うけどね（笑）。

総合格闘技方面はその大変さや危険度がわかりやすいですけど、エンタメ側はエンタメ側で、わかりにくい分、踏み出す勇気はハンパじゃないでしょうね。

安生 いや、そのプレッシャーたるや、すごいですよ！ ただハッスル

"マット界の
ガリレオ・ガリレイ"
安生洋二が語る

『二極化』が進むマット界

図1：マット界の格闘ガリレオ・ガリレイこと安生洋二選手が、現在のマット界を超単純化するとこうなるの図
極化する現在の構造が非常によく理解できます

の怖さや革新性っていう意味では、世間からの理解度はまだ足りないよね。でも最近のハッスルの会場っていまのプロレスにないくらい熱があるわけじゃないですか。

　ここ数回、ハッスルの地方大会も見てますが、7月の大阪大会をはじめとして、どこも盛り上がりは凄かったですよ。

安生　いま、ド真ん中プロレスであの熱をつくりだせるかっていうと難しいんじゃないかな。本当に命懸けで試合をやるしかない。でも、ハッスルって見えない部分で、ものすご～くエネルギーを使ってるんだよね。上半身では笑顔でバカバカしいことやってるように見えるけど、下半身は水面下でシンクロみたいに無我夢中で足をバタバタやってる（と実演）。この差ですよ！　そうハッスルってシンクロプロレスなんですよ！

——シンクロプロレス！

安生　だって、ハッスルに上がったレスラーに聞くとマイクにしても、演出にしても「ものすごく難しい」って言いますもんね。一見楽しそうに見えても、違う角度でもがいてるんですよ。

——でも、ハッスルの現場って本当に楽しそうだし、結束力があるように見えますよね。最近では「髙田総統一座」みたいなまとまりが出てきてますし。

安生　だから、ハッスルはもっとデカくならなきゃおかしいですよ。髙田総統なんてズバぬけた才能の持ち主だし。もっとキャラを活かせる方法論もあると思うしね。

——最近はハッスルの記者会見も、異常にクオリティが上がってて、しかも面白いですよね。8月に行なわれた東宝の会見（映画『セイザーX』に髙田総統の出演決定会見）も本当に素晴らしかったですし。

安生　東宝の会見は凄かったよね。長さにして15分以上はあったんじゃないですか？　ホームページの映像で見たけど、アン・ジョー司令長官も飛ばしまくりの髙田総統についてくので必死だったよね（笑）。髙田総統は完璧なお方だから、そこで足を引っ張るわけにいかないし、そのプレッシャーとの闘いたるや、毎回毎回、凄いものがあるし、ホント楽じゃないですよ！　も、もうハンパじゃないですよ！

8月18日、東京・東宝スタジオで行われた映画「セイザーX」の撮影に、髙田モンスター軍・髙田総統が来場、その場で記者会見を開き、自らの映画出演を公表した　この記者会見は髙田総統史上でも最高レベルのクオリティで関係者の度肝を抜いた

——あれ、安生さんとアン・ジョー司令長官とは別人なんですよね？

安生　……いや、ミーの想像ですよ。

——み、「ミーの」……。

「髙田総統一座」なら、世界中どこに行っても通用しますよ！

安生　いや、私の！

——怪しいなぁ。

安生　（気を取り直して）まぁ、客観的に見ても髙田総統の場の空気を読むセンスって本当に凄いよね。あんなに雰囲気を読める人っていないし、マイクも完璧だしね。

——それから髙田二等兵とアン・ジョー司令長官のコンビの息も絶妙ですよね。もう10年来のコンビを見ているようですよ。

安生　トークすると、際限なくしゃべってますからね。端から見てても、これはすごいコンビネーションだな、アン・ジョー司令長官もすごい相方見つけたな～って思いますね（笑）。

——そのあたりもSADAMEなんでしょうね。それから、インリン様といういまや、ハッスルの象徴的な人に関してはいかがですか？

安生　いやインリン様は、ものすごいっすよ！

——おお、またもや絶賛ですね。

安生　インリン様って異様にリング映えするからすごいよね。ああいう華やかな雰囲気を醸し出せる人って、リング上でもこんなに見事に自己表現ができるんだなって本当に感心してますよ。

——会場の空気が一変しますよね。

安生　じつはリングに上がるって最初に聞いた時には"そんな簡単なものじゃないだろ"って思ったんですよ。"プロレスは四方向すべてが舞台だよ。その苦しみがわかるのかい？"って思ってたけど。僕らが高いと思ってたハードルなんてひょいひょい乗り越えて、もうダントツで光っちゃいましたからね！　もう大リスペクトしてますよ。

——そう考えると髙田モンスター軍って本当に最強の一座ですね。

安生　だから、もっと世間に打って出て行きたいし、「この一座なら世界中どこ行っても通用するんじゃないか？」って思いますもん。

——逆に現時点で、ハッスルの弱点というのはどこでしょう。

安生　う～ん、いちファンとして見ると、興行としてもっと時間をかけた方がいい部分もあれば、もっと削れるものもあると思うんですよ。

　ハッスルっていい意味で「アイディアを詰め込みすぎ」な部分がありますからね。

安生　地方大会も全力でやってますからね。でも、その中には微妙なのもあるじゃないですか。ハッスル9（新潟）に出てきたイナゴライダーとかカマキリジャックとかはちょっとツラかったよね（笑）。

——でも、ハッスルって舞台装置や演出がすごく整ってるじゃないですか。だからキャラクターに没入できる人はものすごく光りますよね。

安生　だから、そういう意味でも、プロレスラーにとってハッスルは"踏み絵"なんですよ。プロレスラーとしてド真ん中の世界でも暮らしている人は、ハッスルでは二重人格にならないといけないでしょ。だから、今のハッスルの弱点は「レスラーを丸抱えして、ハッスルに専念させられない」って部分かもしれない。

——最近は、だいぶメンバーが固まってきましたが、最初は「寄せ集め感」もありましたもんね。

安生　まだまだ「寄せ集め感」はあるけどね。それにやっぱり「いちプロレスラー」という気持ちが強い選手もいるでしょうし。

——そういう意味では、"ハッスルK"（取材後にハッスル軍から髙田モンスター軍入りして、"モンスターK"に転向）として活躍中の川田利明選手はいかがですか？

安生　僕は全日時代の川田さんとも試合しているけど、"ハッスルK"とはやっぱり違いますね。他の団体でプロレスの試合をする"デンジャラスK"と、"ハッスルK"のマインドは完全に違うでしょ。試合にそれがハッキリ出てるわけじゃないけど、内面的には完全に別物だと思うし、彼はハッスルでの活動を心から楽しんでいると思います。

——それはいち観客として見てても伝わってきますね。会場の「K！」というかけ声も、おちゃらけじゃなく、ポジティブに響きますし。

安生　他のプロレス団体では激しい試合ができるし、ハッスルでもハジけた自分が出せるからすごいよね。でも、最初はすごくジレンマもあったと思う。ただ、明らかにイン

上半身は笑顔、下半身はもがいてる。ハッスルは「シンクロプロレス」ですよ！

リン様の登場あたりからハジけましたよね。これは想像なんだけど、ある意味、インリン様に対して「おいしいから、あのキャラに俺も絡んでみたい」「存在感の勝負で俺が倒してやる」という部分はきっとあったと思いますね。

――そこには、川田さんのシュートなモチベーションがあったわけですね。

安生　そうです。ハッスル的シュートです。ハッスルって本当に人間力のシュートファイトなんですよ！

――その人間力の対決という部分で言えば、個人的にはEricaさんがハッスルで初めて試合した札幌の試合（Erica、石狩太・vsアン・ジョー司令長官、アリシンZ）が強烈だったんですよ。もう観客席もハッスルで見たことないくらい、ドッカンドッカン沸いてたし。

安生　お～そうですか。

――しかもその試合って、極端に言うと、Ericaさんが「イター！」ってかわいこぶって、それを見たアン・ジョー司令長官が「オエー！」とかやってるだけじゃないですか（笑）。でも、それで試合がきちんと成立してるのって、ものすごいなって思ってたんです。

安生　いや、僕のプロレス観で一番大事な部分ってそこなんですよ。技なんかいくら出しても、響かないものは響かないんだよね。でも、そこにアン・ジョー司令長官とEricaというキャラクターや、人間力の激突があるから、お客さんが引き込まれていくわけでしょう。その試合は技なんてほとんど出してなかったでしょ。キャラクターの立ち居振る舞いや間合いだけで、お客さんが見いってしまう、これこそライブプロレスの醍醐味ですよ！

――その後、Ericaさんを主軸とした男女タッグマッチはハッスルで定番化しましたけど。それまでは、あそこまで極端なスタイルの試合って日本ではなかなかお目にかかれなかったですよね。

安生　でも、そう考えるとすごくないですか？　いまの時代、「顔を腫らすプロレス」をやっても、お客さんって簡単には反応しないと思うんですよ。だって「ミルコvsヒョードル」戦を見た後に、「顔面を腫らすプロレス」を見て感動できるかって言ったら、すごく難しいでしょう？　でも、アン・ジョー司令長官とEricaの試合を見たときに「ばかばかしいけど、おもしれえな～」って思わせる方が「顔を腫らすプロレス」よりも新しいし、勝ってると思うんですよね。

――ハッスルには演出や進行の面でつくりこまれてる印象がありますが、いちプロレスラーとして見ていてどう思いますか？

安生　まぁ、これも想像なんだけど……きっとメチャクチャやりやすいんじゃない？

――逆にやりやすいですかね。

安生　普通のプロレスって自分の我をいかに出すか？　どう目立つか？　という部分が大きいでしょ。でもハッスルって方向性がしっかりしたものを消化しながら、一緒に作りあげてゆく作業ですよね。プロレスの世界ではなかなかないことだし、ハッスルって「今日は一歩引くけど、その代わり、明後日はもっと自分が出るよ」という印象がある。だから、イベント全体にすごく調和感があるんだよね。

最近のプロレスは、イベント全体の調和感ってあまり感じないですよね。

安生　そういう意味で、プロレスで調和感があったのは……やっぱり猪木さんがトップを張っていたころの新日本プロレスとか、手前味噌だけど、髙田さんがトップだったころのUインターとかね。「トップレスラーがひとり」って構造は負担も大きいけど、すごく安定してるし、調和とバランスが取れた興行が出来る。だから実は、昭和プロレスのいい部分をひきづっているのが、ハッスルなんですよ！

――おお～素晴らしい。これまたガリレオ的な大発見ですね。

安生　ワハハハハ！　今日は見出しになりそうな言葉がポンポン出てくるなあ～。やっぱり凄いなあ～、俺って（笑）。でも今のプロレスのダメな部分はそこだと思いますよ。もう前座も中堅も関係なく、プロレスラーの「俺が俺が」という我ばっかり目立ってるでしょ。たしかに我のぶつけ合いはプロレスの醍醐味でもあるんだけど、小さな我のぶつけ合いや、“おまえが我を出してどうすんだよ？”っていうレスラー同士の我のぶつけ合なんてファンも見たくないし、ビジネスにもなりませんよ。

――90年代の複数スター性がもたらした弊害かもしれませんね。

安生　トップに立つ人ってものすごくプレッシャーがあるし、我の強さだけではやれない。でもプロレス団体や興行ってトップ選手を「この人、とてつもなくすげえな」と思えるから、成り立つんです。でも、今のプロレスってそういうリスペクトが少ないと思うんですよね。トップの選手を心からリスペクトできないから、つい自分を優先してしまう。

――そういうピラミッド構造の現場って、トップ選手を神輿にのせて盛り上げてこうっていう熱気がありますよね。

安生　うん、だからこれも想像だけど、きっとハッスルの現場にはそういうものがあると思うよ。やっぱり誰もが「髙田総統にはかなわねえな」って思ってるだろうし。マイクにしても、会見にしても、本当に実力絶対主義の世界ですからね。そういう勝負でも凄い実力を発揮して、みんなを納得させている、髙田総統はやっぱりハッスルの神なんですよ。

――やっぱり安生さんにとって、髙田さんはいつまでも神なんですね。

安生　うん、だってもう20年前からビターン受けまくってるからね。……って別人だって言ってるだろ！

――す、すいません！　そして本日は素晴らしいお話をどうもありがとうございました。

【8月31日／DSE事務所にて収録】

※1　ゴールデン・カップス　UWFインターナショナル後期に安生洋二をリーダーとして結成された、髙山善廣、山本健一によるエンタメユニット。U系という概念を超えた、反則攻撃、お笑い要素を導入。バラエティ番組出演、歌手デビューまで果たし、一世を風靡した

※2　冬木弘道さん　日本プロレス界でエンタメ路線を誰よりも早く推進したレスラー。史上初の男女金網デスマッチの実現、AV嬢をリングに上げたり、FMW荒井社長（当時）にリングで放尿したりとまさに“5年早い”エンタメプロレス道を邁進するも、02年にガンを告白し引退　03年3月に永眠した

1967年、東京生まれ。高校時代から柔道に熱中、卒業と同時に第一次UWFに一期生として入門。UWF崩壊後も第二次UWF、UWFインターナショナル、キングダムとUWFの流れを追い続けた。新日本プロレスとの対抗戦以降は、ゴールデン・カップスを結成し、エンタメ路線と格闘技の両輪で活躍。94年12月、ヒクソン・グレイシー道場への道場破り事件は、その後の「ヒクソンvs髙田」戦、そしてPRIDEが生まれるきっかけになったあまりに重要な事件。ハッスルで活躍中の髙田モンスター軍、アン・ジョー司令長官とはあくまで別人

後楽園ホールに初登場したHGの人気が凄い!! メインのイリミネーションマッチを制した大谷をもしのぐ大声援で迎えられた。最後はハッスル軍と新GMでハードゲイ・ハッスルポーズで締めくくった

試合開始前の映像の中で高田総統がHGに言及。「私より目立つな」「It's monster time in 後楽園 ・総統、フゥーッ!!」とかなり意識しまくっているご様子。高田総統の磁場も狂わすとは、おそるべしHGフィーバー。

この日のインリン様は大きく背中があいた純白のドレスに王冠をつけたゴージャスな出で立ち。メインの前、FUJIN&RAIJINに担がれてリングに登場するとモンスターたちをムチで叩いて「やれんのかーっ!?」と闘魂(?)を注入。

後楽園、いやモンスターホールに初めて「総統」コールが発生。いままでブーイングを強制してきたモンスター軍が遂に声援を送ることを許可したのだ。胸を叩きながら右手を高く掲げ「ソートー!」と叫べ!

高田総統は2日後のハッスル12の小川&川田vsインリン様&FUJIN&RAIJINでハッスル軍が勝てば、ハッスル・マニアで一騎打ちをすると約束。「私はやると言ったらやる男だ」と自信たっぷりに言い切った。

「そこの腰振りサングラス!!」と高田総統に挑発されたHGは腰を振りまくり。「腰が止まったらしゃべる」という総統に対してさらに腰振り!!　しまいには総統が「待ちきれないからしゃべる」と根負け? 「遊び半分でリングに上がったら二度と腰を振れないようにしてやる」と警告した。

約半年ぶりに東京で行われたハッスルはチケットが完全にソールドアウトする大盛況となった。静岡、新潟、札幌、福岡、大阪と初上陸の地を渡り歩いてきた半年間を経て、ハッスルがどのように変化しているのか楽しみにしていたファンも多かったはずだ。会場にいるだけでその期待が非常に大きさは伝わってきたが、ハッスルはその期待をもいい方向で裏切るような、すさまじい進化を遂げていた。

とにかく写真をご覧頂ければわかるとおり、大小さまざまなネタがこれでもかと散りばめられた力のこもった大会となった。久しぶりの東京大会ということで選手やスタッフにも気合いが入りまくっていたのがわかる。

そして、これだけ盛りだくさんの内容でバラエティに富んだ後楽園ホール大会を最後にビシッと締めたのはレイザーラモンHGだった。メイン後に乱入してきて、大谷からテーマ曲を譲り受け、総統を腰振りで挑発して根負けさせ（これは快挙！）、最後を締めくくった。これは本来なら“キャプテン・ハッスル”小川直也、つまりエースの仕事だ。いまをときめくお笑いゲイ人とはいえ、この日最高の大歓声で迎えられ、ビシッと締めてしまうのだから、ハッスルの中でのレイザーラモンHGのポテンシャルは相当高い！

プロレスラーとしては1試合もしていないにもかかわらず、HG登場でこれだけの熱気が生まれるという現象から、ハッスルが従来のプロレ

デビル夫人
モンスター軍に足を破壊されたEricaが、[illegible]と鳴き声を上げると、[illegible]オペラ座の怪人に乗ってデビル夫人が登場。[illegible]の拡声マイクに「おだまり!」と絶叫すると、全員すくみあがった

[illegible]
[illegible]ハッスル総選挙の投票方法を説明[illegible]

ジャスティライザー
映画『劇場版セイザーX』（東宝系で12月17日に公開）に出演した際、高田総統が正義のヒーローであるジャスティライザーに[illegible]ジャスティライザーはハッスル仮面の試合後に乱入してアピール[illegible]

石狩レポーターは選挙速報も担当

この日の石狩劇場は選挙の開票作業で緊迫する選挙管理事務所から、レポーターとしてお届け"控室のスーパースター"の面目躍如だ

レポート後、「選挙のとき当選したらたるまに目を入れるんだよな。あれやってみたいな」と言いながら、ポスターの川田のイラストをだるまに見立てて目玉入れ。

そこでお約束、川田が登場! 試合前だというのに呑気なイタズラをしている石狩に強烈なお仕置き。この後、カメラ目線で「お前ら、選挙行け! コノヤロー」と怒鳴る。最近、川田の"いかりや"化が著しい

美男と野獣とモンスター軍

Erica率いる美女軍団はあの手この手でハッスル軍の男を漁り続けているが、この日はなんと下剤まで持ち出して"色男の中の色男"カズ・ハヤシとのタッグ結成してしまう。

この日のマーガレットも乙女心が大爆発。アリシンZにはご覧の表情でマーガレットの花を差し出す……が、踏みつけられて絶叫&激怒。

"Jの中のJ"ザ・モンスターJの人気が大爆発!! とにかく「J」「J」とポーズを決めまくり、後楽園に集まったマニアの心もガッチリとつかんだ。

飲んで飲んで飲まれて飲んで……

坂田はコールマンに試合中飲むな、と忠告。「飲まなければ楽園パラダイス」と約束をするのだが……果たして?

ハードコア戦 黒田&田中を相手に、坂田&コールマンはいいところまで追い詰めるのが、黒田が持ち込んだ凶器・ビールを目にした瞬間、コールマンは四方に「カンパ〜イ!」で一気飲み。

美女との飲みの機会を逃したコールマンは絶望&猛烈な悔しがり。美女とのお祭りは逃したものの、あまりの悔しがり方に坂田も「一晩しっぽり過ごせる女を見つくろってやる」と

軍鶏侍の新技?「AHE」(アへ)って何?

軍鶏侍の当たったためしがないエルボーに「当たれば百発百中エルボー」(AHE=アへ)という名がついた。イメージ的には「STO」。

気合いの入る軍鶏侍だったが、それでもやはりエルボーは自爆。当たれば百発百中なのに……やっぱり当たらない。

安田はこの日もモンスター軍の札束攻勢に屈するか「オレはモンスター軍でもハッスル軍でもねえ。カネをくれる方の味方だ!」と宣言。

ドキュメント ハッスル総選挙

ハッスルの最も長い一日——。

➡選挙当日、会場のロビーで街頭に立ち、笑顔で観客と握手して選挙活動を行う両候補。多くのファンが握手を求めた。

⬆大会開始前、リングで政策論争を行う両候補。改革を掲げる草間候補はいきなりリングに上がり一歩リード。出遅れた笹原候補に「遅刻ですか?」と先制パンチを見舞った。

➡笹原候補の"まったくのオリジナル"決めポーズである「I am GM!!」をパクった草間候補は「やってみたかったけど、イマイチだな」。これには笹原候補も憤慨するが時すでに遅し。

➡休憩時間はハッスル・ガールも投票箱を持ち、ファンの投票をリングサイドで受け止めた

➡モンスター軍とハッスル軍がモメ始めると、モタモタして仲裁に入らない笹原候補を突き飛ばして、「シャラップ」。ちなみにハッスル軍の中村カントクは新しいハッスルを作る決意で現場カントクの衣裳

⬆そして長かった1日が終わりを告げ、当選した草間新GMがたるまを持ってキャプテン・ハッスルに担がれてリングイン。「不良在庫を一掃します」と就任の挨拶

スから逸脱しながらも支持を得ていることがわかる。もはやプロレスに異物を混入するだけではなく、ハッスルのスタイルが成熟しはじめていることを証明した形となった。

HGによってハッスル全体の雰囲気に少しずつ変化が出てきた。肩から荷が下りたキャプテンは、いつもよりもマイクが滑らかで、高田総統にガンガンかみついていった。高田総統はHGを挑発しまくり、川田は浮かない顔でハードケイ・ハッスルポーズに拒否反応を示した。

ひとりひとりの生存競争もさらに過酷になってきた。新キャラが惜しげもなく投入されたことで、レギュラー陣にも危機感が生じたのか、いつも以上にハッスルしていた。特に、マーク・(アル)コールマンやマーガレットやザ・モンスター・Jといった常連の存在感と感情表現が際だっていた。PRIDEのヘビー級やミドル級で日本人が外国人の体格とパワーを超えられないように、このままだとハッスルでは外国人の感情表現に日本人が太刀打ちできなくなる日が来るかもしれない。

これだけ見どころが盛り込まれて混沌とした中から、イベント全体には緩慢な印象はなく、むしろ調和が生まれたことは奇跡的だ。全員がひとつの方向性を見て、イベントを作り上げていくというチームワークのような連帯感がハッスル内には生まれつつあり、またそれを観客が楽しもうとする空気がある。ハッスルはハッスル・マニアを前にハッスルは新たなステージに突入した。

高田総統と"モンスターK"がガッチリ握手!!の図。04年のハッスル2から、総統が語っていた「例の計画」の正体は川田だった!

興業のラストを締めたのは新生"モンスターK"こと川田利明。総統のハマキを吸いつつ、ハッスル軍に「バッドラック!」

失神、裏切り、共闘……
ハッスルでプロレスダイナミズム"大復活!!

ROAD TO ハッスル・マニア2005

9月10日［愛知県体育館］
ハッスル12

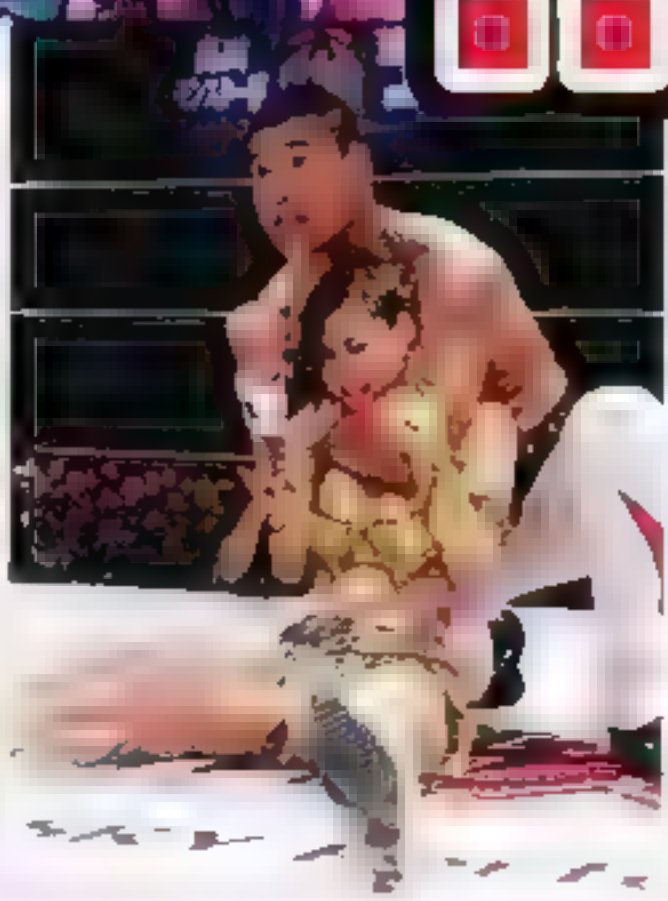
構成／真下義之
撮影／平工幸雄

designed by matsu TwoThree

中世の騎士団を思わせる、フードのついたガウンで登場したインリン様。フードで顔をスッポリと覆ったままリング上のコールを待って、金色のニュー戦闘服を堂々と披露。会場はため息につつまれる。

インリン様を渾身のスリーパーで締め落とす小川。エロチックに崩れ落ちるインリン様の姿に視線はクギ付けた!

場外マットに横たわる瀕死のインリン様の姿。美しくも悩ましい官能の女王が、ハッスルデビュー以来、最大のピンチ到来。

インリン様、絶体絶命のピンチを救ったのは、なんと"ハッスルK"だった。小川を急襲した川田は、小川の顔面へサッカーボールキック。最後はインリン様をエスコートしつつ、3カウント奪取!

"ハッスル・マニアまであと54日"というタイミングのこの日。メインイベントはインリン様、FUJIN、RAIJIN vs 小川、川田という現在のハッスルのベストカード。その上でハッスルが選択したのは、しごく真っ当に観客を裏切る方法、つまりストーリーライン上のドンデン返しだった。「失神、裏切り、そして共闘」、これら由緒正しきプロレスの黄金パターンを盛り込みつつ、一夜の"ファイティング・オペラ"として再生させる試み。そこにはゴールデンタイムに熱中した、あのプロレスたちのダイナミズムが確かに宿っていた。

「意味深なフード付きのガウンをかぶって入場するインリン様（表情は決して伺うことができない）」「小川のチョークスリーパーによる、インリン様の失神（場外悶絶と戦線離脱）」。そして「川田によるハッスル軍の突然の裏切り行為」から「高田総統と川田の劇的な握手（共闘を示唆）」。そのどれもがいつか見たプロレス的光景。だがそれらは単純な焼き直しでなく、充分に練りこまれた上で観客に提示されていた。そしてこの部分こそハッスルという舞台の本質的な強度にほかならない。

さわついた空気が流れる会場。何があっても"笑ってスルーする"のが最上のマナーとされるハッスルワールド。だが、「川田のヒールターン（高田モンスター軍入り）」というバッドエンディングは、ハッスルの既定路線をくつがえすものだったし、名古屋の観客はこのストー

新キャラ図鑑 Todays New face

Hi69
総統も「[illegible]」と呼び方がわからなかったハッスル軍の新鋭レスラー（呼び名は「ひろき」）。KAIENTAI-DOJOに所属。[illegible]サルトなど軽快な技を連発するが、鬼蜘蛛の蜘蛛殺法の前に敗れる

ひつま武士
名古屋のご当地モンスター。戦火で焼かれ、身を切り刻まれ、おひつに押しつぶされたうなぎの怨念を持ち、侍の魂を持つ侍モンスター。得意技は竹刀を持っての円月殺法

モンスター・コメ兵
ひつま武士の部下で、不必要な[illegible]コメ兵。観客の持ち物を[illegible]その判定基準はかなりの[illegible]

草間新GM、衝撃の初仕事！ 長州力、ハッスルに電撃復活！

試合後の坂田がリングサイド女性客のナンパに励んでいると、草間新GMが突如、坂田へ制裁を表明！ 自分の刺客との対決を迫るが、そこへ藤井軍鶏侍が登場し、刺客との対決を要求。そこで草間GMが呼び込んだのは、なんと長州力！ 大長州コールの中、わずか3分39秒、リキラリアットで軍鶏侍に完勝。これを見た坂田は長州との対戦を要求した。

デビル夫人が降臨！ 堂々のデビューを飾る！

Ericaの話によると「超お金持ち」という噂のデビル夫人がリング初登場。豪華絢爛なドレス姿で登場し、「おたまりー」のひと声で他のレスラーを圧倒する存在感。

ドレスを剥がれたデビル夫人の怒りが沸騰！ 指さすだけで、ブランカは直立不動

怒りをブランカXにぶつけたデビル夫人は、ブランカXに高角度のデビル・マダム・ボムをきめ、優雅なポーズで勝利をアピール。

笹原元GMが降格！ VTRにハードゲイ登場！

ADスタイルに身をつつみ、「正しいハッスルの仕方」に登場した笹原元GMは、「前説扱い」に舌打ちを連発！

岸本2代目PRのオープニングには、草間GMの意向で、初代ハッスルイメージガールの2人が乱入、仕事を強奪。

普段は高田総統が登場する、タイトル前のVTRにレイザーラモンHGが登場！「天むすフォーッ!」「名古屋フォーッ!」と炎上

HUSTLE.12 TOPICS

➡蝶蜘蛛とのタッグで第1試合に登場した、"中の中のJ"、モンスターJはこの日も会場人気が大爆発。大きく振りかぶってのJホースをキメて大喝采を浴びた。

➡"ゴールデンロッド"に目をつけた借金王、安田がHHH挑戦権に登場。モンスター軍からの現金勧誘に応じつつ、省エネ戦法で勝利。ゴールデンロッドを売り払ってギャンブル三昧か？

➡酒浸りで、今やすっかりダーク・アルコールマンと化したコールマン。坂田の忠告で「断酒」を誓うも、大谷との試合中にガマンできず「カンパーイ！」とビールをガブ飲みして敗北。

➡"ハッスルのホームタウン"として知られる名古屋大会は、この日も7604人と超満員の観衆を動員。草間新GMは「来年のハッスル・マニアは名古屋で開催する!」と発言。

リー展開を意外なくらい真正面から受けとめた。それは、いつもなら何を言っても盛り上がる高田総統劇場へのリアクションが、異例と言っていいほど薄かったことにも表れていた。観客はかつて「王道プロレス」の象徴的な存在であった川田利明が、ハッスルを象徴する高田総統とガッチリ握手する構図にとまどいを隠せない。そこへ追い打ちをかけるように高田総統は「プロレスを、守る前につくれ！ 守るのではなく、つくり出せー」「守る前につくれ！ 守るのではなく、つくり出せー」と連呼してみせる。

ハッスル・マニアでの高田総統のリング登場、というラインはこれで覆されてしまったのか？ エンディングでは高田総統から手渡されたハマキをふかした川田こと"モンスターK"が、無表情のままマイクを握る。「小川、いやチキンくん…そういうことだよ。バッドラック…」

2日前の後楽園大会では、レイザーラモンHGの爆発的人気や、摩邪の登場といった「芸能路線」を見せつけたハッスルが今回は、あまりにわかりやすすぎるが故に、誰もが手をつけなかった旧来のプロレスダイナミズムをどこよりも洗練されたパッケージで再提示してみせた。これを受けて11月3日のハッスル・マニア（横浜アリーナ）では、一体どんな風景が立ち上がるのか？「守るのではなくつくり出す新プロレス」を妄想しつつ、来るべきその日を心待ちにしたい。（真下義之）

BITAAAN! メッシュキャップ
[ブラック/パープル] ¥3150(税込)

髙田総統フェイスタオル
¥2100(税込)

SHUT UP! Tシャツ
[S·M·L·XL ホワイト×レッド] ¥4200(税込)

ビビったか? たじろいだか? Tシャツ
[S·M·L·XL ブラック/ホワイト] ¥3990(税込)

BITAAAAN! Tシャツ
[S·M·L·XL ホワイト] ¥3990(税込)

c-pod Tシャツ
[S·M·L·XL ホワイト] ¥3990(税込)

j pod Tシャツ
[S·M·L·XL ホワイト] ¥3990(税込)

「紙プロ」通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます

★全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい)

★代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

「紙プロHand」でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00〜22:00
(株)ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承下さい)。

キャプテン リストバンド[ホワイト/ブラック] ¥1050(税込)
ハッスルK リストバンド ¥1050(税込)
あちち リストバンド ¥1050(税込)

HUSTLEロゴTシャツ
[S·M·L·XL ホワイト/ブラック]
¥3990(税込)

インリン様Tシャツver2
[S·M·L·XL グレー]
¥3990(税込)

インリン様Tシャツ
[S·M·L·XL ブラック]
¥3990(税込)

ハッスルロゴTシャツ
[XS·S·M·L·XL ホワイト/ブラック/イエロー/レッド/ピンク/ブルー/グリーン/オレンジ]
¥3990(税込)

ハッスルK Tシャツ
[S·M·L·XL ブラック]
¥3990(税込)

ハッスルストラップ/キーホルダー
各¥1050(税込)

紙プログッズもハッスル中!!

赤いキャップの頑固者Tシャツ
S·M·L·XL ブラック
¥3800

マット・ガファリTシャツ
S·M·L キナリ
¥3500
XL(完売)

ガファリ・バスターズTシャツ
XS·S·M·XL ホワイト
¥3000
L(完売)

カズ・HTシャツ
S·M·L·XL ブラック
¥3465
XS(完売)

COZY BAKA Tシャツ
S·M·L·XL ブラック
¥3465
XS(完売)

"破壊王" 故 橋本 真也 お別れ会
破壊王、故郷へ帰る——
8/28 岐阜県土岐市にて
最後の10カウントゴングが
打ち鳴らされた……。
7月11日に急逝した橋本真
の四十九日法要
岐阜県土岐市で、しめやかに営まれた。『紙プロ』の
月中旬発売の破壊王本の取材も兼ね、破壊王が愛した故郷・土岐を訪
構成／松澤チョロ　写真／丸山剛史

橋本さんの遺骨は母と同じ墓に納められた。納骨式には闘魂三銃士の盟友でもある蝶野正洋、そして橋本さんの最期を看取った冬木薫さんも子供と一緒に出席。お墓に手を合わせた薫さんは涙を浮かべ最期の別れを惜しんでいた

四十九日法要、納骨式の後、岐阜県土岐市内の嶋香寺の和尚さんと橋本さんの妹の真生さんから、橋本真也さんの戒名が「天武真優居士（てんぶしんゆうこじ）」と付けられたことか発表された

今年の夏は破壊王に泣かされ、破壊王で日焼けした夏でもあった。

破壊王ショックで泣いた話は、ターザンにあちこちでさんざん書かれたので、あえて説明はしないが、とにかく泣いた。不思議なぐらいに。

もう一つの破壊王で日焼けしたというのは、お通夜が行われた7月15日、そして告別式が行われた翌16日、両日ともカンカンの真夏日。取材のため長時間、横浜の斎儀場に立ちっぱなしでいたら、思いっきり日焼けしてしまったという、それだけの話なんだけど。

そして、8月28日。やはり、この日も暑かった。夏も終わりが近づいてきたとはいえ、午前中から、お寺やら、お墓を行ったり来たりし、またしても破壊王日焼けしてしまった。結局、今年の夏は海にも行けず、長時間、直射日光を浴びたのは、この3日だけ。夏と日焼けと破壊王。それもある意味、いい思い出とも言えるかもしれない。

というわけで、さいたまスーパーアリーナでヒョードルvsミルコ戦が行われている28日、ボクは故・橋本真也さんの四十九日法要が営まれる岐阜県土岐市内の嶋香寺に向かっていた。午前10時開始ということで、東京を出たのが午前7時過ぎ、寝ぼけまなこをこすりながら嶋香寺に着くと、すでにマスコミが数人集まっていた。驚いたことに、橋本さんの生家はお寺のすぐ隣にあり、通りかかった和尚さんによると、橋本さんは小さな頃からお寺の境内で、どこからか持ち込んだ丸を割って遊んでは、おばあちゃんから「何やってんだ、コラーッ!」と叱られていたという。まさに子供の頃から破壊王。期待を裏切らない暴れっぷりである。

しばらくすると、新日本の蝶野正洋が黒づくめ（当たり前）で現れた。聞くところによると、蝶野は橋本さんのおばあちゃんが亡くなったときも、東京からわざわざ岐阜まで駆け付け、おばあちゃん子だった橋本さんを励ましていたという。闘魂三銃士の中で蝶野が一番の常識人と呼ばれているのも、ある意味、納得の話である。その後、橋本さんの最期を看取った冬木薫さんが2人の娘と共に姿を見せると一斉に色めき立つマスコミ陣。しかし、薫さんは、この日は一切ノーコメント。

嶋香寺から近隣の墓地へ移動し、30人ほどの親族が出席して納骨式が行われ、その後、橋本さんの戒名が「天武真優居士（てんぶしんゆうこじ）」と付けられたことが和尚さんから発表された。

その後、午後15時からセラトピア土岐で土岐市体育協会と地元の柔道協会主催で故・橋本真也さんの市民葬（お別れ会）が行われ、近親者、関係者、一般ファンら約800人がつめかけた。お別れ会の会場には、たくさんの橋本さんの写真が展示され、設置された大型ビジョンでは在りし日の橋本さんの試合映像が繰り返し流されていた。

お別れ会では、司会者のコールの後、大音量の「爆勝宣言」に乗って遺影を持った大地君と茉莉ちゃんが入場。あらためて、橋本さんを偲び10カウントゴングが打ち鳴らされた。その後、塚本保夫土岐市市長から橋本さんの功績を称えスポーツ栄誉賞が長男の大地君に手渡されると、続いて土岐市柔道協会会長の加藤氏、同級生の清水さん、橋本さんの柔道時代の恩師でもあり父親代わりの高塚正敏氏らが、それぞれ橋本さんとの思い出を語った。

戒名は『天武真優居士』

てんぶしんゆうこじ

一般ファンも含め約800人が参列した故・橋本真也さんお別れ会。長男の大地君、長女の茉莉ちゃんと並ぶのは橋本さんの柔道時代の恩師にして父親代わりでもあった土岐市柔道協会理事長の高塚正敏氏。

破壊王の前夫人かずみさんも次女のひかるちゃんと出席。ひかるちゃんは会場内を元気に駆け回るも、あちこちに展示された破壊王のパネルを前にすると、何やら話しかけていたのが見る者の涙を誘った

ZERO1-MAXを代表してお別れ会に出席した中村祥之社長。2日後のZERO1-MAX愛媛大会には、かずみさんが子供たちと来場し、リングサイドで観戦。試合後、かずみさんは大谷らとガッチリ握手

生前の活躍と地元への貢献ぶりを評価し、塚本保夫土岐市市長から橋本真也さんに土岐市スポーツ栄誉賞が贈られ、長男の大地君が表彰状を受け取った。空手を習っている大地君の将来は一体？

同級生で仲が良かったという清水さん（女性）は「いまでも、ジュリーの曲を歌いながら楽しそうに踊っている真也ちゃんの姿が忘れられません」というエピソードを披露。有名な話ではあるが、同級生の口からあらためて聞くと、なんだか感慨深いモノがある

お別れ会が終わると、10月中旬発売予定の破壊王本の取材のため、橋本さんのゆかりの場所を訪ねることに。破壊王が通った高校は近くにあるらしいが、それ以外に何かいいスポットはないか聞き込みをしていると、ZERO1-MAXの中村さんから「いいとこ知ってるよ。この会場の近くに、橋本さんから頼まれてよく買いに行かされてた店があるんだけど、そこの写真を撮ってきなよ。何の店かって？ 虎の肉を売ってるんだよ。『虎の肉あります』って書いてるからすぐわかると思うよ」とナイスなアドバイス。破壊王の好物は虎の肉？ なんだかよくわからないまま、中村さんが言っていた虎の肉屋（？）を探しに土岐の街へ。しかし、歩いても歩いても、それらしいお店は見当たらず。道行く人に聞きまくるが誰一人知りやしない。困った。とりあえず、あてもなく歩く。結局、いたずらに時間が過ぎ、虎の肉にはたどり着けずじまい。あとでわかったことだが、中村さんが破壊王のおつかいで虎の肉を買いに行っていたのは10年以上前の話。たしかに、それぐらい前には、そういう店があったらしいが数年前になくなってしまったという。残念。

気を取り直してターゲットを虎から人間へと変更。今回のお別れ会の主催者の一人でもある破壊王の柔道時代の恩師・高塚さんら関係者が集まった料理屋さんに突撃。ここでは高塚さん、そして破壊王の親友の和田さんの取材に成功。破壊王のエピソードは誰に聞いてもハズレはないが、やはり、恩師、そして親友から聞く破壊王話は最高。ときには爆笑、ときにはしんみりさせられた2人のインタビューは近日発売の破壊王本に掲載されるので、破壊王好きの方にはゼヒ読んでもらいたい。

その後、破壊王前夫人のかずみさんや大地君たちがいる部屋に合流させてもらい、ここでも興味深い破壊王エピソードをたくさん聞かせてもらった。それと同時に、味噌カツ丼やらドテメシやら名物料理が次から次へ運ばれ「うまいうまい」と片っ端から食べまくっていると、すっかりお腹は破壊王状態。

人がいい。街もいい。メシもうまい。たった1日で土岐が大好きになってしまった。ヒョードル vs ミルコは生で見られなかったが、自分にとっては、それ以上のいい経験となった破壊王の地元・土岐取材。ありがとう、破壊王。

そして、さようなら、破壊王。

紙の破壊王

ぼくらが愛した
橋本真也

〝闘い〟と〝愛〟を描いた映画『殴者』がついに、全国ロードショー

2002年4月からクランクインし、「公開される、公開される」と言いながら、先延ばしになっていた感のある映画『殴者』が、9月23日から待望の全国ロードショーとなった（一部、遅れて公開）。この映画には、いま人気絶頂の玉木宏、水川あさみをはじめ、陣内孝則、篠井英介など数々の実力派俳優がこぞって出演。さらに、ご存知の通り桜庭和志やヴァンダレイ・シウバ、クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン、ドン・フライ、そして高山善廣といった、いまやリング上でも一同に会すことが難しくなった夢の共演がなされている、映画ファン、格闘技ファン注目の作品だ。

この映画の監督を務めているのは、あのDragon Ashや浜崎あゆみ、スガシカオなど、大物アーティストのプロモなども手がけている須永秀明氏。『殴者』の映像も緻密に計算されており、映画の中で描かれる緊迫した世界観、ケレン味たっぷりの美しい映像表現は、〝妥協〟という文字を知らないのかと言うほどの完成度を見せている。さらに、映画界・テレビ界で活躍しつづける名脚本家・伴一彦をはじめ、『花と蛇』の撮影を担当した小松高志、北野武監督作品『座頭市』、『DOLLS』で日本アカデミー賞美術賞にノミネートされた美術の磯田典宏と、制作スタッフも着々たるメンバー。そしてその制作総指揮を務めたのが、『PRIDE』の総指揮者でもある、あのDSE代表・榊原信行とあっては、見逃すわけにはいかないだろう。もちろん、格闘技ファン以外でもひとつの作品として十分お楽しみいただける映画となっているのは言うまでもない。

9月23日には、ぜひお友達を誘って映画館に足を運ぼう！

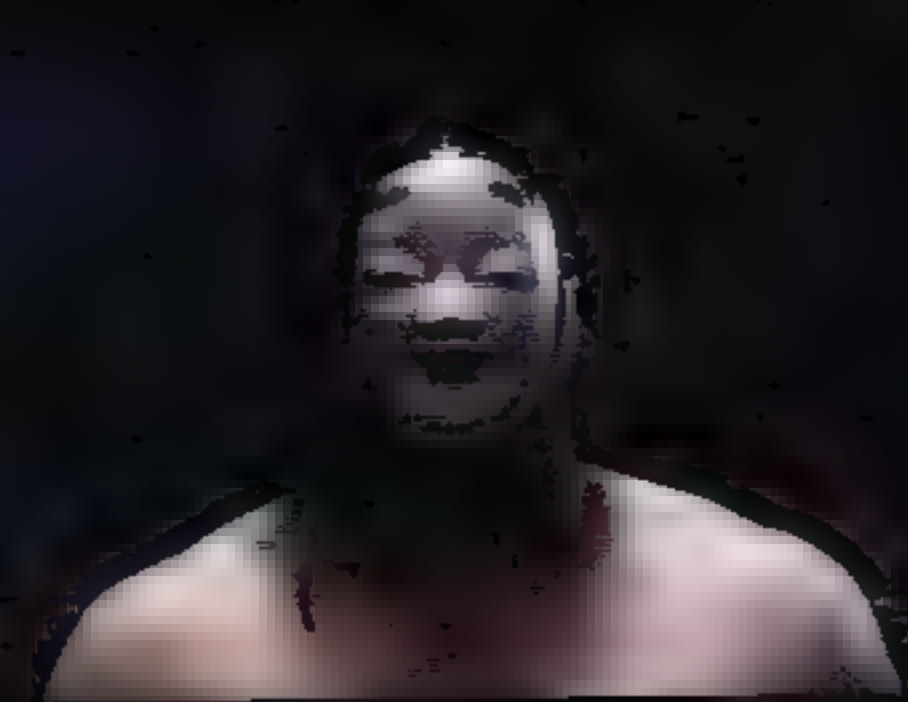
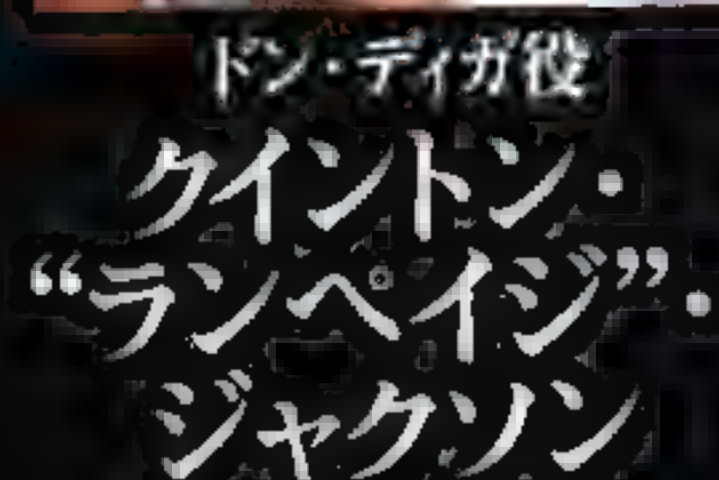
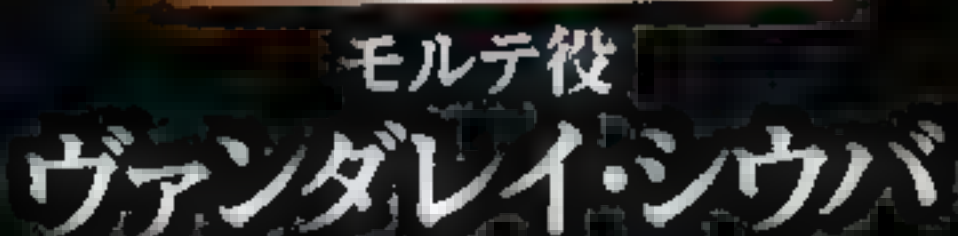
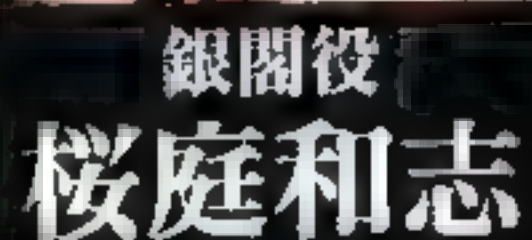
PRIDE
ファイターも
堂々出演!!

Characters

銀闇役
桜庭和志

モルテ役
ヴァンダレイ・シウバ

ドン・ディガ役
クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン

Story

時は明治の初頭、主人公の晴雷はやくざ世界の顔役であり父を殺した男であるピストル愛次郎に育てられ、愛次郎率いる雷一家が開催[illegible]の世話役を勤め[illegible]。
残虐な闘いを見て育つという異常な運命を背負った晴雷の唯一の心の救いは、同じくピストル愛次郎の元で一緒に育てられた月音ただ一人だった。その月音と共に愛次郎の元を離れて生きていく方法を模索し続ける晴雷。そんな二人に突如、対立する組織、鳩錦一家と雷一家の抗争[illegible]
お互いの策略が水面下で蠢き、殴者たちのプライドを賭けた死闘が繰り広げられる中、晴雷はすべてを裏切り、月音と共に生きていくために引き金を弾く――

Cast（出演者）
玉木宏、水川あさみ、陣内孝則、虎牙光揮、マギー、篠井英介
桜庭和志、高山善廣、ヴァンダレイ・シウバ
クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン 他

Staff
原作／田中雄一郎、脚本／伴一彦、監督／須永秀明
映画『殴者』主題歌／奥田美和子「ぼくが生きていたこと」
制作総指揮／榊原信行　エグゼクティブプロデューサー／葵てるよし
プロデューサー／森谷雄、マツムラケンゾウ
製作／ドリームステージピクチャーズ・アーティストハウス
制作／SeP
製作協力／アオイコーポレーション　アットムービー・ジャパン
配給・宣伝／WISEPOLICY
www.nagurimono.com/

2005年9月23日より全国ロードショー

［劇場情報］
東京■テアトル新宿、テアトル池袋
千葉■シネマックス千葉
埼玉■MOVIXさいたま、MOVIX三郷
札幌■シアターキノ
山形■山形フォーラム
福島■福島フォーラム
仙台■仙台フォーラム
名古屋■名古屋ピカデリー、TOHOシネマズ木曽川、MOVIX三好
金沢■シネモンド
大阪■テアトル梅田
神戸■シネカノン神戸
京都■京極弥生座
広島■シネツイン
福岡■シネ・リーブル博多駅

［チケット前売り情報］
特別鑑賞券発売中　1,500円（税込）［当日は1,800円］
※劇場窓口にてお買い求めの方に、大判オリジナルポストカードをプレゼント

★『殴者』チケット10組20名様プレゼント! 詳しくは紙プロHandへアクセスしよう!!

10・2パンクラス横浜大会で
金原弘光戦、電撃決定！
「PRIDE査定試合？
そんなのクソくらえ！」
〝パンクラスZ〟についても
意味深発言！
近藤有己
10・2パンクラス横浜大会で近藤vs金原戦が電撃決定！ 当初は菊田早苗との3度目のタイトルマッチが決定していた近藤だったが、菊田の負傷により延期に。新たな対戦相手の発表が待たれていたが、そこで発表されたのが金原弘光だったからビックリ。いろんな意味で大注目のこの一戦を前に王者・近藤有己に話を聞いてみた。
聞き手／橋本宗洋 構成／松澤チョロ 撮影／乾晋也 designed by sogu (Two three)

金原戦は落とせない試合ですし、厳しい試合だなって思ってます

——10月2日の横浜大会、対戦相手が金原選手に決まりました。ちょっと予想外というか、新鮮な組み合わせですよね。

近藤　かなりのツワモノですね。気が引き締まる思いです、はい。

——最初は菊田選手と闘う予定で、それが流れて紆余曲折あったと思うんですけど。

近藤　その辺の影響はなかったですね。相手が菊田さんだっていうのは、今回そんなに意識してなかったんで。

——あ、そうなんですか？　3度目の対戦であるとか、リベンジを狙う相手を返り討ちにするとか、そういう意味づけみたいなのは関係なかったと。

近藤　今回は対戦相手というよりも、自分のいいところ、強さを証明するっていうのがテーマでしたね。その相手が菊田さんだったってだけの話で。

——金原選手と闘うことになて、そういう気持ちっていうのは少し違ってきました？

近藤　やっぱり……なんですかね。まさか闘うなんて思ってなかったんで。

——尾崎社長の話だと、何人か候補が挙がってて、その中で近藤さんが金原選手を選んだんですよね。その決め手みたいなものって何でした？

近藤　こう、いままでにないものを感じたというか。逆にこのチャンスを逃したら闘うこともないのかなって感じて。

——リングスの頃から金原選手の試合は見てたんですか？

近藤　まぁ、チラホラ（笑）。

——チラホラと（笑）。

近藤　Uインターのイメージが強いんですよね。チャンプアとやったり。あと、確か一期生だったと思うんですよ。

——はいはい。

近藤　僕はそのとき中学生とか高校生ぐらいだったんですけど。やっぱりプロレスラーを目指してたんで、入門テストに受かって、試合に出てるっていうのが凄いなって。

——近い世代で、自分より先に目標を達成したっていう。

近藤　そういうイメージがすごく強いですね。で、Uインターの若手で一番強い、実力者としてやってきてっていう。

——金原選手は「Uインター対パンクラス、リングス対パンクラスという見方をしてもらっていい」と言ってるんですけど、近藤さんはどうですか？

近藤　そうですよね。そういう風に見てもらって構わないですけど。

——いろんな面で比較されていいと。

近藤　僕自身には比べるっていう意識はないです。ただ、周りがそういう風に見る分には構わない。ま、そういう風にお客さんは見ますもんね。

——それで盛り上がるんであればいいと。金原選手は、前から〝影の実力者〟みたいな感じで言われてきたし、しかも同じU系団体出身だしってことで、かなりシビアな試合ですよね。なにかいろんなものが露わになってしまうというか。近藤さんにとっても正念場だなっていう。

リングス最後のエースvs不動心、夢の対決が決定! 会見で金原は「近藤選手は日本屈指のストライカーでパンクラスのチャンピオン　これほどの喜びはない」と意気込むと、近藤は「金原選手は穴がない。作戦は立てず、すべてを出して闘う」と静かに闘志を燃やした。尾崎社長も「私自身興味津々だし、お客さんにも喜んでもらえる試合」とニンマリ。

近藤　そうですね。落とせない試合ですし、厳しい試合だなっていうのはありますね。それだけ強い相手なんで。

——特にどんな部分に強さを感じます？

近藤　やっぱり打撃ですかね。あと関節技も。けっこう極めて勝ってるんで。何をやっても強いんだろうな、っていう。

——で、そんな金原選手に勝つためには何が必要だと思ってますか？

近藤　自分の精一杯ですね。自分の全てを出し切ることですよね。

——相手がこう来るから自分がこうしよう、ということじゃなく。

近藤　そうですね。

——細かいポイントじゃなくて、強さそのものが問われる試合ってことですよね。

近藤　だと思いますね。

——あと近藤さんにも金原選手にもいえるのは、生き残りマッチじゃないですけど。『PRIDE』なりのメジャーイベントに再出陣するために、どっちが一歩先に進めるかっていう。

近藤　そう言われるとそうですね。言われるまで考えてなかったですけど（笑）。

——考えてませんでしたか（笑）。だからまあ、査定試合っていう表現はちょっとアレですけど。

近藤　まあ、きっとそうなんでしょうね。でも僕からしたら査定とかなんとかっていうのはクソくらえですね。

——ほぉ～。そういうのは違うだろうと。

近藤　そうですね。クソくらえです（笑）。

——やっぱりマスコミって、ボクも含めてですけどついつい「これに勝ったらどうなる」とか「次に誰とやる」とか「何かに一歩近づいた」とか、そういう目先の具体的な意味づけみたいなものを欲しがっちゃうんですよね。だけど近藤さんは、そういうのを気にしないですよね。

近藤　ま、若干気にしますけど。

——気にするようにはなりましたか（笑）。前は全然でしたけど。

近藤　若干はしてますけど。でも、そういうのも全部クソくらえですね。

——気にしてる自分も含めて。

近藤　自分も含め、はい。

——それは目先のテーマよりも、もっと大きなものを目指して闘っていきたいっていうことなんですかね？

近藤　次のテーマとかそういうことって、10月2日にライブで見に来てくれるお客さんには関係ないじゃないですか。お客さんは、その場でいい試合が見たいわけですから。

——試合そのものを楽しみたいわけですよね。

近藤　いい攻防とか、すっきりしたいい試合が見たいんだと思うんですよ。それがまず大事なんで。

——そこが基本なわけですよね。ただ、『男祭り』だったりミドル級GPだったり、『PRIDE』での経

験を経て、今回が再出発だという部分はあると思うんですよ。『PRIDE』で近藤さんが得たものって、いまは何だったと思ってますか？

近藤　何ですかね？　難しいですねぇ。ちょっとまだ、固まりきってないですね。漠然としてる状態で。いい経験したし、いい刺激を受けたっていうのはありますけどね。

——近藤さんは『武士道GP』の出場候補にもなってたんですよね。

近藤　そうみたいですね。でも今回は10月に試合が決まってたんで。

——正直、出たかったなっていう気持ちはなかったですか。

近藤　ありましたね。まあ、その階級はGPで終わるわけじゃないんで、その後でも。

——出てみたいと。でも無差別志向でやってきた近藤さんとしては、減量して試合するっていうのはどうなんですか？

近藤　いま、体重落としたいんですよね。

——それはウェルター級で闘うために？

近藤　そういう考えは一切抜きで。強くなるために体重を落とすっていう。もうちょっと自分自身を洗練させたいんですよ。

——ほぉ〜。

近藤　で、それこそ無差別で勝てるように。いまの自分の感覚だと、体重落としたほうが強くなれそうなんですよね。

——体重を下げて、より無差別で強くなると。ってことは、自分のベスト体重はもうちょっと下ではないかと。

近藤　そういう読みです、自分では。

——それは例えば、スピードを上げたいとかそういうことなんですか？

近藤　スピードもそうですし、やっぱり身体の感覚だと思うんですよね。体重を落とすと、もっと洗練されて研ぎ澄まされる感覚になれる気がするんですよ。そうなったときに83キロも出れるかなと（笑）。

——感覚が研ぎ澄まされるっていうのは、具体的にいうとどういう感じなんですか？

近藤　みんなそうだと思うんですよね。一般の人も、自分のベスト体重になれば調子がいいじゃないですか。

——身体が軽いとか、寝覚めがいいとか（笑）。

近藤　電車のホームの階段を昇るのが楽だとか。そういう感覚に近いと思いますよ。

——単に、それの格闘技バージョンというか。

近藤　そうですそうです。

——小さくなったほうがより強いっていうのは面白いですね。近藤さんらしいっていうか。あと聞いておきたいのは、尾崎社長が7月の横浜大会を「新生パンクラスのスタート」と言ってたんですよ。グラバカが抜けたり、國奥選手、渋谷選手も退団して、だいぶ様変わりしてるじゃないですか。その辺、近藤さんはどう見てますか？

近藤　残った人たちはみんな頑張っていると思いますね。選手もスタッフも。ただひとつ、僕の頑張りがまだまだ足りないなと（笑）。

——いやいやいや（笑）。

近藤　……という思いですね。

——興行のスタイルも変わってきてますよね。大森ゴールドジムで大会をやったり、あと地方興行の『パンクラスZ』も始まって。

近藤　地方興行は大事ですね。地方って格闘技をライブで見ることが少ないんで、そういう環境を『パンクラスZ』で作っていければ。

——鈴木選手の"プロレスルール"マッチはどうですか？　なんか、僕は納得できないものを感じてるんですけど……。

近藤　僕はどんどん出てもらいたいなと。もう、お客さんもその辺は分かるじゃないですか。違いが。だからスパイスとしてプロレスルールの試合がもっとあっても構わないと思いますね。社長は「あれはパンクラスZだから」って言ってましたけど、僕は全然、東京でもどんどんやってほしいですね。本戦っていうか、メインのツアーでも。

——もう全部の興行に入れてもいいんだと。

近藤　お客さんにとって面白ければ、それはいいことだと思うんですよね。やっぱり、ガチガチの試合を何試合も見てると、ちょっと疲れるところもあると思いますし。

——はあ〜。

近藤　そこにこう、いい流れができるんじゃないかなと。

——鈴木さんは「スタイルの違い」って表現してますよね。それだけで説明しちゃっていいのかなとは思いますけど……。

近藤　僕もスタイルの違いだと思いますよ。プロレスっていうのはいろんなものを受け入れるわけですから。デスマッチがあったりとか真剣勝負、シュートだったり。いろんなスタイルがあって、パンクラスもその中の一つで。

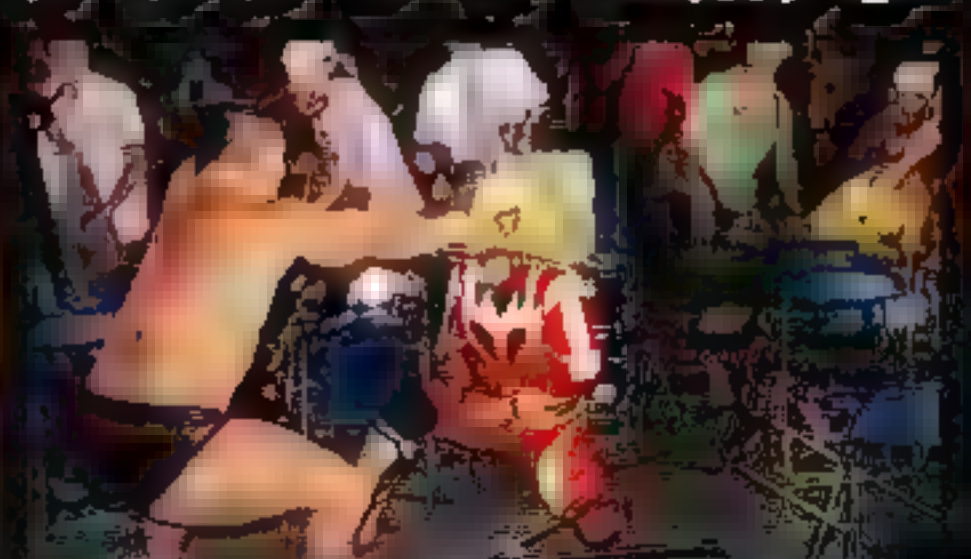
——まあ、いま純プロレスと真剣勝

9・3「パンクラスZ」熊本大会では北岡悟とエキシビジョンを行なった近藤。バックキックや踏み付け、足関節技など持ち味を活かしつつ見栄えを重視した(?)攻防を地方の観客にディスプレイしていった　試合後には「(10・2横浜で闘いたいのは)地味に強い人」と発言した近藤。金原戦をほのめかしていたのたか、そりゃ気付かないって！

9/3 パンクラスZ グランメッセ熊本

パンクラスのリアルプロレスラー・佐藤光留が、勝負論の鬼ともいえるSKアブソリュートの"総帥"松本天心と激突！ 松本のタックルを見切った光留がマウントを奪取し、最後はチョークスリーパーで一本勝ち。見事に大会を締めた光留は、試合後に10.2横浜文体大会への出場と、元全日本プロレス・河野との対戦をアピールした。

かつて真田幸遠と引き分けた中村勇太と、真田の盟友・桜木裕司の一戦。1R、桜木は中村を打撃で押しまくり、倒れた相手を踏みつける。足関節を仕掛けてきた中村にも、桜木は冷静にパウンドを落とす。だが2R、KOを狙いすぎた桜木の攻撃が単調になり、中村の驚異的な粘りもあって今大会唯一の判定決着となった。

アマチュア時代に対戦して以来、親友になったという砂辺光久と築城実。下から積極的に極めを狙い、スタンドでもパンチ連打で攻め込む砂辺が築城を圧倒する。三角絞めでタップを奪うと、勝ち名乗りもそこそこに泣きながら築城と抱き合う。健闘を称え合い、友情を確かめ合った2人は、揃って入場ゲートを引き上げていった。

パンクラスマットでの"プロレスルール"マッチ。鈴木みのるが九州ご当地レスラー・アステカを迎え撃つ。パンクラスマット初の場外でのイス攻撃を繰り出した鈴木はブランチャをすかし、張り手で打ち合い、マスクに手をかけ、卍固めで沸かせ、最後は逆落としからのスリーパーで"らしさ"全開で完勝し、熊本の嵐になった！

これからは、僕が大森大会に出たりとかあるかもしれないです

負をゴッチャにする人もいないでしょうからね。その一線さえ見る側が分かってればいいと。

近藤　いや、間違えててもいいんじゃないですか。

――そ～れはさすがにマズいでしょう（笑）。

近藤　間違えちゃっても、それが面白いと思って会場に来て、何回も来るうちにだんだん分かってくるもんだと思うんですよ。だからまずは面白いと思ってくれるかどうかですね。

――実際、鈴木VSアステカ戦も面白いかつまんないかっていったら面白かったですからねぇ。だからまあ、それに対して本分であるパンクラスルールの試合がインパクトで負けなければいいんで。

近藤　負けてもいいんじゃないですかね。

――負けてもいいんだ（笑）。

近藤　僕はそう思いますよ。

――じゃあ、近藤さんが「パンクラスはこうなっちゃいけない」と思うことって何かありますか？

近藤　それはあれですよね。パンクラスルールの試合で……っていう。

――ああ、なるほど（笑）。そこだけはダメですよね。分かりました、はい。

近藤　やっぱり基本的なことは（笑）。

――『紙プロ』は、前号でパンクラスに関する座談会をやったんですよ。で、出た意見が要するに「見る側もシフトチェンジしないといけないだろう」と。昔の、船木・鈴木時代のイメージを引きずってもしょうがないんで。いまのパンクラスは毎回のようにNKホールや武道館でやってた頃とは違ってて、それを前提として判断していこうっていう。それどころか近藤・菊田・美濃輪の時代とも違うわけですから（笑）。

近藤　それはありますね。シフトチェンジの時期だと思います。

――でもいまの話を聞いてると、僕らより近藤さんのほうがよっぽどシフトチェンジしてますよね（笑）。

近藤　昔のパンクラスを引きずってちゃいけないと思いますね。自分が試合するときでも、昔の状況と比べて切ないとか、淋しいとか思ってもムダですよね。いまの段階から這い上がって、それこそ『PRIDE』みたいに大きな会場でできる団体にしていくのが大事なんじゃないですかね。

――いまは這い上がる時期だと。

近藤　そうですね。僕が大森に出たりとかあるかもしれないですし。

――近藤さんが大森で試合！　それは見たいなぁ（笑）。

近藤　でも大森の大会も大事だし、続けていってほしいですよ。大きい会場でやれるけど、小さい所でもやるっていう団体がいいと思いますね。あとは地方興行もやっていって。

――じゃあ今回の金原戦に大きなテーマを見出すとしたら、そういうパンクラスを作っていくために観客の記憶に残る、また会場に来たくなるような試合をすると。それはクソ食らえじゃないですよね？

近藤　じゃないです、はい（笑）。

――というわけで金原戦は名勝負を期待してます。今日はありがとうございました！

【05年9月10日／パンクラス事務所にて収録】

9/4 パンクラス 大阪・梅田ステラホール

前田吉朗と志田幹、約2年ぶりの対戦となるパンクラス・フェザー級の頂上対決は期待に違わぬ好勝負に。激しくペースを奪い合う一進一退の攻防は、前田の猛ラッシュで志田が崩れ落ちる壮絶なものとなった。試合後の前田はDEEPフェザー級トーナメントについて言及。「優勝してNo.1になるっていうか、もうNo.1」と優勝宣言!!

"海賊の末裔"アンソニー・襄治・ネツラーと、この試合に勝てば10・2横浜大会で高阪剛への挑戦も現実味を帯びてくるアレックス・ロバーツが激突! ネツラーはテイクダウンに成功し、パウンドからヒールホールドと鮮やかな連携を見せる。長時間にわたり耐えたロバーツも、ネツラーが最後の一捻りを加えるとついにタップ!!

スマックガールでおなじみの覆面女子ファイター・15がパンクラス初登場。対戦相手は稲垣組の伊藤あすか。試合は序盤から伊藤が優勢。パンチの打ち合いからタックルでテイクダウンし、2Rには腕十字を極めかける。下から積極的に関節を取りにいった15だが、伊藤は3Rにもパスガード成功。判定3-0で伊藤が勝利を収めた。

ハッスルゥ〜ハッスルゥ〜応募フォーッ!!

RADICAL PRESENT

BIG MOUTH

★ビッグマウス・セット

BML関係者に松澤チョロがいただいた"唄うバス(ビッグマウス)"のオモチャに、上井さん&村上&柴田のサインを入れてプレゼント! 9・11 旗揚げポスター、そして激レアなUWFキーホルダーが付いてきます!! 【ビッグマウス&フクタレコード提供】

■HP***http://www.bigmouth-wrestling.com/

HUSTLE

★ハードゲイ変身セット

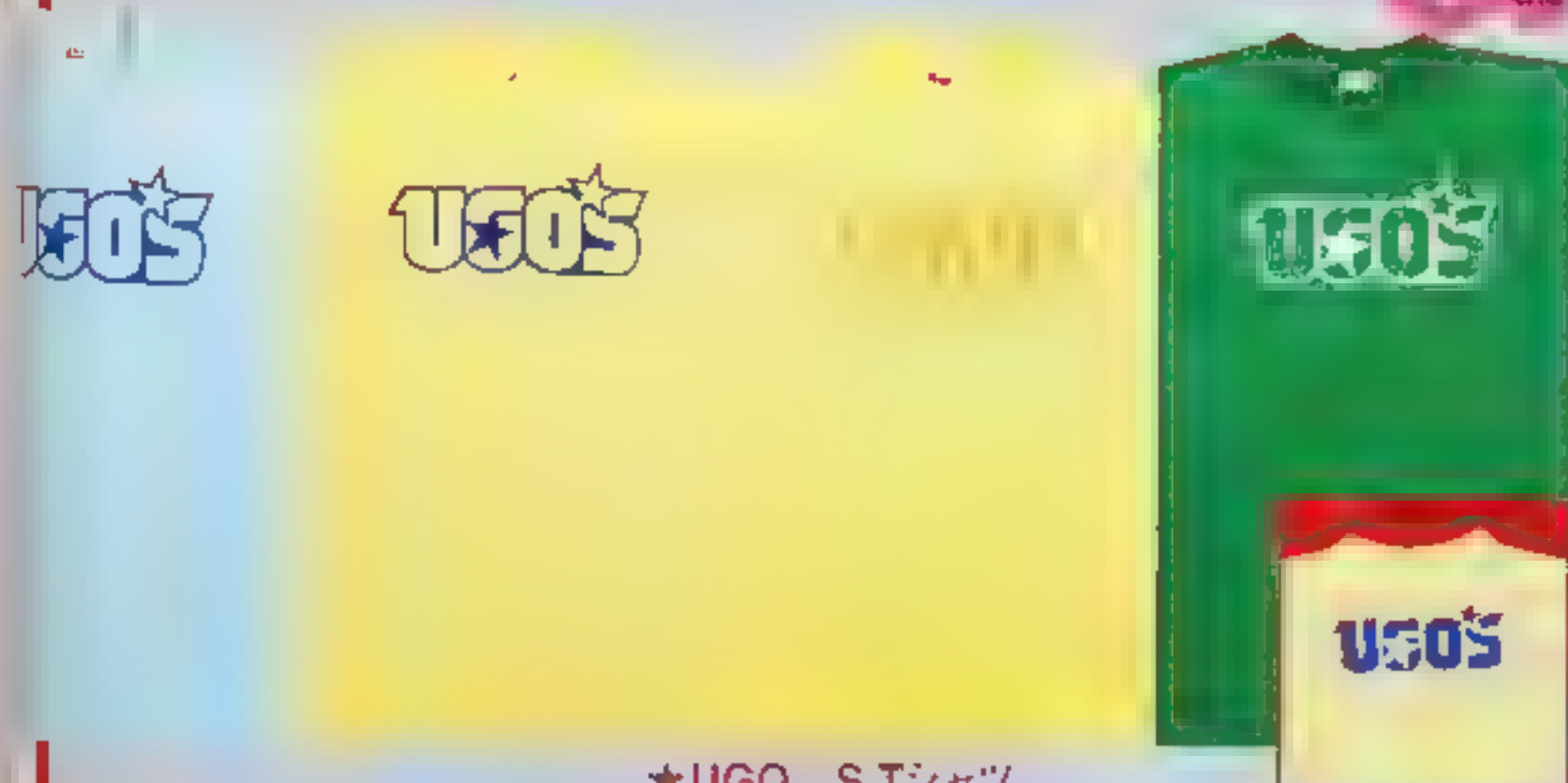
レイザーラモンHGに突撃取材し、身も心もハードゲイと化した編集部・上杉着用のHGセットを1名様に! 上杉は特に感染系の病気は持ってないみたいなのでドシドシ応募して下さい! 変身フォーーッ!! 【編集部提供】

■HP***http://www.hustlehustle.com/

※HGと上杉が奇跡の邂逅!? P116へ直行フォー!!

RINGS

リングス・エカテリンブルク旗揚げに密航した堀江ガンツがリングスグッズを大量ゲット! リングスファンはごちゃごちゃ言わんと応募したらええんや!! 【堀江ガンツ提供】

01★リングスTシャツ TYPE1〜4
02★リングス・スポーツタオル&特大バスタオルセット
03★リングスゆかた

UGO☆S

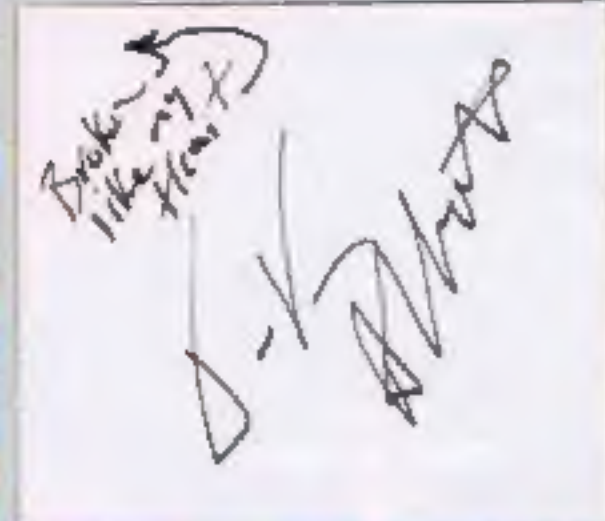
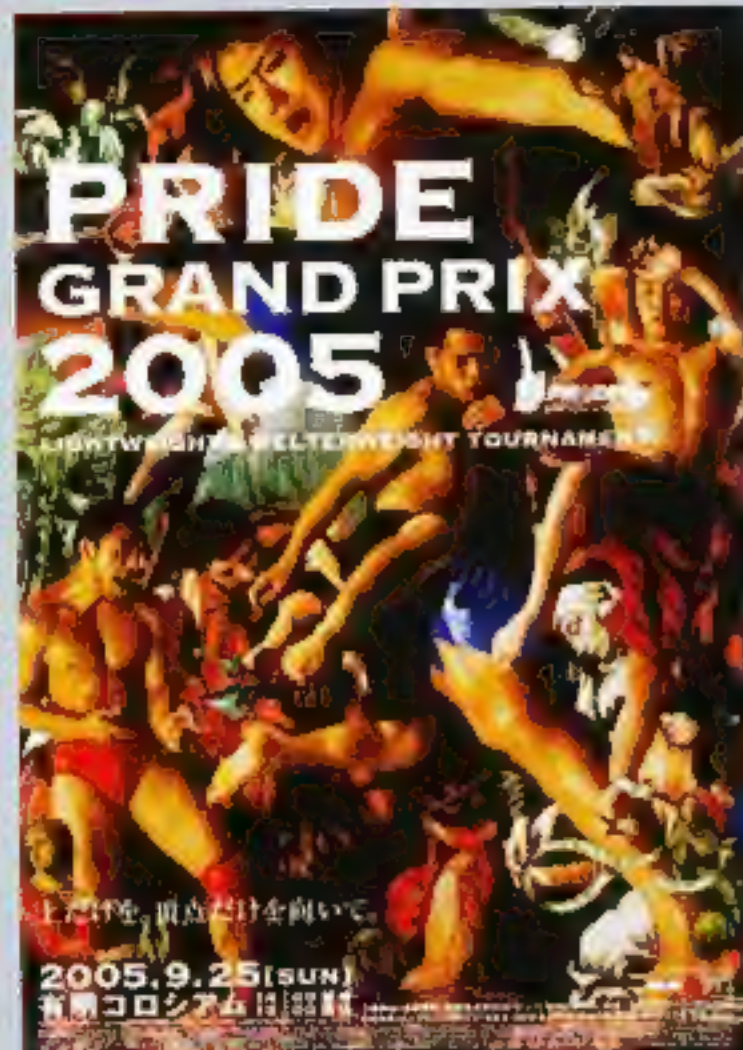
★UGO☆S Tシャツ

好きか嫌いかハッキリさせろ! 非売品のUGO☆S Tシャツを特別大放出! ヤノタク道場で東洋の神秘を学びたい人は下記HPをアクセス! ケンカケンカケンカ芸だコッポー!! 【島合書提供】

■TEL***骨法島合會矢野卓見道場 0424-23-3644
■HP***http://www7a.biglobe.ne.jp/ese-japabox/

DSE

運搬中にひん曲がってしまった色紙に「オレもヨシダに壊されたよ」とニヤリ。酔いどれジョークを織り交ぜながら、快くサインしてくれました。【DSE提供】

★「PRIDE武士道-其の九-」ポスター

★タンク・アボット サイン色紙
【アボット提供】

★レッドデビル リストバンド
¥1050(税込)

★レッドデビル スポーツタオル
¥3150(税込)

★レッドデビル ストラップ
¥1050(税込)

★レッドデビル チームTシャツ
¥3990(税込)S~XL(レッドorブラック)

★レッドデビル メッシュキャップ
¥3150(税込)

★レッドデビル ロゴTシャツ
¥3990(税込)S~XL(レッドorブラック)

■HP***http://www.prideofficial.com/

BATI-BATI

サイン入り!!

5名様

★「BATI-BATI 2」パンフ ¥1500(税込)
恒例の(とはいってもまだ2回目)「BATI-BATI」CDケース入りパンフレット登場! 大ちゃんポエムやお宝写真、アーバン・ケン寄稿など見所満載!! 【風天提供】

■HP***http://www.fu-ten.jp/

ZERO1-MAX

サイン入り!!

1名様

★大谷サイン入りTシャツ
9月19日の後楽園大会は「がんばれ星川尚浩! 激励チャリティー試合」。丸藤正道、タイガー・エンペラー、そして川田利明がZERO1-MAXに初参戦だ!! 【ZERO1-MAX提供】

■HP***http://www.zero-one-max.com/

TARZAN & GO

1名様

★格闘二人祭りTシャツ
¥2940(税込)S~L(ブラックorイエロー)
ターザン山本!&吉田豪の人気イベント「格闘二人祭」が遂に大阪進出! 超絶ゲストはレイザーラモンHG、新間寿氏、そしてI編集長なんだな(ドンッ)!! 詳細はP114からの情報ページで。
【松澤チョロ提供】

■グレートアントニオHP***
http://www.great-antonio.jp/

KILLER QUEEN

セットで3名様

★ひまわりナイツTシャツ&さとこ姫ポストカードセット
さとこ姫をゲストに迎えたGROUND COBRA×ART JUNKIEのスペシャルイベント「ひまわりナイツ」限定Tシャツと、前号の岡本範子に対抗した激萌えポストカード2枚をセットで3名様に!! 【ひまわりナイツ&さとこ姫提供】

■TEL***GROUND COBRA 092-711-1021
■ART JUNKIE HP***http://www.artjunkie.jp/
■さとこ姫HP***http://shinashi-satoko.com/

PONYCANYON

セットで2名様

右★「K-1 WORLD GP 2005 IN LAS VEGAS」¥5040(税込)
中★「K-1 WORLD GP 2005 in Paris」¥5040(税込)
左★「K-1 WORLD GP 2005 IN HIROSHIMA」¥5040(税込)9月21日発売
©2005 K-1
4・30 US GPと5・27 ヨーロッパGP、そして6・14 JAPAN GPがDVD化! パリ大会には、花の都が炎上したバンナとアビディのフランス"オレ様"頂上対決も収録!! 【ポニーキャニオン提供】

■TEL***03-5521-8044 ■HP***http://www.ponycanyon.co.jp/

BOOKS

各1名様

★「プロレス金曜8時の黄金伝説」
山本小鉄・著 ¥1470(税込)
小鉄さん激筆のプロレスファン必読の一冊が登場!「PRIDE、K-1恐るるに足らず」と言い切る鬼軍曹イズムにシビれまくりだ!!
【講談社提供】

■HP***http://
www.kodansha.co.jp/

★「プロレス「リングとカネ」裏事件史」
¥900(税込)
衝撃事実が続々と発覚!「リングとカネ」にまつわるマット界のもうひとつの"真剣勝負"に焦点を当てたタブー本が登場!!
【宝島社提供】

各3名様

★「格闘技「必殺技」ディープインサイド」
¥1470(税込)
藤原敏夫、木口宣昭、鈴木みのるがスーパーテクニックを特別講座! そして前田総帥が所英男に必殺技を伝授! 必読やんけ!!
【宝島社提供】

■HP***http://tkj.jp/

★「知りすぎた、私」
草間政一・著 ¥1470(税込)
赤字だった新日本をわずか1年で黒字にした草間氏は、なぜ社長の座から引きずり降ろされたのか? アントンの暗黒面を知りすぎろ!! 【東邦出版提供】

■HP***http://
www.toho-pub.com/

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦「紙プロ」のリニューアルに望むことは?
⑧インタビューしてほしい選手、有名人は?

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「フィッシング戦法」係まで
※締切は2005年10月15日(土)当日消印有効

GAME

3名様

★『ファイプロ リターンズ』
¥7140円(税込)

超人気プロレスゲーム『ファイヤープロレスリング』が引退を撤回!登場レスラーは他のプロレスゲームの追随を許さぬ327人!"日本一喰らいたくない技"男色ドライバーもあるぞッ!! 【スパイク提供】

■対応機種***プレイステーション2
■HP***http://www.spike.co.jp

QUEST

各1名様

01★「修斗 2005 BEST vol.1」
0235分/¥5880(税込)
02★「流智美の黄金期プロレス50選 vol.1 戦後悪役の権化 東郷&シーク」
228分/¥5880(税込)
03★「SMACK GIRL Ⅵ」
234分/¥5880(税込)
04★「呼吸力の神髄 塩田剛三直伝 合気道養神館研修会vol.2」
67分/¥5880(税込)
05★「久高正之空観 硬式空手道」
63分/¥5880(税込)
06★「武神館DVDシリーズ[二十一]大光明祭」
180分/¥5880(税込)

クエストでは20周年大キャンペーンを絶賛実施中! 応募シール3枚で、もれなく182作品のハイライトが収録された特製DVD『クエスト全作品 武道&格闘技』をプレゼント!!【クエスト提供】

■TEL***クエスト 03-3360-3810
■HP***http://www.queststation.com/

01
02
03

04
05
06

次号予告

kamipro

リニューアル号
10月17日(月)発売予定!

というわけで『紙のプロレスRADICAL』としては、今月で最終号。次号よりロゴを『kamipro』に変え、よりパワーアップしてお届けします。長年、多くの人たちに親しまれてきました『紙のプロレス』の名前を変えることは、編集部内外でいろんな意見がありました。読者の皆さんの間でもいまごろ「横文字にしてる時点でダメ」「ナンバーのできそこないになるつもり?」「世の中とプロレスするというアイデンティティを捨てた」「どうせ変えるなら、『紙のDSE』にしろよ」等、多くの素晴らしいご意見が出ていることでしょう。しかし、「破壊なくして創造なし!」という破壊王の精神を胸に、そういった意見にはまったく耳を貸すことなく、これからも、いままで以上に"面白ぇもん"を追求していきたいと思います。
その意気込みを見せるべく、リニューアル号ではいくつかの爆弾企画をご用意しておりますので、10月17日をお楽しみに!
それでは、お世話になった皆様、またご愛読してくださった読者の皆様、ありがとうございました。そして、今後とも『kamipro』をよろしくお願いします!

紙のプロレスRADICAL編集部一同

※なお、『kamipro』は10月発売のリニューアル号より株式会社エンターブレインの発行・発売となります。
お問い合わせにつきましては以下（エンターブレイン・カスタマサポート）までお願いいたします。

株式会社エンターブレイン　カスタマーサポート　TEL.0570-060-555（受付時間／土日祝日を除く12:00〜17:00）

紙のプロレス RADICAL
No.91
2005年10月25日発行
リニューアル1号は
10月17日(月)発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斎藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎
(たいした重大発表じゃなかったため非番)

電気部
ささきぃ
松澤チョロ
斎野もみじ

企画制作部(仮)
坂井ノブ
上杉HG

終身名誉バイザー
吉田豪

助っ人
ジャイ子

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
金井ヒサくん
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
森鷹博
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
福島勝儀
菊池茂夫
黒田史夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定&衣料部
林"GOKUTSUMA"一枝

体調
プリン体・入江(TwoThree)

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也
前田昌一

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZINE MOOK 275
2005 NO.91
さようならプロレス こんにちはプロレス

平成17年10月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：（株）ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：（株）ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュ／2F 電話／03-5368-1795
ワニマガジン社 定価：本体838円＋税

ISBN4-89829-755-2
C9476 ¥838E

雑誌 69860—75

印刷：図書印刷株式会社